

国登録有形文化財水俣市立蘇峰記念館
(旧淇水文庫)
耐震診断等調査業務

報告書

2026年3月

作成日

設計事務所

株式会社修復技術システム

構造設計事務所

構造設計者

株式会社佐藤建築設計一級建築士事務所

佐藤 英佑

一級建築士登録 大臣 336685

構造設計一級建築士 第 10220 号

目次
(耐震診断及び補強設計報告書)

一章 はじめに1
二章 現地調査結果の概要21
三章 耐震診断結果	
3-1 耐震性能評価の方針27
3-2 現況の耐震診断37
3-3 耐震補強方法の検討40
3-4 診断プログラム出力データ44
別添 地盤調査報告書 (SWS 試験)	
建物現況写真	
現況調査結果のまとめ	

一章 はじめに

1-1 調査の目的

水俣市立蘇峰記念館（旧淇水文庫）は熊本県水俣市に昭和4年（1929年）に徳富蘇峰の寄付をもとに建てられた図書館で、現在は水俣市立蘇峰記念館として利用されている。平成9年（1997年）11月5日に国登録有形文化財（建造物）に登録された。

外観は南西部に平家の増築部分があるものの、当初の意匠を残したものとなっている。敷地は北東を熊陣山、南西を新水俣川とする三角州となっている。建物は地上二階建てで階段室のPH階を有する、鉄筋コンクリート陸屋根の建物である。改変により南西面に平家の増築部分（本調査対象外）を有するが、壁面の装飾等、当時の意匠を継承している。架構は鉄筋コンクリート造である。現状は内部結露および雨水侵入等により仕上げ面の漆喰の剥離、剥落が見られるほか、木製の床仕上げに腐朽、蟻害が確認される。階段室頂部は屋上に上がるハッチが設けられており、雨水の侵入が激しい（現状ハッチは固定されており、状況確認できない）。なお、外壁に多少のひび割れは見られるものの、大きな不同沈下は見られず、比較的良好である。

本調査は実測調査および構造調査、劣化状況を行い、現状の耐震性能を把握することを目的とする。



写真 1-1a 建物外観（南面）



写真 1-1b 建物外観（東面）

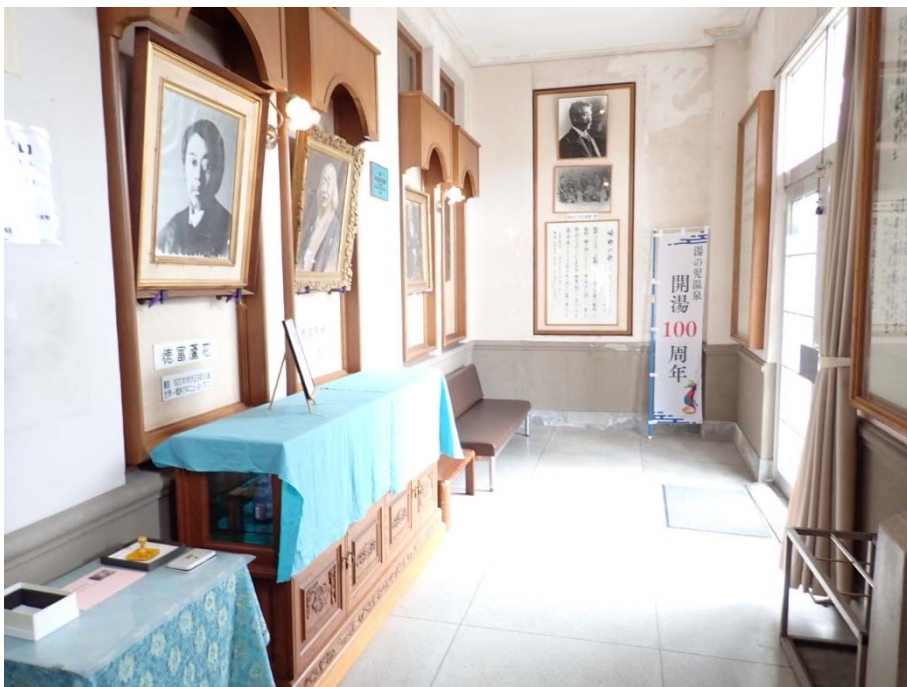


写真 1-2a 建物内観



写真 1-2b 建物内観



写真 1-2c 建物内観



写真 1-3 増築部



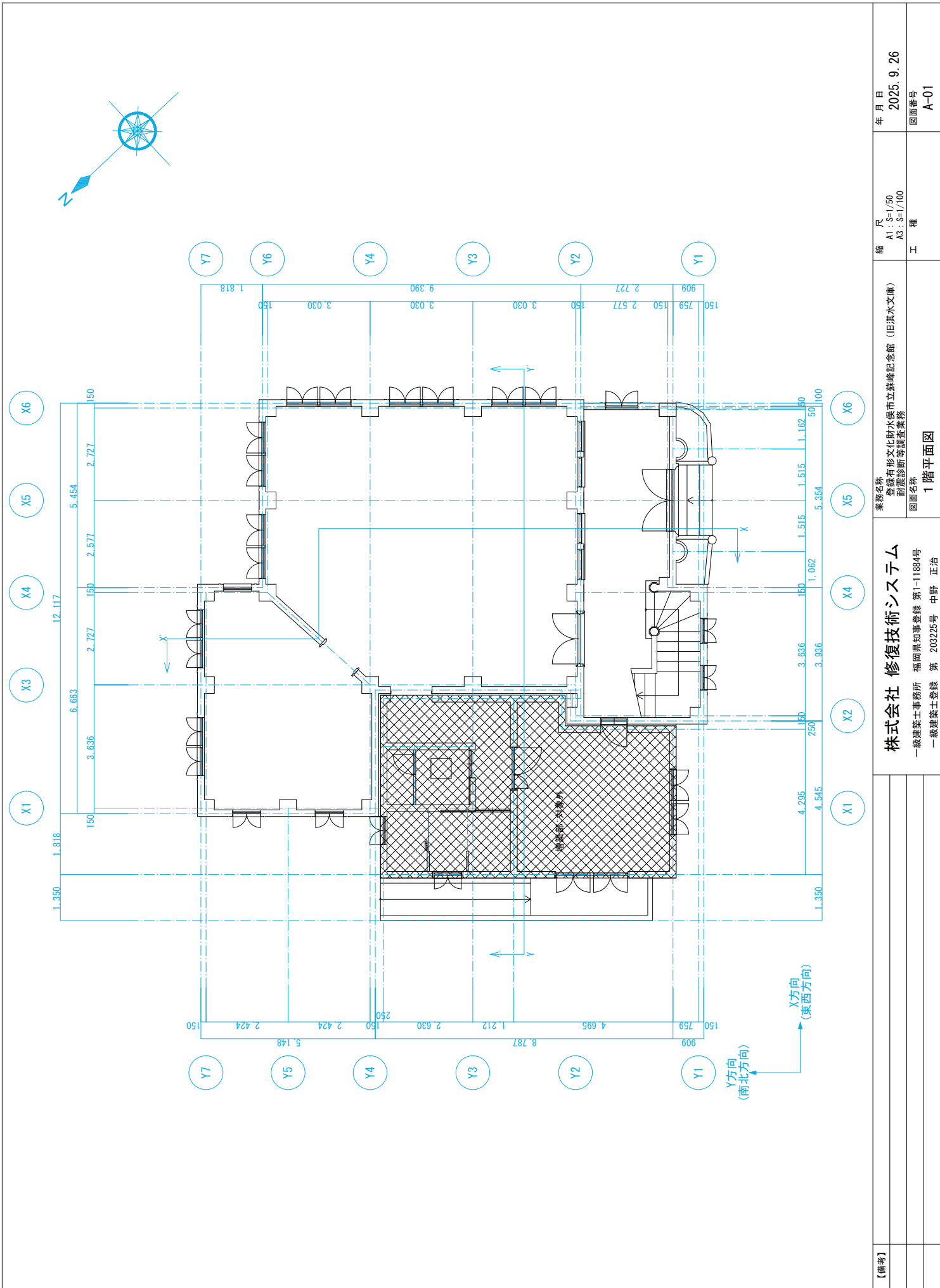
写真 1-4 建設時の様子

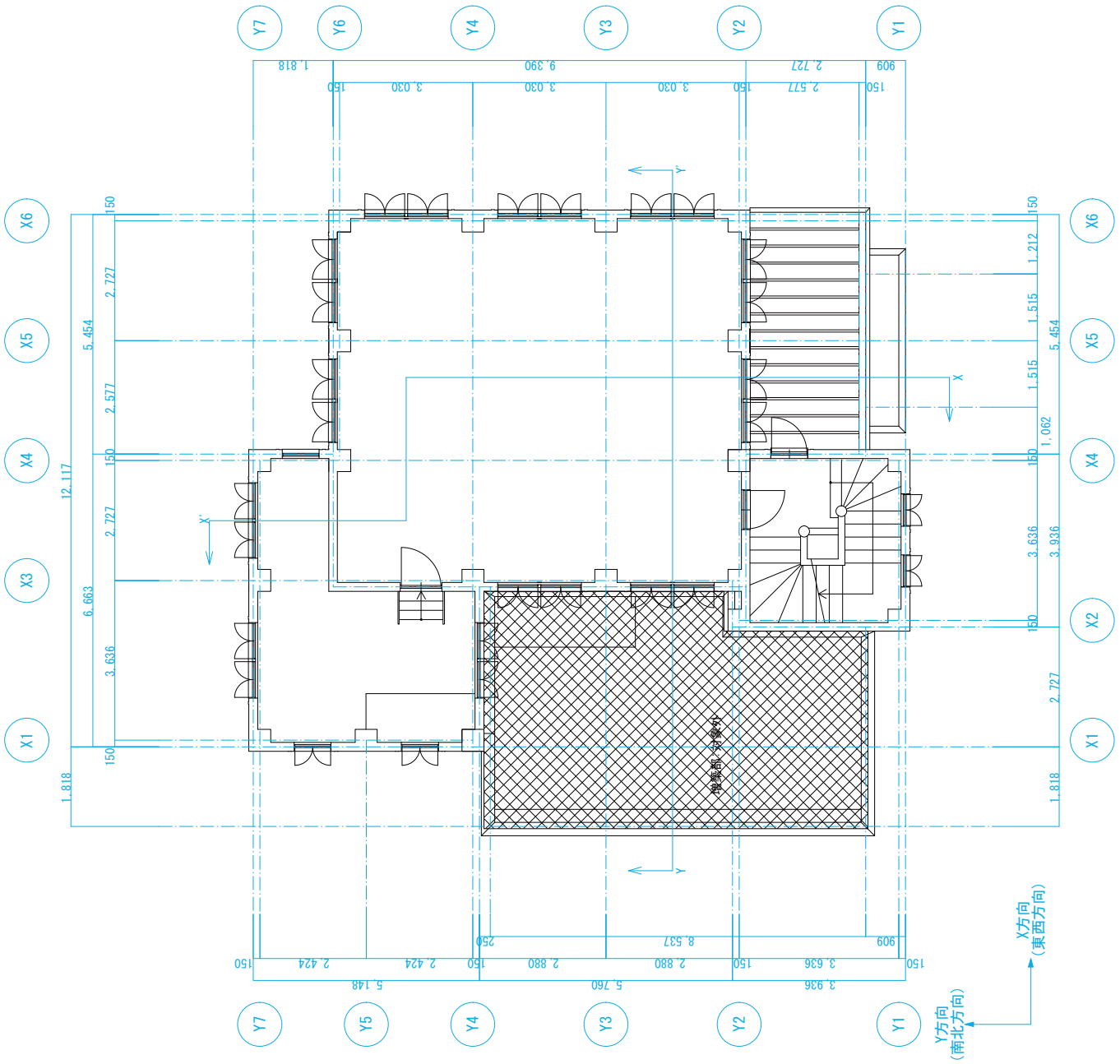
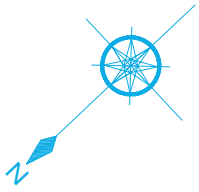
1-2 建築物の概要

項目		内容
調査対象	名称	水俣市立蘇峰記念館（旧淇水文庫）
	所在地	熊本県水俣市陣内 1-101-1
	管理者	水俣市
	構造	鉄筋コンクリート造 外壁：モルタル塗り 内部：モルタル下地漆喰塗 （床はコンクリートスラブに木製置き床） 2階建、間口 12.1m、奥行 9.4m（不整形のため概略） 延べ床面積：約 266 m ² （増築部、階段室塔屋含まず） 建物重量：約 5111kN（単位面積重量 19.2kN/m ² ） 1F床は土間コンクリート のため建物重量に含まず
	材料	鉄筋コンクリート、モルタル など
	建設時期	昭和 4 年（1929 年）建築 南西一部増築：コンクリートブロック造 ：建物年数 97 年
現地調査	日時・天候	令和 7 年 9 月
	実施者	修復技術システム：久保田 佐藤建築設計：佐藤
	目的	現況調査、実測調査、劣化の概要把握および構造健全性調査
	対象領域と調査方法	・ 一次診断（視診、触診、写真撮影）

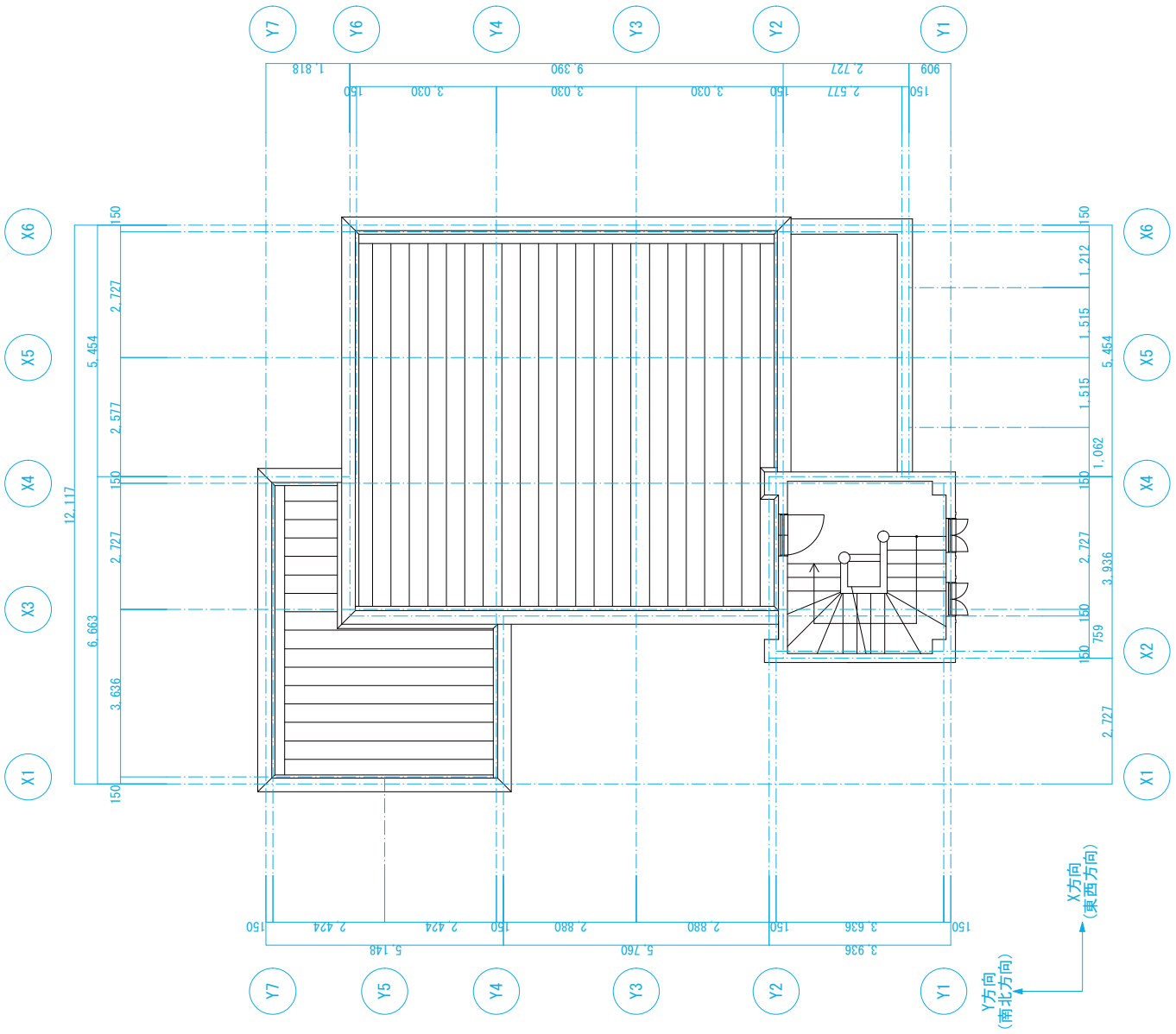
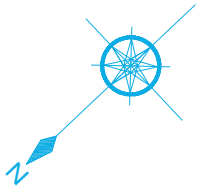
建物は鉄筋コンクリート造 2 階建て（一部塔屋）、延べ床面積：約 266 m²（1 階：133 m²、2 階 133 m²）で上部には 14 m²の階段室塔屋を有する。軒高さ：8.825m、最高高さ：12.75m である。建物外壁はモルタル仕上げとなっている。屋根形状は陸屋根とし、正面エントランス部分には木下地の意匠屋根を形成している。南西面に平家のコンクリートブロック造による増築等の改変が行われている。改変の際、現在資料倉庫として使用されている書庫部分の階段が撤去されるなど、内部の改変も行われている。

診断に際し、主として耐震性能を評価するうえで必要な耐震要素の把握および構造部材の調査を行う。また、劣化状況の把握を行い、建物の健全性維持の上で交換、補修が必要な個所を把握する。

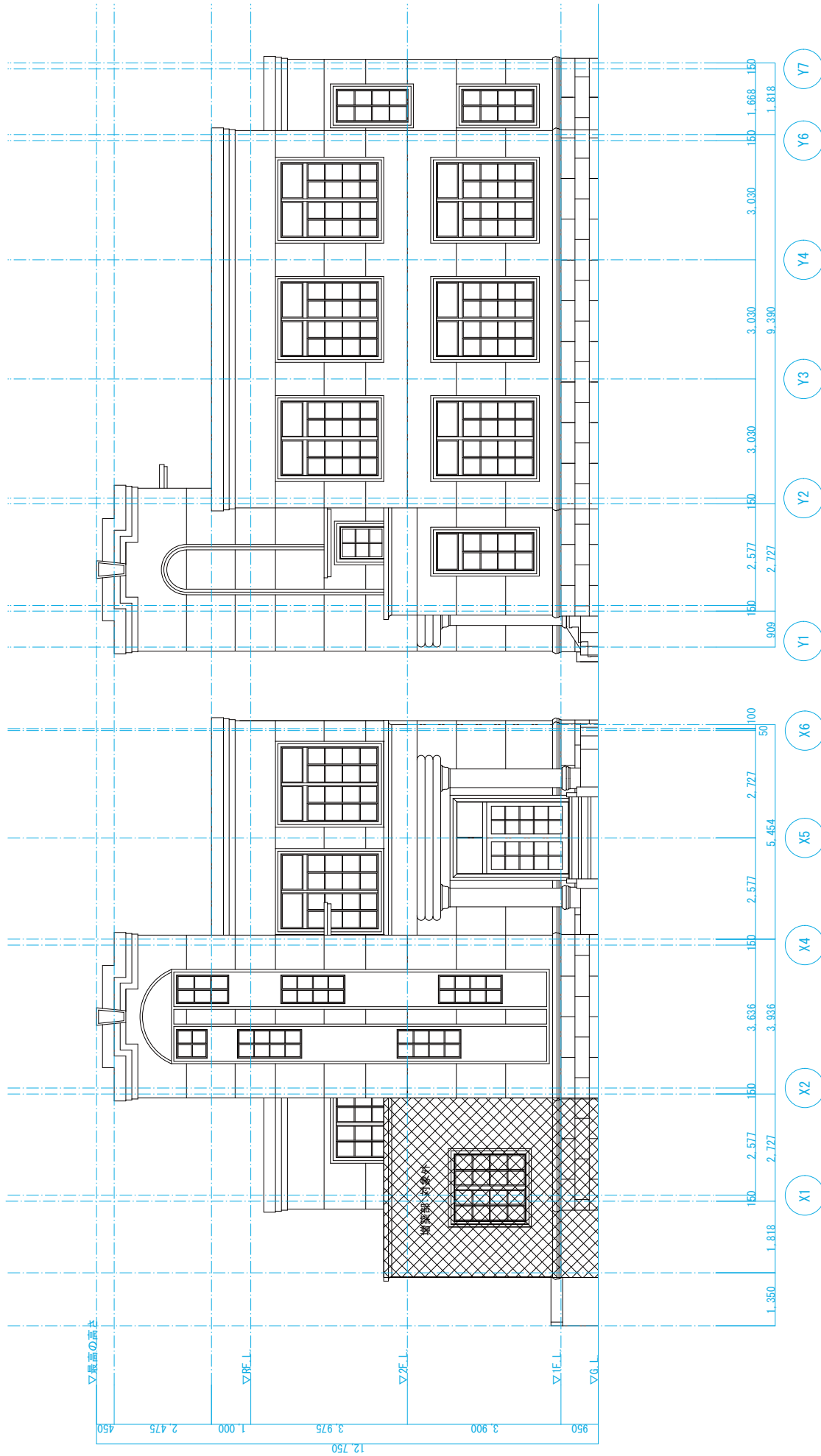




【備考】	業務名称 登録有形文化財水原市立蘇峰記念館 (旧其水文庫) 耐震診断等調査業務	縮尺 A1 : S=1/50 A3 : S=1/100	年月日 2025. 11. 28
	図面名称 2階平面図	工種 工	図面番号 A-02
株式会社 修復技術システム			
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11884号 一級建築士登録 第 203225号 中野 正治			

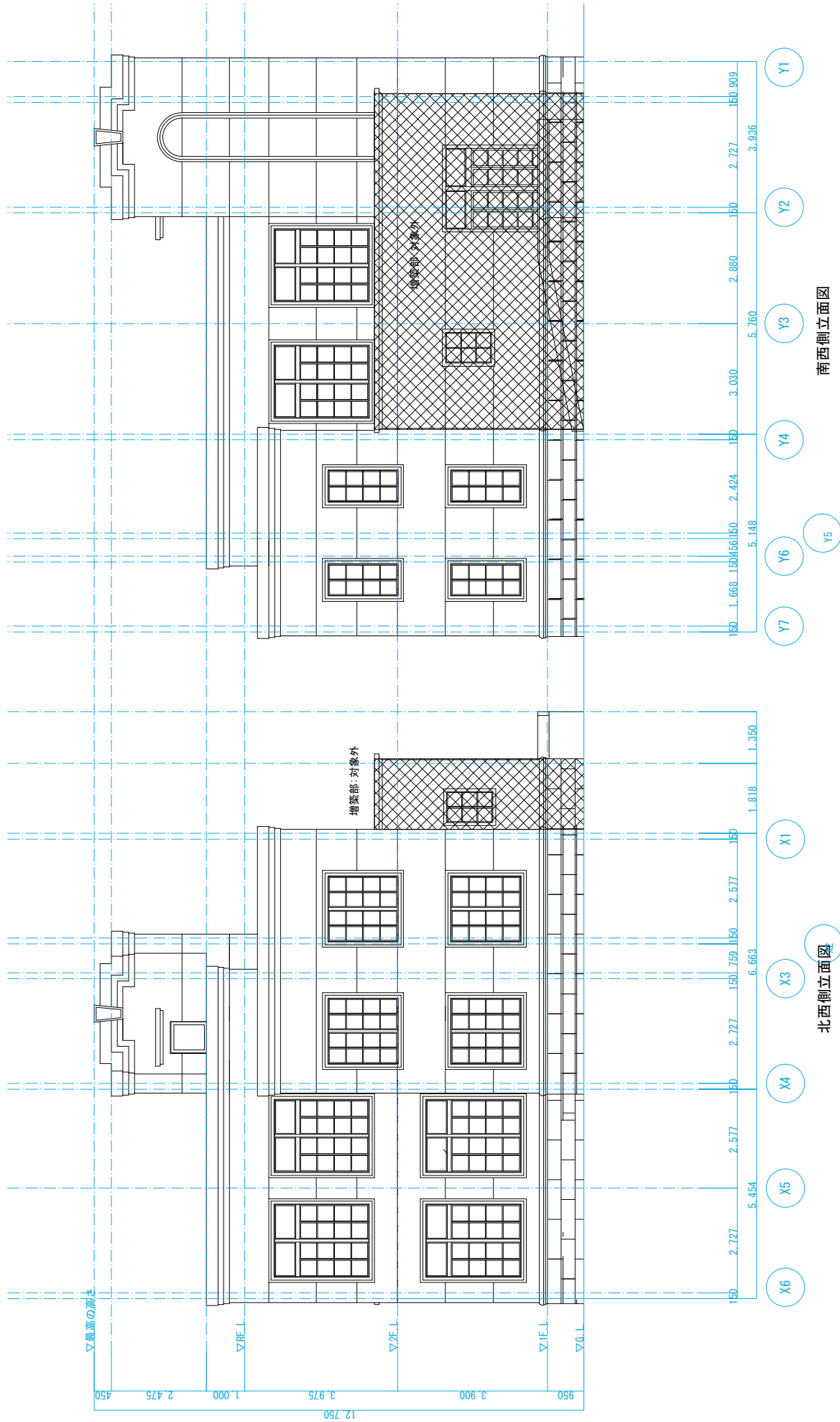


【備考】	業務名称 登録有形文化財水原市立蘇峰記念館（旧其水文庫） 耐震診断等調査業務	縮尺 A1：S=1/50 A3：S=1/100	年月日 2025. 12. 02
	図面名称 R階平面図	工種 工	図面番号 A-03
株式会社 修復技術システム			
一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11884号 一級建築士登録 第 203225号 中野 正治			



南西側立面図 北東側立面図

【備考】	株式会社 修復技術システム	業務名称	縮尺	年月日
	一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11884号 一級建築士登録 第 203225号 中野 正治	登録有形文化財水原市立蘇峰記念館 (旧津水文庫) 耐震診断等調査業務	縮尺 A1 : S=1/50 A3 : S=1/100	2025. 11. 27
		南側立面図・東側立面図	工種	図面番号
				A-04

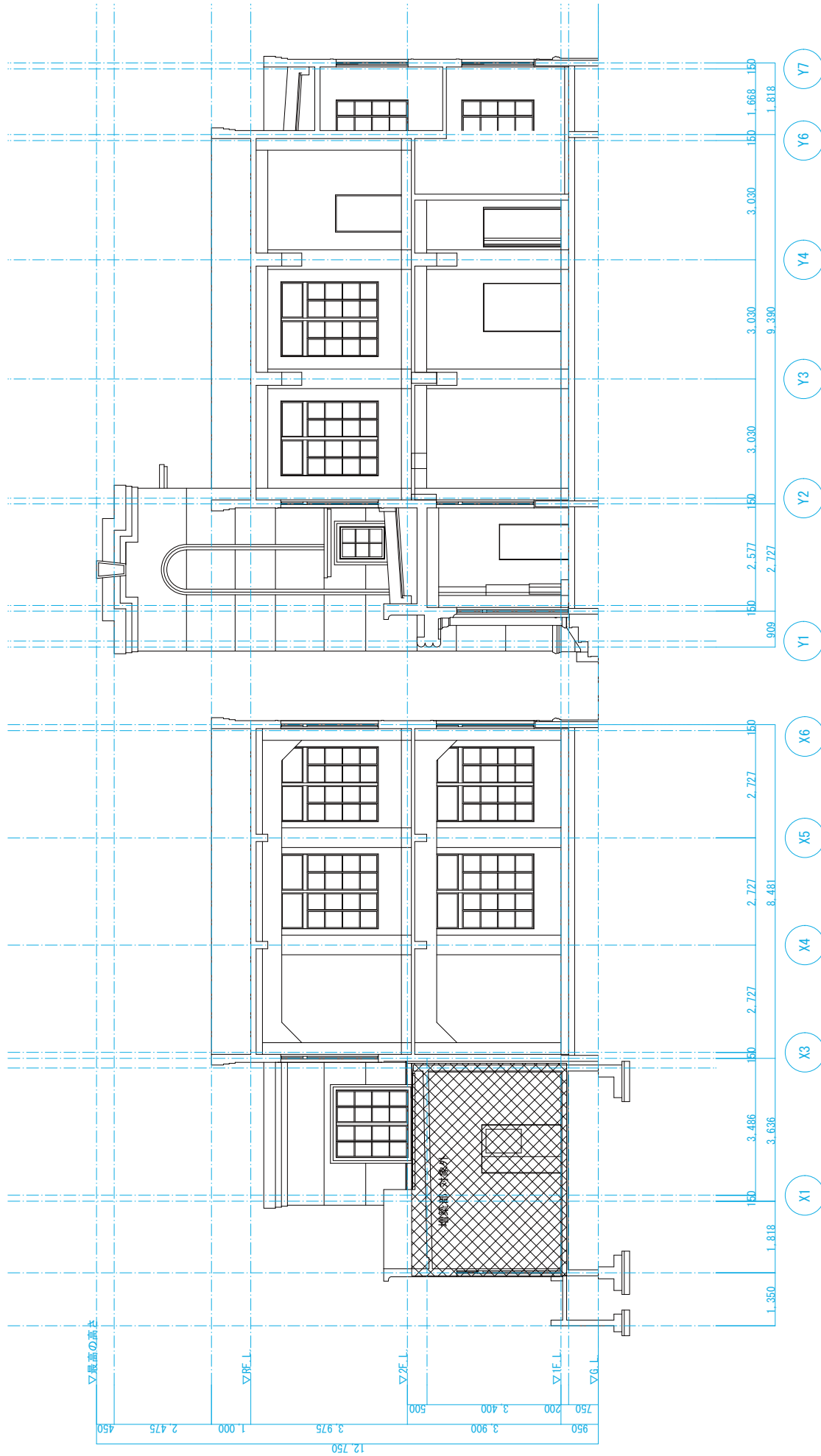


株式会社 修復技術システム
 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11884号
 一級建築士登録 第 203225号 中野 正治

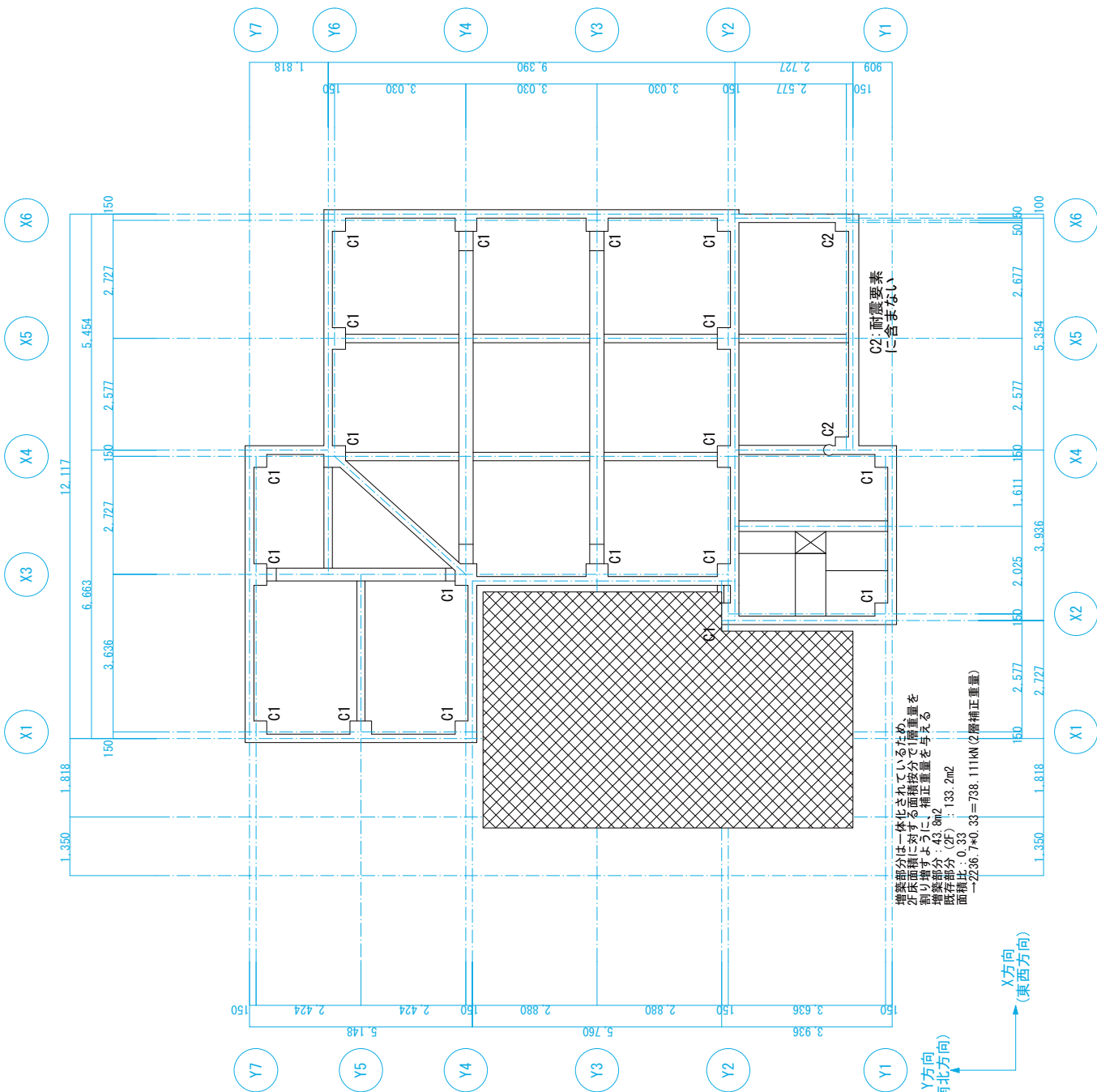
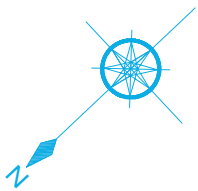
業務名称
 登録有形文化財水原市立蘇峰記念館(旧津水文庫)
 耐震診断等調査業務
 図面名称
 北側立面図・西側立面図

縮尺
 A1: S=1/50
 A3: S=1/100
 工種

【備考】
 年月日
 2025.12.02
 図面番号
 A-05



【備考】	株式会社 修復技術システム		業務名称	縮尺	年月日
	一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11884号 一級建築士登録 第 203225号 中野 正治		登録有形文化財水原市立蘇峰記念館(旧津水文庫) 耐震診断等調査業務	縮尺 A1: S=1/50 A3: S=1/100	2025. 12. 08
			図面名称	工種	図面番号
			X-X' 断面図・Y-Y' 断面図	工種	A-06



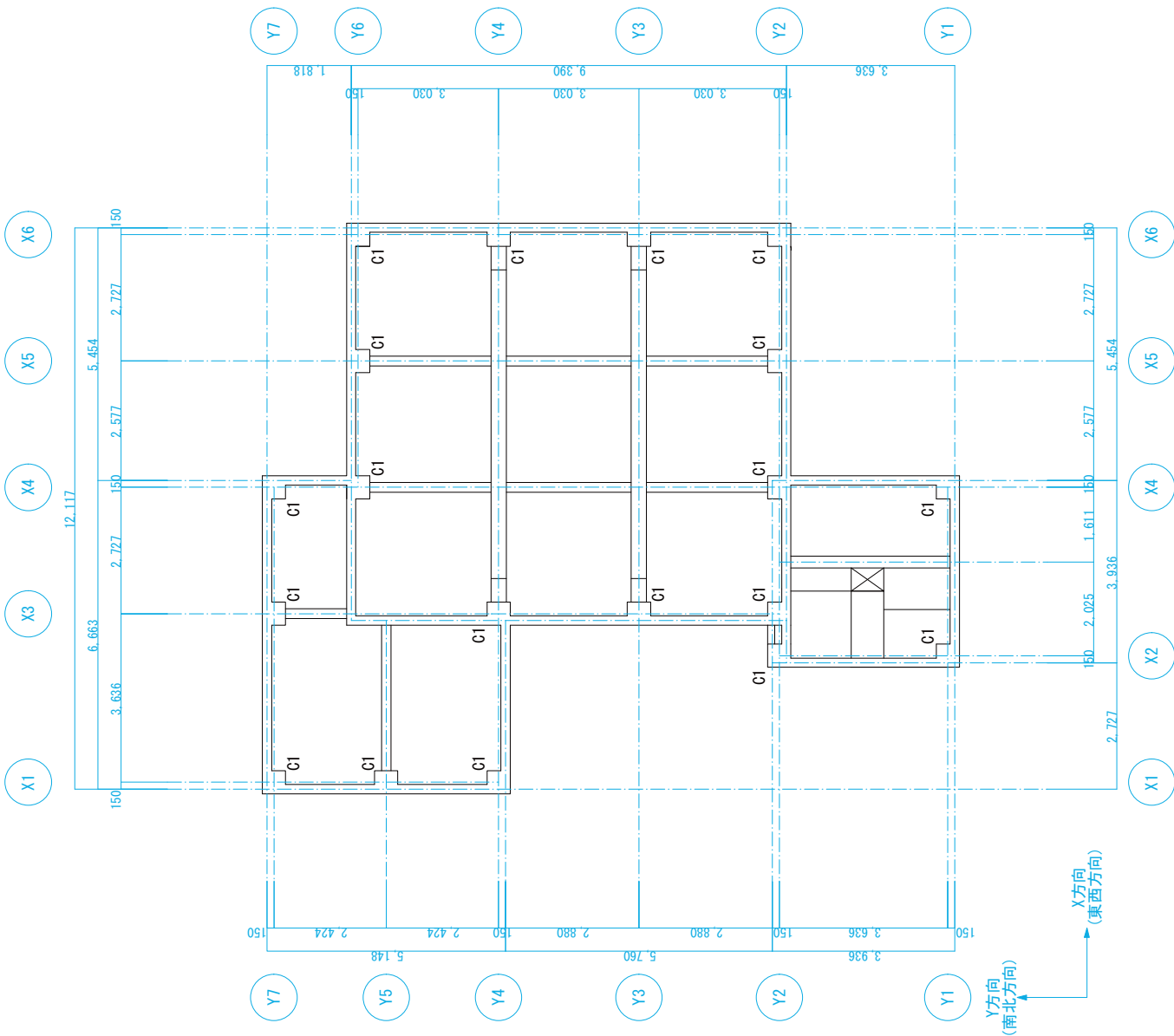
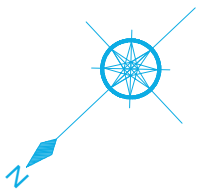
増設部分は一体化されているため、
2F床面積に対する面積按分で重量を
割り増すように、補正重量を与える
増設部分(2F) : 133.2m²
既存部分(2F) : 133.2m²
面積比 : 0.33
→ 2236.7 * 0.33 = 738.111kN (2階補正重量)

Y方向
(南北方向)

X方向
(東西方向)

記号	1F-C1
断面	かぶり11.3cm
B×D	440×440
主筋	8-φ25
Hoop	□-φ9-@350
Fc(N/mm ²)	15

【備考】	業務名称	登録有形文化財水原市立蘇峰記念館(旧其水文庫)耐震診断等調査業務	縮尺	A1 : S=1/50 A3 : S=1/100	年月日	2025. 11. 27
	図面名称	1階天井上図	工種		図面番号	A-07
株式会社 修復技術システム		一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11884号		業務名称		
一級建築士登録 第 203225号 中野 正治		一級建築士登録 第 203225号 中野 正治		図面名称		



記号	2F-C1
断面	かぶり11.3cm
B×D	440×440
主筋	8-φ19
Hoop	□-φ9-@350
Fc(N/mm ²)	15

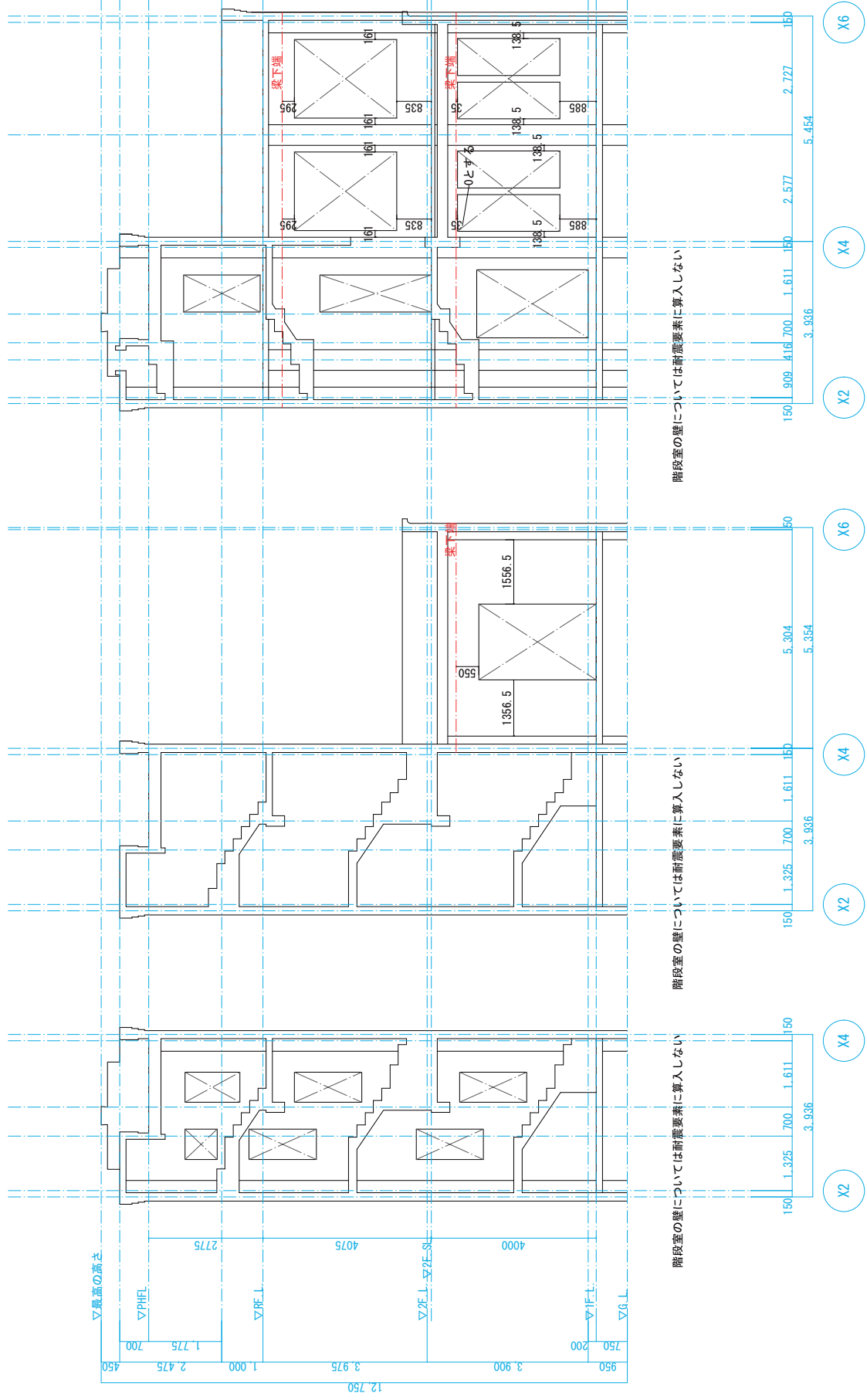
株式会社 修復技術システム
 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11884号
 一級建築士登録 第 203225号 中野 正治

業務名称
 登録有形文化財水原市立蘇峰記念館 (旧其水文庫)
 耐震診断等調査業務
 図面名称
 2階天井上図

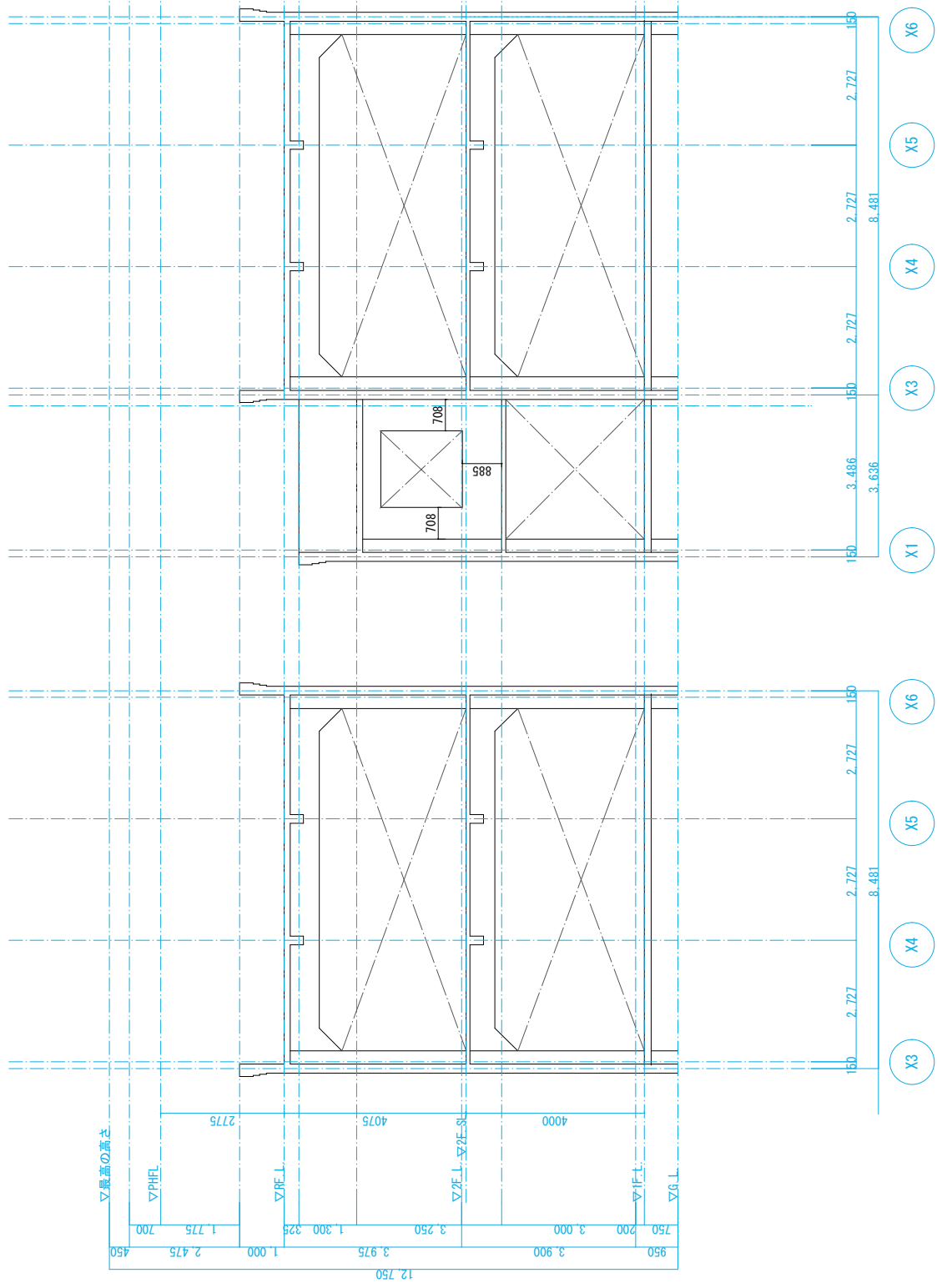
縮尺
 A1 : S=1/50
 A3 : S=1/100
 工種

年月日
 2025. 11. 28
 図面番号
 A-08

【備考】



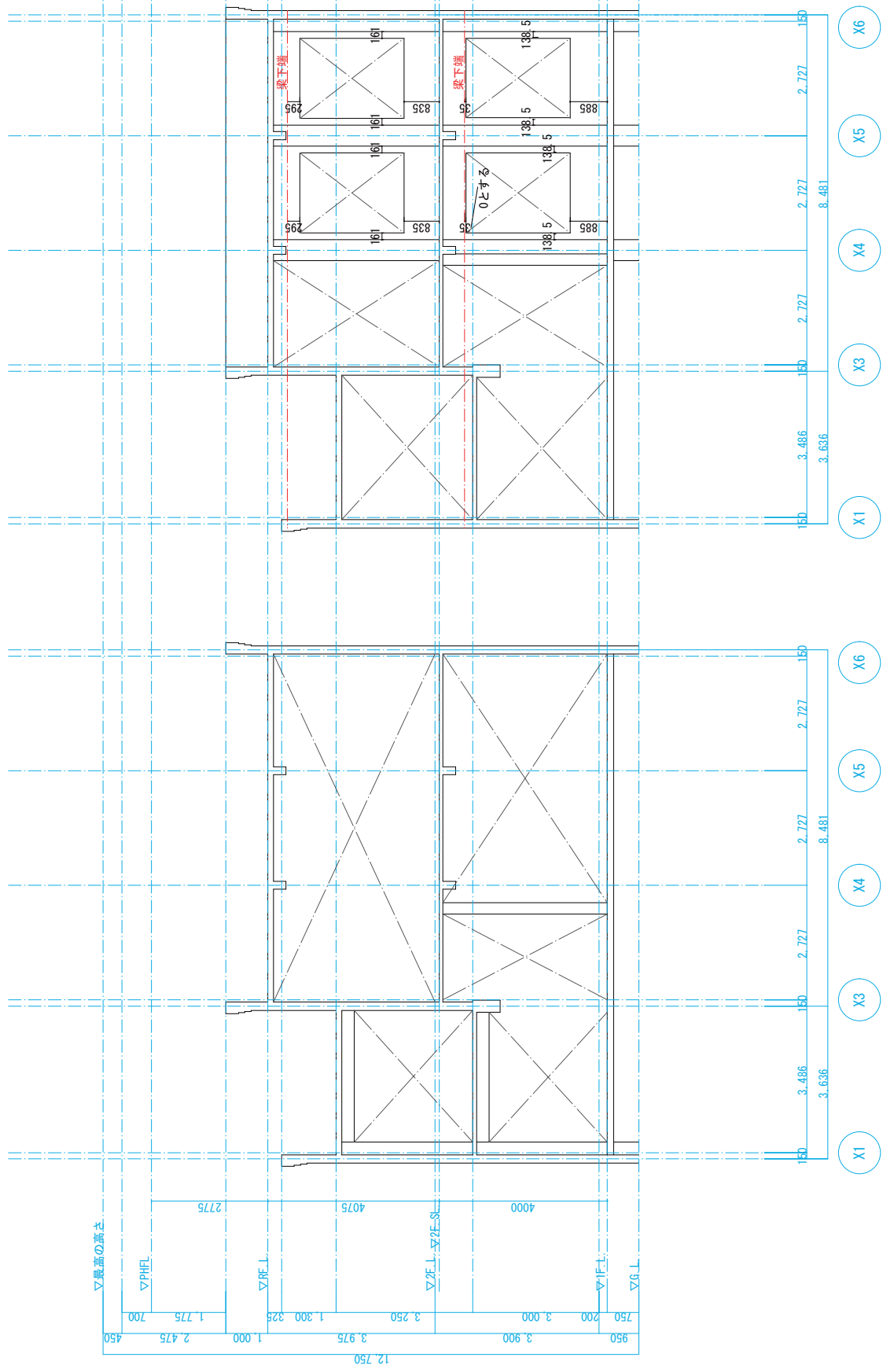
【備考】	株式会社 修復技術システム		業務名称	縮尺	年月日
	一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11884号 一級建築士登録 第 203225号 中野 正治		登録有形文化財水原市立蘇峰記念館 (旧其水文庫) 耐震診断等調査業務	A1: S=1/50 A3: S=1/100	2025. 12. 11
	軸組図 (1)		図面名称	工種	図面番号
					A-09



Y4-150通り

Y3通り

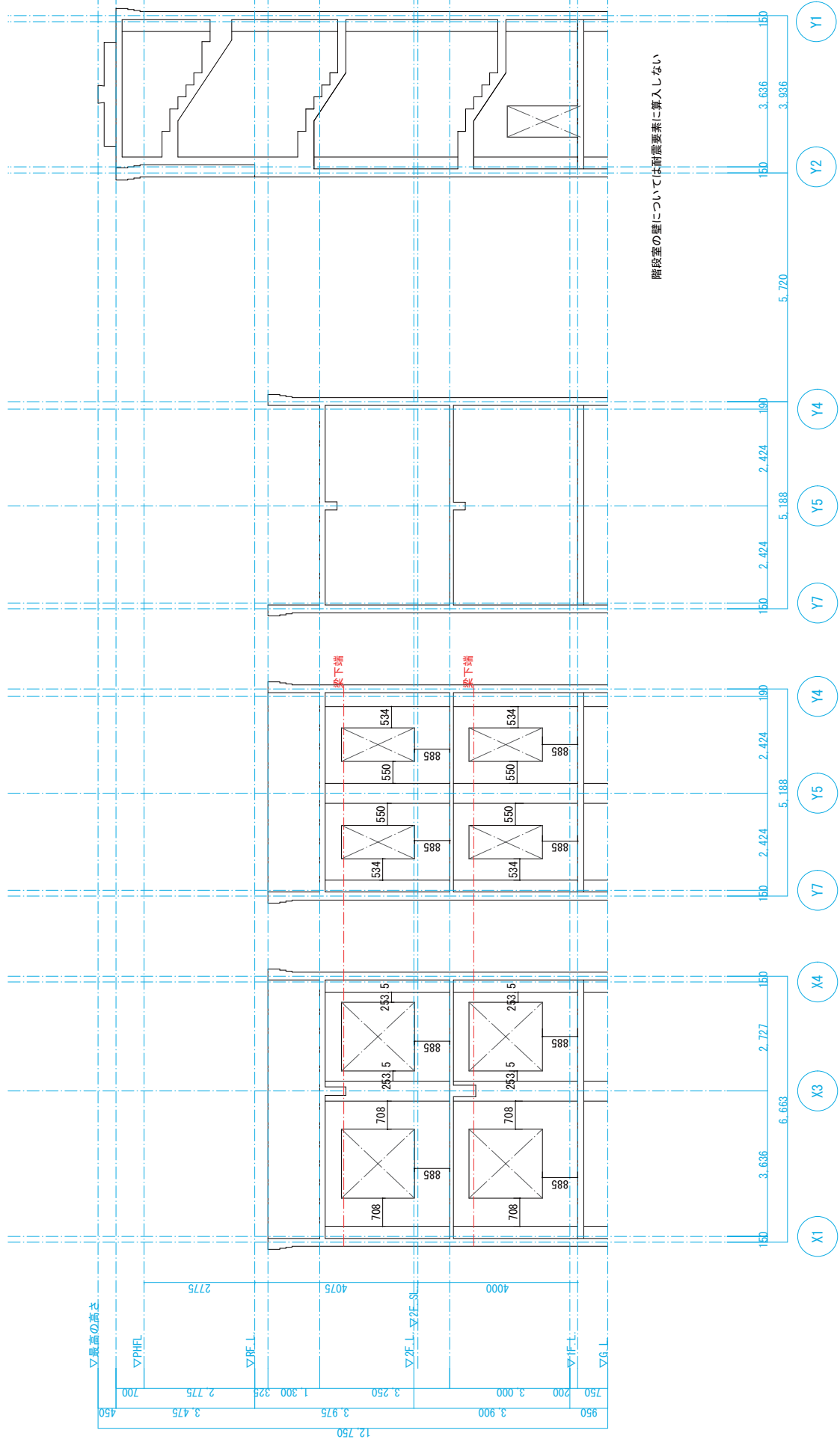
【備考】	業務名称 登録有形文化財水原市立蘇峰記念館（旧其水文庫） 耐震診断等調査業務	縮尺 A1：S=1/50 A3：S=1/100	年月日 2025.12.12
	図面名称 軸組図（2）	工種 工	図面番号 A-10
株式会社 修復技術システム 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11884号 一級建築士登録 第 203225号 中野 正治			



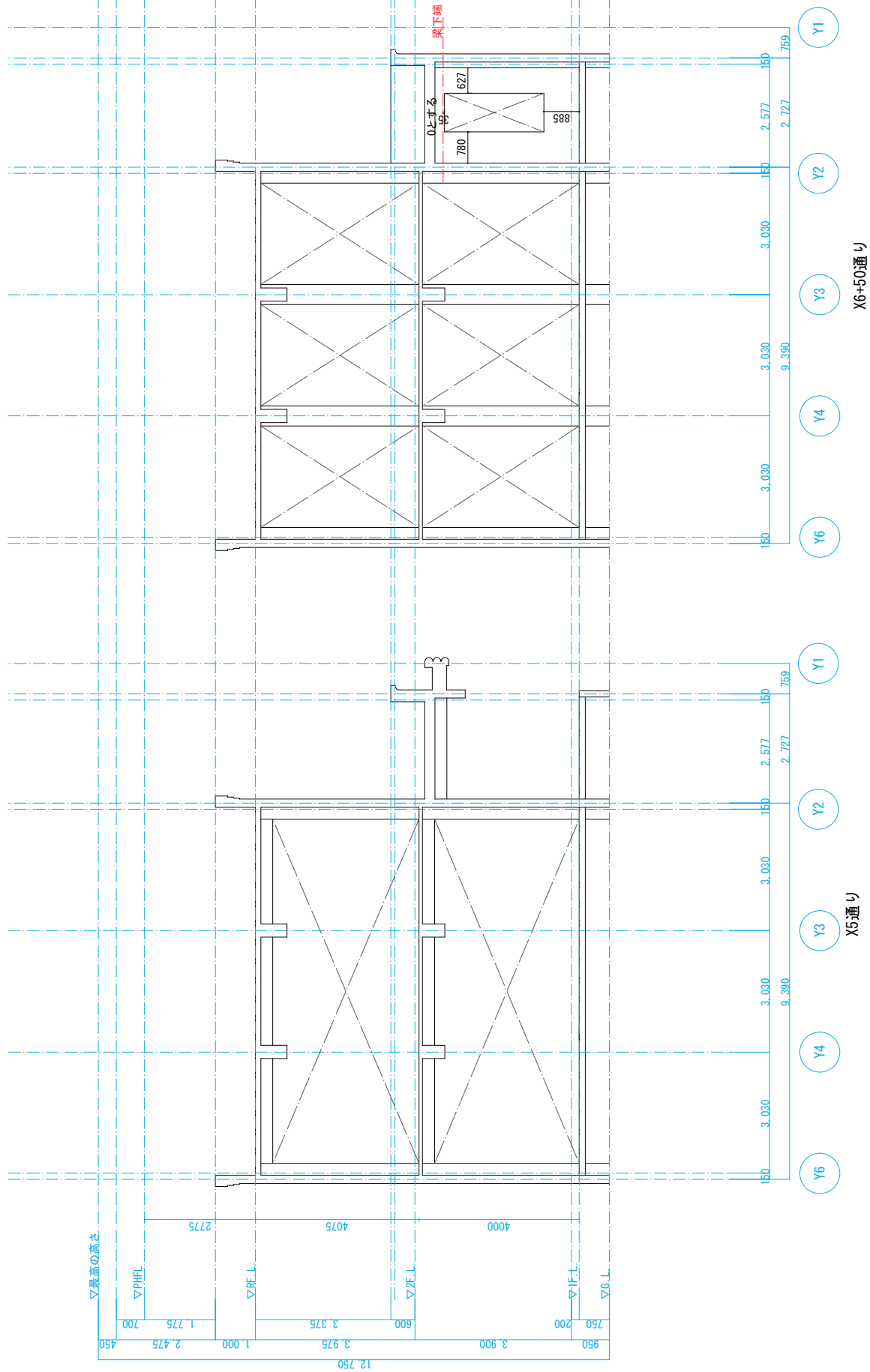
Y6+150通り

Y5通り

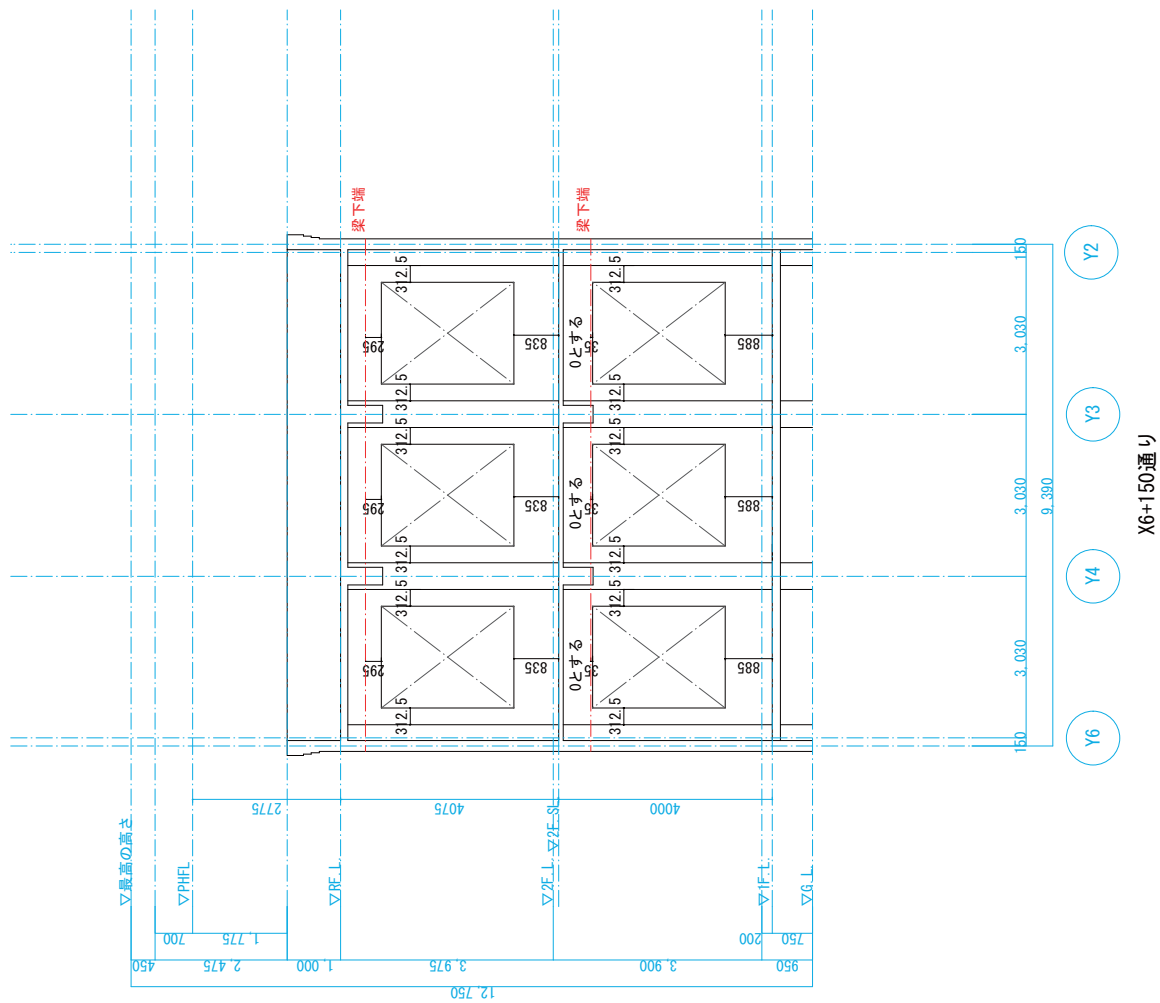
【備考】	業務名称 登録有形文化財水原市立蘇峰記念館（旧洪水文庫） 耐震診断等調査業務	縮尺 A1：S=1/50 A3：S=1/100	年月日 2025.12.12
	株式会社 修復技術システム 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1種084号 一級建築士登録 第 203225号 中野 正邦	工種 工	図面番号 A-11



【備考】	業務名称	登録有形文化財水原市立蘇峰記念館（旧其水文庫）耐震診断等調査業務	縮尺	A1：S=1/50 A3：S=1/100	年月日	2025.12.12
	図面名称	軸組図（4）	工種	工	図面番号	A-12
株式会社 修復技術システム		一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11884号				
		一級建築士登録 第 203225号 中野 正治				



【備考】	株式会社 修復技術システム		業務名称 登録有形文化財水原市立蘇峰記念館（旧津水文庫） 耐震診断等調査業務	縮尺 A1 : S=1/50 A3 : S=1/100	年月日 2025. 12. 16
	一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11884号 一級建築士登録 第 203225号 中野 正治		図面名称 軸組図 (6)	工種	図面番号 A-14



X6+150通り

株式会社 修復技術システム
 一級建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11884号
 一級建築士登録 第 203225号 中野 正治

業務名称
 登録有形文化財水原市立蘇峰記念館（旧清水文庫）
 耐震診断等調査業務

図面名称
 軸組図（7）

縮尺
 A1：S=1/50
 A3：S=1/100

工種

年月日
 2025. 12. 16

図面番号
 A-15

【備考】

第二章 現地調査結果の概要

2-1 劣化状況調査結果の概要

(1) 調査結果の概要

建物の劣化状況は建物の立地条件、経過年数、周囲環境により大きく左右されるため、建物ごとに大きく状況が異なるほか、同じ建物においても部材のGLからの高さ、雨水の侵入状況、方角による周囲の湿度状況や結露の状況により大きく異なるものとなる。耐震性能の評価において、劣化による耐震性能への影響は経年指標に反映される。このことから、構成部材の劣化状況を適切に把握することは構造性能を評価するうえで必要不可欠となる。ここでは構造調査に合わせて行った、劣化調査結果の概要を示す。構造上の損傷、経年的な損傷のほか、改修等により耐震性能を低下させていると思われる箇所および改修の際に健全化を行うことが望ましい箇所についても併せて示す。

全体的に変色が見られる。若干のひび割れや仕上げ材の浮きは見られるものの、著しい損傷は見られなかった。

大きな不同沈下は見られない。

内部結露および雨水侵入等により内壁の変色、剥離が見られる。

内部結露および雨水侵入等により天井仕上げ材の一部に崩落、広範囲で浮きが見られる。

内壁一部にひび割れが見られる。階段部分が特に大きい。

木置床（非構造部材）に腐朽、展示ケースに蟻害が見られる



写真 2-1 外壁の劣化状況



写真 2-1 基礎状況（大きな不同沈下は見られない）



写真 2-1 内壁の変色



写真 2-1 天井剥落

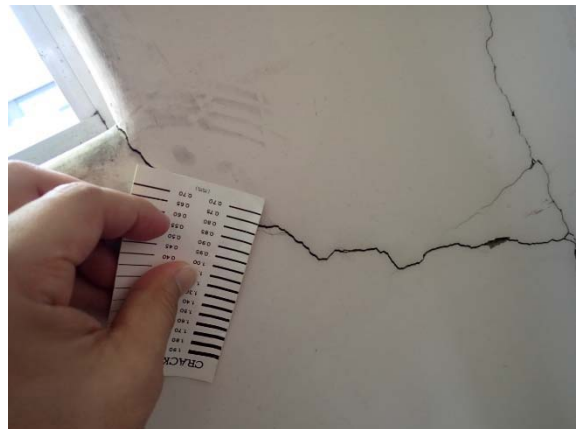


写真 2-1 内壁ひび割れ（階段室部分）



写真 2-1 非構造部材の腐朽状況（巾木の腐朽及び展示ケースの蟻害）

2-2 構造調査結果の概要

本建物は2F建てで、1、2階ともに平面不整形の建物である。X方向（東西方向）、Y方向（南北方向）ともに、主たる耐震要素は鉄筋コンクリート柱及び壁である。階段室の壁面は開口が多く、高さ方向の開口部のずれも大きい。また、階段室部分は建物から平面的に突出した形状となっている。

現地調査より判明した構造的な特徴の概要を示す。

a)主架構

建物は鉄筋コンクリート造で、鉄筋はすべて丸鋼が用いられている。柱の有効断面は 440mm × 440mm で、主筋は一階：8- 25、2階：8- 19であった。帯筋は各階ともに 9@350mm であった。鉄筋の被りが近年の建物に比べて極端に大きく、最大で 11cm 程度であった。

壁面は壁厚 150mm 程度で、9@200 程度のシングル配筋であった。コンクリート圧縮強度は 15N/mm² ~ 25N/mm² 程度であったため、診断においては 15N/mm² を採用する。

中性化については、1階壁及び2階梁において鉄筋まで到達している。詳細は別添資料に示す。



写真 2-2a 柱配筋状況



写真 2-2b 梁配筋状況



写真 2-2c 壁配筋状況

b)床

屋根及び床はコンクリートスラブで、有効厚さ 120mm のコンクリート床板に仕上げモルタル部分 25mm 程度であった。



写真 2-2d 床コア抜き状況

d)基礎

基礎は本調査では確認できなかったものの、不同沈下の少ない状況より、建物自重については支持できているものと判断した。

三章 耐震性能評価

3-1 耐震性能評価の方針

(1) 用いる耐震性能評価手法

主たる耐震要素は柱及び壁とする。

本診断に用いる耐震診断手法は

「社団法人 日本建築防災協会編集、既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準；2017」を参照する。

準拠、参考文献

- ・文化庁：重要文化財（建造物）耐震診断指針
- ・文化庁：重要文化財（建造物）耐震基礎診断実施要領
- ・文化庁：重要文化財（建造物）耐震診断・耐震補強の手引き
- ・国土交通省：2025年版建築物の構造関係技術基準解説書
- ・社団法人 日本建築防災協会：既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準
- ・そのほか研究論文等

(2) 耐震性能の目標

目標とする必要耐震性能は「重要文化財（建造物）耐震診断指針」における「安全確保水準」とし、大地震動時に倒壊せず、中地震動時に機能が維持できることとする。なお、塔屋部分についても重量算定のためにモデル化を行う。

□必要耐震性能設定の目安（重要文化財（建造物）耐震基礎診断実施要領より引用）

適用		○	
	機能維持水準	安全確保水準	復旧可能水準
性能目標	大地震動時に要求される機能が維持できる。	大地震動時に倒壊せず，生命に重大な危害を及ぼさない。	大地震動時に倒壊の恐れがあるが，文化財としての主要な価値を損なうことなく復旧できる。
活用内容	現役の社会生活の基盤となる施設（インフラ施設）。災害時の防災拠点となるもの。不特定多数が常時利用する大規模な建造物で，特に必要と判断されるもの。	通常の用途に供しているもの。	ほとんど人が立ち入らないか，滞留時間が短いもの。

(3) 地震力について

建物に作用する大きな水平力として地震力が想定され、地震の大きさに応じて2つの入力レベルが定義されている。本診断においては大地震時における耐震性能の把握を行うため、極めて稀に発生する地震動を対象とする。

稀に発生する地震動

一般的に中地震動と呼ばれ、通常の建物の耐用年数期間内に1度は受ける可能性が高い地震動。再現期間50年程度。建物の重量の0.2倍程度の水平力（ベースシア0.2）を想定。

目標性能：建物の構造耐力上主要な部分に耐力低下がなく、地震後も継続して建物を使用することができるレベル

極めて稀に発生する地震動

一般的に大地震動と呼ばれ、敷地周辺で1度は受ける可能性が高い地震動。再現期間500年程度。建物の重量の1.0倍程度の水平力（ベースシア1.0）を想定。

目標性能：人命を確保できるレベルとし、建物の倒壊、崩壊を引き起こすことがないレベル

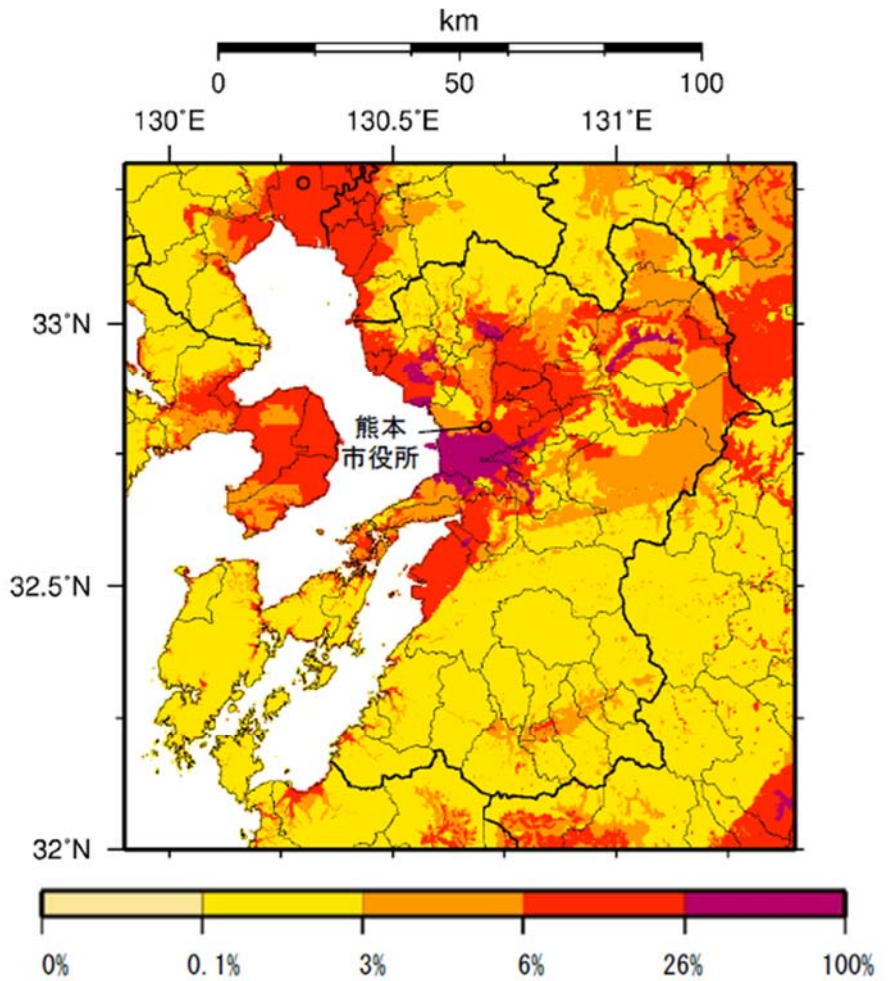
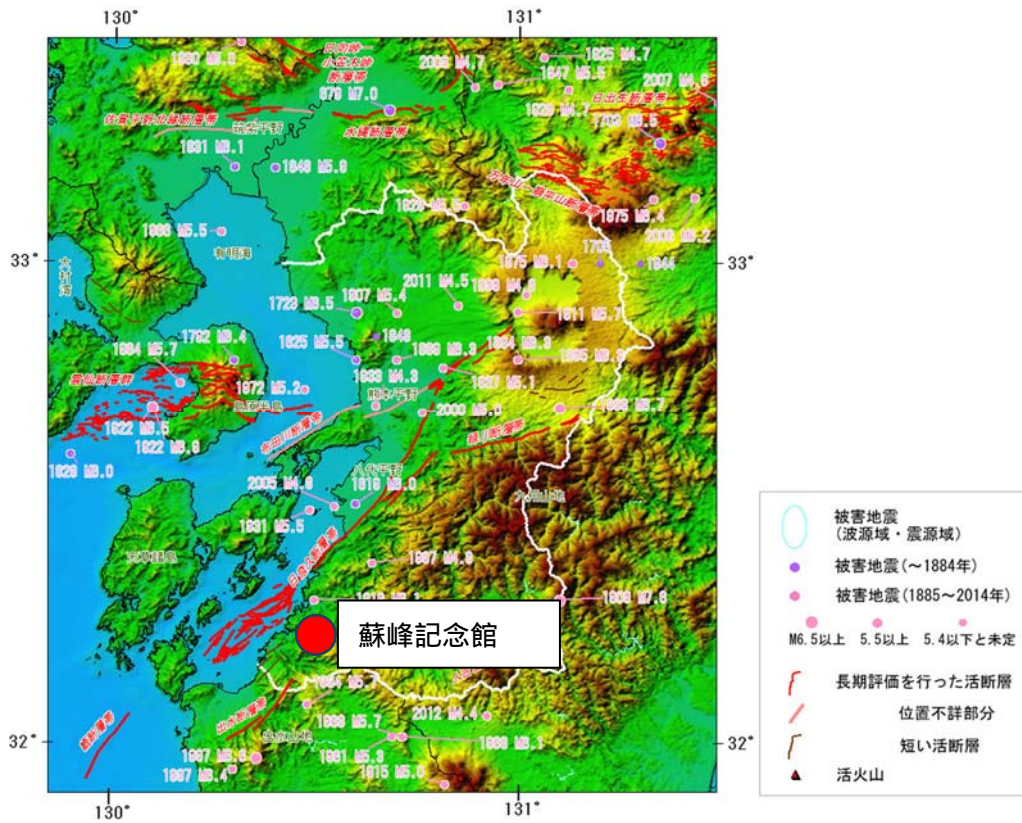
	稀に発生する地震動（中地震動）	極めて稀に発生する地震動（大地震）
内容	通常の建築物の耐用年数内に1度以上受ける可能性の高い地震動 再現期間50年程度	当該敷地で想定される最大の地震動 再現期間500年程度
気象庁震度※	震度5強程度	震度6強程度
入力地震動	標準せん断力係数 $C_0=0.2$ 以上またはこれに相当する加速度応答スペクトルに基づく地震力	標準せん断力係数 $C_0=1.0$ 以上またはこれに相当する加速度応答スペクトルに基づく地震力
地動の最大加速度	80~100cm/s ² (80~100gal)	300~400cm/s ² (300~400gal)
建物の最大加速度	200cm/s ² (200gal)程度	980cm/s ² (980gal)程度

※地震動による被害は周期等の影響も大きく、震度階との関係性は参考

極めてまれに発生する地震動について、震度7が記載されることもあるが、震度7は気象庁震度の最大であり、地震の揺れにより、想定を上回る場合もある

地震調査研究推進本部事務局(文部科学省研究開発局地震・防災研究課)発表の資料によると蘇峰記念館の近隣に日奈久断層帯が存在し、同事務局の発表している30年以内の震度6弱以上の地震発生確率は14.9%程度、震度5弱以上の地震発生確率は92.1%である。

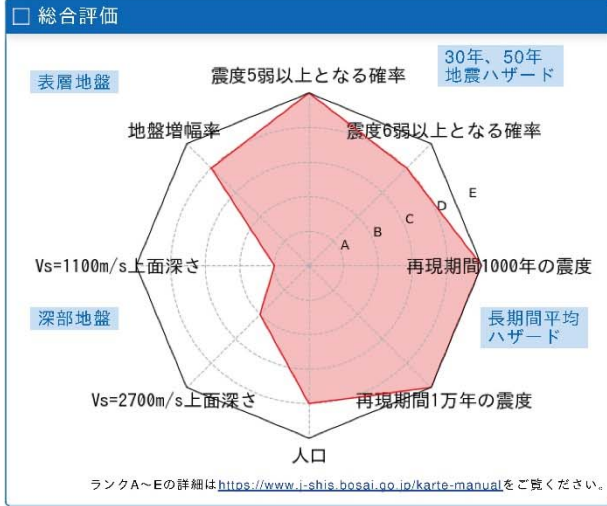
防災科学技術研究所による地震ハザードステーション J-SHIS(<https://www.j-shis.bosai.go.jp/>)によると、周辺地盤は三角州・海岸低地に分類されるほか、市役所庁舎建設の際に実施されたボーリング柱状図より、GL-5.0m以深は玉石混り粘土質砂礫で、十分な支持力を有すると想定される。表層地盤はN値が小さく、揺れが増幅されやすい地盤と推定される。地盤の傾斜は少ないと推定され、地表30m平均Vsは160m/sを超えると推定されるため、表層地盤は第2種地盤と想定する。液状化判定については地表面水平加速度150gal、200galに対しては液状化の恐れは低いものの、350galに対しては周辺一部で液状化発生の恐れがある。



(モデル計算条件により確率ゼロまたは評価対象外のメッシュは白色表示)

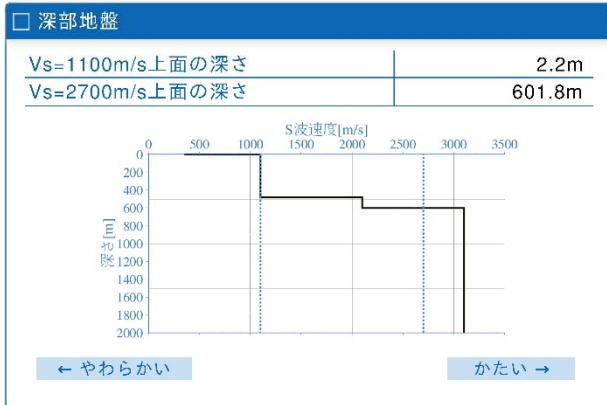
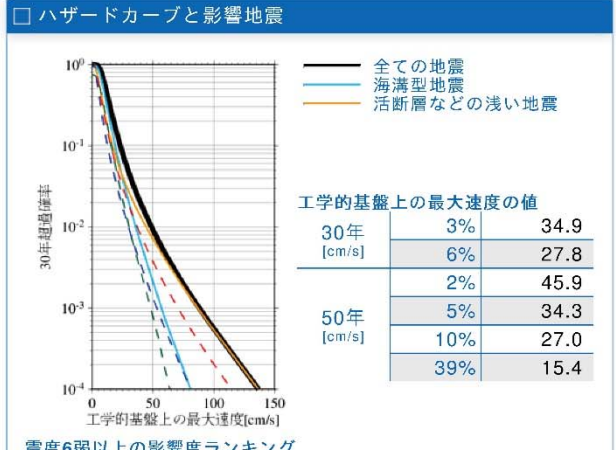
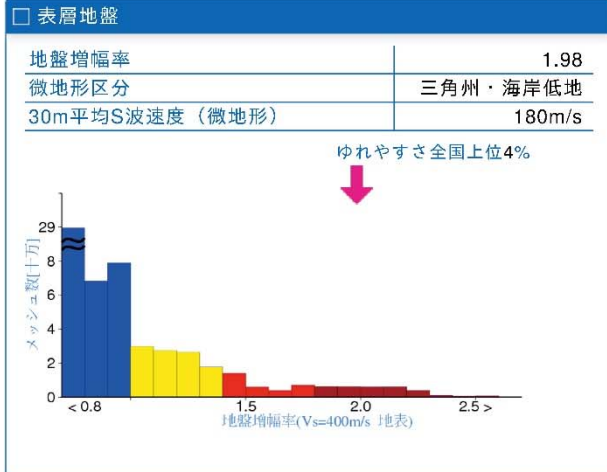
今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率

	メッシュコード	中心緯度、経度	住所	標高	メッシュ内人口
	4830235223	32.2115N,130.4078E	熊本県水俣市陣内1丁目 付近	4m	100~150人



30年、50年地震ハザード

超過確率の値[%] 今後30年間にある震度以上の揺れに見舞われる確率の値です。	30年	震度5弱	92.1
		震度5強	53.6
		震度6弱	14.9
		震度6強	2.8
震度の値 今後30年または50年間にある値以上の確率で見舞われる震度の値です。	30年	3%	6弱(5.9)
		6%	6弱(5.7)
	50年	2%	6強(6.2)
		5%	6弱(5.9)
地表の最大速度の値[cm/s] 今後30年または50年間にある値以上の確率で見舞われる地表の最大速度の値です。	30年	3%	68.8
		6%	54.8
	50年	2%	90.7
		5%	67.7
		10%	53.4
		39%	30.4



震度6弱以上の影響度ランキング

No.	地震名	震度6弱以上の影響度[%]
1	陸域で発生する地震のうち活断層が特定されていない場所で発生する地震	47.6
2	南海トラフ沿いで発生する大地震	22.2
3	フィリピン海プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震	16.2

長期間平均ハザード

震度の値 長期間の再現期間に対応する震度の値です。	500年相当	6弱(5.7)
	1000年相当	6強(6.0)
	5000年相当	7(6.5)
	1万年相当	7(6.6)
	5万年相当	7(6.7)
	10万年相当	7(6.7)

近接の水俣市役所新庁舎建設の際に行われた地盤調査結果の概要を示す。地盤種別は2種地盤相当と判断する。

調査位置および土質断面略図を示す。土質柱状図については蘇峰記念館に最も近い No.4 位置での調査結果を主に参照する。

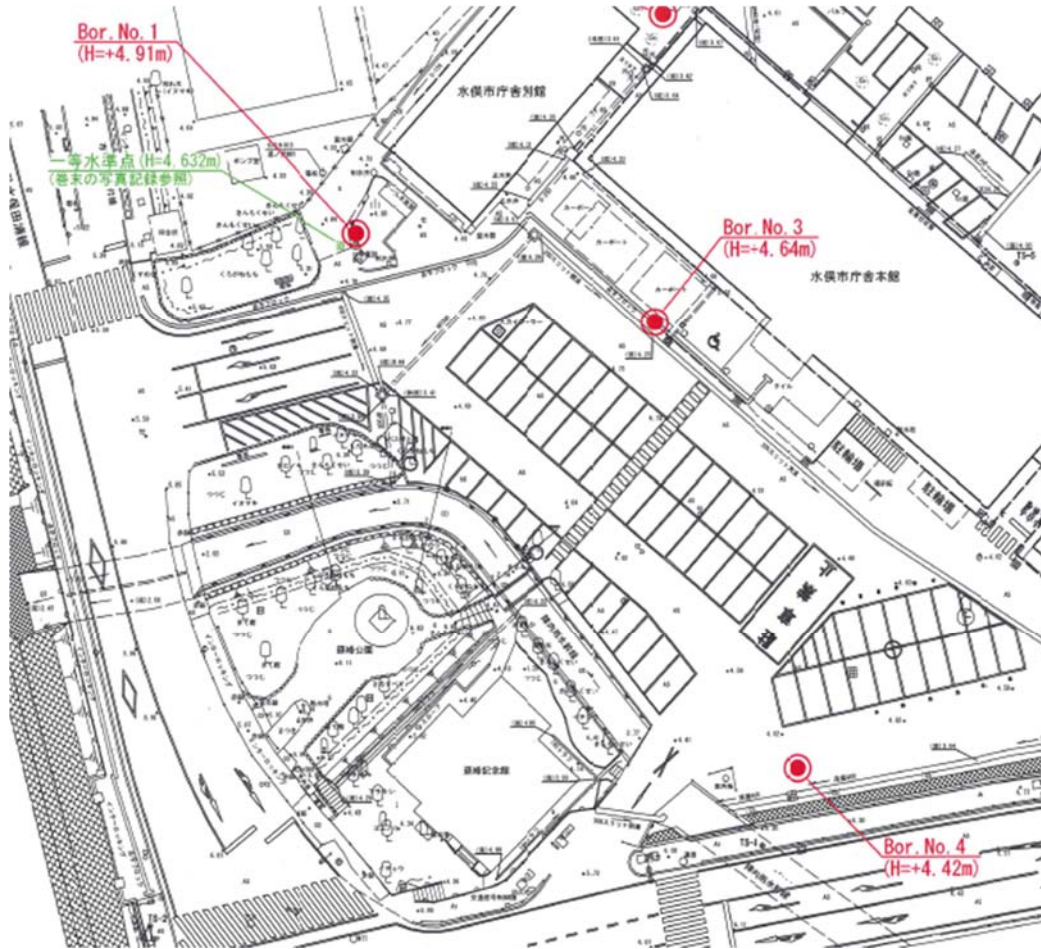
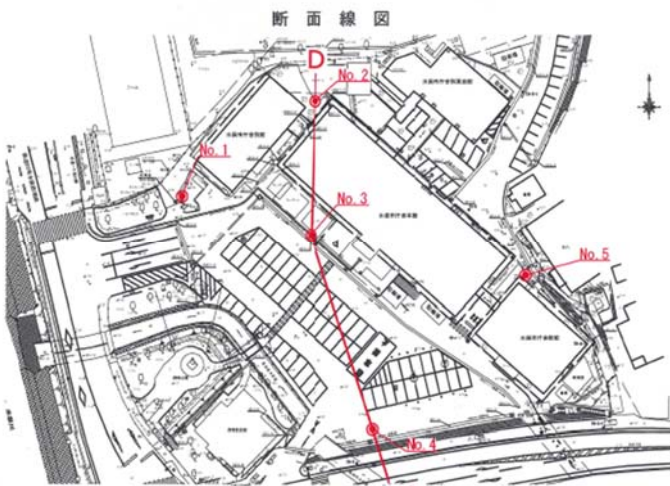
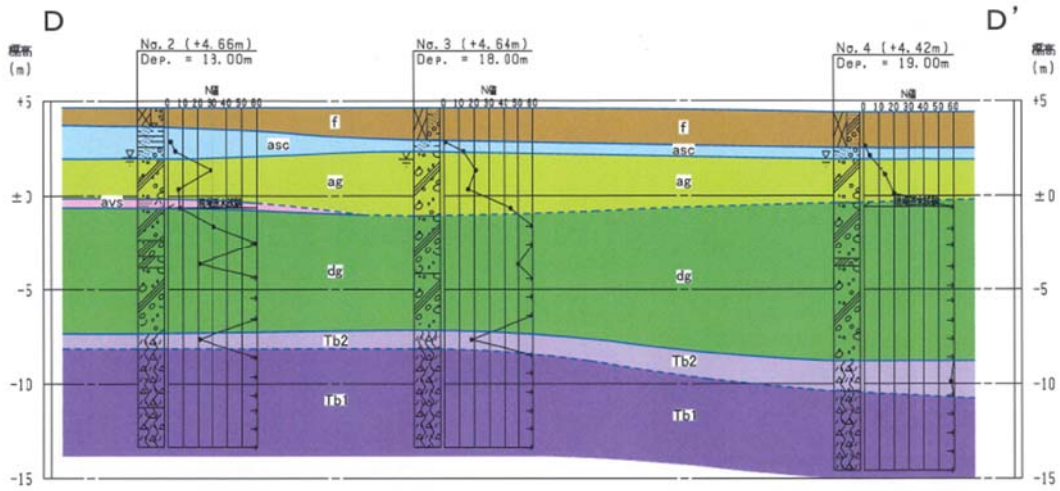


表-4.1.1 調査地の地質層序表

地質時代	地層名	記号	主な土質	N 値	
現世	埋土層	f	瓦礫混じり砂質粘土 ～粘土質中砂～砂礫	4	
新 生 代	第四紀 沖積層	砂泥層	asc	砂質シルト～ シルト質細砂	1～5
		礫質土層	ag	粘土質砂礫	7～45
		凝灰質土層	avs	凝灰質細砂	2
	更新世 洪積層	礫質土層	dg	玉石混じり 粘土質砂礫	21～60以上 (60以上多い)
	第三紀 中新世	火山岩類	強～中風化部	Tb2	強風化凝灰角礫岩 風化凝灰角礫岩
弱風化～新鮮部			Tb1	風化凝灰角礫岩	60以上



地質層序表

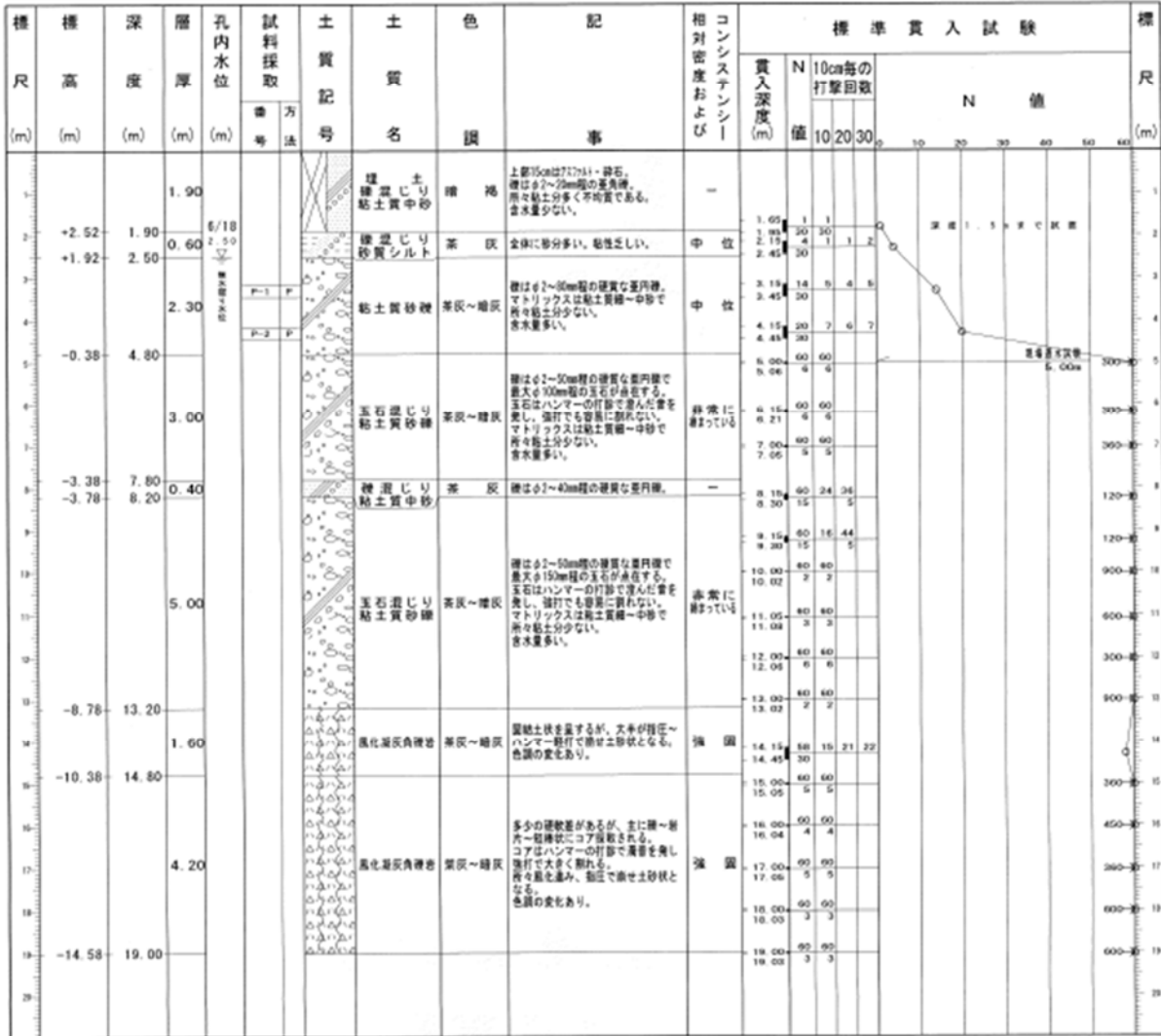
地質時代	地層名	記号	主な土質	N値	
現世	埋土層	f	互層混じり砂質粘土 ～粘土質中砂～砂礫	4	
新第四紀	沖積層	砂泥層	asc	砂質シルト～ シルト質細砂	1～5
	洪積層	礫質土層	ag	粘土質砂礫	7～45
		凝灰質土層	av2	凝灰質細砂	2
	更新世	洪積層	礫質土層	dg	玉石混じり 粘土質砂礫
新第三紀	火山岩類	強～中風化部	Tb2	強風化凝灰角礫岩 風化凝灰角礫岩	18～60以上
		弱風化～新鮮部	It5	風化凝灰角礫岩	60以上

推定土層断面図(D)

以下に土質柱状図を示す。N 値 50 を超える層は GL-5m 以深でそれまでは N 値 5 ~ 20 程度の粘土質砂礫層となっている。孔内水位は GL-2.5m である。

土 質 柱 状 図

調 査 名	水俣市新庁舎建設基本・実施設計業務に伴う地盤調査業務	備 考
ボーリング No.	4	試料採取方法の記号 P:標準貫入試験用サンブラー T:シンウォールサンブラー A:トリプルチューブサンブラー B:デニソン型サンブラー 標準貫入試験の落下質量は非自動落下装置を使用した。
所 在 地	熊本県水俣市陣内1丁目101番地1、103番地、123番地1、130番地他	
調 査 年 月 日	2018年 6月18日 ~ 2018年 6月21日	
孔 口 標 高	+4.42m 基 準 KBM.1 (H=4.530m)	
ボーリング工法	ロータリー式オイルフィード型	
実 施 者	中野 裕司 責任者 内藤 治	足水水位 → 6/18 2.40m, 6/20 1.95m, 6/21 1.90m



ボーリング No. 4

株式会社 東京ソイルリサーチ

以下に地盤の液状化判定結果の概要を示す。地盤の液状化によって計算に支障のないことの判定状況は、「2025年版 建築物の構造関係技術基準解説書」p509を参照し、以下の通りとする。

- ・最大加速度 150gal(1.5m/s²)以上に対して FL 値 1.0 を超える
- ・最大加速度 350gal(3.5m/s²)以上に対して FL 値 1.0 を超え、D_{cy}5cm 以下、P_L 値 5.0 のいずれかを満足する。

上記より、調査地は一部で地盤の液状化の恐れがあるが、危険度は低いと判断される。

表-5.2.1 液状化判定結果一覧表

地表面 水平加速度 (Gal, cm/s ²)	計算地点	F _L ≤ 1の箇所数 (F _L の値)	D _{cy} (cm)	D _{cy} に対する 液状化の程度	P _L 値	P _L 値に対する 液状化の危険度
150	No. 1	0	0.0	なし	0.0	かなり小さい
	No. 2	0	0.0	なし	0.0	かなり小さい
	No. 3	0	0.0	なし	0.0	かなり小さい
	No. 4	0	0.0	なし	0.0	かなり小さい
	No. 5	0	0.0	なし	0.0	かなり小さい
200	No. 1	0	0.0	なし	0.0	かなり小さい
	No. 2	0	0.0	なし	0.0	かなり小さい
	No. 3	0	0.0	なし	0.0	かなり小さい
	No. 4	0	0.0	なし	0.0	かなり小さい
	No. 5	0	0.0	なし	0.0	かなり小さい
350	No. 1	0	0.0	なし	0.0	かなり小さい
	No. 2	1箇所 (0.64)	1.5	軽微	2.3	低い
	No. 3	0	0.0	なし	0.0	かなり小さい
	No. 4	0	0.0	なし	0.0	かなり小さい
	No. 5	1箇所 (0.93)	0.3	軽微	0.3	低い

(4) 積雪荷重

水俣市は、建築基準法施行細則により、一般区域に分類され、垂直積雪量が 20cm であるため、積雪荷重による地震力への影響は小さいとし、検討を省略する。

(5) 風荷重

台風時などに大きな風荷重を受けることが想定されるが、建物重量が大きいため、地震力が支配的であると判断し、検討を省略する。なお、当該敷地の基準風速は、34m/s、地表面粗度区分は である。

(6) 歴史的価値

蘇峰記念館は創建当初の意匠を十分に残した歴史的価値の高い建物である。歴史的、文化財的、意匠的価値を損なうことのないように、配慮する。

3-2 現況の耐震診断

前節で示した方針のもと、現況の耐震診断を行った結果を示す。耐震診断に用いる建物重量、高さ等は実測調査結果に基づく。なお、経年指数 T の判定に用いる指標は別添資料による。

主たる耐震要素は鉄筋コンクリート柱及び壁とするが、階段室の壁面は開口が多く、高さ方向のずれも大きく、階段室部分は建物から平面的に突出した形状となっているため、階段室壁面については耐震要素に見込まないものとする。エントランス部分の柱については他の柱に比べて断面が小さく、配筋状況も不明のため、耐震要素から除外する。

診断においては、地震時に影響を及ぼす恐れのある増築部分の重量を補正重量として付加する。

(1) 診断条件

耐震性能評価は2次診断とし、柱及び壁を評価対象とする。偏心の算定に用いる手法はC法とする。

基礎については不明のため、柱脚部を固定として評価する。柱脚以外の部分は固定しない。

建物重量は実況に応じて算定し、架構重量のほか、仕上げ材として下記を想定する。

名称	使用部位	単位	単位重量	コメント
梁仕上げ	はり	N/m ²	750.00	モルタル30mm+漆喰
柱仕上げ	柱	N/m ²	750.00	モルタル30mm+漆喰
壁仕上げ	壁	N/m ²	1500.00	モルタル両面+仕上げ
床-屋内	床	N/m ²	1000.00	モルタル30mm
床-屋根	床	N/m ²	2500.00	モルタル100mm

積載荷重は書庫、展示スペース等、現況に応じて下記を適宜採用する。(詳細な指定箇所は出力結果による)

積載荷重 (N/m²)

番号	スラブ用	小ばり用	ラメン用	地震用	用途
1	---	---	1300	600	居住室、病室、寝室
2	---	---	1800	800	事務室
3	---	---	2100	1100	教室
4	---	---	2400	1300	百貨店・店舗の売り場
5	---	---	2600	1600	集会室(固定席)
6	---	---	3200	2100	集会室(その他)
7	---	---	3900	2000	車庫、自動車道路
8	---	---	600	400	非歩行屋上(文科省指針)
9	---	---	300	200	S造非歩行屋根(文科省指針)
10	---	---	6900	4900	一般書庫

※耐震診断では、スラブ用積載荷重、小ばり用積載荷重は使いません。

なお、増築部分が一体のため、面積に応じた質量を地震力算定用の重量として与える。(下記の表のうち、3Fは階段室の最上階レベル、4Fは階段室の屋根レベルを示す。)

層名	雑壁重量	任意点追加重量	追加重量
4F	0.00	0.00	0.00
3F	0.00	0.00	0.00
2F	0.00	0.00	738.11
1F	0.00	0.00	0.00
合計	0.00	0.00	738.11

上記より求めた地震力算定用の建物重量を以下に示す。

w : 層重量 (KN) sum-w : その層より上の総重量 (KN)
 A : 各層の床面積 (m²) sum-A : その層より上の全床面積 (m²)
 w/A : 単位床面積当りの重量 (KN/m²)

注) #: 直接入力値

診断時に考慮しない部材を指定した場合、X、Y方向の層重量は異なる場合があります。
 各層の床面積に片持ちスラブ、出隅片持ちスラブの面積を含みません。

階	w		A	w/A		sum-w		sum-A	階の補正係数	
	X方向	Y方向		X方向	Y方向	X方向	Y方向		X方向	Y方向
3F	299.74	299.74	13.77	21.77	21.77	299.74	299.74	13.77	0.667	0.667
2F	1836.09	1836.09	111.67	16.44	16.44	2135.84	2135.84	125.44	0.800	0.800
1F	2974.81	2974.81	126.54	23.51	23.51	5110.64	5110.64	251.98	1.000	1.000

(2) 耐震診断のクライテリア

耐震性能を評価する指標は鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断指針に従い、Is 値に基づく評価で、Is 値 0.6 以上かつ $C_{tu} \cdot SD > 0.3$ を満足することを要求性能とする。

(3) 現況耐震診断のまとめ

現況耐震診断結果の概要を以下に示す。

■耐震判定指標値:

$$I_s \geq I_{s0} = 0.6$$

$$C_{TU} \cdot S_D \geq 0.3 \quad \text{共に満足する場合にOK}$$

■耐震性能表

X方向		補正係数	F _u	C _T	E ₀	SD	T	I _s		C _{TU} · S _D		判定
東西	PH	0.667	1.00	2.25	1.502	0.712	0.934	1.000	≧0.6よりOK	1.071	≧0.3よりOK	OK
	2F	0.800	1.00	1.13	0.903	0.693	0.934	0.585	<0.6よりNG	0.627	≧0.3よりOK	NG
	1F	1.000	1.00	0.7	0.698	0.600	0.934	0.391	<0.6よりNG	0.420	≧0.3よりOK	NG

Y方向		補正係数	F _u	C _T	E ₀	SD	T	I _s		C _{TU} · S _D		判定
南北	PH	0.667	2.40	0.91	1.451	0.746	0.934	1.012	≧0.6よりOK	0.451	≧0.3よりOK	OK
	2F	0.800	1.00	0.97	0.778	0.895	0.934	0.651	≧0.6よりOK	0.697	≧0.3よりOK	OK
	1F	1.000	1.00	0.82	0.816	0.824	0.934	0.629	≧0.6よりOK	0.673	≧0.3よりOK	OK

I _s 値が0.6以上	倒壊、又は崩壊する危険性が低い	←Y方向
I _s 値が0.3以上 0.6未満	倒壊、又は崩壊する危険性がある	←X方向
I _s 値が0.3未満	倒壊、又は崩壊する危険性が高い	

■耐震診断結果のまとめ

X方向（東西方向）：大地震時に倒壊または崩壊する危険性がある
 Y方向（南北方向）：大地震時に倒壊または崩壊する危険性が低い

■所見

この建物は昭和4年（1929年）に建設された鉄筋コンクリート造2階塔屋一階の図書館（現在は水俣市立蘇峰記念館）である。

健全性調査の結果、内部結露および雨水侵入等による仕上げ面の劣化が確認できるほか、壁面での中性化の進行は見られるが、目立った不同沈下は見られない。

構造調査の結果、柱に用いられている鉄筋は主筋、帯筋共に丸鋼で、鉄筋かぶり量が11cm程度と、大きなものであることが判明したほか、壁の配筋についても確認した。基礎構造については確認ができなかったため、柱脚を剛と仮定した。壁面に開口が多く、耐震壁が少ない架構であるほか、不整形な形状となっている。

過去の被災歴は平成15年に発生した水害および平成28年の熊本地震（水俣市陣内で震度4を観測）で、熊本地震の際に壁面漆喰に亀裂が生じた。

南西面にコンクリートブロック造による増築部分があるため、診断においては面積按分により1層の地震力算定用の建物重量を割り増した。

診断の結果、X方向入力時に所要の判定指標を満足せず、現状では耐震性能が不足していることが判明した。

今回の調査および診断では増築部分は評価対象外としたため、補強計画時には増築部分とあわせて補強検討を行うことが望ましい。

3-3 耐震補強方法の検討

前節の通り、現状は X 方向の耐震性能の不足が懸念される。診断の結果、現状の問題点として、以下の問題点がある。補強計画策定においてはこれらの改善が望まれる。

1. 耐震要素の不足

壁の開口が大きく、柱も小径であるため、耐震要素が少ない状態となっている。

2. 耐震要素の偏りによる偏心

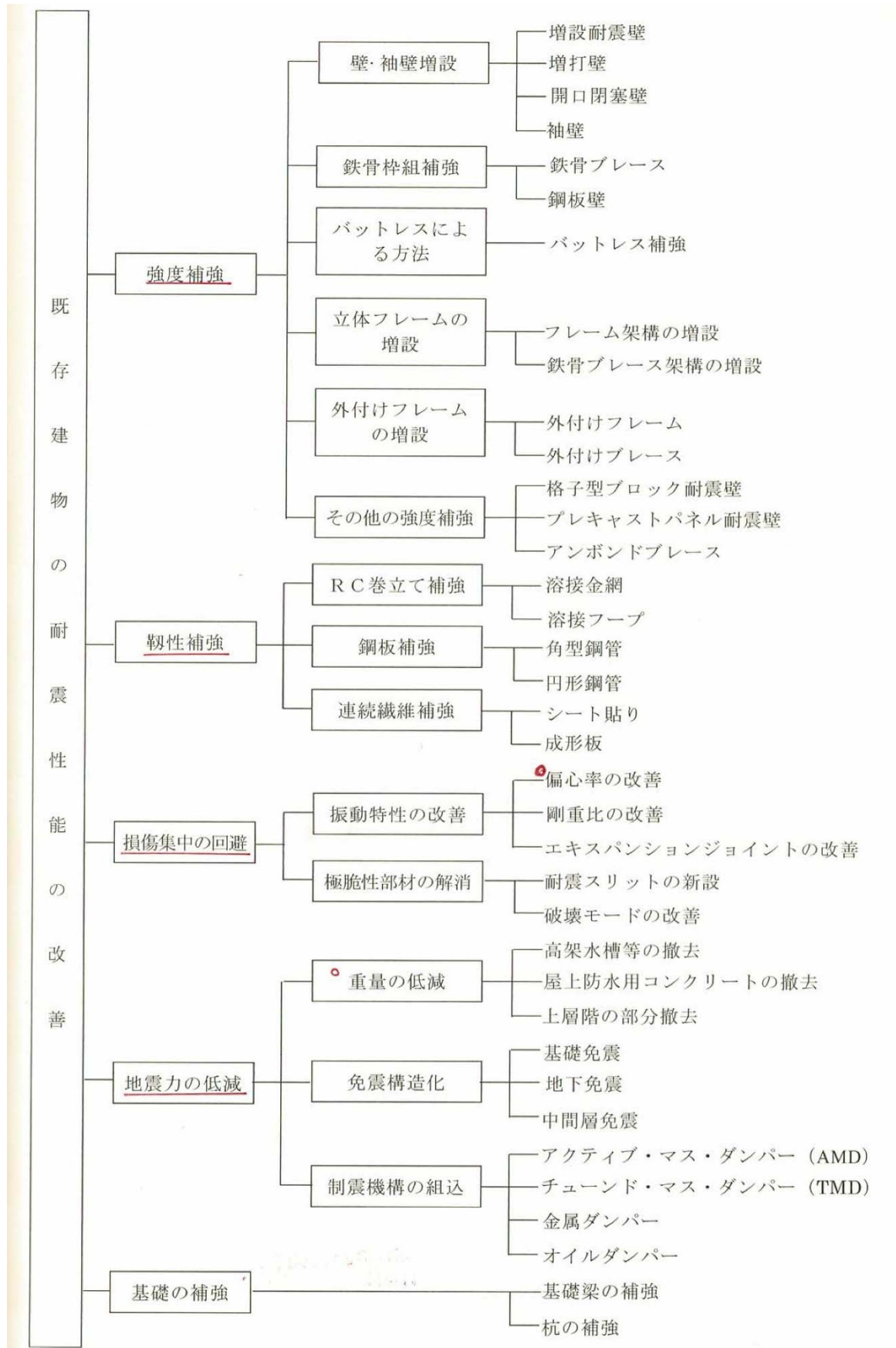
建物の平面計画上、正面側（南面）には窓等の開口が多く設けられており、書庫スペース等のある北側には壁が偏って配置されている。

3. 増築による地震時建物重量負担の増大

増築部分（本診断対象範囲外）はコンクリートブロック造で、構造的には独立した形式として設計されているようであるが、外壁境界部分はモルタルで一体的に構成されているほか、屋根レベルにおいてもスラブが近接しており、設計上の想定クリアランスが確保できていない可能性が高い。本診断においては地震時の建物重量を考慮した診断としている。

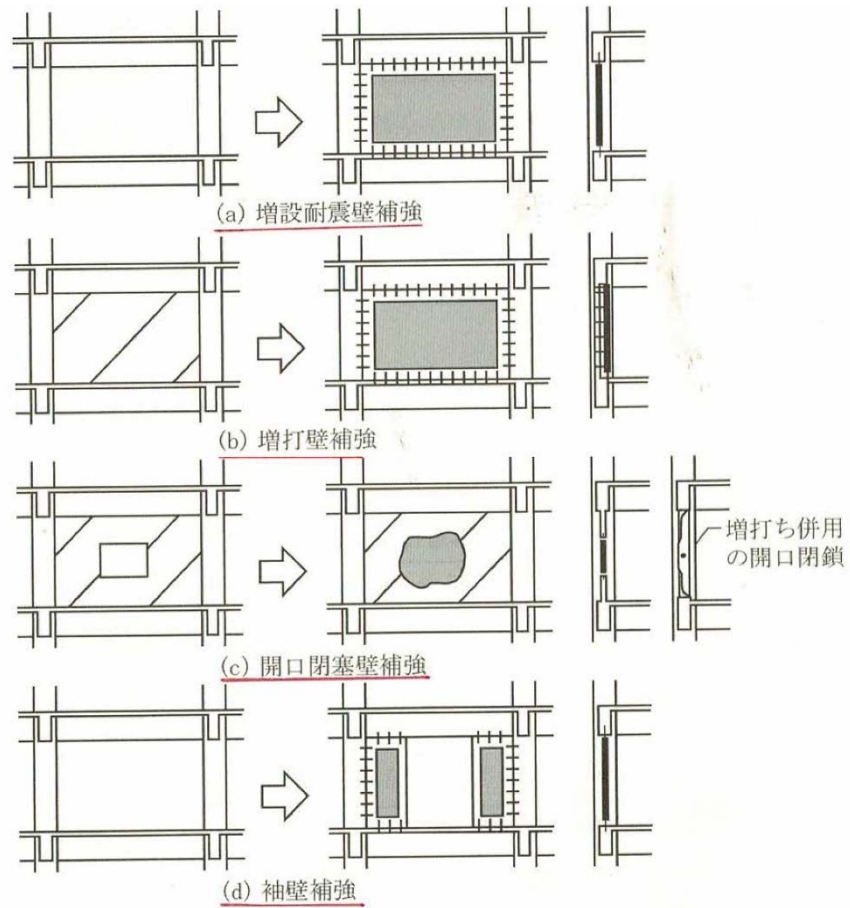
補強計画の策定においては、増築部分との間のクリアランスを確保し、構造的に切り分けることが望ましい。

耐震要素の不足については、日本建築防災協会：既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説（2017年度版）を参照に、壁と袖壁による補強、柱の補強等を行い、建物の強度と靱性の向上を行う。その際、配置バランスを考慮することにより偏心率の改善を行う。なお、補強計画においては、蘇峰記念館の文化財的な価値を損なわないよう、活用計画等と合わせて計画することが望ましい。



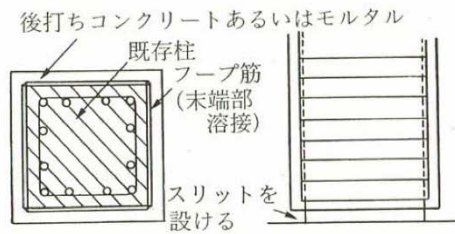
参考図 1 耐震性能を向上させる方法の分類

(日本建築防災協会：既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説より引用)

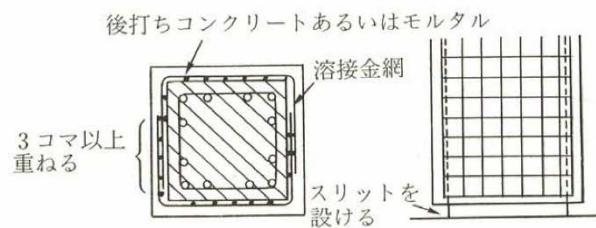


参考図 2 壁と袖壁による補強工法

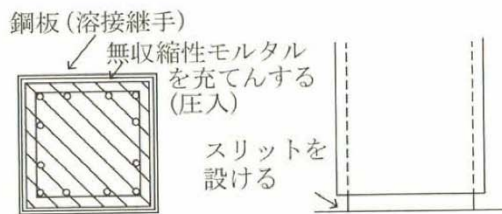
(日本建築防災協会：既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説より引用)



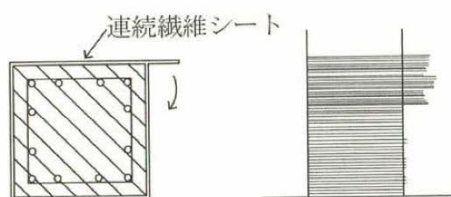
(a) 溶接閉鎖型フープ筋とコンクリートあるいはモルタルによる補強



(b) 溶接金網とコンクリートあるいはモルタルによる補強



(c) 鋼板を巻く補強



(d) 連続繊維を巻き付ける補強

参考図 3 柱の補強法

(日本建築防災協会：既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針同解説より引用)

3-4 診断プログラム出力データ

以降診断プログラムによる出力結果を示す。

既存RC造、SRC造建築物の2次耐震診断計算書

建物名称 : 2025水俣市蘇峰記念館

略称 :

評価証番号 :

建設年 :
診断年月日 :
担当者名 :

計算プログラム : DOC - RC/SRC

バージョン : 10
データベース番号 : 7.0.1.27

会員番号 : DCR001116
シリアル番号 : 561162

(株)構造システム

目次

§ 1. 一般事項	1
1.1 建築物の構造設計概要	1
1.1.1 建物概要	1
1.1.2 構造概要	1
1.2 略伏図	1
1.2.1 はり・柱・床・片持ばり・片持スラブ・ベースプレート配置	1
1.2.2 床スラブ・小ばり配置	3
1.2.3 壁・ブレース・雑壁・壁計算条件配置	4
1.3 軸組図	6
1.3.1 壁開口配置	6
1.4 部材	11
1.4.1 はり	11
1.4.2 柱	12
1.4.4 壁	12
1.4.6 壁鉄筋名称	17
1.4.8 床スラブ・床構造	17
§ 2. 使用材料、材料の許容応力度	18
2.1 既設部使用材料	18
2.1.2 コンクリート	18
2.1.3 鉄筋	18
2.2 補強部使用材料	18
2.2.2 鉄筋	18
2.3 材料定数	18
2.4 材料許容応力度	18
2.4.1 コンクリート	18
2.5 鋼材の降伏点強度の指定および引張破断強度	18
§ 3. 荷重・外力	20
3.1 荷重計算条件	20
3.1.1 最小スラブ厚	20
3.1.2 スラブ重量の拾い方	20
3.1.3 基礎荷重	20
3.2 積載荷重	20
3.3 仕上	20
3.3.1 仕上材名称	20
3.4 重量	21
3.4.1 はり、柱仕上重量	21
3.5 地震力	21
3.6 積雪荷重	21
3.7 特殊荷重	21
3.7.1 特殊荷重配置図	21
3.7.2 特殊はり荷重	23
3.7.6 追加重量	24
§ 4. モデル化	25
4.1 モデル化条件	25
4.4 ダミー部材	25

§ 5. 支点条件	26
5.1 支点条件 (鉛直・水平)	26
5.1.1 基礎の鉛直・回転、水平方向バネ配置図	26
5.1.2 基礎の上下方向・回転方向半剛支点	28
§ 6. 部材断面特性	29
6.1 部材断面特性	29
6.1.1 共通断面特性	29
6.2 はり、柱かぶり	29
§ 7. 応力計算等入力データ	32
7.1 応力解析・モデル化	32
7.1.1 応力計算条件	32
7.1.2 各階剛性低下率	32
7.2 剛性率・偏心率	32
7.2.1 偏心率計算条件	32
§ 8. 耐震診断入力データ	33
8.1 耐震診断計算条件	33
8.1.1 耐震診断計算条件	33
8.1.2 構造耐震判定指標算定項目	33
8.1.7 耐震診断に考慮しない部材	34
§ 9. 準備計算	35
9.1 部材の配置	35
9.2 断面の諸数値	36
9.2.1 柱断面リスト	36
9.2.2 柱断面リスト配置図	36
9.2.3 壁、そで壁断面リスト	37
9.2.4 壁、そで壁断面リスト配置図	39
9.3 柱うちのり高さ	39
9.4 柱、壁の軸力	42
9.4.1 柱、壁の軸力	42
9.4.2 柱軸力	44
9.4.3 壁軸力	45
9.4.4 基礎計算用軸力 (補強用)	46
9.4.5 節点重量 (固定荷重 + 地震用積載荷重) (KN)	47
9.4.6 各層節点重量の内訳	47
9.4.7 柱軸力に加算しない重量 (雑壁・任意点追加重量)	50
9.5 層重量、床面積	50
9.6 柱及び壁の構成	50
9.7 壁量、柱量、壁率、柱率	53
9.8 層剛性、原点周りの層剛性 (応力計算による、雑壁を考慮した値)	53
§ 10. 診断計算	54
10.1 保有性能基本指標 (正加力時)	54
10.1.1 部材の終局強度と靱性能 (正加力時)	54
10.2 2次診断グルーピングの結果 (正加力時)	66
10.3 第2種構造要素判定用データ (正加力時)	79
10.3.1 柱の残存軸耐力 (正加力時)	79

10.3.2	第2種構造要素判定用データ(正加力時)	84
10.4	破壊モード図(正加力時)	88
10.4.1	破壊モード図(伏図)(正加力時)	88
10.4.2	破壊モード図(軸組図)(正加力時)	89
10.1*	保有性能基本指標(負加力時)	93
10.1.1*	部材の終局強度と靱性能(負加力時)	93
10.2*	2次診断グルーピングの結果(負加力時)	105
10.3*	第2種構造要素判定用データ(負加力時)	120
10.3.1*	柱の残存軸耐力(負加力時)	120
10.3.2*	第2種構造要素判定用データ(負加力時)	125
10.4*	破壊モード図(負加力時)	130
10.4.1*	破壊モード図(伏図)(負加力時)	130
10.4.2*	破壊モード図(軸組図)(負加力時)	131
10.5	形状指標	135
10.5.1	1次形状指標	135
(a)	グレード一覧	135
(b)	SD指標一覧	135
10.5.2	重心・剛心図(2017年診断基準C法による)	135
10.5.3	剛性バランス(2017年診断基準C法による、雑壁考慮)	138
10.5.4	偏心率(2017年診断基準C法による、雑壁考慮)	138
10.5.5	2次形状指標	139
10.6	2次経年指標	140
§ 11.	診断結果	141
11.1	診断表	141
11.1.1	2次診断表(正加力)	141
11.1.1*	2次診断表(負加力)	143
11.1.2	2次診断表2(正加力)	145
11.1.2*	2次診断表2(負加力)	147
11.2	CT-Fグラフ	149
§ 12.	メッセージ一覧	155

§ 1. 一般事項

1.1 建築物の構造設計概要

1.1.1 建物概要

建物規模：

スパン数	X方向	5	スパン
	Y方向	7	スパン
階数	地上	3	階
	地下	0	階
	塔屋	0	階
高さ		12.900	m
軒の高さ		11.600	m
地面から地上1階床までの高さ		75.0	cm
パラペットの高さ		130.0	cm
ピロティ階	X方向	指定なし	
	Y方向	指定なし	
基礎下端レベル		GL+60.0	cm

構造スパンの設定法：意匠スパン長と同じ

構造階高の計算法：はりせいの平均を自動計算し標準レベルを考慮して設定

階名	階高 (cm)	構造階高 (cm)	層名	標準はりせい (cm)	層名	標準レベル (cm)
3F	277.5	275.0	4F	60.0	4F	-3.0
2F	397.5	397.5	3F	55.0	3F	-3.0
1F	410.0	412.5	2F	55.0	2F	-3.0
			1F	60.0	1F	-3.0

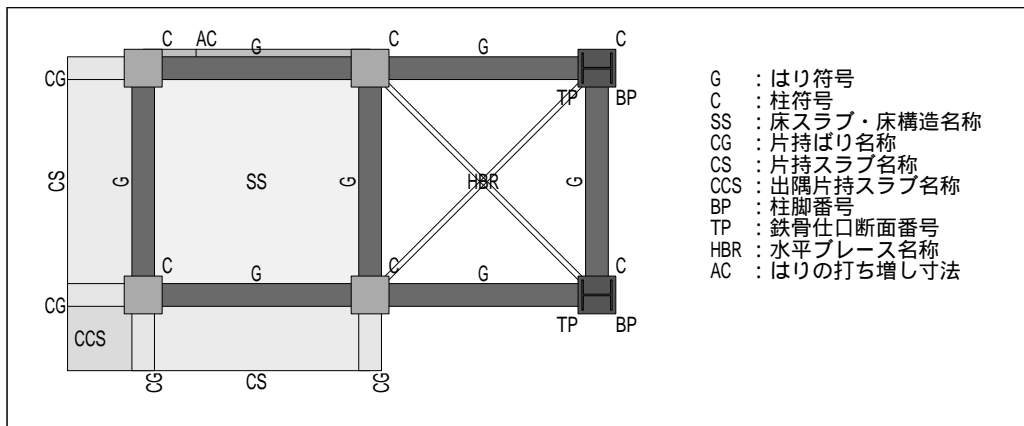
X方向 (cm)			Y方向 (cm)		
軸名	意匠スパン	構造スパン	軸名	意匠スパン	構造スパン
X1	272.7	272.7	Y1	105.9	105.9
X2	90.9	90.9	Y1a	272.7	272.7
X3	272.7	272.7	Y2	303.0	303.0
X4	272.7	272.7	Y3	303.0	303.0
X5	272.7	272.7	Y4	242.4	242.4
X6			Y5	60.6	60.6
			Y6	196.8	196.8
			Y7		

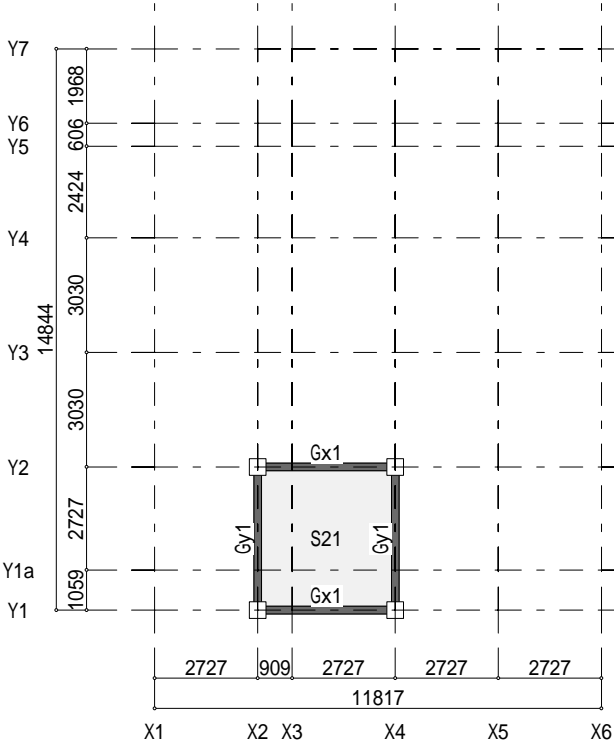
1.1.2 構造概要

構造種別	層名 1	層名 2
鉄筋コンクリート造	1F	4F

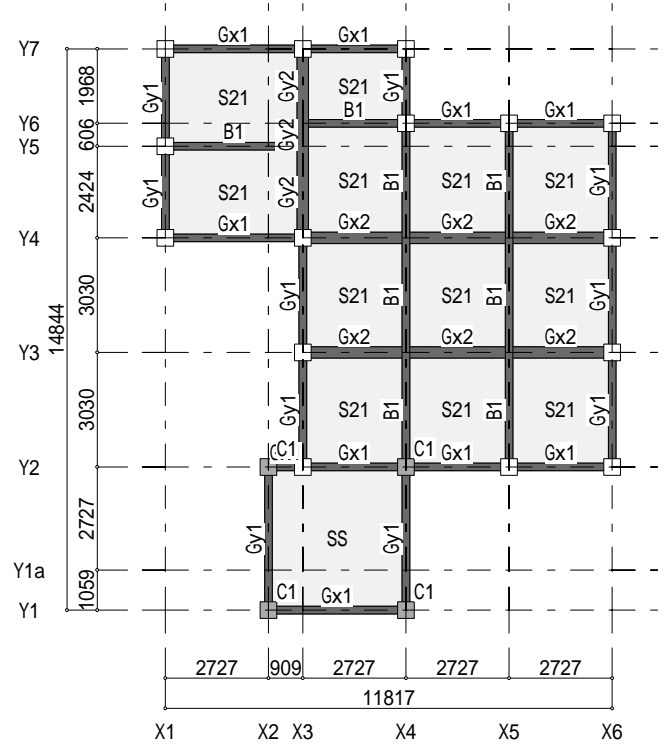
1.2 略伏図

1.2.1 はり・柱・床・片持ばり・片持スラブ・ベースプレート配置

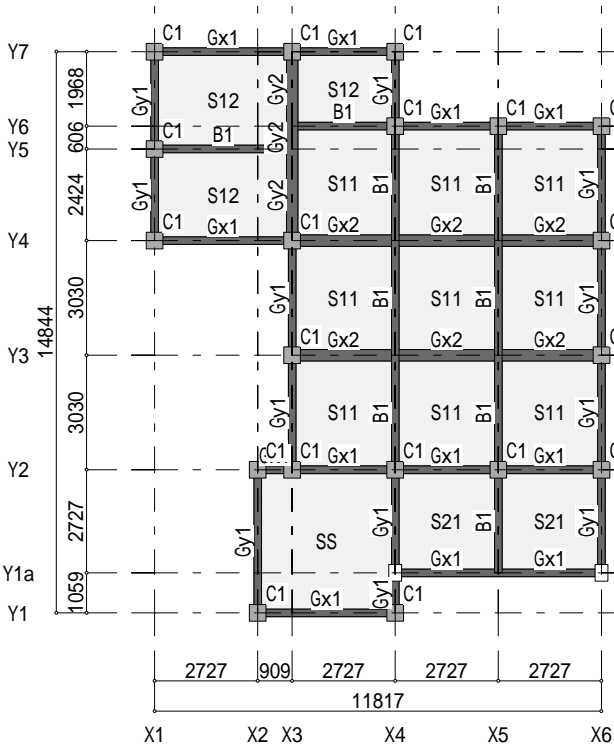




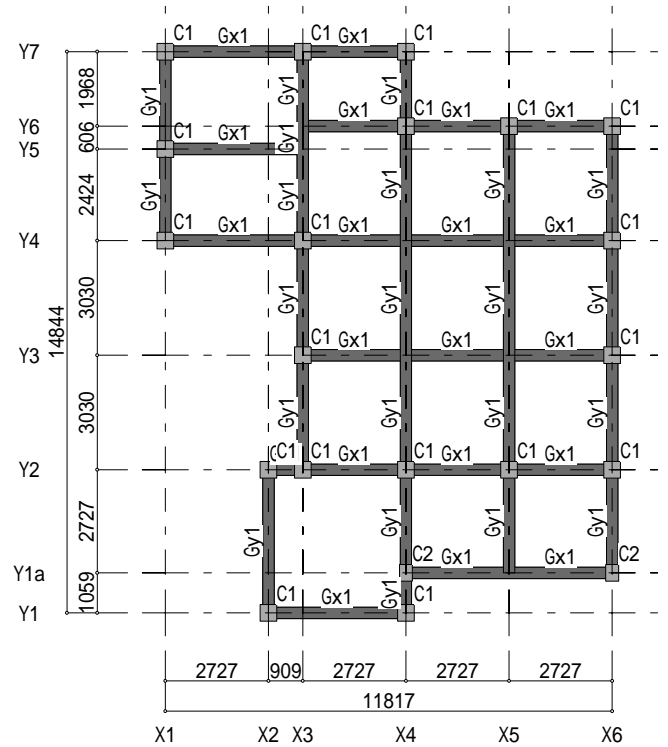
4F 層 (S=1/200)



3F 層 (S=1/200)

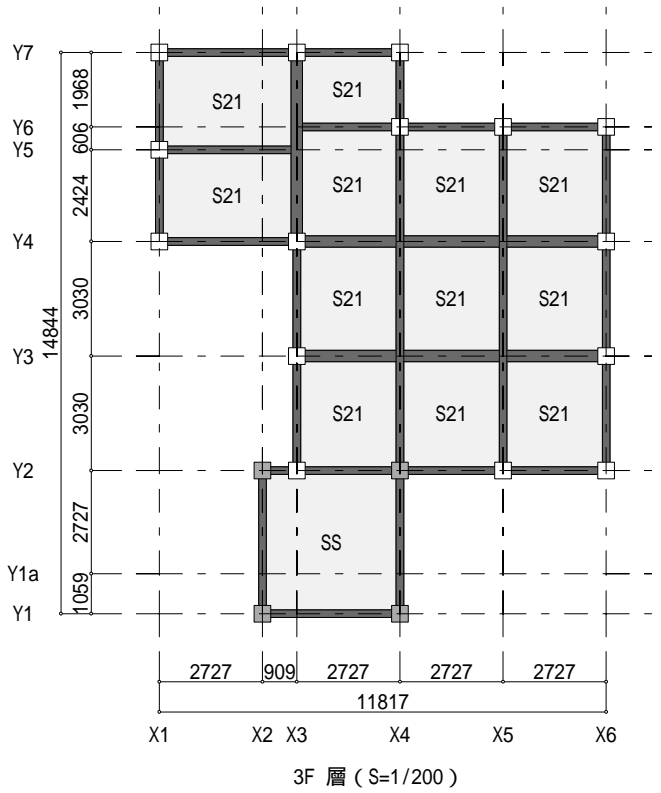
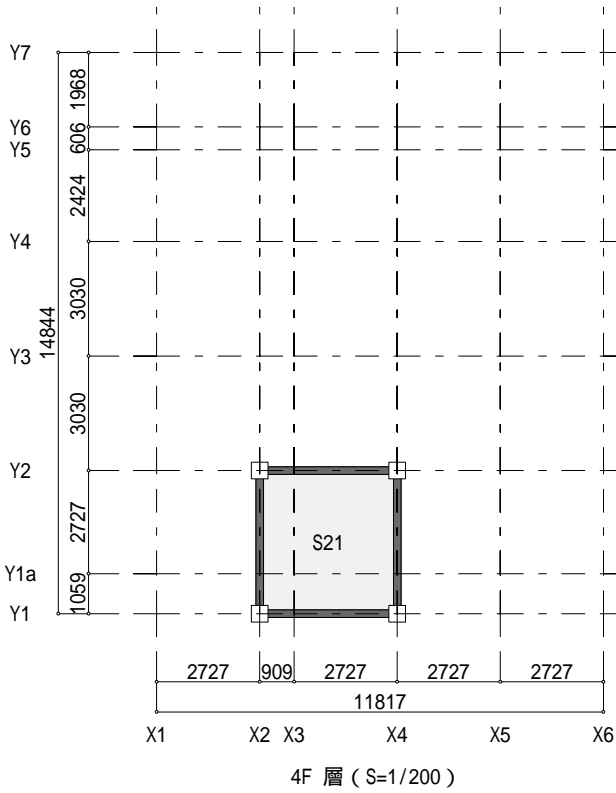
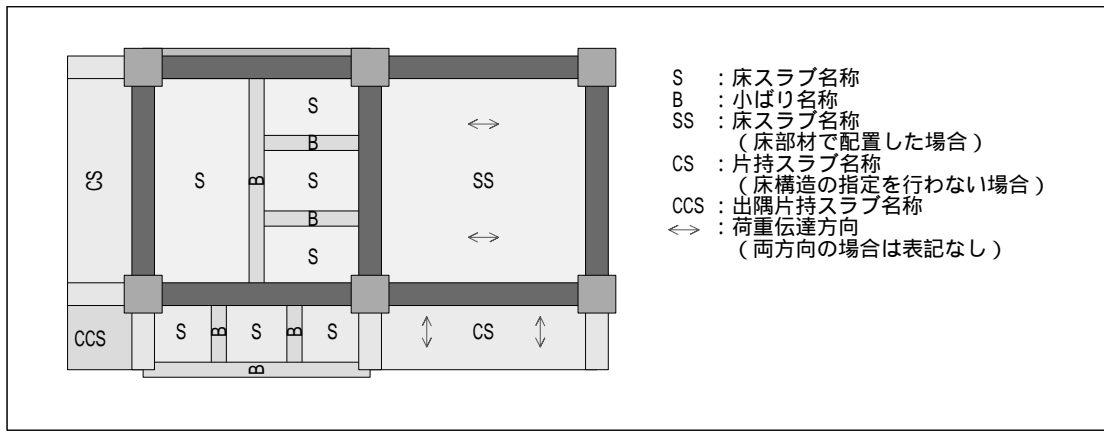


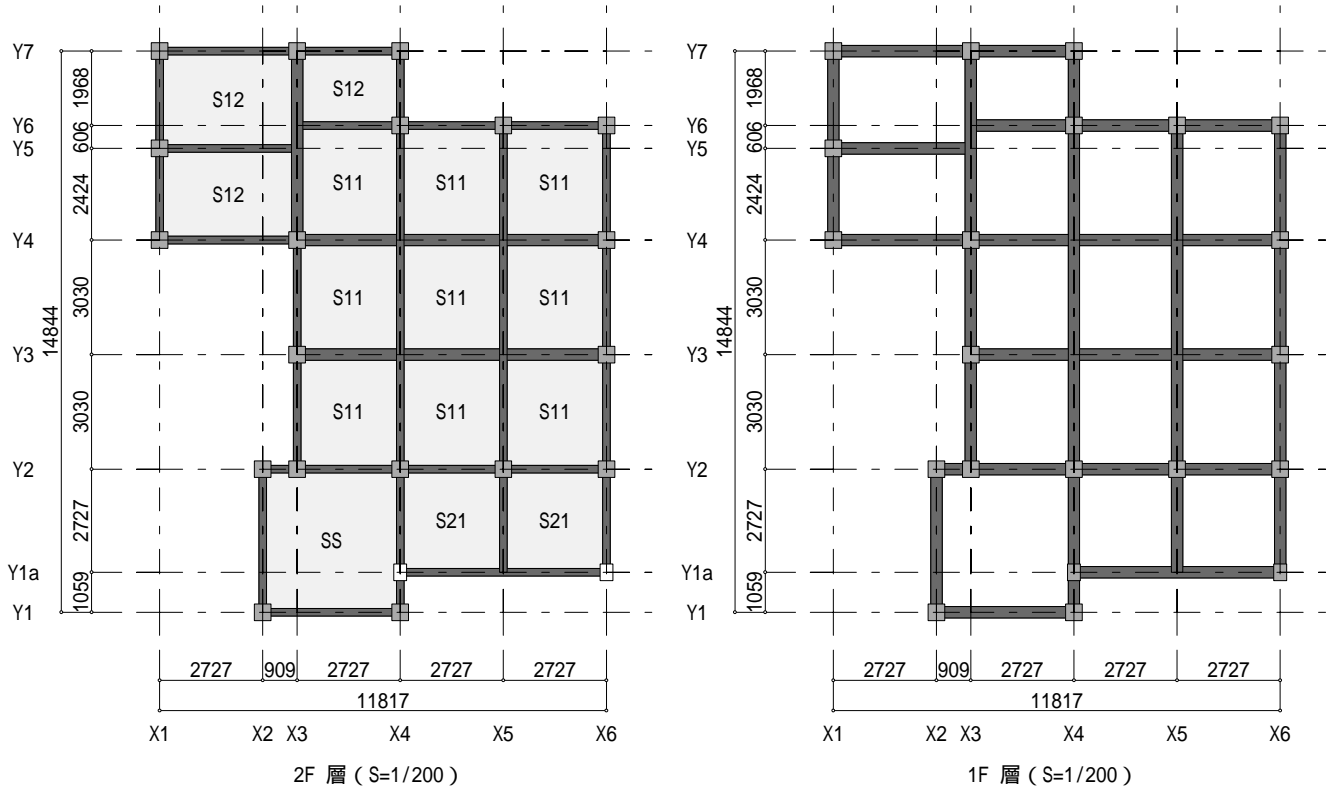
2F 層 (S=1/200)



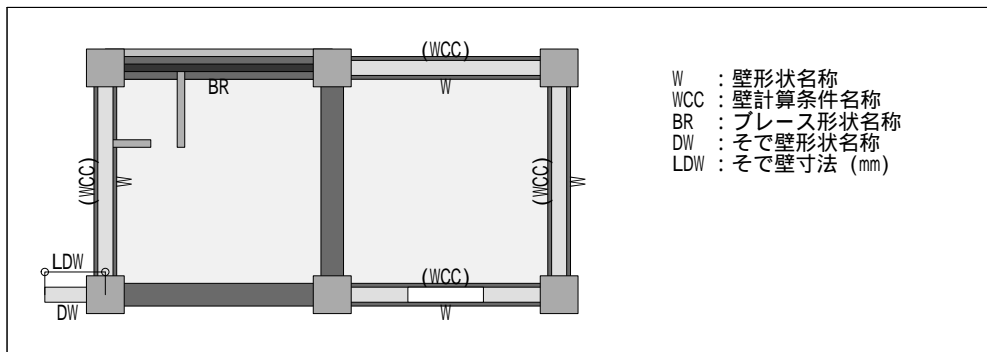
1F 層 (S=1/200)

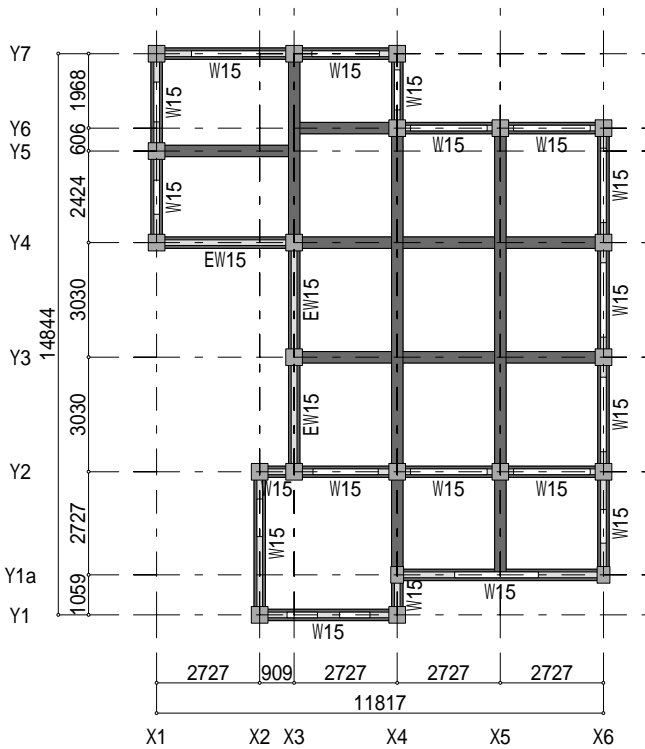
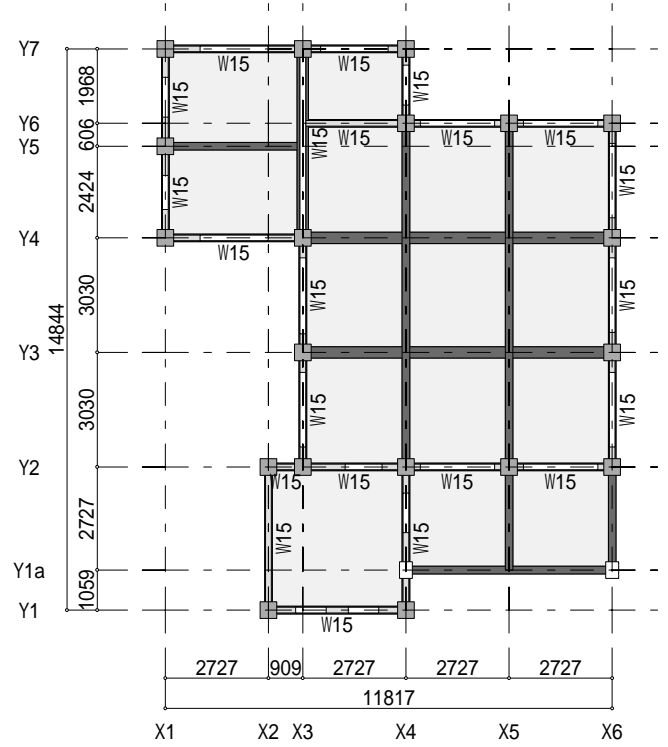
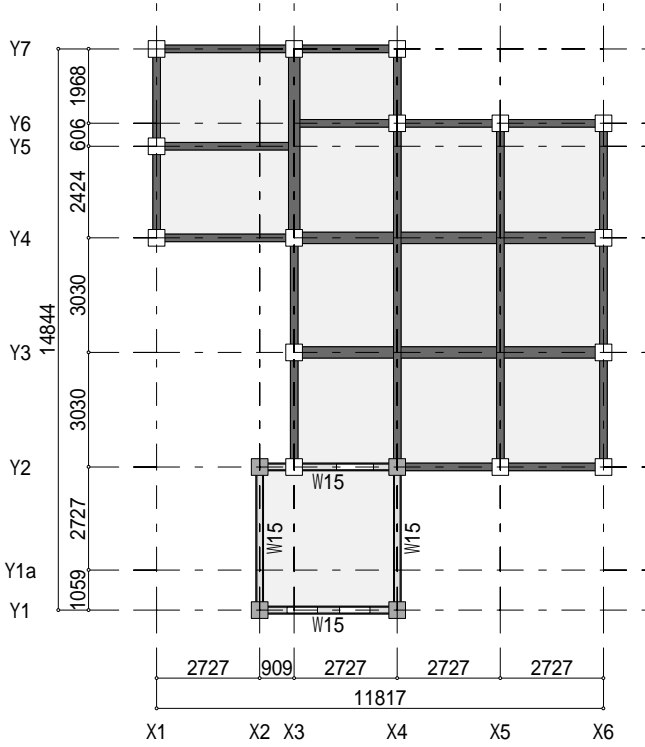
1.2.2 床スラブ・小ばり配置





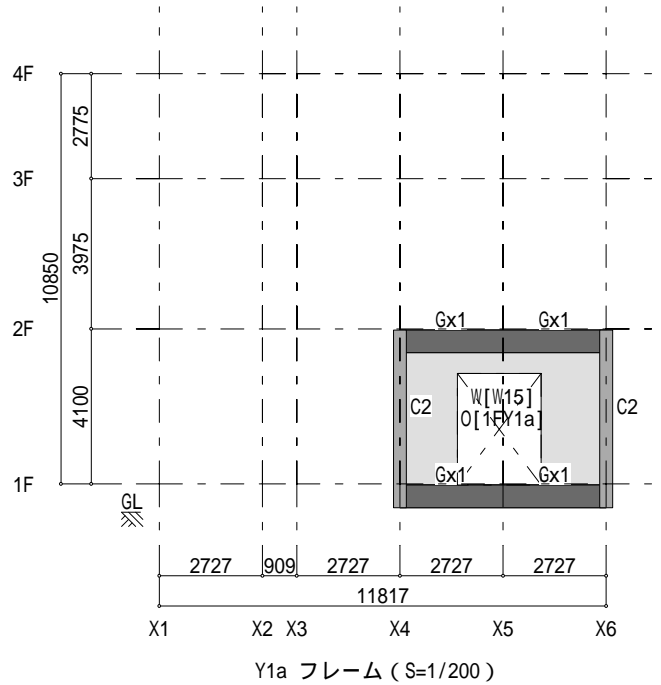
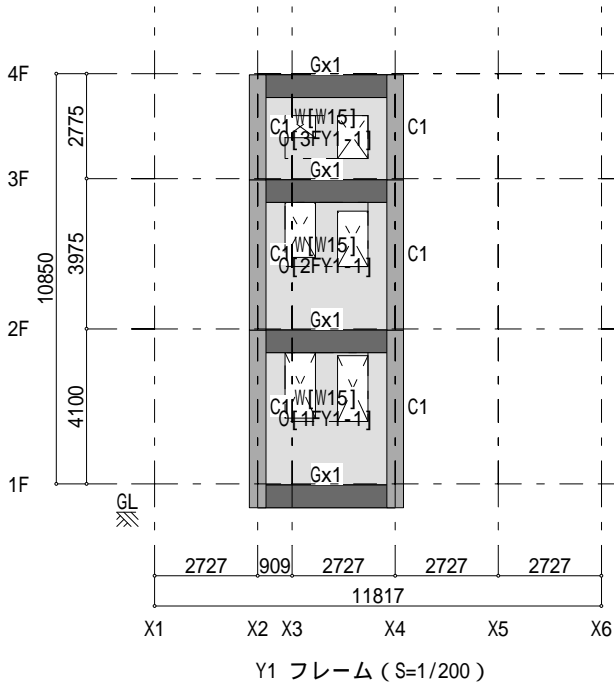
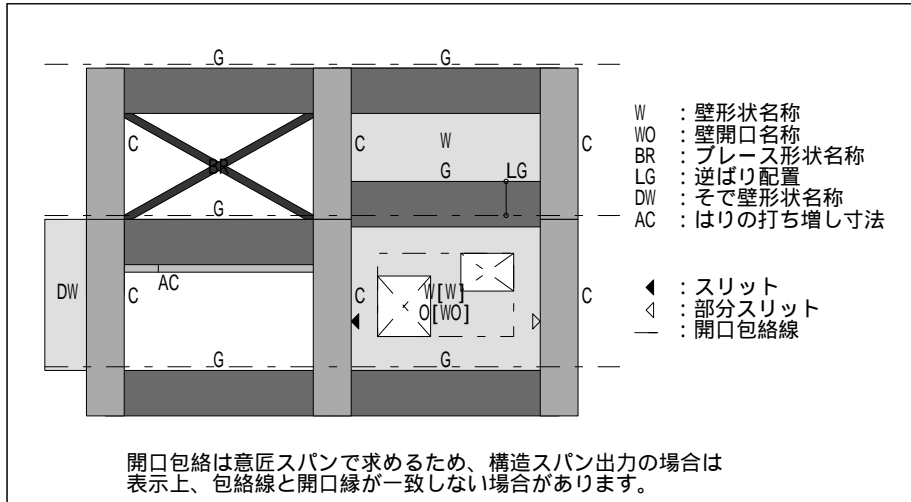
1.2.3 壁・ブレース・雑壁・壁計算条件配置

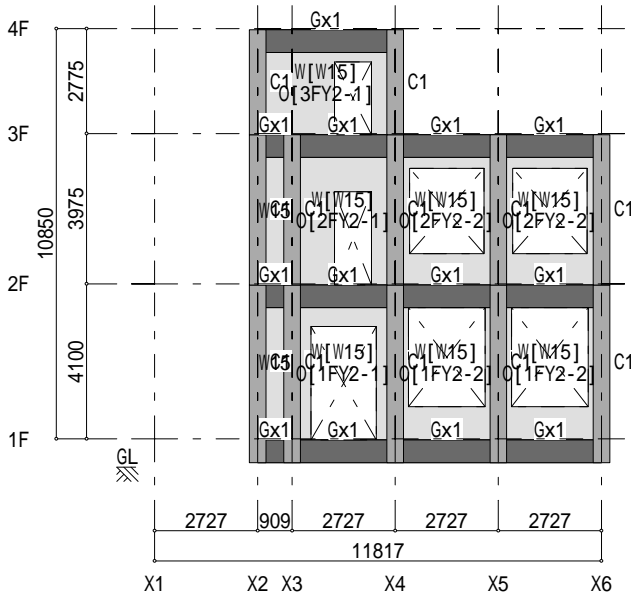




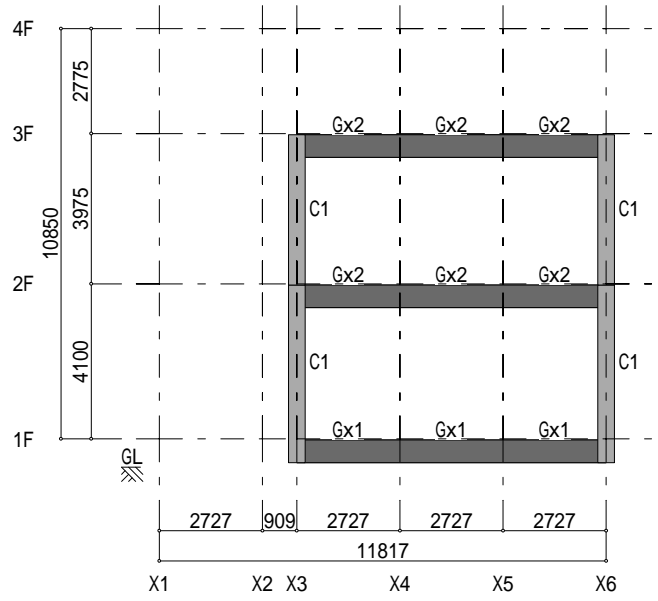
1.3 軸組図

1.3.1 壁開口配置

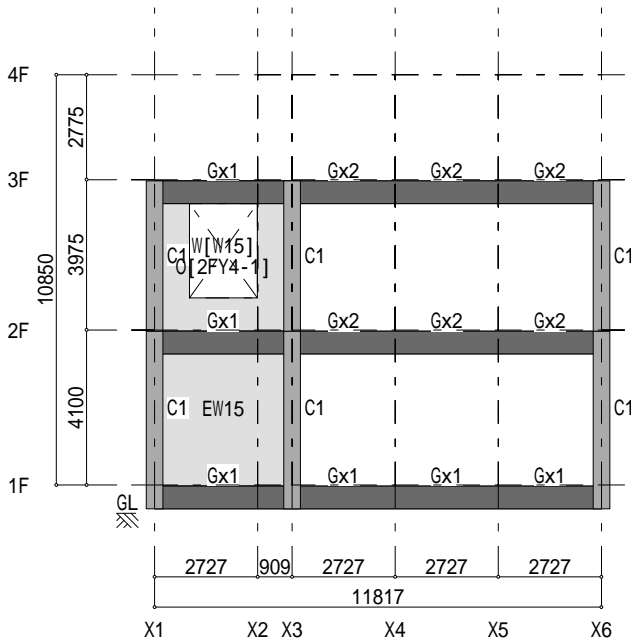




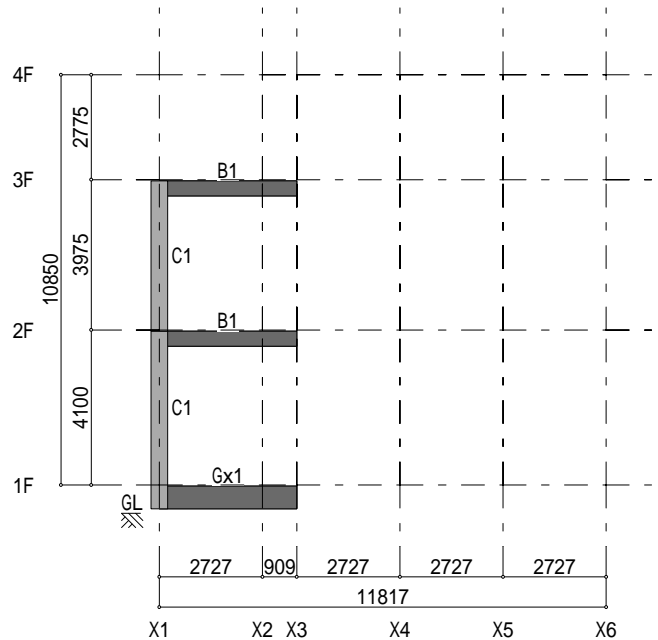
Y2 フレーム (S=1/200)



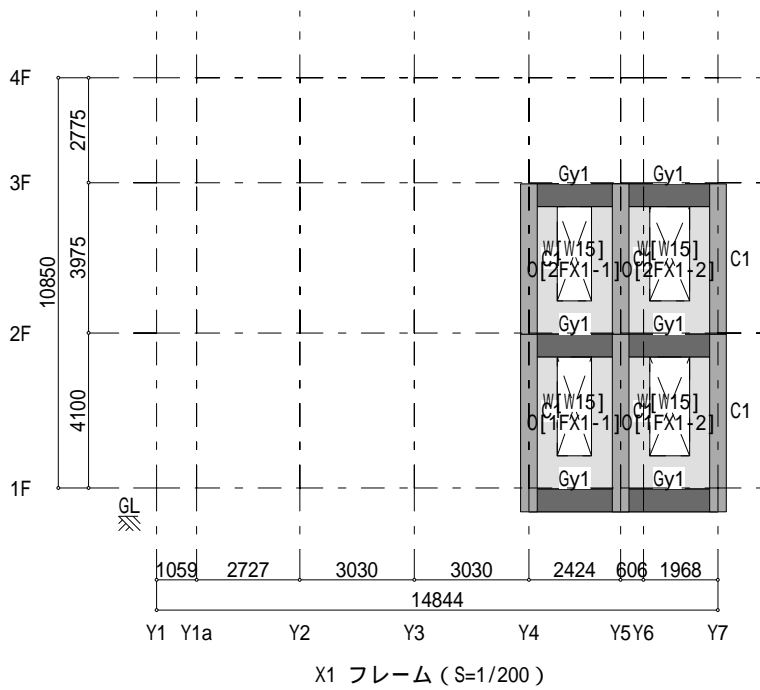
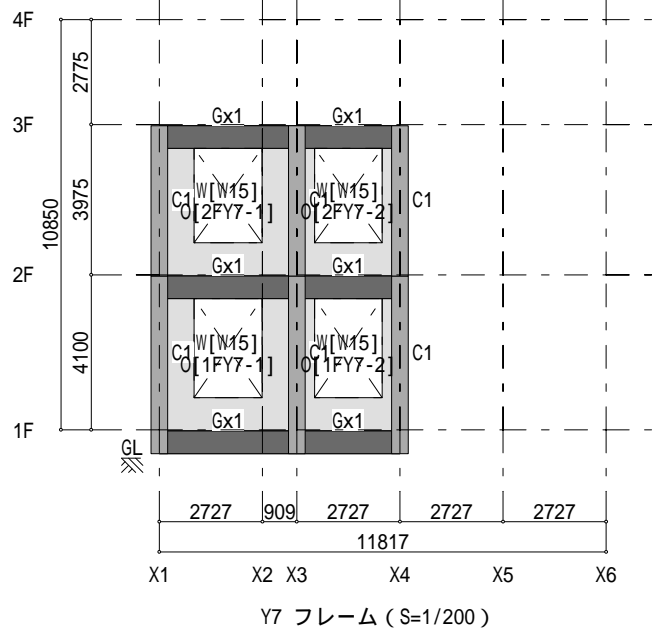
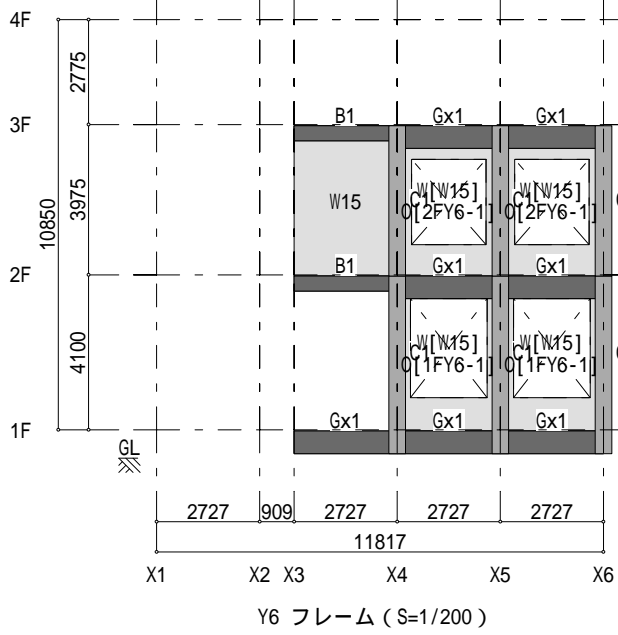
Y3 フレーム (S=1/200)

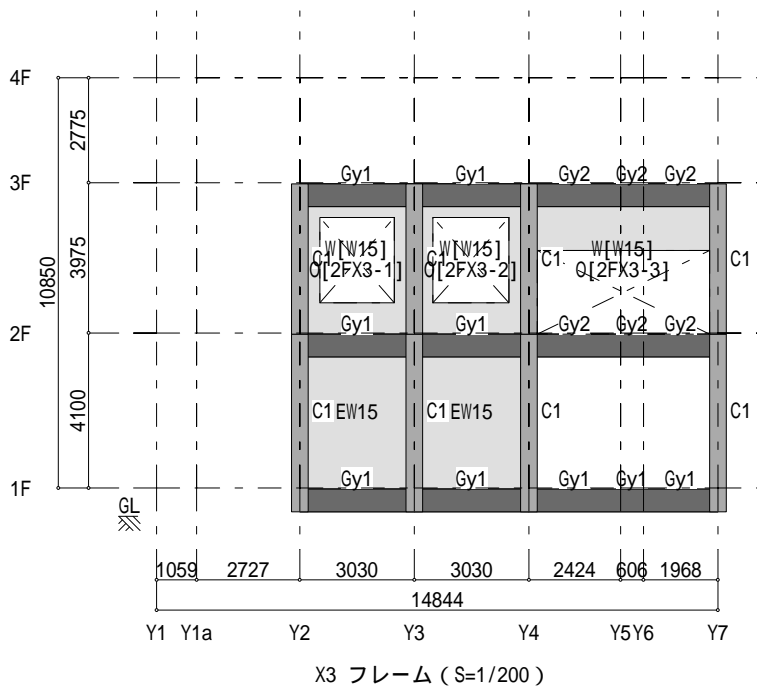
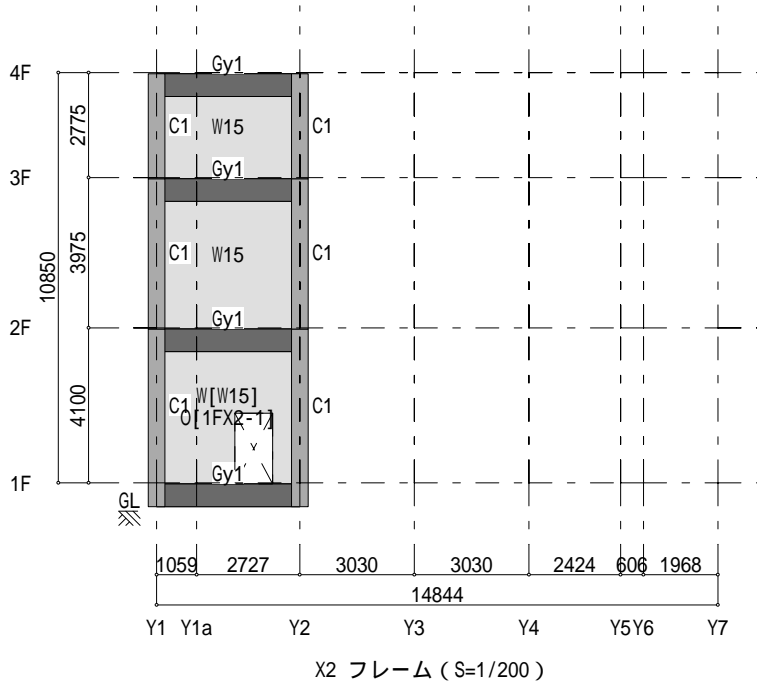


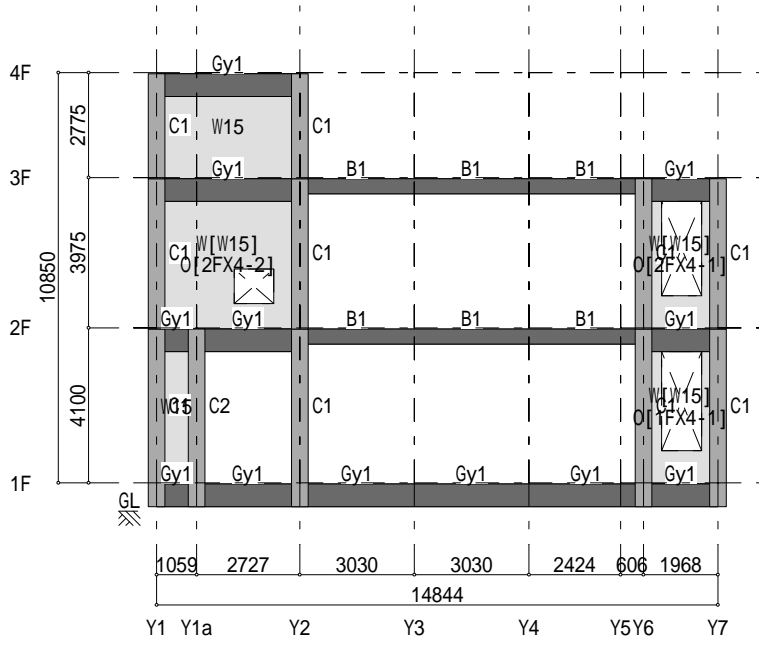
Y4 フレーム (S=1/200)



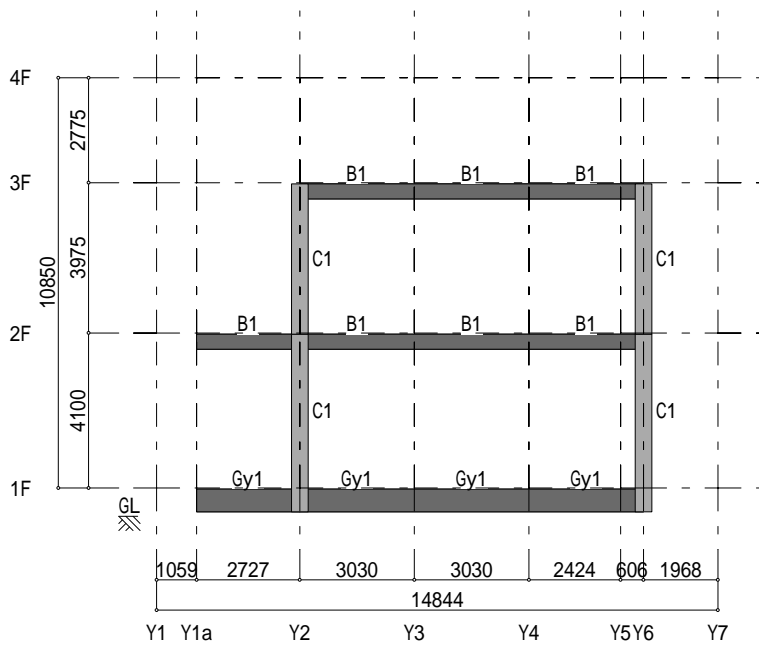
Y5 フレーム (S=1/200)



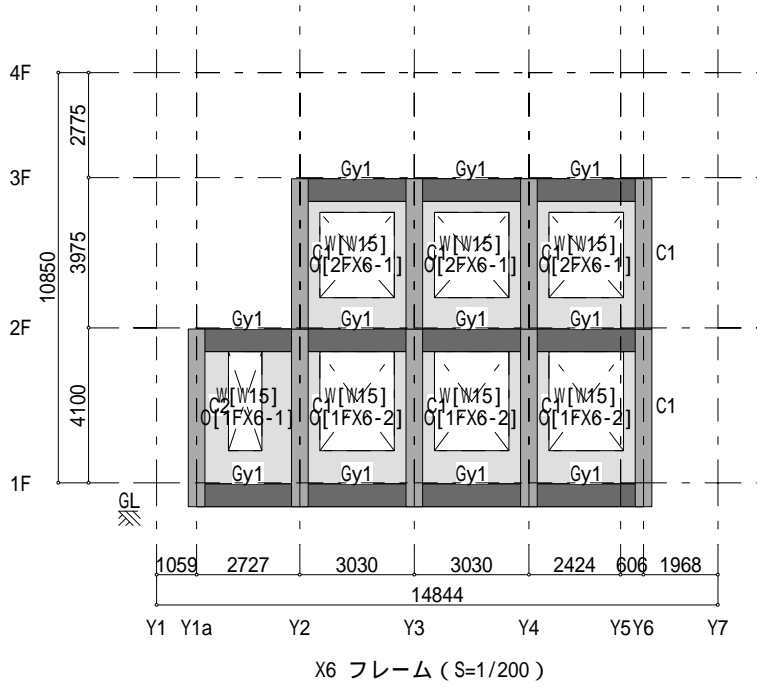




X4 フレーム (S=1/200)



X5 フレーム (S=1/200)



1.4 部材

1.4.1 はり

a-1) 鉄筋コンクリート、鉄骨鉄筋コンクリート造（鉄骨：充腹）

コンクリート材料が設定値の場合は、「2.1.2 コンクリート」を参照してください。

主筋種別、あばら筋種別、スラブ筋種別が設定値の場合は、「2.1.3 鉄筋」を参照してください。

鉄骨種別が設定値の場合は、「2.1.4 鉄骨」を参照してください。

符号	Gx1	Gx1	Gx2	Gx2	Gy1	Gy1	Gy2	Gy2
層	2F - 4F	1F	2F	3F	2F - 4F	1F	2F	3F
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面								
b x D (cm)	20 x 60	30 x 60	30 x 60	30 x 60	20 x 60	30 x 60	30 x 60	30 x 60
ハッチ長 (cm)	-	-	-	-	-	-	-	-
上端筋	1段筋 2-R19 2段筋 -	4-R25 -	4-R25 -	3-R19 -	2-R19 -	4-R25 -	4-R25 -	3-R19 -
下端筋	2段筋 - 1段筋 2-R19	- 4-R25	- 4-R25	- 3-R19	- 2-R19	- 4-R25	- 4-R25	- 3-R19
あばら筋 (mm)	2-R9@300	2-R9@300	2-R9@300	2-R9@300	2-R9@300	2-R9@300	2-R9@300	2-R9@300
鉄骨断面 (mm)	-	-	-	-	-	-	-	-
コンクリート材料	Fc15	Fc15	Fc15	Fc15	Fc15	Fc15	Fc15	Fc15
主筋種別	SR295	SR295	SR295	SR295	SR295	SR295	SR295	SR295
あばら筋種別	SR295	SR295	SR295	SR295	SR295	SR295	SR295	SR295
スラブ筋種別	SR295	SR295	SR295	SR295	SR295	SR295	SR295	SR295
鉄骨種別	フランジ ウェブ	-	-	-	-	-	-	-
コメント	-	-	-	-	-	-	-	-

符号	B1	
層	2F - 4F	
位置	全断面	
断面		
b x D (cm)	20 x 40	
ハチ長 (cm)	-	
上端筋	1段筋	2-R19
	2段筋	-
下端筋	2段筋	-
	1段筋	2-R19
あばら筋 (mm)	2-R9@300	
鉄骨断面 (mm)	-	
コンクリート材料	Fc15	
主筋種別	SR295	
あばら筋種別	SR295	
スラブ筋種別	SR295	
鉄骨種別	フランジ	-
	ウェブ	-
コメント	-	





1.4.2 柱

a-1) 鉄筋コンクリート、鉄骨鉄筋コンクリート造 (鉄骨：充腹)

コンクリート材料が設定値の場合は、「2.1.2 コンクリート」を参照してください。

主筋種別、帯筋種別、芯鉄筋種別が設定値の場合は、「2.1.3 鉄筋」を参照してください。

鉄骨種別が設定値の場合は、「2.1.4 鉄骨」を参照してください。

符号	C1		C1		C2		Dc1		
	1F - 1F		2F - 3F		1F - 1F		2F - 2F		
階	全断面		全断面		全断面		全断面		
位置	全断面		全断面		全断面		全断面		
方向	X方向	Y方向	X方向	Y方向	X方向	Y方向	X方向	Y方向	
断面									
D (cm)	44 x 44		44 x 44		34 x 44		15 x 15		
寄せ筋	-		-		-		-		
主筋	1段筋	3-R22	3-R22	3-R19	2-R19	3-R19	3-R19	2-R13	2-R13
	2段筋	-	-	-	-	-	-	-	-
帯筋 (mm)	2-R9@350	2-R9@350	2-R9@350	2-R9@350	2-R9@350	2-R9@350	2-R9@200	2-R9@200	
芯鉄筋	-	-	-	-	-	-	-	-	
鉄骨断面 (mm)	-		-		-		-		
コンクリート材料	Fc15		Fc15		Fc15		Fc15		
主筋種別	SR295		SR295		SR295		SR295		
帯筋種別	SR295		SR295		SR295		SR295		
芯鉄筋種別	-		-		-		-		
鉄骨種別	フランジ	-	-	-	-	-	-	-	
	ウェブ	-	-	-	-	-	-	-	
コメント	-		-		-		-		

1.4.4 壁

a) 壁厚さ・鉄筋番号

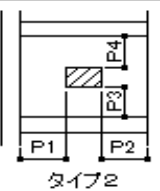
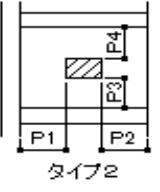
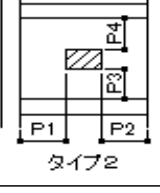
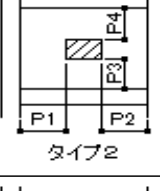
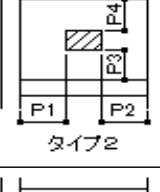

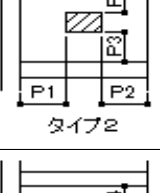
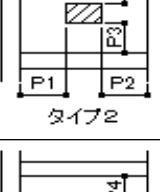

コンクリート材料が「設定値」の場合は、「2.1.2 コンクリート」を参照してください。

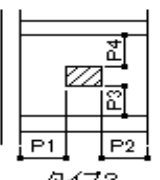
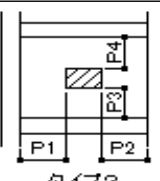
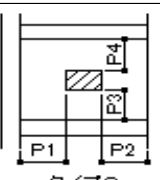
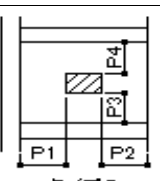
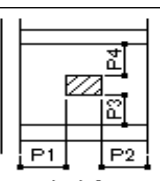
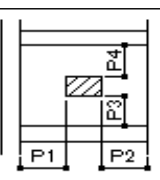
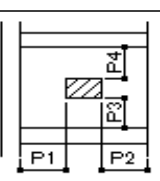
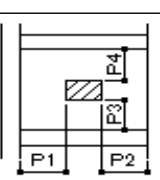
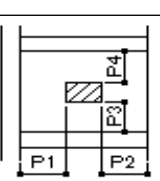
壁筋種別、開口部補強筋種別が「設定値」の場合は、「2.1.3 鉄筋」を参照してください。

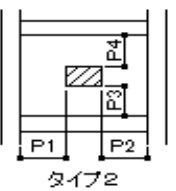
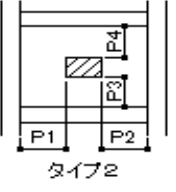
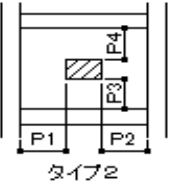
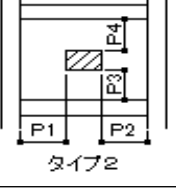
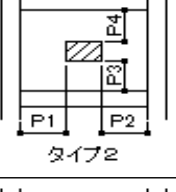
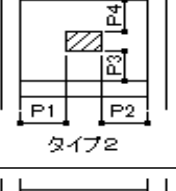
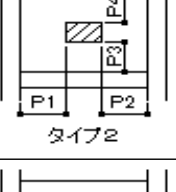

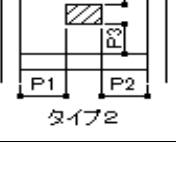
内蔵鉄骨種別が「設定値」の場合は、「2.1.4 鉄骨」を参照してください。

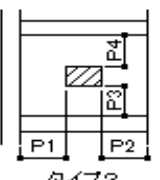
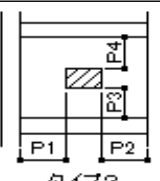
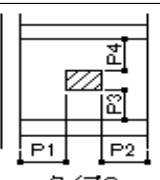
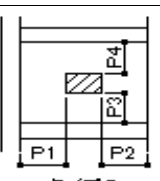
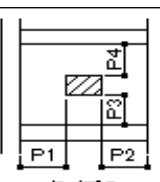
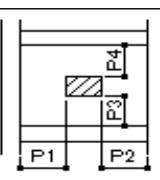
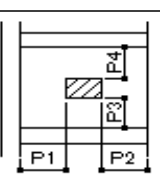
壁形状名称	壁厚 (cm)	壁鉄筋名称	コンクリート材料	壁筋種別	開口部補強筋種別	内蔵鉄骨種別	コメント
W15	15.0	1	Fc15	SR295	SR295	設定値	壁
EW15	15.0	1	Fc15	SR295	SR295	設定値	壁

b) 壁開口寸法

壁開口名称	開口包絡	壁開口パラメータ (cm)					
		タイプ	周比対象	P1	P2	P3	P4
1FX1-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)	 タイプ2	する	53.0	55.0	88.0	0.0
2FX1-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)	 タイプ2	する	53.0	55.0	88.0	0.0
1FX1-2	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)	 タイプ2	する	55.0	53.0	88.0	0.0
2FX1-2	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)	 タイプ2	する	55.0	53.0	88.0	0.0
1FX2-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)	 タイプ2	する	185.0	50.0	0.0	163.0
1FX3-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)	 タイプ2	する	31.0	95.0	0.0	123.0
2FX3-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)	 タイプ2	する	31.0	31.0	83.0	29.0
2FX3-2	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)	 タイプ2	する	27.0	31.0	83.0	29.0
2FX3-3	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)	 タイプ2	する	0.0	0.0	0.0	116.0

壁開口名称	開口包絡	壁開口パラメータ (cm)					
		タイプ	周比対象	P1	P2	P3	P4
1FX4-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	26.0	21.0	88.0	0.0
2FX4-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	26.0	21.0	88.0	0.0
2FX4-2	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	183.0	47.0	67.0	179.0
1FX6-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	62.0	78.0	88.0	0.0
2FX6-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	31.0	31.0	83.0	29.0
1FX6-2	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	31.0	31.0	88.0	0.0
1FY1-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	50.0	189.0	177.0	0.0
			する	189.0	50.0	168.0	8.0
2FY1-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	50.0	189.0	192.0	0.0

壁開口名称	開口包絡	壁開口パラメータ (cm)					
		タイプ	周比対象	P1	P2	P3	P4
2FY1-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	189.0	50.0	168.0	23.0
3FY1-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	50.0	189.0	111.0	48.0
			する	189.0	50.0	56.0	48.0
1FY1a	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	135.0	155.0	0.0	55.0
1FY2-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	28.0	28.0	0.0	50.0
2FY2-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	90.0	41.0	0.0	91.0
3FY2-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	181.0	41.0	0.0	25.0
1FY2-2	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	13.0	13.0	88.0	0.0
2FY2-2	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	16.0	16.0	83.0	29.0

壁開口名称	開口包絡	壁開口パラメータ (cm)					
		タイプ	周比対象	P1	P2	P3	P4
2FY4-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	70.0	70.0	88.0	0.0
1FY6-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	13.0	13.0	88.0	0.0
2FY6-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	16.0	16.0	83.0	29.0
1FY7-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	70.0	70.0	88.0	0.0
2FY7-1	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	70.0	70.0	88.0	0.0
1FY7-2	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	25.0	25.0	88.0	0.0
2FY7-2	45度で隅切りしない (開口を含む 最外縁で包絡)		する	25.0	25.0	88.0	0.0

c) 壁計算条件

- 壁重量の加算方法 : 1 = 地震力・柱軸力・はり荷重項に加算、2 = 地震力・柱軸力に加算、3 = 地震力のみに加算
 : 4 = 地震力・柱軸力・はり荷重項に加算しない
 : 11 = 地震力・柱軸力・はり荷重項に加算 (下層へ加算) 12 = 地震力と柱軸力に加算 (下層へ加算)
 : 21 = 地震力・柱軸力・はり荷重項に加算 (上層へ加算) 22 = 地震力と柱軸力に加算 (上層へ加算)
 : 31 = 地震力に加算、最下層のはり荷重項に加算
 : 32 = 地震力にのみ加算、基礎計算用軸力に加算しない

壁計算条件名称	仕上(材)名称 / 仕上重量 (N/m ²)	開口部の重量 (N/m ²)	重量加算方法	剛性低下倍率	開口周比	束壁の場合の n 値
W15	壁仕上げ	500	1	1.00	開口を包絡した面積から自動計算	自動

壁計算条件の配置が行われていない壁に対しては、以下の省略値が設定されているとして計算します。

仕上重量 (N/m ²)	開口部の重量 (N/m ²)	重量加算方法	剛性低下倍率	開口周比	束壁の場合の n 値
800	400	1	1.0	開口を包絡した面積から自動計算	自動

1.4.6 壁鉄筋名称

名称	縦筋				横筋				開口補強筋			内蔵鉄骨	
	D1	D2	配筋種別	ピッチ (cm)	D1	D2	配筋種別	ピッチ (cm)	縦筋	横筋	斜筋	タイプ	A, t
1	R9		シングル	@20.0	R9		シングル	@20.0	2-R9	2-R9	2-R9	-----	-----

1.4.8 床スラブ・床構造

b) スラブ形状

コンクリート材料が設定値の場合は、「2.1.2 コンクリート」を参照してください。

t : スラブ厚 (S造の場合は、デッキプレートの山上のスラブ厚)

Td : はりフランジ上端からデッキプレート山上端までの距離 (S造はりの合成ばりとしての剛性の計算に用いる高さ)

名称	t (cm)	Td (cm)	積載荷重 番号	仕上名称(材) /床仕上重量 (N/m ²)	荷重伝達 タイプ	積雪荷重	コンクリート 材料	コメント
S11	12.0	0.0	6	床-屋内	両方向板	無	Fc15	屋内一般スラブ
S12	12.0	0.0	10	床-屋内	両方向板	無	Fc15	屋内書庫スラブ
S21	12.0	0.0	8	床-屋根	両方向板	有	Fc15	屋根スラブ
SS	12.0	0.0	6	3000	両方向板	無	Fc15	階段スラブ

§2. 使用材料、材料の許容応力度

2.1 既設部使用材料

2.1.2 コンクリート

層名	構造種別	コンクリート材料名称						
		はり	柱	壁	床	小ばり	片持ばり	片持ちスラブ 出隅片持スラブ
1F-4F	RC	Fc21	Fc21	Fc21	Fc21	Fc21	Fc21	Fc21

2.1.3 鉄筋

両方向はり

層名	太物1	最小1	太物2	最小2	細物	スラブ
1F-4F	SR295	28	SR295	28	SR295	SR295

両方向柱

層名1	層名2	太物1	最小1	太物2	最小2	細物
1F	4F	SR295	28	SR295	28	SR295

2.2 補強部使用材料

2.2.2 鉄筋

a) 層別

両方向はり

層名	太物1	最小1	太物2	最小2	細物	スラブ
1F-4F	SR295	28	SR295	28	SR295	SR295

両方向柱

層名1	層名2	太物1	最小1	太物2	最小2	細物
1F	4F	SR295	28	SR295	28	SR295

2.3 材料定数

材料定数

材 料	コンクリート 材料名称	コンクリート 種別	設計基準 強度 (N/mm ²)	単位体積 重量 (kN/m ³)	ヤング係数 (N/mm ²)	せん断弾性 係数 (N/mm ²)	ポアソン比	線膨張係数 (1/)
コンクリート	Fc15	普通	15.00	24.00	19382	8076	0.2	1x10 ⁻⁵
	Fc21	普通	21.00	24.00	21682	9034	0.2	1x10 ⁻⁵
鉄筋					205000	79000	-	1x10 ⁻⁵
鉄骨				77.00	205000	79000	0.3	12.0x10 ⁻⁶

[コンクリートの場合の「単位体積重量」は、鉄筋コンクリート、または鉄骨鉄筋コンクリートの単位体積重量とする]

2.4 材料許容応力度

2.4.1 コンクリート (N/mm²)

コンクリート 材料名称	種 別	設計基準 強度 (Fc)	長期許容応力度			短期許容応力度			材 料 強 度		
			圧縮	引張	せん断	圧縮	引張	せん断	圧縮	引張	せん断
Fc21	普通	21.0	7.0	0.0	0.70	14.0	0.0	1.05	21.0	0.0	2.10
Fc15	普通	15.0	5.0	0.0	0.50	10.0	0.0	0.75	15.0	0.0	1.50

2.5 鋼材の降伏点強度の指定および引張破断強度

a) 既存材料 (降伏点強度) (N/mm²)

鉄筋

材 質	降伏点強度			材 質	降伏点強度			材 質	降伏点強度		
	引張、圧縮、曲げ	せん断	せん断		引張、圧縮、曲げ	せん断	せん断		引張、圧縮、曲げ	せん断	せん断
SD235	235.00	235.00	SD295	294.00	294.00	SD345	345.00	345.00			
SD390	390.00	390.00	SD490	490.00	490.00						
SR235	235.00	235.00	SR295	294.00	294.00						

鉄骨

材 質	降伏点強度		材 質	降伏点強度		材 質	降伏点強度	
	引張、圧縮、曲げ	せん断		引張、圧縮、曲げ	せん断		引張、圧縮、曲げ	せん断
SS400	235.00	235.00	SS490	325.00	325.00	SRC山形鋼	---	---
SM400	235.00	235.00	SM490	325.00	325.00	SM520	---	---
SN400	---	---	SN490	---	---			
SNR400	---	---	SNR490	---	---			
STK400	---	---	STK490	---	---			
STKR400	---	---	STKR490	---	---			

b)既存材料（破断強度）（N/mm2）

鉄筋

材 質	破断強度	材 質	破断強度	材 質	破断強度
SD235	400.00	SD295	400.00	SD345	---
SD390	---	SD490	---		

材 質	破断強度	材 質	破断強度	材 質	破断強度
SR235	---	SR295	---		

鉄骨

材 質	破断強度	材 質	破断強度	材 質	破断強度
SS400	---	SS490	---	SRC山形鋼	---
SM400	---	SM490	---	SM520	---
SN400	---	SN490	---		

材 質	破断強度	材 質	破断強度	材 質	破断強度
SNR400	---	SNR490	---		
STK400	---	STK490	---		
STKR400	---	STKR490	---		

c)補強材料（降伏点強度）（N/mm2）

鉄筋

材 質	降伏点強度		材 質	降伏点強度		材 質	降伏点強度	
	引張、圧縮、曲げ	せん断		引張、圧縮、曲げ	せん断		引張、圧縮、曲げ	せん断
SD235	---	---	SD295	---	---	SD345	---	---
SD390	---	---	SD490	---	---			
SR235	---	---	SR295	---	---			

鉄骨

材 質	降伏点強度		材 質	降伏点強度		材 質	降伏点強度	
	引張、圧縮、曲げ	せん断		引張、圧縮、曲げ	せん断		引張、圧縮、曲げ	せん断
SS400	---	---	SS490	---	---	SRC山形鋼	---	---
SM400	---	---	SM490	---	---	SM520	---	---
SN400	---	---	SN490	---	---			
SNR400	---	---	SNR490	---	---			
STK400	---	---	STK490	---	---			
STKR400	---	---	STKR490	---	---			
BCR295	---	---						
BCP235	---	---	BCP325	---	---	BCP325T	---	---
SUS304A	---	---	SUS316A	---	---	SUS304N2A	---	---

§3. 荷重・外力

3.1 荷重計算条件

3.1.1 最小スラブ厚 (自動計算)

層名	スラブ厚 (cm)
4F	12.00
3F	12.00
2F	12.00
1F	8.00

3.1.2 スラブ重量の拾い方

外周部のスラブの拾い R C、S R C造ははり面まで、S造は構造心まで拾います
 パラペット重量 0.00 (N/m)

3.1.3 基礎荷重

a) 基礎形式・基礎重量計算条件

基礎形式 基礎配置による L1=0.0 L2=0.0 L3=0.0 L4=0.0 (cm)

基礎重量の比率 0.00 (浮上り計算時に考慮される基礎重量の長期基礎計算用軸力に対する比率)

最下層重量の拾い 行う (最下層はり荷重項を節点重量に加算します)

基礎重量の上部構造への考慮 基礎重量の計算を行わない (基礎位置の浮き上がり抵抗重量や節点重量として考慮しない)

基礎下端レベル(GL-) (mm)	-600
基礎下端から土上端までの距離 (mm)	
杭基礎、独立フーチング基礎、布基礎、べた基礎	-600
片持べた基礎、出隅片持べた基礎	-600

基礎重量計算方法	自動計算 (基礎せい、基礎下端レベル、基礎下端から土上端までの距離から基礎自重と土被り重量を各々の単位体積重量に基づき計算し、合算したものを基礎重量とします)
基礎柱・基礎ばり重複分の控除	自動 (最下層重量の拾いが「行う」、または形式が「基礎配置による」であるときは、上部構造の計算において既に基礎柱・基礎ばりの重量が拾われ、基礎計算用軸力に加算されているため「控除する」、それ以外では「控除しない」。なお、べた基礎の重量に対しては本項目の指定によらず、基礎柱・基礎ばり分の重量は控除されません)
基礎の単位体積重量 (kN/m3)	「1-2.2 材料定数」参照
土の単位体積重量 (kN/m3)	20.00

3.2 積載荷重

積載荷重 (N/m2)

番号	スラブ用	小ばり用	ラーメン用	地震用	用途
1	---	---	1300	600	居住室、病室、寝室
2	---	---	1800	800	事務室
3	---	---	2100	1100	教室
4	---	---	2400	1300	百貨店・店舗の売り場
5	---	---	2600	1600	集会室(固定席)
6	---	---	3200	2100	集会室(その他)
7	---	---	3900	2000	車庫、自動車道路
8	---	---	600	400	非歩行屋上(文科省指針)
9	---	---	300	200	S造非歩行屋根(文科省指針)
10	---	---	6900	4900	一般書庫

耐震診断では、スラブ用積載荷重、小ばり用積載荷重は用いません。

3.3 仕上

3.3.1 仕上材名称

名称	使用部位	単位	単位重量	コメント
梁仕上げ	はり	N/m2	750.00	モルタル30mm+漆喰
柱仕上げ	柱	N/m2	750.00	モルタル30mm+漆喰
壁仕上げ	壁	N/m2	1500.00	モルタル両面+仕上げ
床-屋内	床	N/m2	1000.00	モルタル30mm
床-屋根	床	N/m2	2500.00	モルタル100mm

3.4 重量

3.4.1 はり、柱仕上重量 (N/m²)

層名	はり	柱
4F	750	---
3F	750	750
2F	750	750
1F	750	750

3.5 地震力

a) 地震時層せん断力算定の諸数値 (* : 直接入力)

地盤種別	第2種地盤	
地域係数	Z = 1.000	
用途係数	U = 1.000	
塔屋の震度	K = 1.000	
	X方向	Y方向
標準せん断力係数	Co = 0.200	Co = 0.200
1次固有周期(秒)	T = 0.232 (h(0.02+0.01) による)	T = 0.232 (h(0.02+0.01) による)
振動特性係数	Rt = 1.000	Rt = 1.000
自動計算時の最小せん断力係数	Ci = 0.200	Ci = 0.200

3.6 積雪荷重

積雪荷重の扱い方 多雪区域以外(短期荷重として扱う)

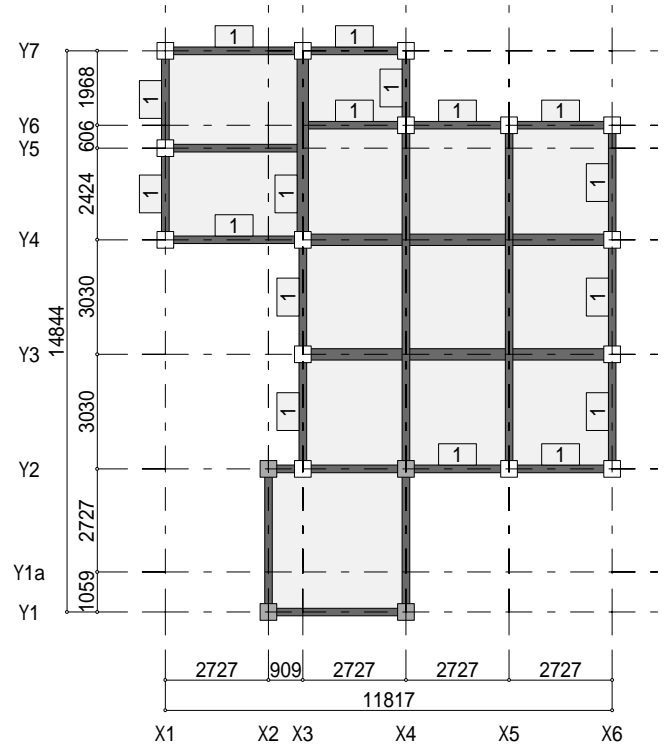
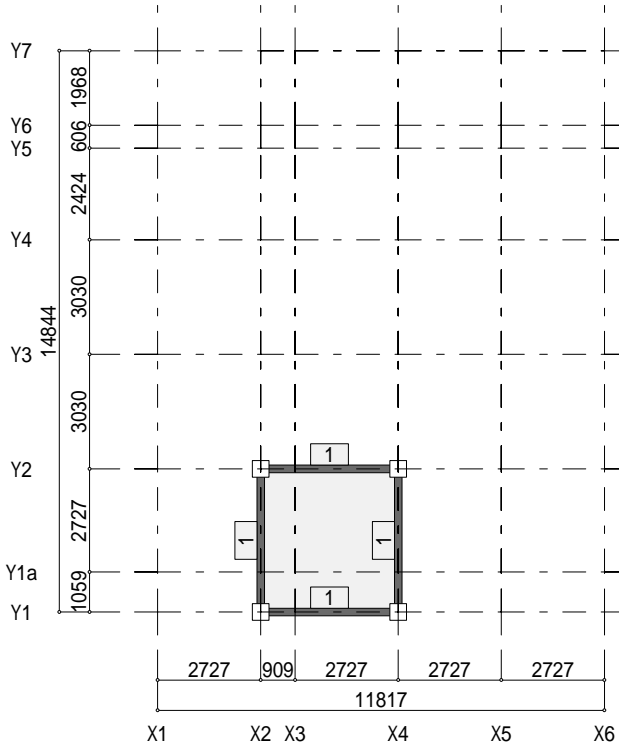
積雪の単位重量	20.0 N/m ² /cm
垂直最深積雪量	20.0 cm
積雪に乗ずる係数	短期荷重として扱うため考慮されない
屋根勾配	自動計算
割増係数	自動計算
特定行政庁で定める規則	-

3.7 特殊荷重

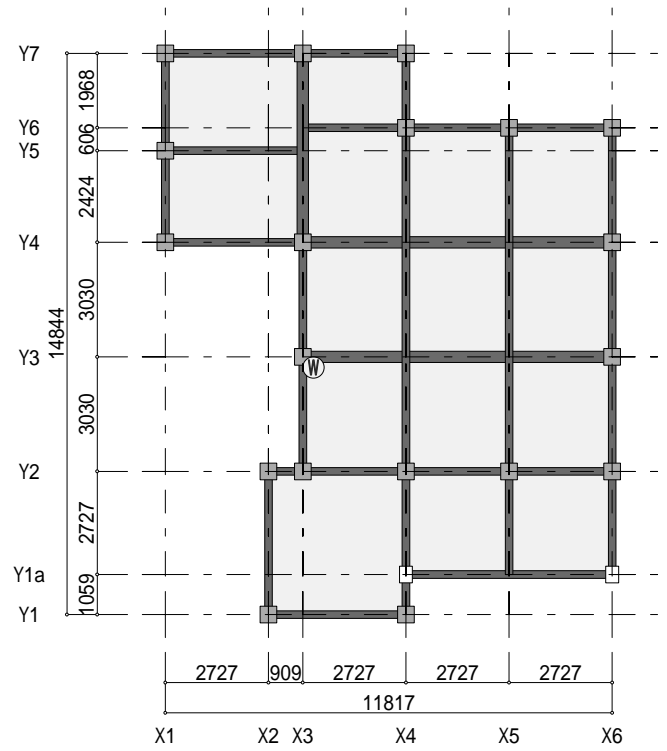
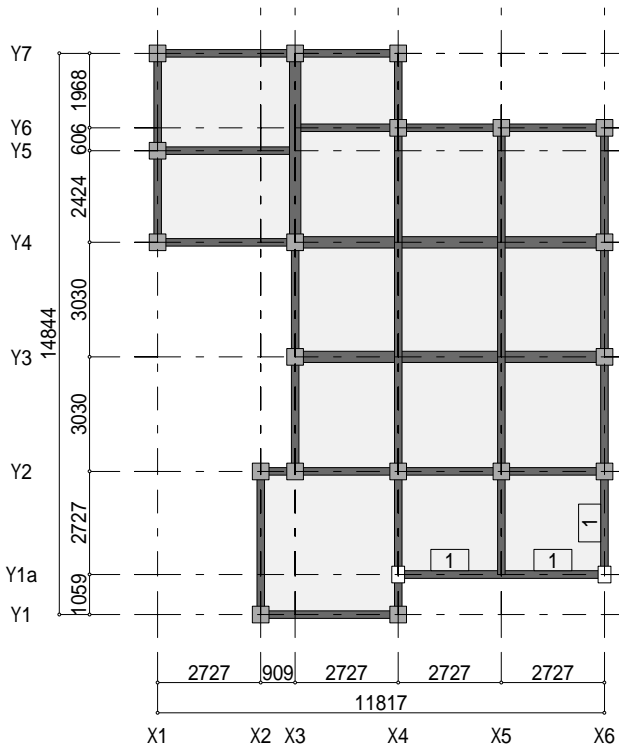
3.7.1 特殊荷重配置図

- ☐ : 特殊はり荷重、特殊柱荷重
- Ⓢ : 特殊スラブ荷重
- Ⓝ : 特殊節点荷重
- Ⓚ : 特殊節点荷重(杭の施工誤差偏心モーメント)
- Ⓜ : 追加荷重、任意点追加荷重
- No : 特殊小はり荷重

・特殊はり・柱荷重



・特殊スラブ荷重・特殊小はり荷重・追加重量・特殊節点荷重



a) 特殊はり荷重番号 (パラメータ指定による)

- 荷重ケース : 1 = 鉛直 2 = 雪
 3 = X方向地震 4 = Y方向地震
 5 = X方向風 6 = Y方向風
 11 = 鉛直 (基礎ばり荷重) 12 = 雪 (基礎ばり荷重)
 13 = X方向地震 (基礎ばり荷重) 14 = Y方向地震 (基礎ばり荷重)
 15 = X方向風 (基礎ばり荷重) 16 = Y方向風 (基礎ばり荷重)

正負加力の別 : 0 = 正負加力、1 = 正加力、2 = 負加力

荷重作用方向 : 1 = 基準座標系、2 = 部材座標系

TL : LL+DL

LL : ラーメン用積載荷重

LLE : 地震用積載荷重

DL : 固定荷重

タイプ	荷重形	タイプ	荷重形	タイプ	荷重形
1		13		40	
2		14		41	
3		30-32		42	
10		50		51	
11					
12					

表中の単位は、力、モーメントおよび分布荷重を表します。長さの単位はmです。

長さ (部材長方向) のパラメータを負値で入力した場合は、はりの長さを1とした比になります。

番号	荷重ケース	正負加力の別	荷重作用方向	LL/TL	LLE/LL	荷重形タイプ	はり長さ (m)	荷重形パラメータ				コメント
								P1	P2	P3	P4	
1	1	0	1	0.00	0.00	10	自動	6.50 kN/m	0.00 ---	0.00 ---	0.00 ---	パラベット1.3m

c) 特殊はり荷重配置

層名	ルーム名	軸名	はり長さ (m)	荷重番号	コメント
4F	Y1	X2	3.64	1	パラベット1.3m
	Y2	X2	3.64	1	パラベット1.3m
	X2	Y1	3.79	1	パラベット1.3m
	X4	Y1	3.79	1	パラベット1.3m
3F	Y2	X4	2.73	1	パラベット1.3m
		X5	2.73	1	パラベット1.3m
	Y4	X1	3.64	1	パラベット1.3m
		X3	2.73	1	パラベット1.3m
	Y6	X4	2.73	1	パラベット1.3m
		X5	2.73	1	パラベット1.3m
	Y7	X1	3.64	1	パラベット1.3m
		X3	2.73	1	パラベット1.3m
	X1	Y4	2.42	1	パラベット1.3m
		Y5	2.57	1	パラベット1.3m
	X3	Y2	3.03	1	パラベット1.3m
		Y3	3.03	1	パラベット1.3m
Y4		2.42	1	パラベット1.3m	
X4	Y6	1.97	1	パラベット1.3m	

層名	ルーム名	軸名	はり長さ(m)	荷重番号	コメント
3F	X6	Y2	3.03	1	パラペット1.3m
		Y3	3.03	1	パラペット1.3m
		Y4	3.03	1	パラペット1.3m
2F	Y1a	X4	2.73	1	パラペット1.3m
		X5	2.73	1	パラペット1.3m
	X6	Y1a	2.73	1	パラペット1.3m

[*]: 荷重番号で入力されたはり長さ

3.7.6 追加重量

a) 追加重量 (柱位置)

- 柱軸力加算 : 0=柱軸力に加算しない(地震用重量のみ加算)、基礎計算用軸力に加算する
 : 1=柱軸力・基礎計算用軸力共に加算する
 : 2=柱軸力・基礎計算用軸力に加算しない(地震用重量のみ加算)

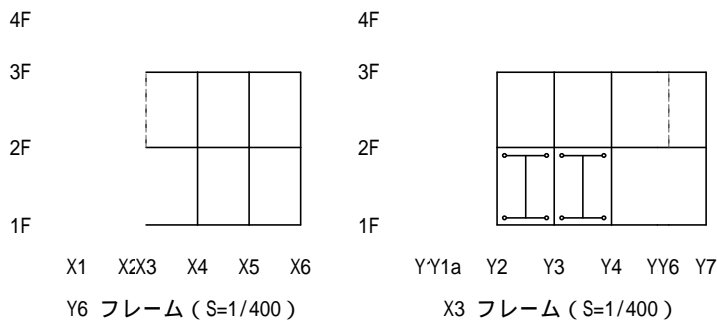
層名	ルーム名	軸名	固定荷重 WDL (kN)	積雪荷重 WS (kN)	積載荷重		柱軸力	コメント
					(ラーメン用) WLLF (kN)	(地震用) WLE (kN)		
2F	Y3	X3	0.0	0.0	0.0	738.1	2	

§4. モデル化

4.1 モデル化条件

共通	地震力・風圧力の作用方向 (基準軸との角度)	X方向	0.00 °	
		Y方向	90.00 °	
	部材中間節点		生成する	
	ねじり剛性の考慮		考慮しない	
	鉄骨部材のせん断変形の考慮		せん断変形を考慮する	
耐力壁	RC、SRC造はり打ち増しの重量・剛性の考慮		重量・剛性に考慮する	
	壁置換計算方法		自動計算 (耐震壁は壁エレメント置換します)	
	耐力壁等のモデル化		耐震診断基準による	
	擬似立体解析の壁エレメント置換のモデル化		付帯柱と壁板を一体とした部材としてモデル化	
	耐力壁モデル化用耐力壁上下はりせいの比		2.0	
	はりに接すると判断する壁の最大長さ		15.0 (cm)	
	壁付帯ばりの剛性増大率	鉛直荷重時	100.0 倍	
	水平荷重時	自動計算		
開口壁	そで壁、たれ壁、腰壁の I	許容計算	実断面からそのまま I を計算	
		保有計算	実断面からそのまま I を計算	
	計算に考慮するそで壁、垂れ壁、腰壁の最小長さ		10.0 (cm)	
	スリット付壁による剛性増大率		事務所協会式	
開口包絡方法			45度で隅切りしない(開口を含む最外縁で包絡)	
	スラブ剛性	スラブによる はり曲げ剛性増大率	片側スラブ	自動計算
			両側スラブ	自動計算
	S造はりの完全合成ばりとしての扱い		合成ばりとして計算しない	
剛域剛性	RC/SRC造剛域長さの取り方		はり・柱せいの0.25倍引いたもの	
	仕口部のモデル化	RC、SRC造	剛域を設ける	
		S造	剛域を設けない	
	剛域がある場合の柱軸剛性の取り方		節点間距離	
	RC、SRC造はり・柱部材剛性増大率の鉄筋考慮		鉄筋を考慮しない	

4.4 ダミー部材

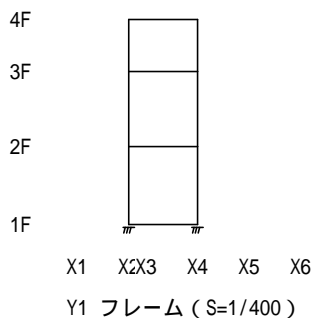


§5. 支点条件

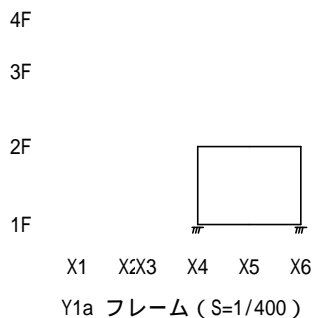
5.1 支点条件 (鉛直・水平)

5.1.1 基礎の鉛直・回転、水平方向バネ配置図

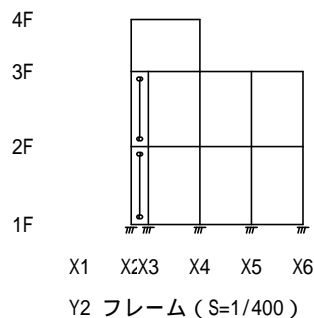
鉛直



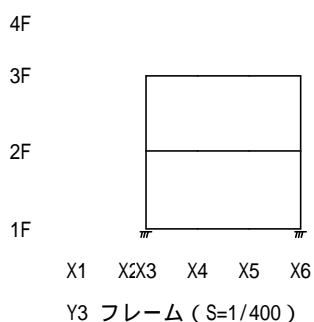
鉛直



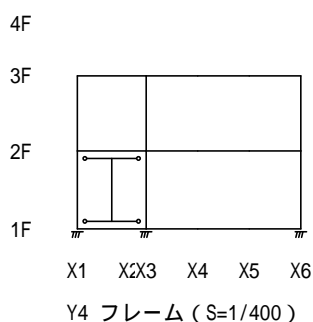
鉛直



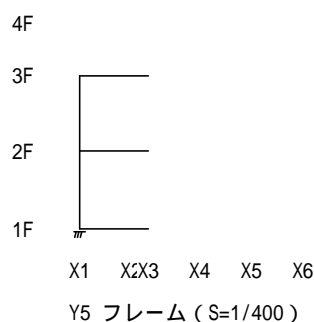
鉛直



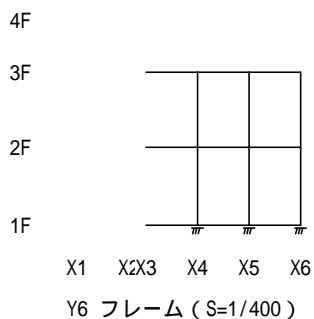
鉛直



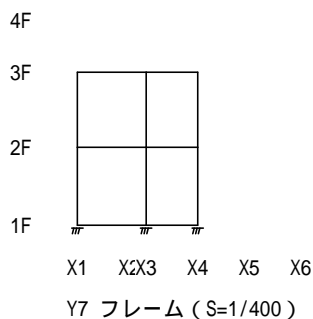
鉛直



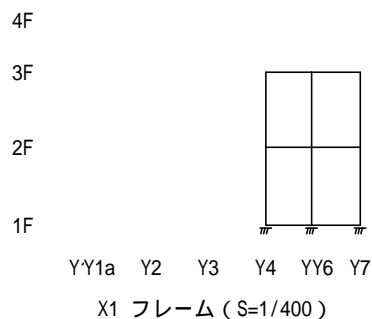
鉛直



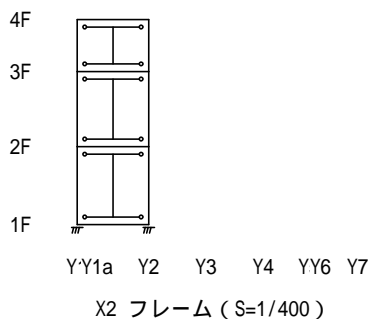
鉛直



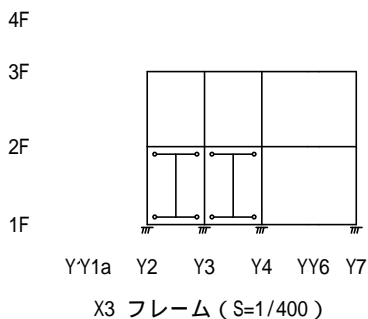
鉛直



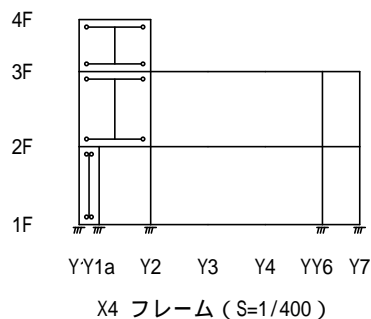
鉛直



鉛直



鉛直



鉛直

4F

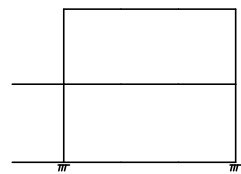
3F

2F

1F

YY1a Y2 Y3 Y4 YY6 Y7

X5 フレーム (S=1/400)



鉛直

4F

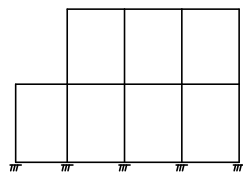
3F

2F

1F

YY1a Y2 Y3 Y4 YY6 Y7

X6 フレーム (S=1/400)



水平

4F

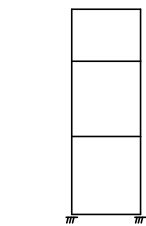
3F

2F

1F

X1 X2X3 X4 X5 X6

Y1 フレーム (S=1/400)



水平

4F

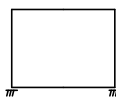
3F

2F

1F

X1 X2X3 X4 X5 X6

Y1a フレーム (S=1/400)



水平

4F

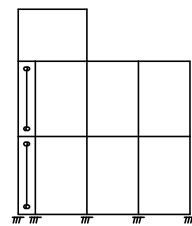
3F

2F

1F

X1 X2X3 X4 X5 X6

Y2 フレーム (S=1/400)



水平

4F

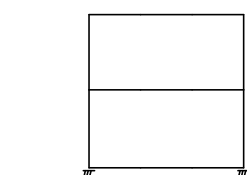
3F

2F

1F

X1 X2X3 X4 X5 X6

Y3 フレーム (S=1/400)



水平

4F

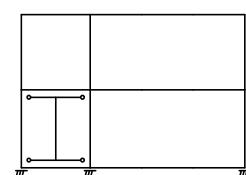
3F

2F

1F

X1 X2X3 X4 X5 X6

Y4 フレーム (S=1/400)



水平

4F

3F

2F

1F

X1 X2X3 X4 X5 X6

Y5 フレーム (S=1/400)



水平

4F

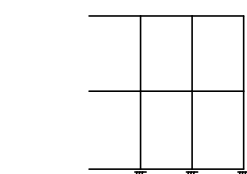
3F

2F

1F

X1 X2X3 X4 X5 X6

Y6 フレーム (S=1/400)



水平

4F

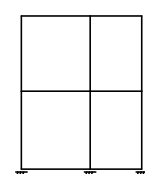
3F

2F

1F

X1 X2X3 X4 X5 X6

Y7 フレーム (S=1/400)



水平

4F

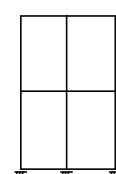
3F

2F

1F

YY1a Y2 Y3 Y4 YY6 Y7

X1 フレーム (S=1/400)



水平

4F

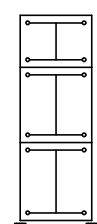
3F

2F

1F

YY1a Y2 Y3 Y4 YY6 Y7

X2 フレーム (S=1/400)



水平

4F

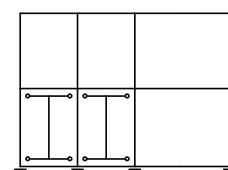
3F

2F

1F

YY1a Y2 Y3 Y4 YY6 Y7

X3 フレーム (S=1/400)



水平

4F

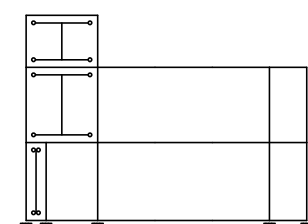
3F

2F

1F

YY1a Y2 Y3 Y4 YY6 Y7

X4 フレーム (S=1/400)



水平

水平

4F

4F

3F

3F

2F

2F

1F

1F

YY1a Y2 Y3 Y4 YY6 Y7

YY1a Y2 Y3 Y4 YY6 Y7

X5 フレーム (S=1/400)

X6 フレーム (S=1/400)

5.1.2 基礎の上下方向・回転方向半剛支点

フレーム名	層名	軸名	上下方向バネ		回転方向バネ (kN・m/rad)
			鉛直荷重時 (kN/cm)	水平荷重時 (kN/cm)	
Y1	1F	X2	固定	固定	固定
		X4	固定	固定	固定
Y1a	1F	X4	固定	固定	固定
		X5	自由	自由	自由
Y2	1F	X6	固定	固定	固定
		X2 - X6	固定	固定	固定
Y3	1F	X3	固定	固定	固定
		X4 - X5	自由	自由	自由
Y4	1F	X6	固定	固定	固定
		X1	固定	固定	固定
Y5	1F	X3	自由	自由	自由
		X4 - X5	自由	自由	自由
Y6	1F	X6	固定	固定	固定
		X3	自由	自由	自由
Y7	1F	X4 - X6	固定	固定	固定
		X1	固定	固定	固定
X1	1F	X3 - X4	固定	固定	固定
		Y4 - Y5	固定	固定	固定
X2	1F	Y7	固定	固定	固定
		Y1	固定	固定	固定
X3	1F	Y2	固定	固定	固定
		Y2 - Y4	固定	固定	固定
X4	1F	Y5 - Y6	自由	自由	自由
		Y7	固定	固定	固定
X5	1F	Y1 - Y2	固定	固定	固定
		Y3 - Y4	自由	自由	自由
X6	1F	Y6 - Y7	固定	固定	固定
		Y1a	自由	自由	自由
X6	1F	Y2	固定	固定	固定
		Y3 - Y4	自由	自由	自由
X6	1F	Y6	固定	固定	固定
		Y1a - Y4	固定	固定	固定
X6	1F	Y6	固定	固定	固定
		Y6	固定	固定	固定

§ 6. 部材断面特性

6.1 部材断面特性

6.1.1 共通断面特性

大はりMy計算に考慮する スラブ筋断面積	0.00 (cm ²)
部材端部主筋の付着長さ	
はり端部主筋	上端 $Lo/4 + 15.0 \cdot d$
	下端 $Lo/4 + 20.0 \cdot d$
柱端部主筋	$ho/2 + 15.0 \cdot d$

6.2 はり、柱かぶり

はり上端かぶり (上端 2 段筋間隔)

はり下端かぶり (下端 2 段筋間隔)

柱 X 方向鉄筋かぶり (2 段筋間隔)

柱 Y 方向鉄筋かぶり (2 段筋間隔)

芯鉄筋位置 X 方向 - Y 方向

2段筋間隔が (-) と表示されている場合は、
2.5dと(25mm+d)の大きい方になります。
ここに、dは太い方の鉄筋径とします。

単位 cm

特記なき場合

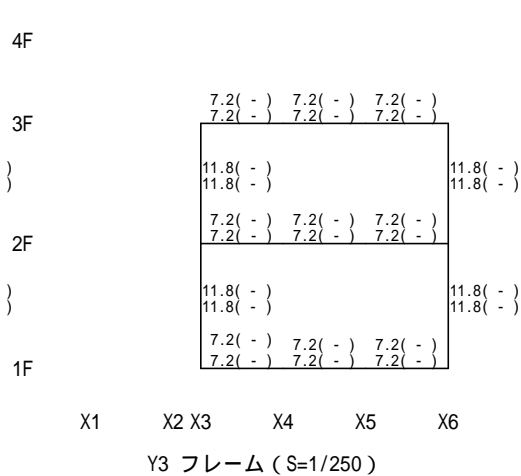
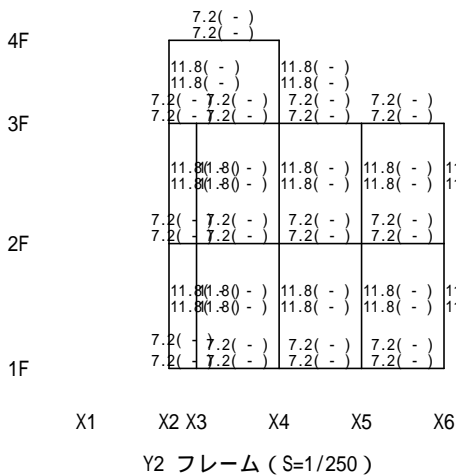
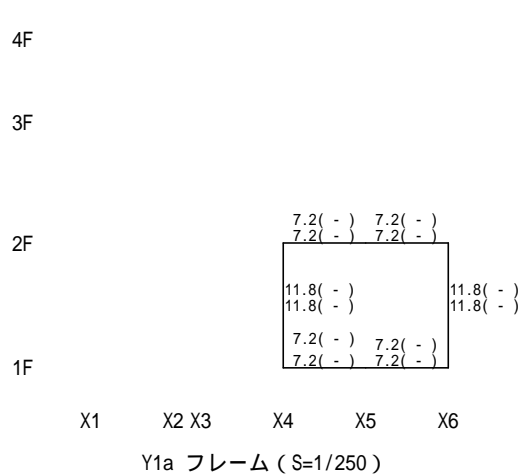
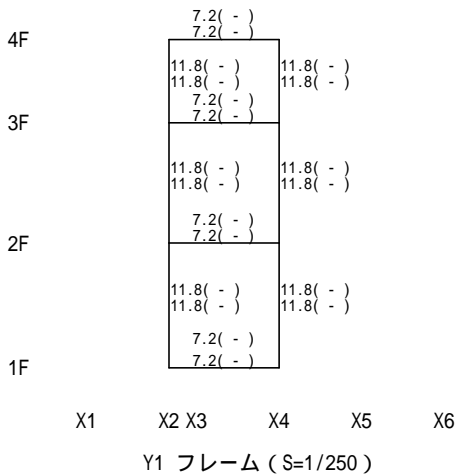
はりかぶり : 4.0 (cm) (ただし、最下層は 5.0 (cm))

はり 2 段筋間隔 : 自動

柱かぶり : 4.0 (cm)

柱 2 段筋間隔 : 自動

柱芯鉄筋位置 : 自動



4F

4F

	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	
3F	11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)			11.8(-) 11.8(-)
2F	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	
1F	11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)			11.8(-) 11.8(-)

	7.2(-) 7.2(-)				
3F	11.8(-) 11.8(-)				
2F	7.2(-) 7.2(-)				
1F	11.8(-) 11.8(-)				

X1 X2 X3 X4 X5 X6
Y4 フレーム (S=1/250)

X1 X2 X3 X4 X5 X6
Y5 フレーム (S=1/250)

4F

4F

	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)		
3F		11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)	
2F	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)		
1F	7.2(-) 7.2(-)	11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)	

	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)			
3F	3.0(-) 3.0(-)	3.0(-) 3.0(-)	3.0(-) 3.0(-)		
2F	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)			
1F	3.0(-) 3.0(-)	3.0(-) 3.0(-)	3.0(-) 3.0(-)		

X1 X2 X3 X4 X5 X6
Y6 フレーム (S=1/250)

X1 X2 X3 X4 X5 X6
Y7 フレーム (S=1/250)

4F

4F

			7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	
3F		11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)	3.0(-) 3.0(-)	
2F		7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)		
1F		11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)	3.0(-) 3.0(-)	

	7.2(-) 7.2(-)				
3F	11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)			
2F	7.2(-) 7.2(-)				
1F	11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)			

Y1 Y1a Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7
X1 フレーム (S=1/250)

Y1 Y1a Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7
X2 フレーム (S=1/250)

4F

4F

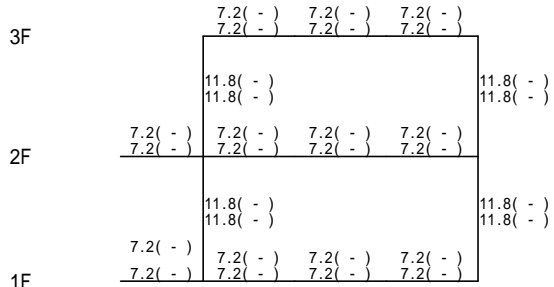
	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	
3F	11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)	3.0(-) 3.0(-)	
2F	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	
1F	11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)	3.0(-) 3.0(-)	

	7.2(-) 7.2(-)				
3F	11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)
2F	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)
1F	11.8(-) 11.8(-)	11.8(-) 11.8(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)	7.2(-) 7.2(-)

Y1 Y1a Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7
X3 フレーム (S=1/250)

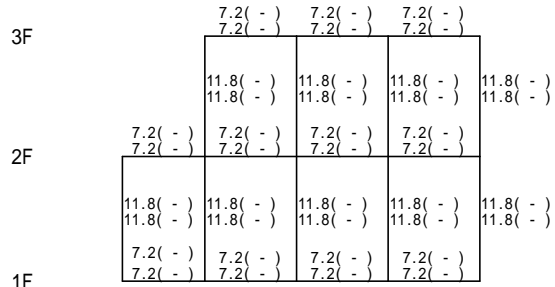
Y1 Y1a Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7
X4 フレーム (S=1/250)

4F



Y1 Y1a Y2 Y3 Y4 YEY6 Y7
X5 フレーム (S=1/250)

4F



Y1 Y1a Y2 Y3 Y4 YEY6 Y7
X6 フレーム (S=1/250)

§7. 応力計算等入力データ

7.1 応力解析・モデル化

7.1.1 応力計算条件

応力計算法	立体解析
鉛直荷重時柱軸方向変位	拘束しない
浮上りの考慮	考慮しない
長期柱軸力に使用する積載荷重	地震用
引張ブレースのモデル化	引張ブレースとして圧縮力は負担しないとして計算
引張ブレース収束計算の打ち切り回数	20

7.1.2 各階剛性低下率

a) 各階置換エレメントの断面性能修正率

入力なし 入力あり (入力がない場合は、1.00倍となります。)

b) 各階置換フレームの剛性低下率

入力なし 入力あり (入力がない場合は、1.00倍となります。)

7.2 剛性率・偏心率

7.2.1 偏心率計算条件

雑壁 n 値計算の基準とみなす柱の剛性	両方向共 Mで入力 (M = 1.500)
面内雑壁の n 値	1.00

	重心計算	剛心計算
地震時に剛床を解除した節点に接続する鉛直部材の考慮	上下階の部材共に考慮する	上下階の部材共に考慮する
計算法	柱軸力の重心	鉛直部材の剛性から計算
剛心計算時の基礎荷重による応力の考慮	考慮する	
剛性率計算時の層間変形角の求め方	主剛床の剛心位置で算定	

§ 8. 耐震診断入力データ

8.1 耐震診断計算条件

8.1.1 耐震診断計算条件

1次、2次診断	耐震診断の基準		防災協会2017年版RC診断基準	
	形状指標のグレード、偏心率、剛重比の求め方	RC階	2017年版C法(割線剛性)	
	剛性計算時にそで壁付き柱とみなすそで壁長さ(cm)		10	
	そで壁付き柱の剛性の計算方法		×壁断面積	
	2次診断の計算方法		正負加力別	
	2次診断で軸力変動考慮時に地震時軸力の割増係数	x(正加力時)		考慮しない
		x(負加力時)		考慮しない
		y(正加力時)		考慮しない
y(負加力時)			考慮しない	
反曲点高さの取り方	そで壁付柱		弾性解析結果	
	耐震壁		弾性解析結果	
壁柱軸力の耐力壁Mu、Qsuへの考慮			考慮する	
モデル化	耐力壁等のモデル化		耐震診断基準による	
	傾斜部材の取り扱い		考慮しない	
建物重量荷重	長期柱軸力に使用する積載荷重		地震用積載荷重	
	診断で無視した部材が負担する建築重量の考慮		考慮する	
終局強度	完全塑性理論での中段筋の考慮		考慮しない	
	軽量コンクリートの低減係数の取り扱い		Fcを低減(低減係数 軽量1種、2種:0.9 軽量3種、4種:0.8)	
	そで壁付柱のそで壁部分の扱い	曲げ耐力Mu		実断面のまま
		せん断耐力Qsu		実断面のまま
	耐力計算に考慮するそで壁長さ(cm)			10
	直交壁の考慮	柱せん断耐力		考慮しない
		柱軸方向耐力		考慮しない
	壁筋の計算では配筋の考慮			考慮しない
	逆せん断力が発生するそで壁付き柱の反曲点高さの取り方			耐力を0とする
	雑壁反曲点高さの取り方			構造階高の1/2
平均せん断応力度の上限(N/mm ²)	構面内雑壁		3	
	構面外雑壁		2	
靱性指標F値	雑壁F値の扱い		防災協会(せん断破壊はF=1.0、曲げ破壊はF=1.0~1.5)	
ゲルピングEo	Eo算定に用いるグループ数		RCは11グループ	
	強度寄与係数の扱い		各グループでの最小値を掛ける	
	全体崩壊形におけるEoの割り増し	X方向		考慮しない
		Y方向		考慮しない
形状指標SDの扱い方			F=1.0の指標を全てに用いる	
建築研究振興協会マニュアル	M/Qdの下限値		1.0	
	残存軸耐力係数 r、軸力支持能力 Rの取り方		「RC診断基準」の数値	

・低強度コンクリートのせん断終局強度低減率

RC造 : 自動計算

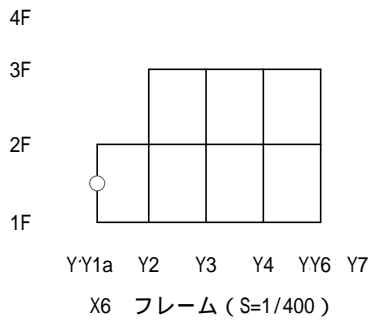
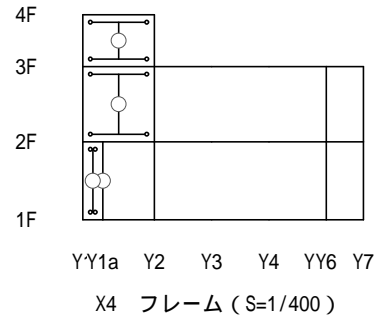
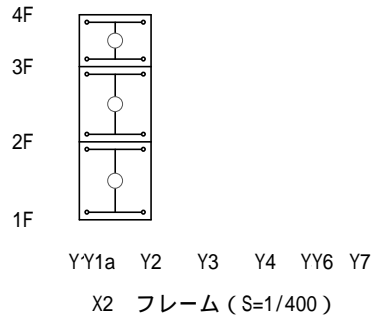
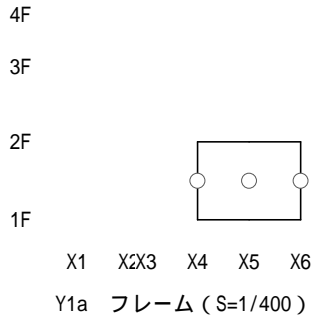
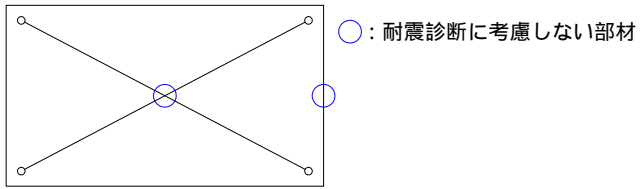
・外力分布(耐震診断用)

外力分布による補正係数 : $(n+1)/(n+i)$

8.1.2 構造耐震判定指標算定項目

地域指標 Z	1.0
地盤指標 G	1.0
用途指標 U	1.0
振動特性係数 Rtx	自動
振動特性係数 Rty	自動
1次診断用 Es	0.8
2次診断用 Es	0.6
コメント	

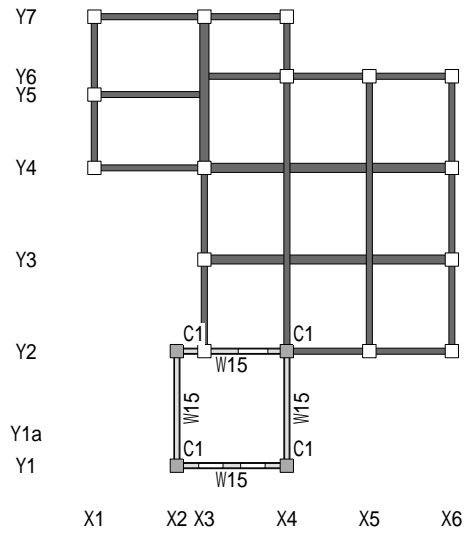
8.1.7 耐震診断に考慮しない部材



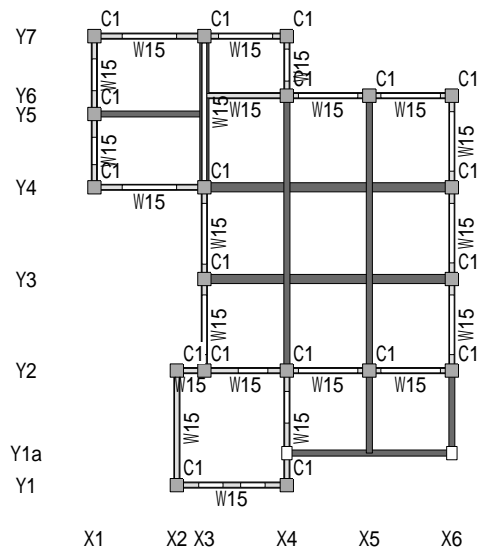
§9. 準備計算

準備計算以降は、診断対象と指定された階または方向の結果のみ表示します。

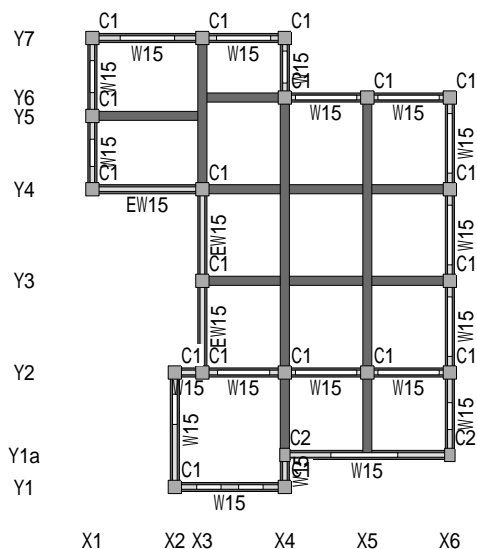
9.1 部材の配置



3F階 (雑壁、ブレースを含む鉛直部材の総数 X方向=4、Y方向=4) (S=1/250)



2F階 (雑壁、ブレースを含む鉛直部材の総数 X方向=18、Y方向=19) (S=1/250)



1F階 (雑壁、ブレースを含む鉛直部材の総数 X方向=17、Y方向=17) (S=1/250)

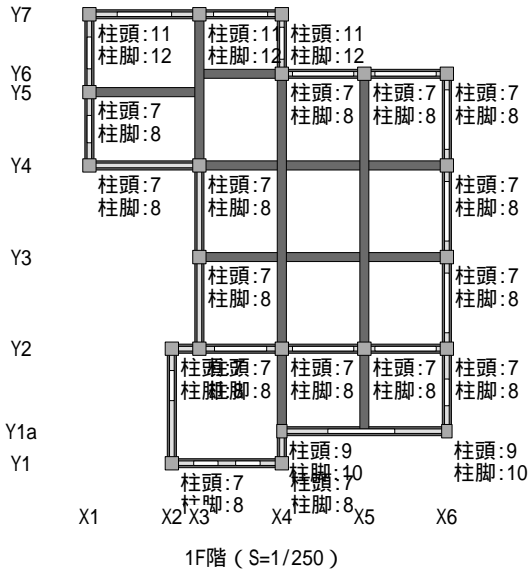
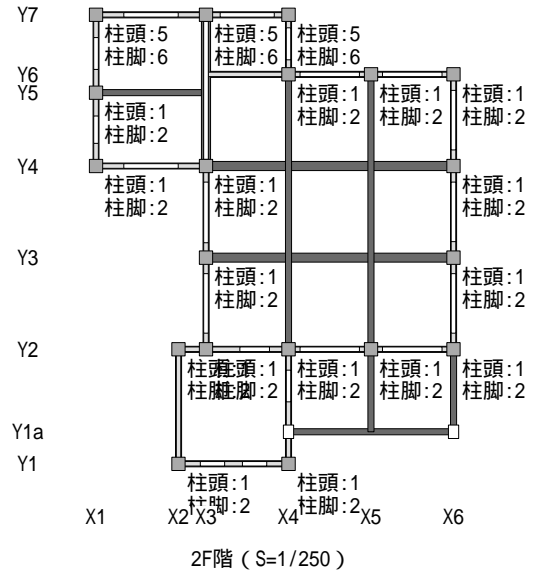
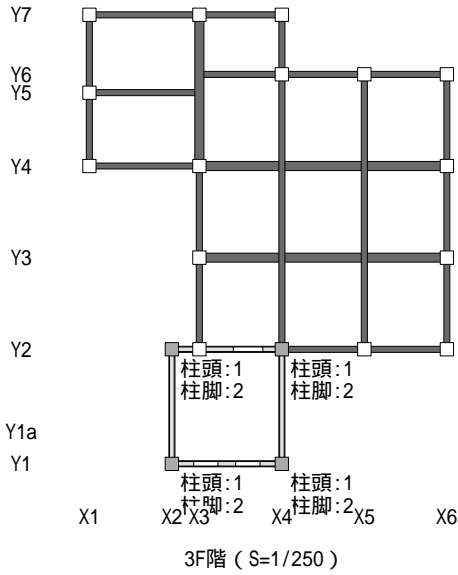
9.2 断面の諸数値

9.2.1 柱断面リスト

No	断面符号	柱せい		主筋位置			引張鉄筋			主筋合計		せん断補強筋		鉄筋種別 ()内は最小径(mm)		
		D	Dc	At	Pt	yAt	Ag(cm ²)	Pw	Pw wy	太1	太2	細				
		(cm)	(cm)	(cm ²)	(%)	(N)	yAg(N)	(%)	(N/cm ²)							
1	C1	44.0	13.65	8.52	0.440	250488	17.04	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
		44.0	13.65	5.68	0.293	166992	500975.99	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
2	C1	44.0	13.65	8.52	0.440	250488	17.04	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
		44.0	13.65	5.68	0.293	166992	500975.99	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
3	Dc1	15.0	13.35	2.66	1.182	78204	5.32	0.424	124.66	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
		15.0	13.35	2.66	1.182	78204	156408.00	0.424	124.66	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
4	Dc1	15.0	13.35	2.66	1.182	78204	5.32	0.424	124.66	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
		15.0	13.35	2.66	1.182	78204	156408.00	0.424	124.66	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
5	C1	44.0	4.85	8.52	0.440	250488	17.04	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
		44.0	4.85	5.68	0.293	166992	500975.99	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
6	C1	44.0	4.85	8.52	0.440	250488	17.04	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
		44.0	4.85	5.68	0.293	166992	500975.99	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
7	C1	44.0	13.80	11.40	0.589	335160	30.40	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
		44.0	13.80	11.40	0.589	335160	893759.99	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
8	C1	44.0	13.80	11.40	0.589	335160	30.40	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
		44.0	13.80	11.40	0.589	335160	893759.99	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
9	C2	34.0	13.65	8.52	0.570	250488	22.72	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
		44.0	13.65	8.52	0.570	250488	667967.99	0.107	31.43	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
10	C2	34.0	13.65	8.52	0.570	250488	22.72	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
		44.0	13.65	8.52	0.570	250488	667967.99	0.107	31.43	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
11	C1	44.0	5.00	11.40	0.589	335160	30.40	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
		44.0	5.00	11.40	0.589	335160	893759.99	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
12	C1	44.0	5.00	11.40	0.589	335160	30.40	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				
		44.0	5.00	11.40	0.589	335160	893759.99	0.083	24.28	SR295(28)	SR295(28)	SR295				

9.2.2 柱断面リスト配置図

上段 : 柱頭断面リストNo.
下段 : 柱脚断面リストNo.

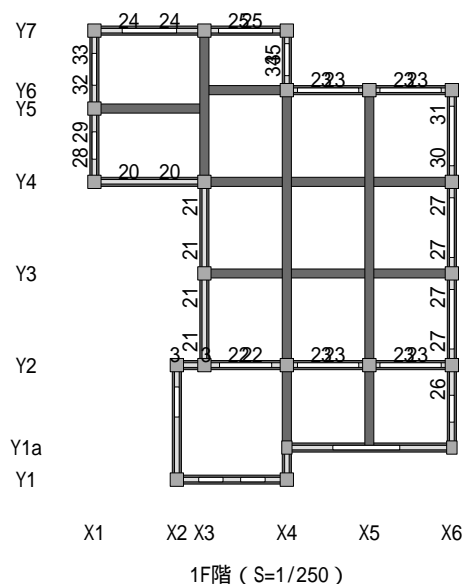
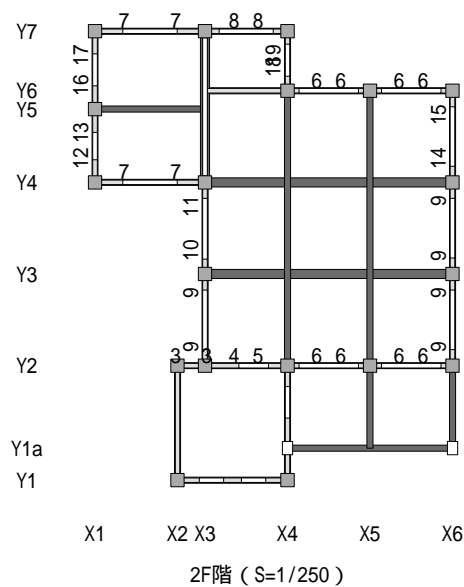
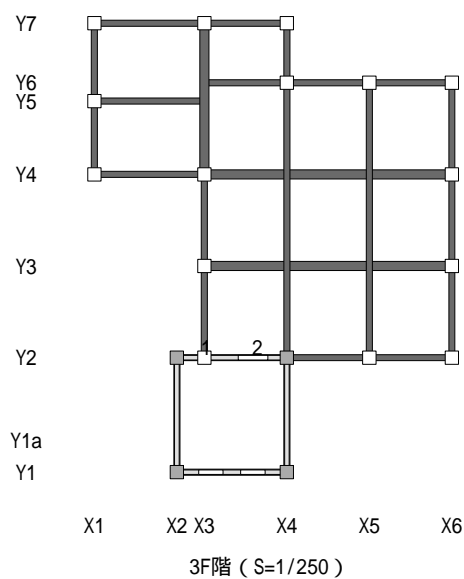


9.2.3 壁、そで壁断面リスト

No	断面符号	長さL (cm)	鉄筋種別 ()内は最小径(mm)			端部補強筋 Awt (cm ²)	長さ当り縦筋 Aw/L (cm ² /cm)	横筋 Psh (%)	開口周比
	鉄筋番号	厚さ (cm)	太1	太2	細	yAwt (N)	yAw/L (N/cm)	Psh sy (N/cm ²)	
1	W15	203.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.433
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
2	W15	63.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.433
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
3	W15	90.9	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.27	0.0318	0.2120	0.000
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
4	W15	112.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.471
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
5	W15	63.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.471
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
6	W15	38.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.27	0.0318	0.2120	0.640
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
7	W15	92.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.557
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
8	W15	47.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.27	0.0318	0.2120	0.641
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
9	W15	53.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.607
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
10	W15	49.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.613
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	

No	断面符号	長さL (cm)	鉄筋種別 ()内は最小径(mm)			端部補強筋 Aw _t (cm ²)	長さ当り縦筋 Aw/L(cm ² /cm)	横筋 Psh(%)	開口周比
	鉄筋番号	厚さ (cm)	太1	太2	細	yAw _t (N)	yAw/L (N/cm)	Psh sy (N/cm ²)	
11	W15	53.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.613
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
12	W15	75.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.484
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
13	W15	77.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.484
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
14	W15	53.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.607
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
15	W15	53.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.607
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
16	W15	77.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.507
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
17	W15	75.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.507
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
18	W15	48.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.581
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
19	W15	43.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.27	0.0318	0.2120	0.581
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
20	EW15	363.6	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.27	0.0318	0.2120	0.000
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
21	EW15	303.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.27	0.0318	0.2120	0.000
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
22	W15	50.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.679
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
23	W15	35.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.27	0.0318	0.2120	0.687
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
24	W15	92.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.560
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
25	W15	47.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.27	0.0318	0.2120	0.645
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
26	W15	100.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.000
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
27	W15	53.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.643
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
28	W15	75.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.487
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
29	W15	77.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.487
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
30	W15	53.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.643
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
31	W15	53.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.643
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
32	W15	77.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.510
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
33	W15	75.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.510
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
34	W15	48.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.91	0.0318	0.2120	0.584
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	
35	W15	43.0	SR295(22)	SR295(19)	SR295	1.27	0.0318	0.2120	0.584
	1	15.0				37396.8	934.92	62.33	

9.2.4 壁、そで壁断面リスト配置図



9.3 柱うちのり高さ

単位(cm)

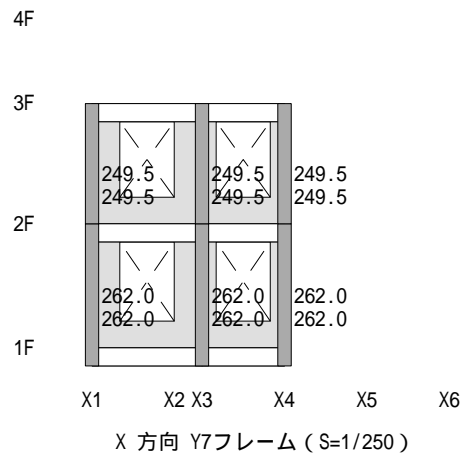
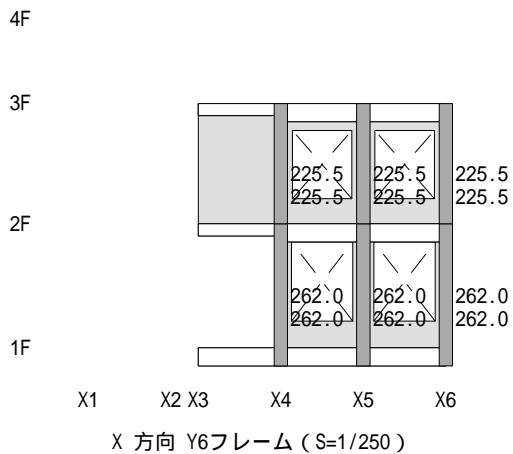
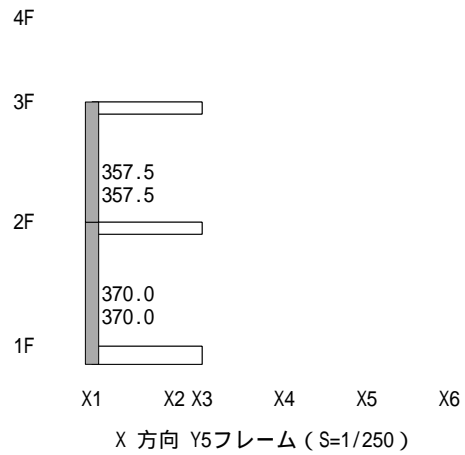
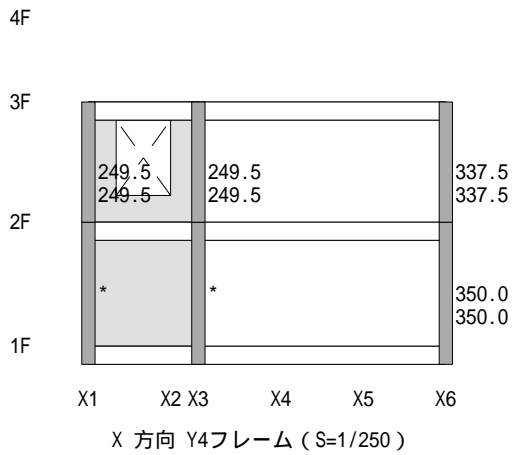
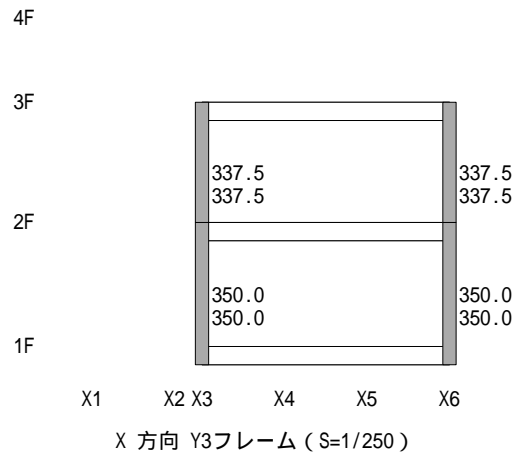
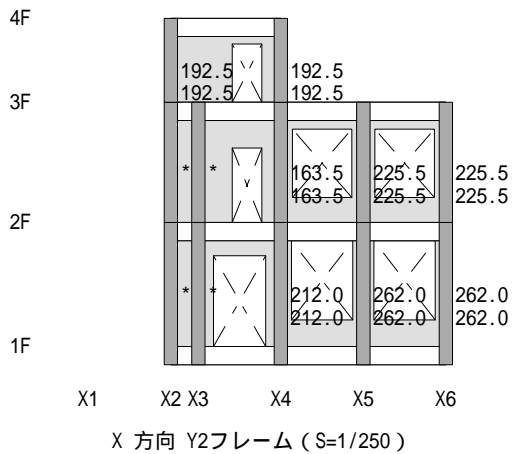
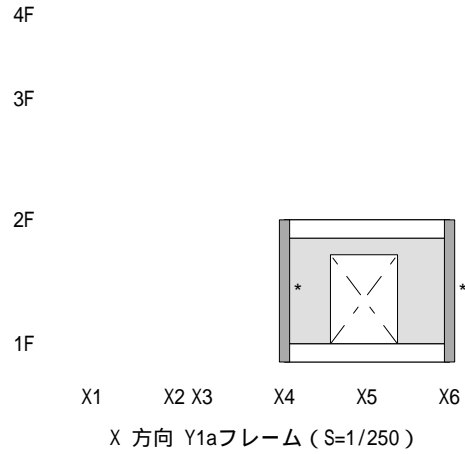
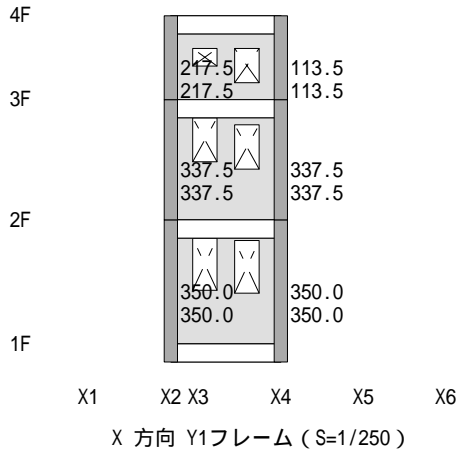
: 直接入力値

* : 耐震壁の側柱または耐震診断に考慮しない柱

注) 正負加力時

上段: 正加力時の値

下段: 負加力時の値で、出力しない場合、正加力時の値を使用します。

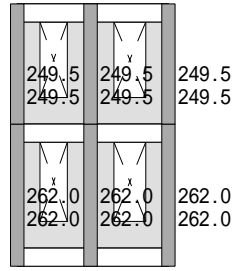


4F

3F

2F

1F



Y1 Y1a Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7

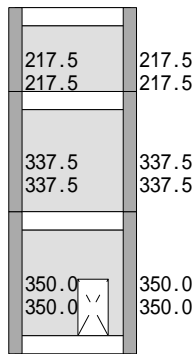
Y 方向 X1フレーム (S=1/250)

4F

3F

2F

1F



Y1 Y1a Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7

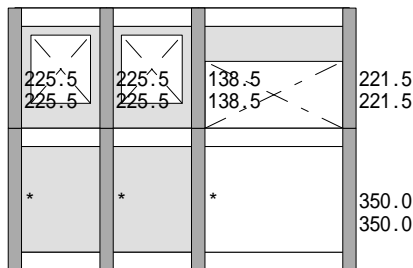
Y 方向 X2フレーム (S=1/250)

4F

3F

2F

1F



Y1 Y1a Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7

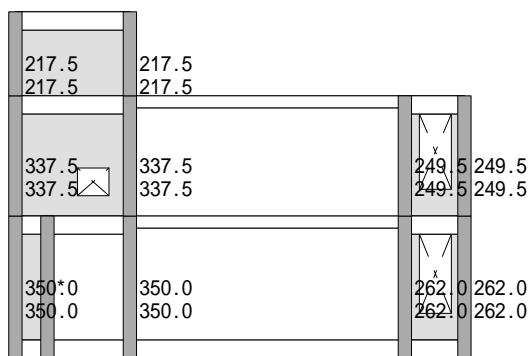
Y 方向 X3フレーム (S=1/250)

4F

3F

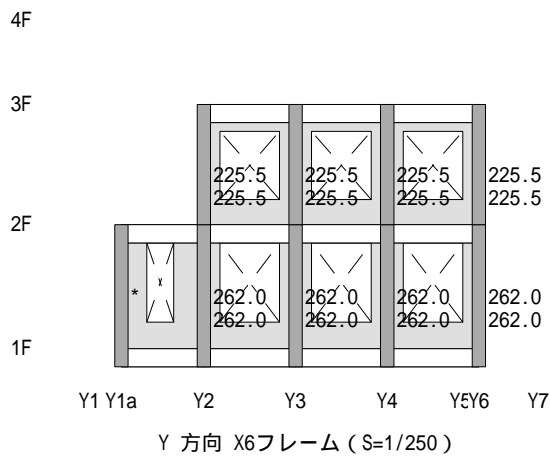
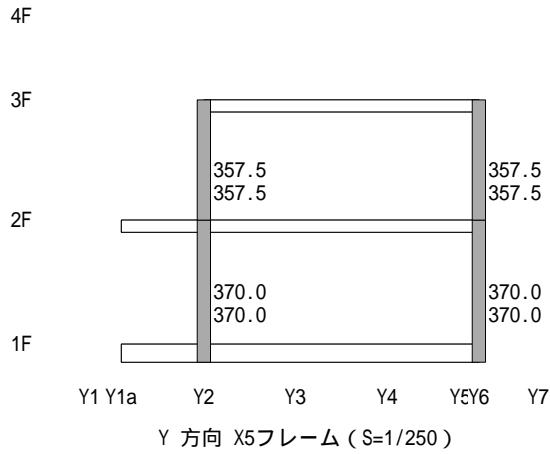
2F

1F



Y1 Y1a Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7

Y 方向 X4フレーム (S=1/250)

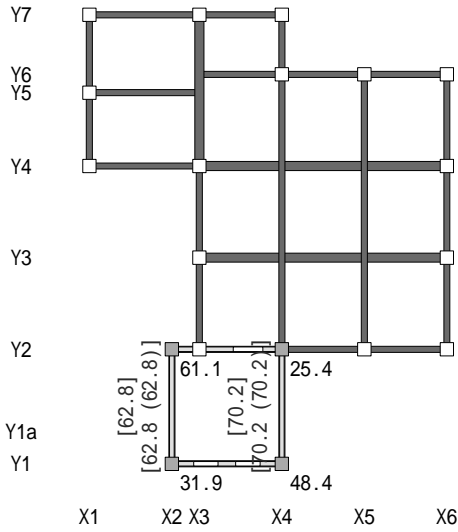


9.4 柱、壁の軸力

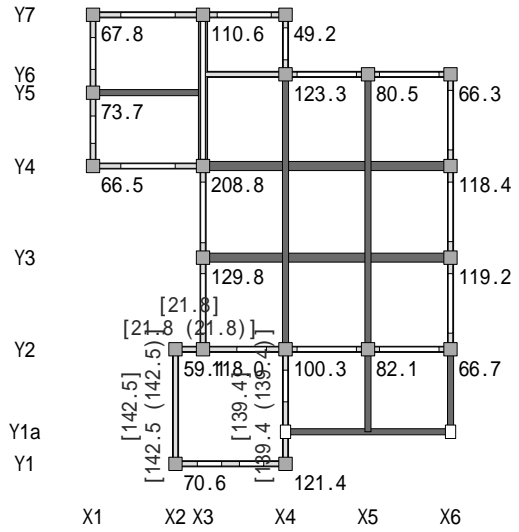
9.4.1 柱、壁の軸力

a) 長期軸力・短期軸力

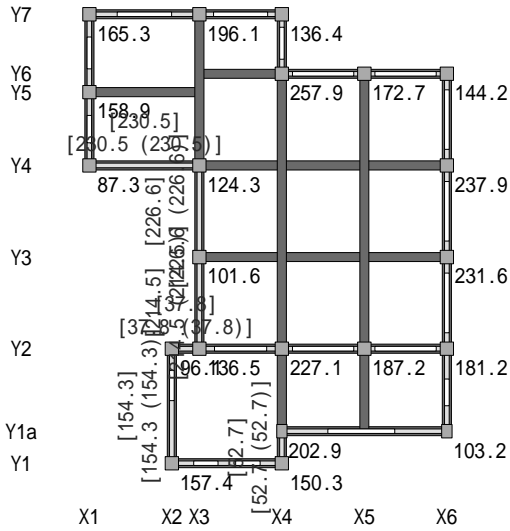
- 1段：長期軸力 (KN) # : 直接入力値
- 2段：短期 X 方向正加力時 (KN)
- 3段：短期 X 方向負加力時 (KN)
- 4段：短期 Y 方向正加力時 (KN)
- 5段：短期 Y 方向負加力時 (KN)
- Ns = NL ± x NE NL: 柱長期軸力 NE: 柱地震時変動軸力
- 正加力時: x = 0.00 y = 0.00
- 負加力時: x = 0.00 y = 0.00
- []は壁柱長期軸力を表す。



3F階(RC) 長期柱軸力の合計 : 166.79(KN) (S=1/250)



2F階(RC) 長期柱軸力の合計 : 1832.07(KN) (S=1/250)



1F階(RC) 長期柱軸力の合計 : 3456.03(KN) (S=1/250)

b)地震時変動軸力

単位 (KN) # : 直接入力値

1段 : X方向正加力時 (KN)

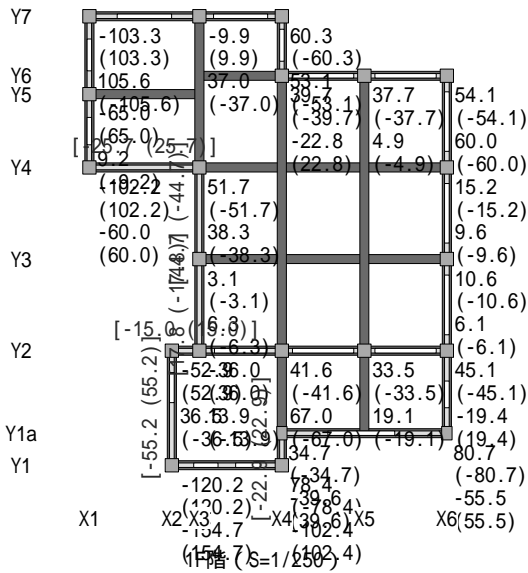
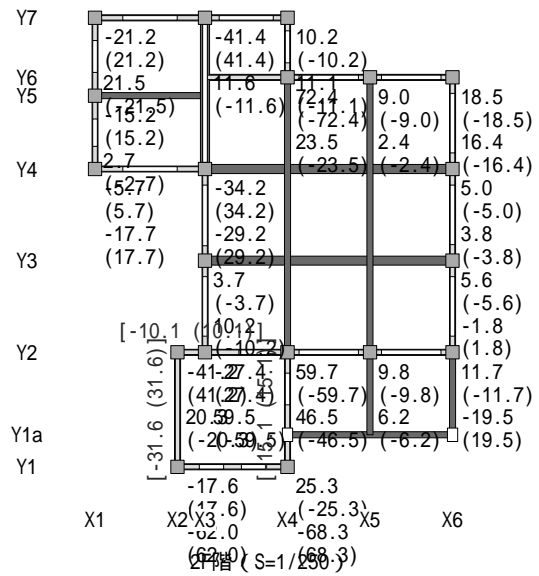
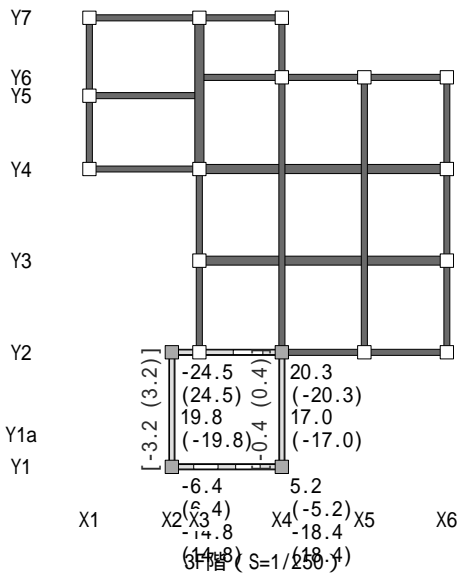
2段 : X方向負加力時 (KN)

3段 : Y方向正負力時 (KN)

4段 : Y方向負加力時 (KN)

注) 柱地震時変動軸力は割増係数 x、 yを掛ける前の値です。

R C造の場合、「正負加力の平均」で計算するときには考慮しません。



9.4.2 柱軸力

正加力時 : x = 0.00 y = 0.00
 負加力時 : x = 0.00 y = 0.00

3F階柱軸力

階	フル-ム-軸	長期軸力 (KN)	短期軸力 (KN)				地震時変動軸力 (KN)			
			X方向		Y方向		X方向		Y方向	
			正加力	負加力	正加力	負加力	正加力	負加力	正加力	負加力
3F	Y1-X2	31.90	31.90	31.90	31.90	31.90	-6.44	6.44	-14.85	14.85
	Y1-X4	48.35	48.35	48.35	48.35	48.35	5.17	-5.17	-18.35	18.35
	Y2-X2	61.12	61.12	61.12	61.12	61.12	-24.52	24.52	19.76	-19.76
	Y2-X4	25.42	25.42	25.42	25.42	25.42	20.27	-20.27	17.04	-17.04
3F階の合計		166.79	166.79	166.79	166.79	166.79	-5.52	5.52	3.60	-3.60

2F階柱軸力

階	フル-ム-軸	長期軸力 (KN)	短期軸力 (KN)				地震時変動軸力 (KN)			
			X方向		Y方向		X方向		Y方向	
			正加力	負加力	正加力	負加力	正加力	負加力	正加力	負加力
2F	Y1-X2	70.59	70.59	70.59	70.59	70.59	-17.63	17.63	-62.01	62.01
	Y1-X4	121.38	121.38	121.38	121.38	121.38	25.35	-25.35	-68.31	68.31
	Y2-X2	59.08	59.08	59.08	59.08	59.08	-41.16	41.16	20.34	-20.34
	Y2-X3	118.05	118.05	118.05	118.05	118.05	-27.44	27.44	59.54	-59.54
	Y2-X4	100.31	100.31	100.31	100.31	100.31	59.72	-59.72	46.46	-46.46
	Y2-X5	82.05	82.05	82.05	82.05	82.05	9.78	-9.78	6.23	-6.23

階	ル-ム-軸	長期軸力(KN)	短期軸力(KN)				地震時変動軸力(KN)			
			X方向		Y方向		X方向		Y方向	
			正加力	負加力	正加力	負加力	正加力	負加力	正加力	負加力
2F	Y2-X6	66.69	66.69	66.69	66.69	66.69	11.68	-11.68	-19.51	19.51
	Y3-X3	129.77	129.77	129.77	129.77	129.77	3.70	-3.70	10.21	-10.21
	Y3-X6	119.17	119.17	119.17	119.17	119.17	5.60	-5.60	-1.78	1.78
	Y4-X1	66.48	66.48	66.48	66.48	66.48	-5.68	5.68	-17.66	17.66
	Y4-X3	208.77	208.77	208.77	208.77	208.77	-34.23	34.23	-29.15	29.15
	Y4-X6	118.43	118.43	118.43	118.43	118.43	4.95	-4.95	3.79	-3.79
	Y5-X1	73.72	73.72	73.72	73.72	73.72	-15.23	15.23	2.70	-2.70
	Y6-X4	123.26	123.26	123.26	123.26	123.26	72.38	-72.38	23.53	-23.53
	Y6-X5	80.46	80.46	80.46	80.46	80.46	9.03	-9.03	2.41	-2.41
	Y6-X6	66.30	66.30	66.30	66.30	66.30	18.46	-18.46	16.38	-16.38
	Y7-X1	67.76	67.76	67.76	67.76	67.76	-21.20	21.20	21.49	-21.49
Y7-X3	110.64	110.64	110.64	110.64	110.64	-41.36	41.36	11.62	-11.62	
Y7-X4	49.17	49.17	49.17	49.17	49.17	10.18	-10.18	11.10	-11.10	
2F階の合計		1832.07	1832.07	1832.07	1832.07	26.90	-26.90	37.39	-37.39	

1F階柱軸力

階	ル-ム-軸	長期軸力(KN)	短期軸力(KN)				地震時変動軸力(KN)			
			X方向		Y方向		X方向		Y方向	
			正加力	負加力	正加力	負加力	正加力	負加力	正加力	負加力
1F	Y1-X2	157.36	157.36	157.36	157.36	157.36	-120.19	120.19	-154.68	154.68
	Y1-X4	150.27	150.27	150.27	150.27	150.27	78.39	-78.39	-102.41	102.41
	Y1a-X4	202.92	202.92	202.92	202.92	202.92	34.66	-34.66	-39.56	39.56
	Y1a-X6	103.20	103.20	103.20	103.20	103.20	80.66	-80.66	-55.47	55.47
	Y2-X2	96.08	96.08	96.08	96.08	96.08	-52.88	52.88	36.52	-36.52
	Y2-X3	136.48	136.48	136.48	136.48	136.48	-35.98	35.98	13.89	-13.89
	Y2-X4	227.14	227.14	227.14	227.14	227.14	41.59	-41.59	67.01	-67.01
	Y2-X5	187.17	187.17	187.17	187.17	187.17	33.47	-33.47	19.13	-19.13
	Y2-X6	181.18	181.18	181.18	181.18	181.18	45.08	-45.08	-19.43	19.43
	Y3-X3	101.62	101.62	101.62	101.62	101.62	3.14	-3.14	6.29	-6.29
	Y3-X6	231.57	231.57	231.57	231.57	231.57	10.63	-10.63	6.14	-6.14
	Y4-X1	87.31	87.31	87.31	87.31	87.31	-102.24	102.24	-60.04	60.04
	Y4-X3	124.26	124.26	124.26	124.26	124.26	51.71	-51.71	38.27	-38.27
	Y4-X6	237.94	237.94	237.94	237.94	237.94	15.17	-15.17	9.58	-9.58
	Y5-X1	158.86	158.86	158.86	158.86	158.86	-64.96	64.96	9.16	-9.16
	Y6-X4	257.94	257.94	257.94	257.94	257.94	39.72	-39.72	-22.80	22.80
	Y6-X5	172.71	172.71	172.71	172.71	172.71	37.72	-37.72	4.92	-4.92
	Y6-X6	144.21	144.21	144.21	144.21	144.21	54.11	-54.11	60.03	-60.03
Y7-X1	165.34	165.34	165.34	165.34	165.34	-103.32	103.32	105.61	-105.61	
Y7-X3	196.05	196.05	196.05	196.05	196.05	-9.92	9.92	36.96	-36.96	
Y7-X4	136.40	136.40	136.40	136.40	136.40	60.28	-60.28	53.12	-53.12	
1F階の合計		3456.03	3456.03	3456.03	3456.03	96.83	-96.83	12.27	-12.27	

9.4.3 壁軸力

正加力時： x = 0.00 y = 0.00

負加力時： x = 0.00 y = 0.00

注) *付きは診断時に無視した壁

3F壁軸力

階	方向	ル-ム-軸	長期軸力(KN)	短期軸力(KN)		地震時変動軸力(KN)	
				正加力	負加力	正加力	負加力
3F X加力	Y	X2-Y1	62.78	62.78	62.78	-19.24*	19.24*
	Y	X4-Y1	70.18	70.18	70.18	24.76	-24.76
3F階の合計			132.96	132.96	132.96	5.52	-5.52

3F壁軸力

階	方向	ル-ム-軸	長期軸力(KN)	短期軸力(KN)		地震時変動軸力(KN)	
				正加力	負加力	正加力	負加力
3F Y加力	Y	X2-Y1	62.78	62.78	62.78	-3.21*	3.21*
	Y	X4-Y1	70.18	70.18	70.18	-0.39*	0.39*
3F階の合計			132.96	132.96	132.96	-3.60	3.60

2F壁軸力

階	方向	ル-ム-軸	長期軸力(KN)	短期軸力(KN)		地震時変動軸力(KN)	
				正加力	負加力	正加力	負加力
2F X加力	X	Y2-X2	21.80	21.80	21.80	-10.05	10.05
	Y	X2-Y1	142.54	142.54	142.54	-69.83*	69.83*

階	方向	ル-ム-軸	長期軸力(KN)	短期軸力(KN)		地震時変動軸力(KN)	
				正加力	負加力	正加力	負加力
2F	Y	X4-Y1	139.42	139.42	139.42	52.99	-52.99
X加力 2F階の合計			303.76	303.76	303.76	-26.90	26.90

2F壁軸力

階	方向	ル-ム-軸	長期軸力(KN)	短期軸力(KN)		地震時変動軸力(KN)	
				正加力	負加力	正加力	負加力
2F Y加力	X	Y2-X2	21.80	21.80	21.80	9.28	-9.28
	Y	X2-Y1	142.54	142.54	142.54	-31.57*	31.57*
	Y	X4-Y1	139.42	139.42	139.42	-15.10*	15.10*
2F階の合計			303.76	303.76	303.76	-37.39	37.39

1F壁軸力

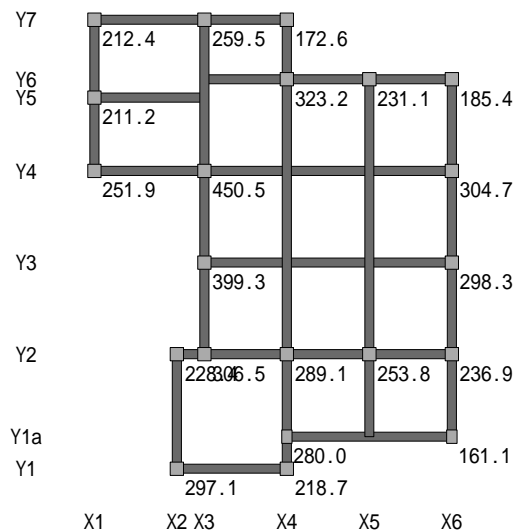
階	方向	ル-ム-軸	長期軸力(KN)	短期軸力(KN)		地震時変動軸力(KN)	
				正加力	負加力	正加力	負加力
1F X加力	X	Y2-X2	37.83	37.83	37.83	-14.98	14.98
	X	Y4-X1	230.48	230.48	230.48	-25.71	25.71
	Y	X2-Y1	154.34	154.34	154.34	-102.77*	102.77*
	Y	X4-Y1	52.73	52.73	52.73	18.12	-18.12
	Y	X3-Y2	214.49	214.49	214.49	-26.52	26.52
	Y	X3-Y3	226.63	226.63	226.63	55.04	-55.04
1F階の合計			916.51	916.51	916.51	-96.83	96.83

1F壁軸力

階	方向	ル-ム-軸	長期軸力(KN)	短期軸力(KN)		地震時変動軸力(KN)	
				正加力	負加力	正加力	負加力
1F Y加力	X	Y2-X2	37.83	37.83	37.83	8.71	-8.71
	X	Y4-X1	230.48	230.48	230.48	-5.32	5.32
	Y	X2-Y1	154.34	154.34	154.34	-55.23*	55.23*
	Y	X4-Y1	52.73	52.73	52.73	-22.92*	22.92*
	Y	X3-Y2	214.49	214.49	214.49	17.77	-17.77
	Y	X3-Y3	226.63	226.63	226.63	44.71	-44.71
1F階の合計			916.51	916.51	916.51	-12.27	12.27

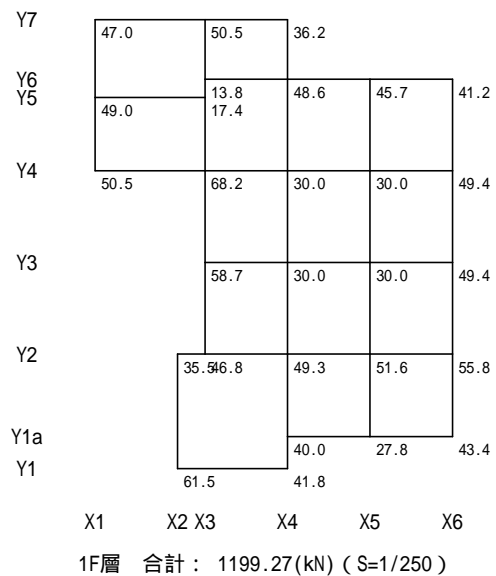
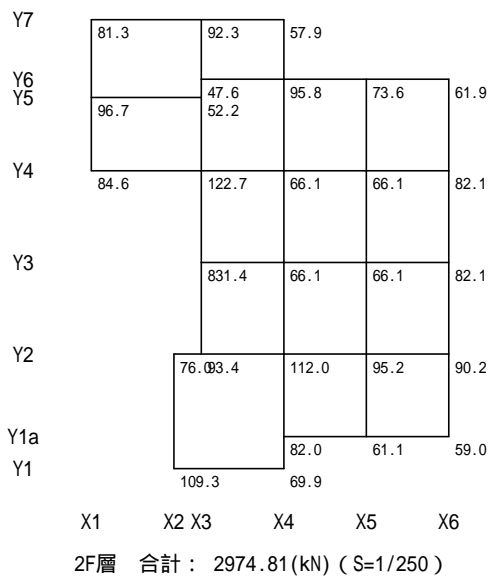
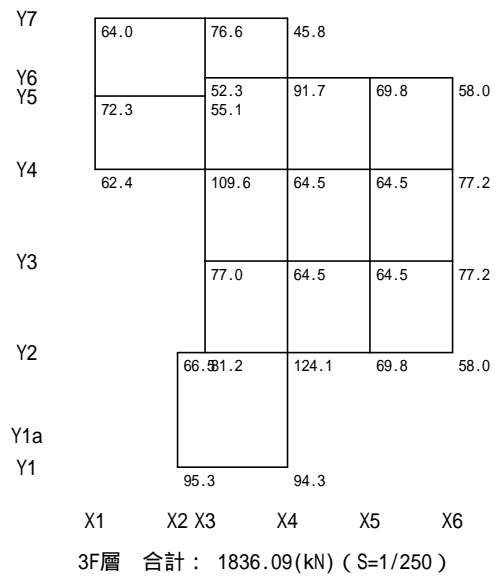
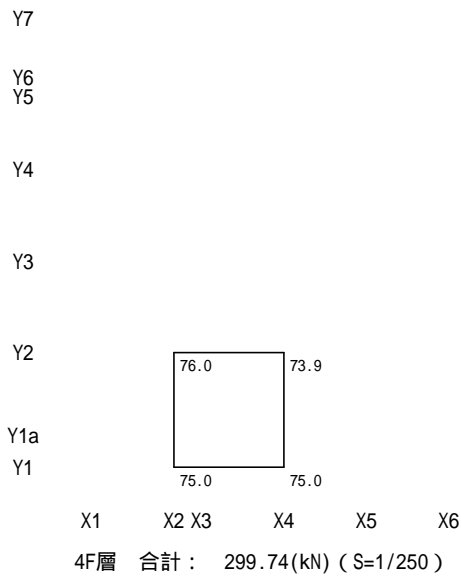
9.4.4 基礎計算用軸力 (補強用)

単位 (KN)



1F層(最下層) 長期軸力の合計 : 5571.80(KN) (S=1/250)

9.4.5 節点重量 (固定荷重 + 地震用積載荷重) (kN)



9.4.6 各層節点重量の内訳 (kN)

固定荷重 + 地震積載荷重

4F 層 (固定荷重 + 地震積載荷重)

		X1	X2	X3	X4	X5	X6
Y7	床スラブ はり 壁柱 特殊はり荷重 合計						
Y6	床スラブ はり 壁柱 特殊はり荷重 合計						
Y5	床スラブ はり 壁柱 特殊はり荷重 合計						
Y4	床スラブ はり 壁柱 特殊はり荷重 合計						

		X1	X2	X3	X4	X5	X6
Y3	床スラブ はり 壁 柱 特殊はり荷重 合計						
Y2	床スラブ はり 壁 柱 特殊はり荷重 合計		22.04 10.19 11.33 8.28 24.12 75.96		22.04 10.19 9.24 8.28 24.12 73.86		
Y1a	床スラブ はり 壁 柱 特殊はり荷重 合計						
Y1	床スラブ はり 壁 柱 特殊はり荷重 合計		22.04 10.19 10.34 8.28 24.12 74.97		22.04 10.19 10.34 8.28 24.12 74.97		

部別別合計

床スラブ	88.15
はり	40.74
壁	41.25
柱	33.11
特殊はり荷重	96.49
合計	299.74

3F 層 (固定荷重 + 地震積載荷重)

		X1	X2	X3	X4	X5	X6
Y7	床スラブ はり 壁 柱 特殊はり荷重 合計	15.32 8.30 8.31 11.86 20.18 63.96		21.55 11.74 10.76 11.86 20.68 76.59	9.11 5.94 3.61 11.86 15.26 45.78		
Y6	床スラブ はり 壁 柱 特殊はり荷重 合計			19.48 7.77 16.21 8.86 52.32	32.99 10.25 12.52 11.86 91.73	25.46 9.41 5.33 11.86 69.77	13.60 7.59 6.25 11.86 58.01
Y5	床スラブ はり 壁 柱 特殊はり荷重 合計	27.70 9.23 7.25 11.86 16.24 72.29		29.84 9.52 7.87 7.88 55.11			
Y4	床スラブ はり 壁 柱 特殊はり荷重 合計	14.49 8.07 8.26 11.86 19.69 62.37		36.74 17.94 13.51 11.86 29.54 109.59	47.76 16.73 16.73 64.48	47.76 16.73 64.48	25.63 12.85 7.16 11.86 19.69 77.19
Y3	床スラブ はり 壁 柱 特殊はり荷重 合計			25.63 12.85 6.99 11.86 19.69 77.02	47.76 16.73 64.48	47.76 16.73 64.48	25.63 12.85 7.16 11.86 19.69 77.19
Y2	床スラブ はり 壁 柱 特殊はり荷重 合計		17.14 5.94 23.29 20.14 66.51	29.98 8.22 21.28 11.86 9.85 81.19	49.04 14.51 31.58 20.14 8.86 124.13	25.46 9.41 5.33 11.86 17.73 69.77	13.60 7.59 6.25 11.86 18.71 58.01
Y1a	床スラブ はり 壁 柱 特殊はり荷重 合計						
Y1	床スラブ はり 壁 柱 特殊はり荷重 合計		30.42 10.19 34.57 20.14 95.32		30.42 10.19 33.54 20.14 94.29		

部別別合計

床スラブ	710.28
はり	277.24
壁	277.02
柱	258.42
特殊はり荷重	313.13
合計	1836.09

2F 層 (固定荷重 + 地震積載荷重)

		X1	X2	X3	X4	X5	X6
Y7	床スラブ	23.27		32.74	13.84		
	はり	8.30		11.74	5.94		
	壁	25.63		23.75	14.04		
	柱	24.09		24.09	24.09		
	特殊はり荷重 追加重量 合計	81.29		92.31	57.91		
Y6	床スラブ			26.84	38.17	26.34	14.07
	はり			7.77	10.25	9.41	7.59
	壁			12.95	23.26	13.73	16.18
	柱				24.09	24.09	24.09
	特殊はり荷重 追加重量 合計			47.55	95.76	73.56	61.93
Y5	床スラブ	42.08		41.43			
	はり	9.23		9.52			
	壁	21.33		1.20			
	柱	24.09					
	特殊はり荷重 追加重量 合計	96.74		52.16			
Y4	床スラブ	22.01		44.69	49.41	49.41	26.52
	はり	8.07		17.94	16.73	16.73	12.85
	壁	30.47		36.01			18.63
	柱	24.09		24.09			24.09
	特殊はり荷重 追加重量 合計	84.63		122.73	66.14	66.14	82.08
Y3	床スラブ			26.52	49.41	49.41	26.52
	はり			12.85	16.73	16.73	12.85
	壁			29.87			18.63
	柱			24.09			24.09
	特殊はり荷重 追加重量 合計			738.11 831.43	66.14	66.14	82.08
Y2	床スラブ		17.14	30.42	52.70	46.20	24.79
	はり		5.94	8.22	12.66	11.22	11.05
	壁		28.85	30.65	22.58	13.73	21.36
	柱		24.09	24.09	24.09	24.09	24.09
	特殊はり荷重 追加重量 合計		76.02	93.38	112.03	95.24	90.16
Y1a	床スラブ			30.50	30.50	23.07	12.32
	はり			8.14	8.14	10.89	7.28
	壁			24.78	24.78	9.43	11.87
	柱			9.76	9.76	17.73	9.76
	特殊はり荷重 追加重量 合計			82.04	82.04	61.11	58.96
Y1	床スラブ		30.42		16.40		
	はり		10.19		5.94		
	壁		44.58		23.44		
	柱		24.09		24.09		
	特殊はり荷重 追加重量 合計		109.28		69.88		

部位別合計

床スラブ	886.64
はり	302.72
壁	516.94
柱	477.22
特殊はり荷重	53.18
追加重量	738.11
合計	2974.81

1F 層 (固定荷重 + 地震積載荷重)

		X1	X2	X3	X4	X5	X6
Y7	はり	13.91		18.31	9.96		
	壁	17.32		16.34	10.43		
	柱	12.23		12.23	12.23		
	基礎柱	3.58		3.58	3.58		
	合計	47.04		50.47	36.20		
Y6	はり			13.81	22.70	18.70	12.73
	壁				10.10	11.14	12.64
	柱				12.23	12.23	12.23
	基礎柱				3.58	3.58	3.58
	合計			13.81	48.61	45.66	41.18
Y5	はり	19.09		17.39			
	壁	14.08					
	柱	12.23					
	基礎柱	3.58					
	合計	48.99		17.39			
Y4	はり	13.52		26.26	30.04	30.04	19.50
	壁	21.20		26.09			14.14
	柱	12.23		12.23			12.23
	基礎柱	3.58		3.58			3.58
	合計	50.53		68.17	30.04	30.04	49.45
Y3	はり			19.50	30.04	30.04	19.50
	壁			23.36			14.14
	柱			12.23			12.23
	基礎柱			3.58			3.58
	合計			58.67	30.04	30.04	49.45
Y2	はり		9.96	13.95	24.67	24.68	18.70
	壁		9.76	17.03	8.80	11.14	21.26
	柱		12.23	12.23	12.23	12.23	12.23
	基礎柱		3.58	3.58	3.58	3.58	3.58
	合計		35.52	46.79	49.29	51.63	55.76
Y1a	はり			13.82	21.34		12.20
	壁			13.56	6.44		18.63
	柱			9.76			9.76
	基礎柱			2.86			2.86
	合計			39.99	27.78		43.45
Y1	はり		17.07		9.96		
	壁		28.60		16.01		
	柱		12.23		12.23		
	基礎柱		3.58		3.58		
	合計		61.49		41.78		

部位別合計

はり	531.39
壁	342.24
柱	251.91
基礎柱	73.73
合計	1199.27

9.4.7 柱軸力に加算しない重量（雑壁・任意点追加重量）

（固定荷重 + 地震用積載荷重）（kN）

層名	雑壁重量	任意点追加重量	追加重量
4F	0.00	0.00	0.00
3F	0.00	0.00	0.00
2F	0.00	0.00	738.11
1F	0.00	0.00	0.00
合計	0.00	0.00	738.11

9.5 層重量、床面積

w : 層重量 (KN) sum-w : その層より上の総重量 (KN)
 A : 各層の床面積 (㎡) sum-A : その層より上の全床面積 (㎡)
 w/A : 単位床面積当りの重量 (KN/㎡)

注) #: 直接入力値

診断時に考慮しない部材を指定した場合、X、Y方向の層重量は異なる場合があります。
 各層の床面積に片持ちスラブ、出隅片持ちスラブの面積を含みません。

階	w		A	w/A		sum-w		sum-A	階の補正係数	
	X方向	Y方向		X方向	Y方向	X方向	Y方向		X方向	Y方向
3F	299.74	299.74	13.77	21.77	21.77	299.74	299.74	13.77	0.667	0.667
2F	1836.09	1836.09	111.67	16.44	16.44	2135.84	2135.84	125.44	0.800	0.800
1F	2974.81	2974.81	126.54	23.51	23.51	5110.64	5110.64	251.98	1.000	1.000

9.6 柱及び壁の構成

C (=柱)		W (=壁)	
B : 柱幅 (cm)		t : 壁厚 (cm)	
D : 柱せい (cm)		Lw : 壁うちのり長さ (cm)	
ho : 柱うちのり高さ (cm)		hw : 壁高さ (cm)	
			: 壁の等価開口周比
			: 階高/全長に対する係数
			: 壁開口によるせん断耐力低減係数

()内は負加力時の値

部材符号	説明
□	独立柱
*□	そで壁付き柱 (柱付き壁)
□**□	耐震壁
+□+++□	増設(そで)壁
□###□	壁補強
@	柱補強

NI : 長期軸力

Fc : コンクリート圧縮強度

注) #付き : 直接入力値

柱補強, 壁補強は既設部のみを, 増設(そで)壁は既設, 増設部を出力します。

3F 階 X方向

No	通り	各部材の配置	軸	部材符号	B, t	D, Lw	ho, hw	NI			Fc
					(cm)	(cm)	(cm)	(KN)			
1	Y1	□	X2	[C]	44.0	44.0	217.5	31.90	4.94		15.00
2	Y1	□	X4	[C]	44.0	44.0	113.5	48.35	2.58		15.00
3	Y2	□*	X2	[C]	44.0	44.0	192.5	61.12	4.38		15.00
				W	15.0	181.0	555.0		2.50	15.00	
4	Y2	*□	X4	[C]	44.0	44.0	192.5	25.42	4.38		15.00
				W	15.0	41.0	555.0		1.00	15.00	

3F 階 Y方向

No	通り	各部材の配置	軸	部材符号	B, t	D, Lw	ho, hw	NI				Fc
					(cm)	(cm)	(cm)	(KN)				(N/mm2)
1	X2	□	Y1	[C]	44.0	44.0	217.5	31.90	4.94			15.00
2	X2	□	Y2	[C]	44.0	44.0	217.5	61.12	4.94			15.00
3	X4	□	Y1	[C]	44.0	44.0	217.5	48.35	4.94			15.00
4	X4	□	Y2	[C]	44.0	44.0	217.5	25.42	4.94			15.00

2F 階 X方向

No	通り	各部材の配置	軸	部材符号	B, t	D, Lw	ho, hw	NI				Fc
					(cm)	(cm)	(cm)	(KN)				(N/mm2)
1	Y1	□	X2	[C]	44.0	44.0	337.5	70.59	7.67			15.00
2	Y1	□	X4	[C]	44.0	44.0	337.5	121.38	7.67			15.00
3	Y2	□***□*	X2	[C]	44.0	44.0	795.0	59.08	18.07	0.00000	0.00000	15.00
			W		15.0	46.9	795.0	21.80	2.50			15.00
			X3	[C]	44.0	44.0	795.0	118.05	18.07			15.00
			W		15.0	90.0	795.0		2.50			15.00
4	Y2	*□*	W		15.0	41.0	675.0		1.00			15.00
			X4	[C]	44.0	44.0	163.5	100.31	3.72			15.00
			W		15.0	16.0	795.0		1.00			15.00
5	Y2	*□*	W		15.0	16.0	795.0		1.00			15.00
			X5	[C]	44.0	44.0	225.5	82.05	5.13			15.00
			W		15.0	16.0	795.0		1.00			15.00
6	Y2	*□	W		15.0	16.0	795.0		1.00			15.00
			X6	[C]	44.0	44.0	225.5	66.69	5.13			15.00
7	Y3	□	X3	[C]	44.0	44.0	337.5	129.77	7.67			15.00
8	Y3	□	X6	[C]	44.0	44.0	337.5	119.17	7.67			15.00
9	Y4	□*	X1	[C]	44.0	44.0	249.5	66.48	5.67			15.00
			W		15.0	70.0	795.0		1.00			15.00
10	Y4	*□	W		15.0	70.0	795.0		1.00			15.00
			X3	[C]	44.0	44.0	249.5	208.77	5.67			15.00
11	Y4	□	X6	[C]	44.0	44.0	337.5	118.43	7.67			15.00
12	Y5	□	X1	[C]	44.0	44.0	357.5	73.72	8.13			15.00
13	Y6	□*	X4	[C]	44.0	44.0	225.5	123.26	5.13			15.00
			W		15.0	16.0	795.0		1.00			15.00
14	Y6	*□*	W		15.0	16.0	795.0		1.00			15.00
			X5	[C]	44.0	44.0	225.5	80.46	5.13			15.00
			W		15.0	16.0	795.0		1.00			15.00
15	Y6	*□	W		15.0	16.0	795.0		1.00			15.00
			X6	[C]	44.0	44.0	225.5	66.30	5.13			15.00
16	Y7	□*	X1	[C]	44.0	44.0	249.5	67.76	5.67			15.00
			W		15.0	70.0	795.0		1.00			15.00
17	Y7	*□*	W		15.0	70.0	795.0		1.50			15.00
			X3	[C]	44.0	44.0	249.5	110.64	5.67			15.00
			W		15.0	25.0	795.0		1.50			15.00
18	Y7	*□	W		15.0	25.0	795.0		1.00			15.00
			X4	[C]	44.0	44.0	249.5	49.17	5.67			15.00

2F 階 Y方向

No	通り	各部材の配置	軸	部材符号	B, t	D, Lw	ho, hw	NI				Fc
					(cm)	(cm)	(cm)	(KN)				(N/mm2)
1	X1	□*	Y4	[C]	44.0	44.0	249.5	66.48	5.67			15.00
			W		15.0	53.0	795.0		1.00			15.00
2	X1	*□*	W		15.0	55.0	795.0		1.50			15.00
			Y5	[C]	44.0	44.0	249.5	73.72	5.67			15.00
3	X1	*□	W		15.0	53.0	795.0		1.00			15.00
			Y7	[C]	44.0	44.0	249.5	67.76	5.67			15.00
4	X2	□	Y1	[C]	44.0	44.0	337.5	70.59	7.67			15.00
5	X2	□	Y2	[C]	44.0	44.0	337.5	59.08	7.67			15.00
6	X3	□*	Y2	[C]	44.0	44.0	225.5	118.05	5.13			15.00
			W		15.0	31.0	795.0		1.00			15.00
7	X3	*□*	W		15.0	31.0	795.0		1.00			15.00
			Y3	[C]	44.0	44.0	225.5	129.77	5.13			15.00
			W		15.0	27.0	795.0		1.00			15.00
8	X3	*□	W		15.0	31.0	795.0		1.00			15.00
9	X3	□	Y4	[C]	44.0	44.0	138.5	208.77	3.15			15.00
			Y7	[C]	44.0	44.0	221.5	110.64	5.03			15.00
10	X4	□	Y1	[C]	44.0	44.0	337.5	121.38	7.67			15.00
11	X4	□	Y2	[C]	44.0	44.0	337.5	100.31	7.67			15.00
12	X4	□*	Y6	[C]	44.0	44.0	249.5	123.26	5.67			15.00
			W		15.0	26.0	795.0		1.00			15.00

No	通り	各部材の配置	軸	部材符号	B, t	D, Lw	ho, hw	NI				Fc
					(cm)	(cm)	(cm)	(KN)				(N/mm2)
13	X4	*□	Y7	W	15.0	21.0	795.0		1.00			15.00
				[C]	44.0	44.0	249.5	49.17	5.67		15.00	
14	X5	□	Y2	[C]	44.0	44.0	357.5	82.05	8.13			15.00
15	X5	□	Y6	[C]	44.0	44.0	357.5	80.46	8.13			15.00
16	X6	□*	Y2	[C]	44.0	44.0	225.5	66.69	5.13			15.00
				W	15.0	31.0	795.0		1.00		15.00	
17	X6	*□*	Y3	W	15.0	31.0	795.0		1.00			15.00
				[C]	44.0	44.0	225.5	119.17	5.13		15.00	
				W	15.0	31.0	795.0		1.00		15.00	
18	X6	*□*	Y4	W	15.0	31.0	795.0		1.00			15.00
				[C]	44.0	44.0	225.5	118.43	5.13		15.00	
				W	15.0	31.0	795.0		1.00		15.00	
19	X6	*□	Y6	W	15.0	31.0	795.0		1.00			15.00
				[C]	44.0	44.0	225.5	66.30	5.13		15.00	

1F 階 X方向

No	通り	各部材の配置	軸	部材符号	B, t	D, Lw	ho, hw	NI				Fc
					(cm)	(cm)	(cm)	(KN)				(N/mm2)
1	Y1	□	X2	[C]	44.0	44.0	350.0	157.36	7.95			15.00
2	Y1	□	X4	[C]	44.0	44.0	350.0	150.27	7.95			15.00
3	Y2	□***□*	X2	[C]	44.0	44.0	807.5	96.08	18.35	0.00000	0.00000	15.00
				W	15.0	46.9	807.5	37.83	1.00			15.00
				[C]	44.0	44.0	807.5	136.48	18.35			15.00
4	Y2	*□*	X4	W	15.0	28.0	807.5		1.00			15.00
				[C]	44.0	44.0	212.0	227.14	4.82		15.00	
				W	15.0	13.0	807.5		1.00		15.00	
5	Y2	*□*	X5	W	15.0	13.0	807.5		1.00			15.00
				[C]	44.0	44.0	262.0	187.17	5.95		15.00	
				W	15.0	13.0	807.5		1.00		15.00	
6	Y2	*□	X6	[C]	44.0	44.0	262.0	181.18	5.95			15.00
				W	15.0	13.0	807.5		1.00		15.00	
7	Y3	□	X3	[C]	44.0	44.0	350.0	101.62	7.95			15.00
8	Y3	□	X6	[C]	44.0	44.0	350.0	231.57	7.95			15.00
9	Y4	□***□	X1	[C]	44.0	44.0	820.0	87.31	18.64	0.00000	0.00000	15.00
				W	15.0	319.6	820.0	230.48	2.50			15.00
				[C]	44.0	44.0	820.0	124.26	18.64			15.00
10	Y4	□	X6	[C]	44.0	44.0	350.0	237.94	7.95			15.00
11	Y5	□	X1	[C]	44.0	44.0	370.0	158.86	8.41			15.00
12	Y6	□*	X4	[C]	44.0	44.0	262.0	257.94	5.95			15.00
				W	15.0	13.0	807.5		1.00		15.00	
				W	15.0	13.0	807.5		1.00		15.00	
13	Y6	*□*	X5	[C]	44.0	44.0	262.0	172.71	5.95			15.00
				W	15.0	13.0	807.5		1.00		15.00	
				W	15.0	13.0	807.5		1.00		15.00	
14	Y6	*□	X6	[C]	44.0	44.0	262.0	144.21	5.95			15.00
				W	15.0	13.0	807.5		1.00		15.00	
15	Y7	□*	X1	[C]	44.0	44.0	262.0	165.34	5.95			15.00
				W	15.0	70.0	807.5		1.00		15.00	
16	Y7	*□*	X3	W	15.0	70.0	807.5		1.50			15.00
				[C]	44.0	44.0	262.0	196.05	5.95		15.00	
				W	15.0	25.0	807.5		1.50		15.00	
17	Y7	*□	X4	W	15.0	25.0	807.5		1.00			15.00
				[C]	44.0	44.0	262.0	136.40	5.95		15.00	

1F 階 Y方向

No	通り	各部材の配置	軸	部材符号	B, t	D, Lw	ho, hw	NI				Fc
					(cm)	(cm)	(cm)	(KN)				(N/mm2)
1	X1	□*	Y4	[C]	44.0	44.0	262.0	87.31	5.95			15.00
				W	15.0	53.0	807.5		1.00		15.00	
2	X1	*□*	Y5	[C]	44.0	44.0	262.0	158.86	5.95			15.00
				W	15.0	55.0	807.5		1.50		15.00	
3	X1	*□	Y7	[C]	44.0	44.0	262.0	165.34	5.95			15.00
				W	15.0	53.0	807.5		1.00		15.00	
4	X2	□	Y1	[C]	44.0	44.0	350.0	157.36	7.95			15.00
5	X2	□	Y2	[C]	44.0	44.0	350.0	96.08	7.95			15.00
6	X3	□***□	Y2	[C]	44.0	44.0	820.0	136.48	18.64	0.00000	0.00000	15.00
				W	17.3	562.0	820.0	542.74	3.50			15.00
				[C]	44.0	44.0	820.0	124.26	18.64			15.00
7	X3	□	Y7	[C]	44.0	44.0	350.0	196.05	7.95			15.00

No	通り	各部材の配置	軸	部材符号	B, t	D, Lw	ho, hw	NI				Fc
					(cm)	(cm)	(cm)	(KN)				(N/mm2)
8	X4	□	Y1	[C]	44.0	44.0	350.0	150.27	7.95			15.00
9	X4	□	Y2	[C]	44.0	44.0	350.0	227.14	7.95			15.00
10	X4	□*	Y6	[C]	44.0	44.0	262.0	257.94	5.95			15.00
				W	15.0	26.0	807.5		1.00			15.00
11	X4	*□		W	15.0	21.0	807.5		1.00			15.00
			Y7	[C]	44.0	44.0	262.0	136.40	5.95			15.00
12	X5	□	Y2	[C]	44.0	44.0	370.0	187.17	8.41			15.00
13	X5	□	Y6	[C]	44.0	44.0	370.0	172.71	8.41			15.00
14	X6	*□*		W	15.0	78.0	820.0		1.50			15.00
			Y2	[C]	44.0	44.0	262.0	181.18	5.95			15.00
				W	15.0	31.0	807.5		1.50			15.00
15	X6	*□*		W	15.0	31.0	807.5		1.00			15.00
			Y3	[C]	44.0	44.0	262.0	231.57	5.95			15.00
				W	15.0	31.0	807.5		1.00			15.00
16	X6	*□*		W	15.0	31.0	807.5		1.00			15.00
			Y4	[C]	44.0	44.0	262.0	237.94	5.95			15.00
				W	15.0	31.0	807.5		1.00			15.00
17	X6	*□		W	15.0	31.0	807.5		1.00			15.00
			Y6	[C]	44.0	44.0	262.0	144.21	5.95			15.00

9.7 壁量、柱量、壁率、柱率

Ac : 柱量 Ac/ Af : 柱率 Af : 延べ床面積
 Aw : 壁量 Aw/ Af : 壁率(雑壁含まず)
 Aw' : 雑壁量 (Aw+Aw')/ Af : 壁率(雑壁含む)
 注) (雑)壁量、壁率には開口低減率は考慮されていません。

X方向

階	Ac	Aw	Aw'	Ac/ Af	Aw/ Af	(Aw+Aw')/ Af
	(cm ²)	(cm ²)	(cm ²)	(cm ² /m ²)	(cm ² /m ²)	(cm ² /m ²)
3F	3872.0	4650.0	0.0	281.275	337.791	337.791
2F	11616.0	17788.5	0.0	92.605	141.813	141.813
1F	11616.0	17587.5	0.0	46.099	69.797	69.797

Y方向

階	Ac	Aw	Aw'	Ac/ Af	Aw/ Af	(Aw+Aw')/ Af
	(cm ²)	(cm ²)	(cm ²)	(cm ² /m ²)	(cm ² /m ²)	(cm ² /m ²)
3F	7744.0	0.0	0.0	562.550	0.000	0.000
2F	13552.0	16455.0	0.0	108.039	131.182	131.182
1F	13552.0	24310.9	0.0	53.782	96.479	96.479

9.8 層剛性、原点周りの層剛性(応力計算による、雑壁を考慮した値)

STIF1 : 層剛性
 STIF2 : 層剛性の剛心周りの1次モーメント

階	X方向		Y方向	
	STIF1X	STIF2X	STIF1Y	STIF2Y
	(KN/cm)	(KN・cm)	(KN/cm)	(KN・cm)
3F	4.794461e+003	3.416826e+008	5.703105e+003	3.416826e+008
2F	1.345996e+004	6.348780e+009	1.583603e+004	6.348780e+009
1F	2.522771e+004	1.367424e+010	2.581913e+004	1.367424e+010

§ 10. 診断計算

10.1 保有性能基本指標(正加力時)

10.1.1 部材の終局強度と靱性能(正加力時)

no :部材番号
 *付きは片側のそで壁が指定長さ未満の場合で、耐力、剛性、靱性指標の計算に無視します。
 (b)付きは増設^ラレスの側柱です。
 Ld :そで壁長さを含む全部材長さ(2017年版の場合、柱せい)(cm) h0 :柱のうちのり高さ(cm) hs :構造階高(cm)
 hcw0 :反曲点高さ(独立柱の場合、 $hcw0=h0 \cdot \mu_B / (\mu_T + \mu_B)$)(cm)
 剛性 :水平剛性(耐震壁の場合は開口低減率 =1 - 1.25 考慮)(cm^3)
 A :部材全断面積(cm^2) Ag :剛性計算に用いる部材断面積(cm^2)
 Mu :曲げ終局強度(KN・m) Qsu :せん断終局強度(KN) Qmu :曲げ終局強度時せん断力(KN)
 $\min\{T, B\}$ (T付き:T<B, B付き:T>B)
 su : Qsu / A' (N/mm^2) $\mu / Fc : (Qmu / A') / Fc$ Qsu/Qmu:せん断余裕度(F値用)
 A' :独立柱= $B \cdot 0.8D /$, =1.0、その他= $A(1 -) /$, =1.2、そで壁付柱 =0 (cm^2)
 F値 :靱性指標
 Ncu :柱の圧縮終局強度 FcBD (KN)
 NL :部材長期軸力(耐震壁の場合は壁長期軸力も考慮します)(KN)
 NL :部材長期軸力 (KN)
 タイプ :破壊タイプ
 CSS=極脆性柱(SRC階はCSS=脆性柱) WS=せん断壁 CS=せん断柱
 WB=曲げ壁 CB=曲げ柱 CWSS=極脆性そで壁付柱
 WCB=曲げ柱型付壁 WCS=せん断柱型付壁 CWB=曲げそで壁付柱 CWS=せん断そで壁付柱
 Ns :部材短期軸力(耐震壁の場合は壁軸力も考慮します。)(KN)
 be :等価厚さ(独立柱のみ出力)(cm) kr :コンクリート強度による低減係数
 注) #付き:直接入力 !付き:既存部材の補正係数部材 付き:逆せん断が発生した部材
 Qsu(SRC造は指定より、FcまたはQsu)に、軽量コンクリート低減係数をかけています。(1種、2種=0.9 3種、4種=0.8)
 以降はF値の出力結果は末尾の下の桁を切り捨てています。
 部材番号に+付きの場合、傾斜部材の直交成分になります。

(1) 計算結果(正加力時)

3F 階 +X方向 (RC)

NO.	鉛直部材 通り-軸名	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値 タイプ°
		h0/Ld	Ag	kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	
		hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
1	□	44.0	1936.0	44.0	31.9	101.2	93.1	0.040	2.59
	Y1-X2	4.943	1936.0	1.00	31.9	101.2	139.3	0.90	CB
		108.8	1936.0		2904.0	0.011	1.496	15.00	
2	□	44.0	1936.0	44.0	48.4	103.9	183.0	0.079	1.00
	Y1-X4	2.580	1936.0	1.00	48.4	103.9	190.7	1.23	CB
		56.8	1936.0		2904.0	0.017	1.042	15.00	
3	□*	225.0	4651.0		61.1	380.5	580.7T	0.100	1.00
	Y2-X2	4.375	3375.0	1.00	61.1	1191.3	781.2	2.02	WCB
		65.5	8437.5		2904.0	0.021	1.345	15.00	
4	*□	85.0	2551.0		25.4	279.0	181.4B	0.057	1.00
	Y2-X4	4.375	1275.0	1.00	25.4	143.2	288.6	1.36	WCB
		78.9	1275.0		2904.0	0.009	1.591	15.00	

破壊形式別の耐力の集計(この集計に増設^ラレスの側柱は含みません)(KN)

極脆性柱(CSS CWSS)= 0.0
 せん断柱(CS CWS)= 0.0 曲げ柱(CB CWB)= 276.1
 せん断壁(WS WCS)= 0.0 曲げ壁(WB WCB)= 762.0
 合計 =1038.14

(2) 結果内訳(正加力時)

h0 :柱のうちのり高さ(cm) H0 :はり下から床上までの柱うちのり標準寸法 (cm)
 hcw0 :反曲点高さ (cm) cos v: vは立面的な柱の傾斜角度
 $Ns / (b \cdot D \cdot Fc)$ $n' : (- L) / (H - L)$
 s :帯筋間隔 (mm) db :柱脚主筋径 (mm)
 cTu / Fc :柱の終局せん断応力度 $cTu / Fc = \min(Qmu / (b \cdot j), Qsu / (b \cdot j))$
 pt :柱脚引張鉄筋比 (%)
 Rsu :部材のせん断終局層間変形角 Rmu :部材の曲げ終局層間変形角
 Rmy :柱の降伏変形角 cRmy :柱の曲げ降伏部材角

cRmu : 柱の終局変形角
 cRmp : 柱の塑性変形角
 cRmax : 柱の曲げ終局変形角の上限
 cwRmu : 袖壁付き柱の曲げ終局変形角
 cwRmy : 袖壁付き柱の曲げ降伏部材角
 cwRmax : 袖壁付き柱の曲げ終局変形角の上限
 独立柱のcRmax記号 : cRmax(n), cRmax(s), cRmax(t), cRmax(b), cRmax(h)のうち、
 最小値となるものの記号
 (n):軸力による曲げ終局変形角の上限
 (s):せん断応力による曲げ終局変形角の上限
 (t):引張主筋比による曲げ終局変形角の上限
 (b):帯筋間隔による曲げ終局変形角の上限
 (h):うちのり高さによる曲げ終局変形角の上限
 (c):SRF補強時の拘束条件による終局変形角の上限
 そで壁付き柱のcwRmax記号 : cRmax(su), cRmax(s), cRmax(b), cRmax(h)のうち、
 最小値となるものの記号
 Qsu1 : 等価壁厚さ置換による袖壁付き柱の断終局強度 (KN)
 Qsu2 : 分割累加による袖壁付き柱の断終局強度 (KN)
 Qsu3 : そで壁を無視し、独立柱として算定したせん断終局強度 (KN)
 注) Qsu1、Qsu2、Qsu3は柱頭、柱脚の平均値
 #付き : 直接入力値

3F 階 +X方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ°
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
1	□	217.5	350.0	0.20	1/88	1/150	1/150	1/50		CB
	Y1-X2	217.5	19	0.40	1/50	1/50	1/38	(b)		
	柱	108.8	0.040	0.01						
2	□	113.5	350.0	0.20	1/236	1/250	1/180	1/50		CB
	Y1-X4	217.5	19	0.40	1/250	1/180	0	(b)		
	柱	56.8	0.079	0.02						
3	□*	192.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	470.2	WCB
	Y2-X2	217.5	19	0.40	1/250	1/250		(h)	781.2	
	柱付き壁	65.5	0.250	0.02					143.6	
4	*□	192.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	285.2	WCB
	Y2-X4	217.5	19	0.40	1/250	1/250		(h)	288.6	
	柱付き壁	78.9	0.078	0.01					140.8	
		---	0.44	-0.96						

(1) 計算結果(正加力時)

3F 階 +Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
	通り-軸名	h0/Ld	Ag	kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	タイプ°
		hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
1	□	44.0	1936.0	44.0	31.9	72.2	66.4	0.029	2.59
	X2-Y1	4.943	1936.0	1.00	31.9	72.2	132.9	0.86	CB
		108.8	1936.0		2904.0	0.011	2.001	15.00	
2	□	44.0	1936.0	44.0	61.1	77.3	71.1	0.031	2.59
	X2-Y2	4.943	1936.0	1.00	61.1	77.3	135.2	0.87	CB
		108.8	1936.0		2904.0	0.021	1.903	15.00	
3	□	44.0	1936.0	44.0	48.4	75.1	69.1	0.030	2.59
	X4-Y1	4.943	1936.0	1.00	48.4	75.1	134.2	0.87	CB
		108.8	1936.0		2904.0	0.017	1.943	15.00	
4	□	44.0	1936.0	44.0	25.4	71.1	65.4	0.028	2.59
	X4-Y2	4.943	1936.0	1.00	25.4	71.1	132.4	0.85	CB
		108.8	1936.0		2904.0	0.009	2.025	15.00	

破壊形式別の耐力の集計(この集計に増設レベルの側柱は含みません)(KN)

極脆性柱(CSS CWSS)= 0.0
 せん断柱(CS CWS)= 0.0 曲げ柱(CB CWB)= 272.0
 せん断壁(WS WCS)= 0.0 曲げ壁(WB WCB)= 0.0
 合計 =271.98

(2) 結果内訳(正加力時)

3F 階 +Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ°
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
1	□	217.5	350.0	0.20	1/62	1/150	1/150	1/50	CB	
	X2-Y1	217.5	19	0.40	1/50	1/50	1/17	(b)		
	柱	108.8	0.029	0.01						
		---	0.29	-0.95						
2	□	217.5	350.0	0.20	1/66	1/150	1/150	1/50	CB	
	X2-Y2	217.5	19	0.40	1/50	1/50	1/19	(b)		
	柱	108.8	0.031	0.02						
		---	0.29	-0.89						
3	□	217.5	350.0	0.20	1/64	1/150	1/150	1/50	CB	
	X4-Y1	217.5	19	0.40	1/50	1/50	1/18	(b)		
	柱	108.8	0.030	0.02						
		---	0.29	-0.92						
4	□	217.5	350.0	0.20	1/61	1/150	1/150	1/50	CB	
	X4-Y2	217.5	19	0.40	1/50	1/50	1/16	(b)		
	柱	108.8	0.028	0.01						
		---	0.29	-0.96						

(1) 計算結果(正加力時)

2F 階 +X方向 (RC)

NO.	鉛直部材 通り-軸名	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
		h0/Ld	Ag	kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	タイプ°
		hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
1	□	44.0	1936.0	44.0	70.6	107.3	63.6	0.027	2.58
	Y1-X2	7.670	1936.0	1.00	70.6	107.3	142.4	0.92	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.024	2.239	15.00	
2	□	44.0	1936.0	44.0	121.4	115.1	68.2	0.029	2.58
	Y1-X4	7.670	1936.0	1.00	121.4	115.1	146.5	0.95	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.042	2.147	15.00	
3	□**□*	224.9	5925.5		198.9	948.9	645.6B	0.087	1.00
	Y2-X2 X3		3043.5	1.00	198.9	1649.1	495.4	1.00	WS
		255.4	7608.8				0.767	15.00	
4	*□*	101.0	2791.0		100.3	338.2	251.9B	0.072	1.00
	Y2-X4	3.716	1515.0	1.00	100.3	208.6	331.7	1.43	WCB
		82.8	1515.0		2904.0	0.035	1.317	15.00	
5	*□*	76.0	2416.0		82.1	181.8	160.9B	0.053	1.04
	Y2-X5	5.125	1140.0	1.00	82.1	181.8	219.1	1.09	CWB
		113.0	1140.0		2904.0	0.028	1.362	15.00	
6	*□	60.0	2176.0		66.7	156.4	107.9B	0.040	1.04
	Y2-X6	5.125	900.0	1.00	66.7	127.1	198.0	1.09	CWB
		117.8	900.0		2904.0	0.023	1.834	15.00	
7	□	44.0	1936.0	44.0	129.8	116.4	69.0	0.030	2.58
	Y3-X3	7.670	1936.0	1.00	129.8	116.4	147.1	0.95	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.045	2.134	15.00	
8	□	44.0	1936.0	44.0	119.2	114.8	68.0	0.029	2.58
	Y3-X6	7.670	1936.0	1.00	119.2	114.8	146.3	0.94	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.041	2.151	15.00	
9	□*	114.0	2986.0		66.5	182.5	203.3T	0.054	1.00
	Y4-X1	5.670	1710.0	1.00	66.5	468.5	356.9	1.43	WCB
		89.8	1710.0		2904.0	0.023	1.756	15.00	
10	*□	114.0	2986.0		208.8	559.9	135.9B	0.036	1.09
	Y4-X3	5.670	1710.0	1.00	208.8	202.1	292.2	1.17	WCB
		148.7	1710.0		2904.0	0.072	2.150	15.00	
11	□	44.0	1936.0	44.0	118.4	114.7	67.9	0.029	2.58
	Y4-X6	7.670	1936.0	1.00	118.4	114.7	146.2	0.94	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.041	2.152	15.00	
12	□	44.0	1936.0	44.0	73.7	107.8	60.3	0.026	2.59
	Y5-X1	8.125	1936.0	1.00	73.7	107.8	142.7	0.92	CB
		178.8	1936.0		2904.0	0.025	2.365	15.00	
13	□*	60.0	2176.0		123.3	135.5	73.8T	0.027	1.04
	Y6-X4	5.125	900.0	1.00	123.3	167.7	203.6	1.12	CWB
		183.5	900.0		2904.0	0.042	2.759	15.00	

NO.	鉛直部材 通り-軸名	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
		h0/Ld	Ag		Ns	Mu-B	Qsu	su	タイ°
		hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
14	*□*	76.0	2416.0		80.5	181.4	160.6B	0.053	1.04
	Y6-X5	5.125	1140.0	1.00	80.5	181.4	218.9	1.09	CWB
		113.0	1140.0		2904.0	0.028	1.363	15.00	
15	*□	60.0	2176.0		66.3	156.4	109.1B	0.040	1.04
	Y6-X6	5.125	900.0	1.00	66.3	127.0	197.9	1.09	CWB
		116.5	900.0		2904.0	0.023	1.815	15.00	
16	□*	114.0	2986.0		67.8	188.8	148.3T	0.040	1.09
	Y7-X1	5.670	1710.0	1.00	67.8	469.4	293.6	1.18	WCB
		127.3	1710.0		2904.0	0.023	1.980	15.00	
17	*□*	139.0	3361.0		110.6	550.7	218.9B	0.052	1.00
	Y7-X3	5.670	2085.0	1.00	110.6	295.3	357.9	1.28	WCB
		134.9	3127.5		2904.0	0.038	1.635	15.00	
18	*□	69.0	2311.0		49.2	199.0	99.2B	0.034	1.09
	Y7-X4	5.670	1035.0	1.00	49.2	136.8	203.2	1.06	CWB
		137.9	1035.0		2904.0	0.017	2.049	15.00	

破壊形式別の耐力の集計(この集計に増設ブレースの側柱は含みません)(KN)

極脆性柱(CSS CWSS)= 0.0

せん断柱(CS CWS)= 0.0 曲げ柱(CB CWB)= 1108.5

せん断壁(WS WCS)= 495.4 曲げ壁(WB WCB)= 958.1

合計 =2562.04

(2) 結果内訳(正加力時)

2F 階 +X方向 (RC)

NO.	鉛直部材 通り-軸名 部材の分類	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイ°
		H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
		hcw0	cTu/Fc	n'					Qsu3	
		cos v	pt							
1	□	337.5	350.0	0.20	1/54	1/150	1/150	1/50		CB
	Y1-X2	338.6	19	0.40	1/50	1/50	1/13	(b)		
	柱	168.8	0.027	0.02						
		---	0.44	-0.88						
2	□	337.5	350.0	0.20	1/57	1/150	1/150	1/50		CB
	Y1-X4	338.6	19	0.40	1/50	1/50	1/14	(b)		
	柱	168.8	0.029	0.04						
		---	0.44	-0.79						
3	□***□*									WS
	Y2-X2 X3									
	壁	255.4								
4	*□*	163.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	321.1	WCB
	Y2-X4	338.6	19	0.40	1/250	1/250		(h)	331.7	
	柱付き壁	82.8	0.108	0.03					159.3	
		---	0.44	-0.83						
5	*□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	219.1	CWB
	Y2-X5	338.6	19	0.40	1/225	1/150		(b)	211.9	
	そで壁付き柱	113.0	0.069	0.03					143.3	
		---	0.44	-0.86						
6	*□	225.5	350.0	0.20		1/250	1/212	1/150	198.0	CWB
	Y2-X6	338.6	19	0.40	1/225	1/150		(b)	174.3	
	そで壁付き柱	117.8	0.046	0.02					142.1	
		---	0.44	-0.89						
7	□	337.5	350.0	0.20	1/57	1/150	1/150	1/50		CB
	Y3-X3	338.6	19	0.40	1/50	1/50	1/15	(b)		
	柱	168.8	0.030	0.04						
		---	0.44	-0.78						
8	□	337.5	350.0	0.20	1/57	1/150	1/150	1/50		CB
	Y3-X6	338.6	19	0.40	1/50	1/50	1/14	(b)		
	柱	168.8	0.029	0.04						
		---	0.44	-0.79						
9	□*	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	331.4	WCB
	Y4-X1	338.6	19	0.40	1/250	1/250		(h)	356.9	
	柱付き壁	89.8	0.087	0.02					142.1	
		---	0.44	-0.89						

2F 階 +X方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
10	*□	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	261.5	WCB
	Y4-X3	338.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	292.2	
	柱付き壁	148.7	0.058	0.07					153.5	
		---	0.44	-0.64						
11	□	337.5	350.0	0.20	1/57	1/150	1/150	1/50		CB
	Y4-X6	338.6	19	0.40	1/50	1/50	1/14	(b)		
	柱	168.8	0.029	0.04						
		---	0.44	-0.80						
12	□	357.5	350.0	0.20	1/51	1/150	1/150	1/50		CB
	Y5-X1	338.6	19	0.40	1/50	1/50	1/12	(b)		
	柱	178.8	0.026	0.03						
		---	0.44	-0.87						
13	□*	225.5	350.0	0.20		1/225	1/150	1/150	203.6	CWB
	Y6-X4	338.6	19	0.40	1/225	1/150		(b)	176.5	
	そで壁付き柱	183.5	0.032	0.04					146.6	
		---	0.44	-0.79						
14	*□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	218.9	CWB
	Y6-X5	338.6	19	0.40	1/225	1/150		(b)	211.7	
	そで壁付き柱	113.0	0.069	0.03					143.2	
		---	0.44	-0.86						
15	*□	225.5	350.0	0.20		1/250	1/216	1/150	197.9	CWB
	Y6-X6	338.6	19	0.40	1/225	1/150		(b)	174.9	
	そで壁付き柱	116.5	0.047	0.02					142.1	
		---	0.44	-0.89						
16	□*	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	269.6	WCB
	Y7-X1	338.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	293.6	
	柱付き壁	127.3	0.064	0.02					142.2	
		---	0.44	-0.88						
17	*□*	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	309.2	WCB
	Y7-X3	338.6	19	0.40	1/250	1/250		(h)	357.9	
	柱付き壁	134.9	0.094	0.04					145.6	
		---	0.44	-0.81						
18	*□	249.5	350.0	0.20		1/250	1/193	1/150	203.2	CWB
	Y7-X4	338.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	181.2	
	そで壁付き柱	137.9	0.043	0.02					140.7	
		---	0.44	-0.92						

(1) 計算結果(正加力時)

2F 階 +Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
	通り-軸名	h0/Ld	Ag	kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	タイプ
		hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
1	□*	97.0	2731.0		66.5	134.8	110.4T	0.032	1.09
	X1-Y4	5.670	1455.0	1.00	66.5	275.5	251.3	1.10	WCB
		122.1	1455.0		2904.0	0.023	2.276	15.00	
2	*□*	154.0	3586.0		73.7	380.0	295.8B	0.066	1.00
	X1-Y5	5.670	2310.0	1.00	73.7	380.0	403.6	1.35	WCB
		128.5	3465.0		2904.0	0.025	1.365	15.00	
3	*□	97.0	2731.0		67.8	276.3	106.6B	0.031	1.09
	X1-Y7	5.670	1455.0	1.00	67.8	137.7	245.4	1.08	WCB
		129.1	1455.0		2904.0	0.023	2.302	15.00	
4	□	44.0	1936.0	44.0	70.6	78.9	46.8	0.020	2.58
	X2-Y1	7.670	1936.0	1.00	70.6	78.9	136.0	0.88	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.024	2.908	15.00	
5	□	44.0	1936.0	44.0	59.1	77.0	45.6	0.020	2.58
	X2-Y2	7.670	1936.0	1.00	59.1	77.0	135.1	0.87	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.020	2.962	15.00	
6	□*	75.0	2401.0		118.0	120.4	117.1T	0.039	1.04
	X3-Y2	5.125	1125.0	1.00	118.0	200.6	224.7	1.12	WCB
		102.8	1125.0		2904.0	0.041	1.920	15.00	
7	*□*	102.0	2806.0		129.8	243.4	191.5B	0.055	1.04
	X3-Y3	5.125	1530.0	1.00	129.8	226.5	274.5	1.17	WCB
		118.3	1530.0		2904.0	0.045	1.434	15.00	

NO.	鉛直部材 通り-軸名	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
		h0/Ld	Ag	kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	タイ°
		hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
8	*□	75.0	2401.0		208.8	230.1	187.3B	0.062	1.00
	X3-Y4	3.148	1125.0	1.00	208.8	134.1	285.8	1.43	WCB
		71.6	1125.0		2904.0	0.072	1.526	15.00	
9	□	44.0	1936.0	44.0	110.6	88.0	79.4	0.034	2.07
	X3-Y7	5.034	1936.0	1.00	110.6	88.0	143.0	0.92	CB
		110.8	1936.0		2904.0	0.038	1.800	15.00	
10	□	44.0	1936.0	44.0	121.4	87.4	51.8	0.022	2.58
	X4-Y1	7.670	1936.0	1.00	121.4	87.4	140.1	0.90	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.042	2.704	15.00	
11	□	44.0	1936.0	44.0	100.3	83.9	49.7	0.021	2.58
	X4-Y2	7.670	1936.0	1.00	100.3	83.9	138.4	0.89	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.035	2.782	15.00	
12	□*	70.0	2326.0		123.3	116.7	94.4T	0.032	1.09
	X4-Y6	5.670	1050.0	1.00	123.3	179.0	200.8	1.04	CWB
		123.6	1050.0		2904.0	0.042	2.126	15.00	
13	*□	65.0	2251.0		49.2	136.6	80.2B	0.029	1.09
	X4-Y7	5.670	975.0	1.00	49.2	102.6	189.6	1.01	CWB
		127.9	975.0		2904.0	0.017	2.364	15.00	
14	□	44.0	1936.0	44.0	82.1	80.9	45.2	0.019	2.59
	X5-Y2	8.125	1936.0	1.00	82.1	80.9	136.9	0.88	CB
		178.8	1936.0		2904.0	0.028	3.027	15.00	
15	□	44.0	1936.0	44.0	80.5	80.6	45.1	0.019	2.59
	X5-Y6	8.125	1936.0	1.00	80.5	80.6	136.8	0.88	CB
		178.8	1936.0		2904.0	0.028	3.034	15.00	
16	□*	75.0	2401.0		66.7	112.1	97.7T	0.033	1.04
	X6-Y2	5.125	1125.0	1.00	66.7	182.4	206.8	1.03	WCB
		114.7	1125.0		2904.0	0.023	2.116	15.00	
17	*□*	106.0	2866.0		119.2	244.2	209.9B	0.059	1.04
	X6-Y3	5.125	1590.0	1.00	119.2	244.2	286.2	1.20	WCB
		116.4	1590.0		2904.0	0.041	1.364	15.00	
18	*□*	106.0	2866.0		118.4	244.0	211.8B	0.059	1.04
	X6-Y4	5.125	1590.0	1.00	118.4	244.0	287.7	1.20	WCB
		115.2	1590.0		2904.0	0.041	1.358	15.00	
19	*□	75.0	2401.0		66.3	182.2	96.5B	0.032	1.04
	X6-Y6	5.125	1125.0	1.00	66.3	112.1	205.4	1.03	WCB
		116.1	1125.0		2904.0	0.023	2.129	15.00	

破壊形式別の耐力の集計(この集計に増設グレースの側柱は含みません)(KN)

極脆性柱(CSS CWSS)= 0.0
 せん断柱(CS CWS)= 0.0 曲げ柱(CB CWB)= 538.3
 せん断壁(WS WCS)= 0.0 曲げ壁(WB WCB)= 1624.5
 合計 =2162.85

(2) 結果内訳(正加力時)

2F 階 +Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材 通り-軸名	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイ°
		H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
		hcw0	cTu/Fc	n'					Qsu3	
		cos v	pt							
1	□*	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	232.1	WCB
	X1-Y4	339.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	251.3	
	柱付き壁	122.1	0.048	0.02					135.7	
		---	0.29	-0.89						
2	*□*	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	323.0	WCB
	X1-Y5	339.6	19	0.40	1/250	1/250		(h)	403.6	
	柱付き壁	128.5	0.127	0.03					136.3	
		---	0.29	-0.87						
3	*□	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	225.3	WCB
	X1-Y7	339.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	245.4	
	柱付き壁	129.1	0.046	0.02					135.8	
		---	0.29	-0.88						
4	□	337.5	350.0	0.20	1/41	1/151	1/150	1/50		CB
	X2-Y1	339.6	19	0.40	1/50	1/50	1/8	(b)		
	柱	168.8	0.020	0.02						
		---	0.29	-0.88						

2F 階 +Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
5	□	337.5	350.0	0.20	1/40	1/151	1/150	1/50		CB
	X2-Y2	339.6	19	0.40	1/50	1/50	1/8	(b)		
	柱	168.8	0.020	0.02						
		---	0.29	-0.90						
6	□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	220.2	WCB
	X3-Y2	339.6	19	0.40	1/226	1/150		(b)	224.7	
	柱付き壁	102.8	0.050	0.04					139.8	
		---	0.29	-0.80						
7	*□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	251.0	WCB
	X3-Y3	339.6	19	0.40	1/226	1/150		(b)	274.5	
	柱付き壁	118.3	0.082	0.04					140.7	
		---	0.29	-0.78						
8	*□	138.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	279.6	WCB
	X3-Y4	339.6	19	0.40	1/250	1/250		(h)	285.8	
	柱付き壁	71.6	0.081	0.07					173.7	
		---	0.29	-0.64						
9	□	221.5	350.0	0.20	1/107	1/230	1/150	1/50		CB
	X3-Y7	339.6	19	0.40	1/77	1/50	1/21	(b)		
	柱	110.8	0.034	0.04						
		---	0.29	-0.81						
10	□	337.5	350.0	0.20	1/44	1/151	1/150	1/50		CB
	X4-Y1	339.6	19	0.40	1/50	1/50	1/9	(b)		
	柱	168.8	0.022	0.04						
		---	0.29	-0.79						
11	□	337.5	350.0	0.20	1/43	1/151	1/150	1/50		CB
	X4-Y2	339.6	19	0.40	1/50	1/50	1/9	(b)		
	柱	168.8	0.021	0.03						
		---	0.29	-0.83						
12	□*	249.5	350.0	0.20		1/250	1/225	1/150	200.8	CWB
	X4-Y6	339.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	193.6	
	そで壁付き柱	123.6	0.041	0.04					140.2	
		---	0.29	-0.79						
13	*□	249.5	350.0	0.20		1/250	1/203	1/150	189.6	CWB
	X4-Y7	339.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	170.9	
	そで壁付き柱	127.9	0.035	0.02					134.3	
		---	0.29	-0.92						
14	□	357.5	350.0	0.20	1/39	1/150	1/150	1/50		CB
	X5-Y2	339.6	19	0.40	1/50	1/50	1/8	(b)		
	柱	178.8	0.019	0.03						
		---	0.29	-0.86						
15	□	357.5	350.0	0.20	1/38	1/150	1/150	1/50		CB
	X5-Y6	339.6	19	0.40	1/50	1/50	1/8	(b)		
	柱	178.8	0.019	0.03						
		---	0.29	-0.86						
16	□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	202.7	WCB
	X6-Y2	339.6	19	0.40	1/226	1/150		(b)	206.8	
	柱付き壁	114.7	0.042	0.02					135.7	
		---	0.29	-0.89						
17	*□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	259.0	WCB
	X6-Y3	339.6	19	0.40	1/226	1/150		(b)	286.2	
	柱付き壁	116.4	0.090	0.04					139.9	
		---	0.29	-0.79						
18	*□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	260.4	WCB
	X6-Y4	339.6	19	0.40	1/226	1/150		(b)	287.7	
	柱付き壁	115.2	0.091	0.04					139.8	
		---	0.29	-0.80						
19	*□	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	201.4	WCB
	X6-Y6	339.6	19	0.40	1/226	1/150		(b)	205.4	
	柱付き壁	116.1	0.042	0.02					135.7	
		---	0.29	-0.89						

(1) 計算結果(正加力時)

1F 階 +X方向 (RC)

NO.	鉛直部材 通り-軸名	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
		h0/Ld	Ag	kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	タイプ
		hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
1	□	44.0	1936.0	44.0	157.4	146.6	83.8	0.036	2.58
	Y1-X2	7.955	1936.0	1.00	157.4	146.6	154.3	1.00	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.054	1.842	15.00	
2	□	44.0	1936.0	44.0	150.3	145.6	83.2	0.036	2.58
	Y1-X4	7.955	1936.0	1.00	150.3	145.6	153.8	0.99	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.052	1.848	15.00	
3	□***□*	162.9	4995.5		270.4	1282.9	517.2B	0.083	1.00
	Y2-X2 X3		1363.5	1.00	270.4	1421.7	383.3	0.92	WS
		274.9	1363.5				0.741	15.00	
4	*□*	85.0	2551.0		227.1	313.2	189.6B	0.059	1.00
	Y2-X4	4.818	1275.0	1.00	227.1	233.6	247.9	1.17	CWB
		123.2	1275.0		2904.0	0.078	1.308	15.00	
5	*□*	70.0	2326.0		187.2	214.9	157.5B	0.054	1.09
	Y2-X5	5.955	1050.0	1.00	187.2	214.9	226.1	1.17	CWB
		136.4	1050.0		2904.0	0.064	1.435	15.00	
6	*□	57.0	2131.0		181.2	195.4	119.7B	0.045	1.09
	Y2-X6	5.955	855.0	1.00	181.2	166.8	215.1	1.21	CWB
		139.4	855.0		2904.0	0.062	1.797	15.00	
7	□	44.0	1936.0	44.0	101.6	138.9	79.4	0.034	2.58
	Y3-X3	7.955	1936.0	1.00	101.6	138.9	149.9	0.97	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.035	1.888	15.00	
8	□	44.0	1936.0	44.0	231.6	156.3	89.3	0.038	2.58
	Y3-X6	7.955	1936.0	1.00	231.6	156.3	160.3	1.03	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.080	1.795	15.00	
9	□***□	407.6	8666.0		442.1	4853.1	1365.3B	0.126	1.14
	Y4-X1 X3		5454.0	1.00	442.1	4853.1	1423.9	1.97	WB
		355.5	13635.0				1.043	15.00	
10	□	44.0	1936.0	44.0	237.9	157.1	89.7	0.039	2.58
	Y4-X6	7.955	1936.0	1.00	237.9	157.1	160.8	1.04	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.082	1.791	15.00	
11	□	44.0	1936.0	44.0	158.9	146.8	79.3	0.034	2.59
	Y5-X1	8.409	1936.0	1.00	158.9	146.8	154.4	1.00	CB
		185.0	1936.0		2904.0	0.055	1.947	15.00	
12	□*	57.0	2131.0		257.9	176.3	140.7B	0.053	1.09
	Y6-X4	5.955	855.0	1.00	257.9	207.9	222.7	1.25	CWB
		147.8	855.0		2904.0	0.089	1.583	15.00	
13	*□*	70.0	2326.0		172.7	212.5	157.0B	0.054	1.09
	Y6-X5	5.955	1050.0	1.00	172.7	212.5	224.7	1.16	CWB
		135.3	1050.0		2904.0	0.059	1.431	15.00	
14	*□	57.0	2131.0		144.2	189.2	117.4B	0.044	1.09
	Y6-X6	5.955	855.0	1.00	144.2	162.1	211.4	1.19	CWB
		138.1	855.0		2904.0	0.050	1.801	15.00	
15	□*	114.0	2986.0		165.3	233.7	210.4T	0.056	1.00
	Y7-X1	5.955	1710.0	1.00	165.3	633.9	329.8	1.33	WCB
		111.0	1710.0		2904.0	0.057	1.567	15.00	
16	*□*	139.0	3361.0		196.1	698.5	236.5B	0.056	1.09
	Y7-X3	5.955	2085.0	1.00	196.1	347.2	358.8	1.28	WCB
		146.8	3127.5		2904.0	0.068	1.517	15.00	
17	*□	69.0	2311.0		136.4	254.9	128.7B	0.045	1.09
	Y7-X4	5.955	1035.0	1.00	136.4	181.0	220.2	1.14	CWB
		140.6	1035.0		2904.0	0.047	1.712	15.00	

破壊形式別の耐力の集計(この集計に増設ブレースの側柱は含みません)(KN)

極脆性柱(CSS CWSS)= 0.0

せん断柱(CS CWS)= 0.0 曲げ柱(CB CWB)= 1515.3

せん断壁(WS WCS)= 383.3 曲げ壁(WB WCB)= 1812.2

合計 =3710.83

(2) 結果内訳(正加力時)

1F 階 +X方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
1	□	350.0	350.0	0.20	1/68	1/150	1/150	1/50		CB
	Y1-X2	351.0	22	0.40	1/50	1/50	1/20	(b)		
	柱	175.0	0.036	0.05						
		---	0.59	-0.73						
2	□	350.0	350.0	0.20	1/68	1/150	1/150	1/50		CB
	Y1-X4	351.0	22	0.40	1/50	1/50	1/20	(b)		
	柱	175.0	0.036	0.05						
		---	0.59	-0.74						
3	□***□*									WS
	Y2-X2 X3									
	壁	274.9								
4	*□*	212.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	247.9	CWB
	Y2-X4	351.0	22	0.40	1/248	1/150		(b)	243.2	
	そで壁付き柱	123.2	0.082	0.08					159.9	
		---	0.59	-0.61						
5	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/198	1/150	226.1	CWB
	Y2-X5	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	200.1	
	そで壁付き柱	136.4	0.068	0.06					156.7	
		---	0.59	-0.68						
6	*□	262.0	350.0	0.20		1/222	1/166	1/150	215.1	CWB
	Y2-X6	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	182.1	
	そで壁付き柱	139.4	0.052	0.06					156.2	
		---	0.59	-0.69						
7	□	350.0	350.0	0.20	1/66	1/150	1/150	1/50		CB
	Y3-X3	351.0	22	0.40	1/50	1/50	1/19	(b)		
	柱	175.0	0.034	0.03						
		---	0.59	-0.83						
8	□	350.0	350.0	0.20	1/70	1/150	1/150	1/50		CB
	Y3-X6	351.0	22	0.40	1/50	1/50	1/22	(b)		
	柱	175.0	0.038	0.08						
		---	0.59	-0.60						
9	□***□									WB
	Y4-X1 X3									
	壁	355.5								
10	□	350.0	350.0	0.20	1/71	1/150	1/150	1/50		CB
	Y4-X6	351.0	22	0.40	1/50	1/50	1/22	(b)		
	柱	175.0	0.039	0.08						
		---	0.59	-0.59						
11	□	370.0	350.0	0.20	1/64	1/150	1/150	1/50		CB
	Y5-X1	351.0	22	0.40	1/50	1/50	1/18	(b)		
	柱	185.0	0.034	0.05						
		---	0.59	-0.73						
12	□*	262.0	350.0	0.20		1/207	1/155	1/150	222.7	CWB
	Y6-X4	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	189.7	
	そで壁付き柱	147.8	0.061	0.09					162.4	
		---	0.59	-0.56						
13	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/200	1/150	224.7	CWB
	Y6-X5	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	198.7	
	そで壁付き柱	135.3	0.068	0.06					155.6	
		---	0.59	-0.70						
14	*□	262.0	350.0	0.20		1/225	1/168	1/150	211.4	CWB
	Y6-X6	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	178.4	
	そで壁付き柱	138.1	0.051	0.05					153.3	
		---	0.59	-0.75						
15	□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	314.3	WCB
	Y7-X1	351.0	22	0.40	1/250	1/250		(h)	329.8	
	柱付き壁	111.0	0.091	0.06					155.0	
		---	0.59	-0.72						
16	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	315.7	WCB
	Y7-X3	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	358.8	
	柱付き壁	146.8	0.102	0.07					157.4	
		---	0.59	-0.66						

1F 階 +X方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
17	*□	262.0	350.0	0.20		1/250	1/189	1/150	220.2	CWB
	Y7-X4	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	193.7	
	そで壁付き柱	140.6	0.055	0.05					152.7	
		---	0.59	-0.77						

(1) 計算結果(正加力時)

1F 階 +Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材 通り-軸名	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
		h0/Ld	Ag	kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	タイプ
		hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
1	□*	97.0	2731.0		87.3	191.3	168.6T	0.049	1.09
	X1-Y4	5.955	1455.0	1.00	87.3	455.4	273.1	1.20	WCB
		113.4	1455.0		2904.0	0.030	1.620	15.00	
2	*□*	154.0	3586.0		158.9	579.8	388.2B	0.087	1.00
	X1-Y5	5.955	2310.0	1.00	158.9	579.8	396.1	1.33	WCB
		149.4	3465.0		2904.0	0.055	1.020	15.00	
3	□	97.0	2731.0		165.3	487.7	143.5B	0.042	1.09
	X1-Y7	5.955	1455.0	1.00	165.3	213.2	253.1	1.11	WCB
		148.6	1455.0		2904.0	0.057	1.764	15.00	
4	□	44.0	1936.0	44.0	157.4	146.6	83.8	0.036	2.58
	X2-Y1	7.955	1936.0	1.00	157.4	146.6	154.3	1.00	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.054	1.842	15.00	
5	□	44.0	1936.0	44.0	96.1	138.2	79.0	0.034	2.58
	X2-Y2	7.955	1936.0	1.00	96.1	138.2	149.4	0.96	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.033	1.893	15.00	
6	□***□	650.0	13578.0		803.5	12160.7	5680.1B	0.335	1.00
	X3-Y2 Y4		10465.9	1.00	803.5	12160.7	1884.3	1.67	WS
			214.1	36630.7				0.332	15.00
7	□	44.0	1936.0	44.0	196.1	162.4	92.8	0.040	2.58
	X3-Y7	7.955	1936.0	1.00	196.1	162.4	157.4	1.02	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.068	1.696	15.00	
8	□	44.0	1936.0	44.0	150.3	145.6	83.2	0.036	2.58
	X4-Y1	7.955	1936.0	1.00	150.3	145.6	153.8	0.99	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.052	1.848	15.00	
9	□	44.0	1936.0	44.0	227.1	155.7	89.0	0.038	2.58
	X4-Y2	7.955	1936.0	1.00	227.1	155.7	159.9	1.03	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.078	1.797	15.00	
10	□*	70.0	2326.0		257.9	186.5	160.2T	0.055	1.09
	X4-Y6	5.955	1050.0	1.00	257.9	284.9	233.2	1.20	CWB
		116.4	1050.0		2904.0	0.089	1.456	15.00	
11	*□	65.0	2251.0		136.4	230.6	122.7B	0.044	1.09
	X4-Y7	5.955	975.0	1.00	136.4	177.6	217.0	1.16	CWB
		144.8	975.0		2904.0	0.047	1.769	15.00	
12	□	44.0	1936.0	44.0	187.2	150.5	81.4	0.035	2.59
	X5-Y2	8.409	1936.0	1.00	187.2	150.5	156.7	1.01	CB
		185.0	1936.0		2904.0	0.064	1.926	15.00	
13	□	44.0	1936.0	44.0	172.7	148.6	80.3	0.035	2.59
	X5-Y6	8.409	1936.0	1.00	172.7	148.6	155.6	1.00	CB
		185.0	1936.0		2904.0	0.059	1.936	15.00	
14	*□*	153.0	3571.0		181.2	773.4	259.7B	0.058	1.09
	X6-Y2	5.955	2295.0	1.00	181.2	398.5	391.2	1.31	WCB
		153.5	3442.5		2904.0	0.062	1.506	15.00	
15	*□*	106.0	2866.0		231.6	353.0	251.6B	0.070	1.09
	X6-Y3	5.955	1590.0	1.00	231.6	353.0	284.7	1.19	WCB
		140.3	1590.0		2904.0	0.080	1.132	15.00	
16	*□*	106.0	2866.0		237.9	354.3	250.1B	0.070	1.09
	X6-Y4	5.955	1590.0	1.00	237.9	354.3	284.5	1.19	WCB
		141.7	1590.0		2904.0	0.082	1.138	15.00	
17	□	75.0	2401.0		144.2	298.9	122.2B	0.041	1.09
	X6-Y6	5.955	1125.0	1.00	144.2	176.7	225.8	1.13	CWB
		144.7	1125.0		2904.0	0.050	1.849	15.00	

破壊形式別の耐力の集計(この集計に増設ブレースの側柱は含みません)(KN)

極脆性柱(CSS CWSS)= 0.0

せん断柱(CS CWS)= 0.0 曲げ柱(CB CWB)= 994.4
 せん断壁(WS WCS)= 1884.3 曲げ壁(WB WCB)= 1461.7
 合計 =4340.31

(2) 結果内訳(正加力時)

1F 階 +Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
1	□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	268.5	WCB
	X1-Y4	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	273.1	
	柱付き壁	113.4	0.073	0.03					148.7	
		---	0.59	-0.85						
2	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	335.8	WCB
	X1-Y5	351.9	22	0.40	1/250	1/250		(h)	396.1	
	柱付き壁	149.4	0.167	0.05					154.4	
		---	0.59	-0.73						
3	*□	262.0	350.0	0.20		1/250	1/233	1/150	245.3	WCB
	X1-Y7	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	253.1	
	柱付き壁	148.6	0.062	0.06					155.0	
		---	0.59	-0.72						
4	□	350.0	350.0	0.20	1/68	1/151	1/150	1/50		CB
	X2-Y1	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/20	(b)		
	柱	175.0	0.036	0.05						
		---	0.59	-0.73						
5	□	350.0	350.0	0.20	1/66	1/151	1/150	1/50		CB
	X2-Y2	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/19	(b)		
	柱	175.0	0.034	0.03						
		---	0.59	-0.83						
6	□***□									WS
	X3-Y2 Y4									
	壁	214.1								
7	□	350.0	350.0	0.20	1/76	1/151	1/150	1/50		CB
	X3-Y7	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/25	(b)		
	柱	175.0	0.040	0.07						
		---	0.59	-0.66						
8	□	350.0	350.0	0.20	1/68	1/151	1/150	1/50		CB
	X4-Y1	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/20	(b)		
	柱	175.0	0.036	0.05						
		---	0.59	-0.74						
9	□	350.0	350.0	0.20	1/71	1/151	1/150	1/50		CB
	X4-Y2	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/22	(b)		
	柱	175.0	0.038	0.08						
		---	0.59	-0.61						
10	□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/243	1/150	233.2	CWB
	X4-Y6	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	222.5	
	そで壁付き柱	116.4	0.069	0.09					162.4	
		---	0.59	-0.56						
11	*□	262.0	350.0	0.20		1/234	1/174	1/150	217.0	CWB
	X4-Y7	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	188.4	
	そで壁付き柱	144.8	0.053	0.05					152.7	
		---	0.59	-0.77						
12	□	370.0	350.0	0.20	1/65	1/150	1/150	1/50		CB
	X5-Y2	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/18	(b)		
	柱	185.0	0.035	0.06						
		---	0.59	-0.68						
13	□	370.0	350.0	0.20	1/64	1/150	1/150	1/50		CB
	X5-Y6	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/18	(b)		
	柱	185.0	0.035	0.06						
		---	0.59	-0.70						
14	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	331.3	WCB
	X6-Y2	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	391.2	
	柱付き壁	153.5	0.112	0.06					156.2	
		---	0.59	-0.69						
15	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	268.1	WCB
	X6-Y3	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	284.7	
	柱付き壁	140.3	0.108	0.08					160.3	
		---	0.59	-0.60						

1F 階 +Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
16	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	267.4	WCB
	X6-Y4	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	284.5	
	柱付き壁	141.7	0.108	0.08					160.8	
		---	0.59	-0.59						
17	*□	262.0	350.0	0.20		1/250	1/194	1/150	225.8	CWB
	X6-Y6	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	207.1	
	そで壁付き柱	144.7	0.053	0.05					153.3	
		---	0.59	-0.75						

10.2 2次診断グルーピングの結果(正加力時)

*** 3F 階 +X方向 (RC) ***

(1) 最大11グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

グループ境界F値	グループF値範囲
0.8	F=0.8
1.0	1.00 F<1.13
1.13	1.13 F<1.27
1.27	1.27 F<1.40
1.40	1.40 F<1.60
1.60	1.60 F<1.80
1.80	1.80 F<2.00
2.00	2.00 F<2.40
2.40	2.40 F<2.80
2.80	2.80 F<3.20
3.20	F=3.20

グループNo.	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
極脆性柱				
極脆性そで壁付柱				
せん断柱				
せん断そで壁付柱				
せん断壁				
せん断柱型付壁				
曲げ壁		762.04		
曲げ柱型付壁				
曲げ柱		183.01		93.09
曲げそで壁付柱				
せん断雑壁				
曲げ雑壁				
ブレース				
合計		945.05		93.09
耐力ピーク値		1012.08		93.09

注) 耐力単純合計=1038.14KN そのうち補強ブレース耐力合計=0.00KN

(2) 強度寄与係数(正加力時)

NO.	通り-軸名	鉛直部材	靱性指標F	破壊タイプ	強度寄与係数				
					F1=0.8	F1=1.0	F1=1.13	1.27	F1
1	Y1-X2	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
2	Y1-X4	□	1.00	CB	0.650	1.000	---	---	
3	Y2-X2	□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
4	Y2-X4	*□	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	

注) F1 : グルーピングにおける先端第1グループの靱性指標

(3) 1グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

先端グループNo	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
グループNo	耐力	強度寄与係数		
2	945.05	----	1.000	----
4	93.09	----	0.720	1.000
耐力ピーク値	----	1012.08	----	93.09

(a) 極脆性柱を考慮した場合 $E1Z = (Qzc + j \cdot Qj) \cdot Fzc \quad j=1 \sim 11$

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮した場合 $E1S = (Qsc + j \cdot Qj) \cdot Fsc$

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮しない場合 $E1M = Q \cdot F$

先端グループNo	Q (合計)	F	E1M
2	1012.08	1.00	1012.08

(4) 2グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

$$E2M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	E2M
2	1.000	945.05		---	---		
4	---	---		1.000	93.09		
合計		945.05	1.00		93.09	2.40	971.10

(6) 最終結果(総重量 299.74KNで除した指標)(正加力時)

R = 1 / 500の場合 (n+1)/(n+i) = 0.667 SD = 0.484 T = 0.934
 R = 1 / 250の場合 (n+1)/(n+i) = 0.667 SD = 0.484 T = 0.934

(a) 極脆性柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮せずにEoが最大となる結果(1~3グループ式のうち、1グループ式による)

構造種別	Cg1	Fg1	Cg2	Fg2	Cg3	Fg3	EOM	CTU	CTUSD
RC	3.376	1.00	0.000	0.00	0.000	0.00	2.250	2.250	1.089

(7) 各グループの途中結果(正加力時)

$E0 = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot \text{SQRT}\{(C1 \cdot F1)^2 + (C2 \cdot F2)^2 + (C3 \cdot F3)^2\}$
 $CTUSD = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot Cn \cdot SD$
 (Cn : 1グループの場合C1, 2グループの場合C2, 3グループの場合C3)
 E0の最大値 * : 極脆性柱を考慮しないE0の最大値
 [*] : CTUSD $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U$ を考慮した場合で、極脆性柱を考慮しないE0の最大値
 注) CSS表示は極脆性柱を考慮した場合でE0の最大値(*, [*]共)の対象外となります。
 - 表示はCTUSD $< 0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U$ の場合でE0の最大値[*]の対象外となります。

R = 1 / 500の場合 (n+1)/(n+i) = 0.667 SD = 0.484 T = 0.934
 R = 1 / 250の場合 (n+1)/(n+i) = 0.667 SD = 0.484 T = 0.934

< 3F 階 +X方向 1グループ式の途中結果((5)式による) >

グループ No G1	C1	F1	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
2	3.38	1.00	2.250	1.018	1.089	* []
4	0.31	2.40	0.496	0.224	0.100	-

< 3F 階 +X方向 2グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No		C1	F1	C2	F2	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
G1	G2								
2	4	3.15	1.00	0.31	2.40	2.159	0.976	0.100	-

(1) 最大11グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

グループNo.	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
極脆性柱 極脆性そで壁付柱				
せん断柱 せん断そで壁付柱				
せん断壁 せん断柱型付壁				
曲げ壁 曲げ柱型付壁				
曲げ柱 曲げそで壁付柱				271.98
せん断雑壁				
曲げ雑壁				
ブレース				
合計				271.98
耐力ピーク値				271.98

注) 耐力単純合計=271.98KN そのうち補強ブレース耐力合計=0.00KN

(2) 強度寄与係数(正加力時)

NO.	通り-軸名	鉛直部材	靱性指標F	破壊タイプ	強度寄与係数				
					F1=0.8	F1=1.0	F1=1.13	1.27	F1
1	X2-Y1	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
2	X2-Y2	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
3	X4-Y1	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
4	X4-Y2	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	

注) F1 : グループングにおける先端第1グループの靱性指標

(3) 1グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

先端グループNo	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
グループNo	耐力	強度寄与係数		
4	271.98	----	----	1.000
耐力ピーク値	----	----	----	271.98

(a) 極脆性柱を考慮した場合 $E1Z = (Qzc + j \cdot Qj) \cdot Fzc \quad j=1 \sim 11$

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮した場合 $E1S = (Qsc + j \cdot Qj) \cdot Fsc$

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮しない場合 $E1M = Q \cdot F$

先端グループNo	Q (合計)	F	E1M
4	271.98	2.40	652.76

(6) 最終結果(総重量 299.74KNで除した指標)(正加力時)

$R=1/500$ の場合 $(n+1)/(n+i) = 0.667 \quad SD = 0.759 \quad T = 0.934$

$R=1/250$ の場合 $(n+1)/(n+i) = 0.667 \quad SD = 0.759 \quad T = 0.934$

(a) 極脆性柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮せずにE0が最大となる結果(1~3グループ式のうち、1グループ式による)

構造種別	Cg1	Fg1	Cg2	Fg2	Cg3	Fg3	E0M	CTU	CTUSD
RC	0.907	2.40	0.000	0.00	0.000	0.00	1.451	0.604	0.459

(7) 各グループ핑の途中結果(正加力時)

$$E0 = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot \text{SQRT}\{(C1 \cdot F1)^2 + (C2 \cdot F2)^2 + (C3 \cdot F3)^2\}$$

$$CTUSD = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot Cn \cdot SD$$

(Cn : 1グループの場合C1, 2グループの場合C2, 3グループの場合C3)

E0の最大値 * : 極脆性柱を考慮しないE0の最大値

[*] : CTUSD $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U$ を考慮した場合で、極脆性柱を考慮しないE0の最大値

注) CSS表示は極脆性柱を考慮した場合でE0の最大値(*, [*]共)の対象外となります。

- 表示はCTUSD $< 0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U$ の場合でE0の最大値([*])の対象外となります。

R=1/500の場合 (n+1)/(n+i) = 0.667 SD = 0.759 T = 0.934

R=1/250の場合 (n+1)/(n+i) = 0.667 SD = 0.759 T = 0.934

< 3F 階 +Y方向 1グループ式の途中結果((5)式による) >

グループ No G1	C1	F1	E0	Is	CTUSD	E0の最大値	
4	0.91	2.40	1.451	1.029	0.459	*	[*]

*** 2F 階 +X方向 (RC) ***

(1) 最大11グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

グループNo.	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
極脆性柱				
極脆性そで壁付柱				
せん断柱				
せん断そで壁付柱				
せん断壁		495.37		
せん断柱型付壁				
曲げ壁		958.14		
曲げ柱型付壁				
曲げ柱		711.49		397.06
曲げそで壁付柱				
せん断雑壁				
曲げ雑壁				
ブレース				
合計		2164.99		397.06
耐力ピーク値		2450.87		397.06

注) 耐力単純合計=2562.04KN そのうち補強ブレース耐力合計=0.00KN

(2) 強度寄与係数(正加力時)

NO.	通り-軸名	鉛直部材	靱性指標F	破壊タイプ	強度寄与係数				
					F1=0.8	F1=1.0	F1=1.13	1.27	F1
1	Y1-X2	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.857	1.000	
2	Y1-X4	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.857	1.000	
3	Y2-X2	□***□*	1.00	WS	0.847	1.000	---	---	
4	Y2-X4	*□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
5	Y2-X5	*□*	1.04	CWB	0.650	1.000	---	---	
6	Y2-X6	*□	1.04	CWB	0.650	1.000	---	---	
7	Y3-X3	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.857	1.000	
8	Y3-X6	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.857	1.000	
9	Y4-X1	□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
10	Y4-X3	*□	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
11	Y4-X6	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.857	1.000	
12	Y5-X1	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
13	Y6-X4	□*	1.04	CWB	0.615	1.000	---	---	
14	Y6-X5	*□*	1.04	CWB	0.650	1.000	---	---	
15	Y6-X6	*□	1.04	CWB	0.650	1.000	---	---	
16	Y7-X1	□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
17	Y7-X3	*□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
18	Y7-X4	*□	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	

注) F1 : グループにおける先端第1グループの靱性指標

(3) 1グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

先端グループNo	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
グループNo	耐力	強度寄与係数		
2	2164.99	----	1.000	----
4	397.06	----	0.720	----
耐力ピーク値	----	2450.87	----	397.06

(a) 極脆性柱を考慮した場合 $E1Z = (Qzc + j \cdot Qj) \cdot Fzc \quad j=1 \sim 11$

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮した場合 $E1S = (Qsc + j \cdot Qj) \cdot Fsc$

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮しない場合 $E1M = Q \cdot F$

先端グループNo	Q (合計)	F	E1M
2	2450.87	1.00	2450.87

(4) 2グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

$$E2M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	E2M
2	1.000	2164.99		---	---		
4	---	---		1.000	397.06		
合計		2164.99	1.00		397.06	2.40	2365.43

(6) 最終結果(総重量 2135.84KNで除した指標)(正加力時)

$$R = 1/500 \text{の場合 } (n+1)/(n+i) = 0.800 \quad SD = 0.749 \quad T = 0.934$$

$$R = 1/250 \text{の場合 } (n+1)/(n+i) = 0.800 \quad SD = 0.749 \quad T = 0.934$$

(a) 極脆性柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮せずにEoが最大となる結果(1~3グループ式のうち、1グループ式による)

構造種別	Cg1	Fg1	Cg2	Fg2	Cg3	Fg3	EOM	CTU	CTUSD
RC	1.147	1.00	0.000	0.00	0.000	0.00	0.917	0.917	0.688

(7) 各グループの途中結果(正加力時)

$$E0 = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot \text{SQRT}\{(C1 \cdot F1)^2 + (C2 \cdot F2)^2 + (C3 \cdot F3)^2\}$$

$$CTUSD = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot Cn \cdot SD$$

(Cn : 1グループの場合C1, 2グループの場合C2, 3グループの場合C3)

E0の最大値 * : 極脆性柱を考慮しないE0の最大値

[*] : CTUSD $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U$ を考慮した場合で、極脆性柱を考慮しないE0の最大値

注) CSS表示は極脆性柱を考慮した場合でE0の最大値(*, [*]共)の対象外となります。

- 表示はCTUSD $< 0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U$ の場合でE0の最大値([*])の対象外となります。

$$R = 1/500 \text{の場合 } (n+1)/(n+i) = 0.800 \quad SD = 0.749 \quad T = 0.934$$

$$R = 1/250 \text{の場合 } (n+1)/(n+i) = 0.800 \quad SD = 0.749 \quad T = 0.934$$

< 2F 階 +X方向 1グループ式の途中結果((5)式による) >

グループ No G1	C1	F1	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
2	1.15	1.00	0.917	0.642	0.688	* []
4	0.19	2.40	0.356	0.250	0.111	-

< 2F 階 +X方向 2グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No		C1	F1	C2	F2	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
G1	G2								
2	4	1.01	1.00	0.19	2.40	0.885	0.620	0.111	-

*** 2F 階 +Y方向 (RC) ***

(1) 最大11グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

グループNo.	1	2	3	4	5
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.00	2.40
極脆性柱 極脆性そで壁付柱					
せん断柱 せん断そで壁付柱					
せん断壁 せん断柱型付壁					
曲げ壁 曲げ柱型付壁		1624.54			
曲げ柱 曲げそで壁付柱		174.63		79.44	284.24
せん断雑壁					
曲げ雑壁					
ブレス					
合計		1799.17		79.44	284.24
耐力ピーク値		2078.81		363.68	284.24

注) 耐力単純合計=2162.85KN そのうち補強ブレス耐力合計=0.00KN

(2) 強度寄与係数(正加力時)

NO.	通り-軸名	鉛直部材	靱性指標F	破壊タイプ	強度寄与係数				
					F1=0.8	F1=1.0	F1=1.13	1.27	F1
1	X1-Y4	□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
2	X1-Y5	*□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
3	X1-Y7	*□	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
4	X2-Y1	□	2.58	CB	0.511	0.723	0.858	1.000	
5	X2-Y2	□	2.58	CB	0.511	0.723	0.858	1.000	
6	X3-Y2	□*	1.04	WCB	0.650	1.000	---	---	
7	X3-Y3	*□*	1.04	WCB	0.650	1.000	---	---	
8	X3-Y4	*□	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
9	X3-Y7	□	2.07	CB	0.622	0.944	1.000	1.000	
10	X4-Y1	□	2.58	CB	0.511	0.723	0.858	1.000	
11	X4-Y2	□	2.58	CB	0.511	0.723	0.858	1.000	
12	X4-Y6	□*	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	
13	X4-Y7	*□	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	
14	X5-Y2	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
15	X5-Y6	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
16	X6-Y2	□*	1.04	WCB	0.650	1.000	---	---	
17	X6-Y3	*□*	1.04	WCB	0.650	1.000	---	---	
18	X6-Y4	*□*	1.04	WCB	0.650	1.000	---	---	
19	X6-Y6	*□	1.04	WCB	0.650	1.000	---	---	

注) F1 : グループにおける先端第1グループの靱性指標

(3) 1グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

先端グループNo	1	2	3	4	5
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.00	2.40
グループNo	耐力	強度寄与係数			
2	1799.17	----	1.000	----	----
4	79.44	----	0.944	----	1.000
5	284.24	----	0.720	----	1.000
耐力ピーク値	----	2078.81	----	363.68	284.24

(a) 極脆性柱を考慮した場合 $E1Z = (Qzc + j \cdot Qj) \cdot Fzc \quad j=1 \sim 11$

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮した場合 $E1S = (Qsc + j \cdot Qj) \cdot Fsc$

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮しない場合 $E1M = Q \cdot F$

先端グループNo	Q (合計)	F	E1M
2	2078.81	1.00	2078.81

(4) 2グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

$$E2M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	E2M
2	1.000	1799.17		---	---		
4	0.944	79.44		---	---		
5	---	---		1.000	284.24		
合計		1874.15	1.00		284.24	2.40	1994.45

(5) 3グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

$$E3M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2 + (Qg3 \cdot Fg3)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	3	Qg3	Fg3	E3M
2	1.000	1799.17		---	---		---	---		
4	---	---		1.000	79.44		---	---		
5	---	---		---	---		1.000	284.24		
合計		1799.17	1.00		79.44	2.00		284.24	2.40	1930.70

(6) 最終結果(総重量 2135.84KNで除した指標)(正加力時)

R = 1 / 500の場合 (n+1)/(n+i) = 0.800 SD = 0.895 T = 0.934
 R = 1 / 250の場合 (n+1)/(n+i) = 0.800 SD = 0.895 T = 0.934

(a) 極脆性柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮せずにEoが最大となる結果(1~3グループ式のうち、1グループ式による)

構造種別	Cg1	Fg1	Cg2	Fg2	Cg3	Fg3	EOM	CTU	CTUSD
RC	0.973	1.00	0.000	0.00	0.000	0.00	0.778	0.778	0.697

(7) 各グループピングの途中結果(正加力時)

$$E0 = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot \text{SQRT}\{(C1 \cdot F1)^2 + (C2 \cdot F2)^2 + (C3 \cdot F3)^2\}$$

$$CTUSD = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot Cn \cdot SD$$

(Cn : 1グループの場合C1, 2グループの場合C2, 3グループの場合C3)

E0の最大値 * : 極脆性柱を考慮しないE0の最大値

[*] : CTUSD 0.3・Z・G・Uを考慮した場合で、極脆性柱を考慮しないE0の最大値

注) CSS表示は極脆性柱を考慮した場合でE0の最大値(*, [*]共)の対象外となります。

- 表示はCTUSD < 0.3・Z・G・Uの場合でE0の最大値([*])の対象外となります。

R = 1 / 500の場合 (n+1)/(n+i) = 0.800 SD = 0.895 T = 0.934

R = 1 / 250の場合 (n+1)/(n+i) = 0.800 SD = 0.895 T = 0.934

< 2F 階 +Y方向 1グループ式の途中結果((5)式による) >

グループNo G1	C1	F1	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
2	0.97	1.00	0.778	0.651	0.697	* []
4	0.17	2.00	0.272	0.227	0.121	-
5	0.13	2.40	0.255	0.213	0.095	-

< 2F 階 +Y方向 2グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No		C1	F1	C2	F2	E0	Is	CTUSD	E0の最大値	
G1	G2									
2	4	0.84	1.00	0.17	2.00	0.726	0.607	0.121		-
2	5	0.88	1.00	0.13	2.40	0.747	0.624	0.095		-
4	5	0.04	2.00	0.13	2.40	0.262	0.219	0.095		-

< 2F 階 +Y方向 3グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No			C1	F1	C2	F2	C3	F3	E0	Is	CTUSD	E0の最大値	
G1	G2	G3											
2	4	5	0.84	1.00	0.04	2.00	0.13	2.40	0.723	0.604	0.095		-

*** 1F 階 +X方向 (RC) ***

(1) 最大11グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

グループNo.	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
極脆性柱				
極脆性そで壁付柱				
せん断柱				
せん断そで壁付柱				
せん断壁		383.31		
せん断柱型付壁				
曲げ壁		446.96	1365.25	
曲げ柱型付壁				
曲げ柱		1010.56		504.76
曲げそで壁付柱				
せん断雑壁				
曲げ雑壁				
ブレス				
合計		1840.83	1365.25	504.76
耐力ピーク値		3569.50	1796.72	504.76

注) 耐力単純合計=3710.83KN そのうち補強ブレス耐力合計=0.00KN

(2) 強度寄与係数(正加力時)

NO.	通り-軸名	鉛直部材	靱性指標F	破壊タイプ	強度寄与係数				
					F1=0.8	F1=1.0	F1=1.13	1.27	F1
1	Y1-X2	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.856	1.000	
2	Y1-X4	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.856	1.000	
3	Y2-X2	□***□*	1.00	WS	0.877	1.000	---	---	
4	Y2-X4	*□*	1.00	CWB	0.650	1.000	---	---	
5	Y2-X5	*□*	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	
6	Y2-X6	*□	1.09	CWB	0.611	1.000	---	---	
7	Y3-X3	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.856	1.000	
8	Y3-X6	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.856	1.000	
9	Y4-X1	□***□	1.14	WB	0.650	1.000	1.000	---	
10	Y4-X6	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.856	1.000	
11	Y5-X1	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
12	Y6-X4	□*	1.09	CWB	0.590	1.000	---	---	
13	Y6-X5	*□*	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	
14	Y6-X6	*□	1.09	CWB	0.615	1.000	---	---	
15	Y7-X1	□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
16	Y7-X3	*□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
17	Y7-X4	*□	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	

注) F1 : グループングにおける先端第1グループの靱性指標

(3) 1グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

先端グループNo	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
グループNo	耐力	強度寄与係数		
2	1840.83	----	1.000	----
3	1365.25	----	1.000	1.000
4	504.76	----	0.720	0.855
耐力ピーク値	----	3569.50	1796.72	504.76

(a) 極脆性柱を考慮した場合 $E1Z = (Qzc + j \cdot Qj) \cdot Fzc \quad j=1 \sim 11$

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮した場合 $E1S = (Qsc + j \cdot Qj) \cdot Fsc$

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮しない場合 $E1M = Q \cdot F$

先端グループNo	Q (合計)	F	E1M
2	3569.50	1.00	3569.50

(4) 2グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

$$E2M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	E2M
2	1.000	1840.83		---	---		
3	1.000	1365.25		---	---		
4	---	---		1.000	504.76		
合計		3206.08	1.00		504.76	2.40	3427.31

(5) 3グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

$$E3M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2 + (Qg3 \cdot Fg3)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	3	Qg3	Fg3	E3M
2	1.000	1840.83		---	---		---	---		
3	---	---		1.000	1365.25		---	---		
4	---	---		---	---		1.000	504.76		
合計		1840.83	1.00		1365.25	1.13		504.76	2.40	2690.02

(6) 最終結果(総重量 5110.64KNで除した指標)(正加力時)

R = 1/500の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.600 T = 0.934
 R = 1/250の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.600 T = 0.934

(a) 極脆性柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮せずにEoが最大となる結果(1~3グループ式のうち、1グループ式による)

構造種別	Cg1	Fg1	Cg2	Fg2	Cg3	Fg3	EOM	CTU	CTUSD
RC	0.698	1.00	0.000	0.00	0.000	0.00	0.698	0.698	0.419

(7) 各グループピングの途中結果(正加力時)

$$E0 = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot \text{SQRT}\{(C1 \cdot F1)^2 + (C2 \cdot F2)^2 + (C3 \cdot F3)^2\}$$

$$CTUSD = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot Cn \cdot SD$$

(Cn : 1グループの場合C1, 2グループの場合C2, 3グループの場合C3)

E0の最大値 * : 極脆性柱を考慮しないE0の最大値

[*] : CTUSD 0.3・Z・G・Uを考慮した場合で、極脆性柱を考慮しないE0の最大値

注) CSS表示は極脆性柱を考慮した場合でE0の最大値(*, [*]共)の対象外となります。

- 表示はCTUSD < 0.3・Z・G・Uの場合でE0の最大値([*])の対象外となります。

R = 1/500の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.600 T = 0.934
 R = 1/250の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.600 T = 0.934

< 1F 階 +X方向 1グループ式の途中結果((5)式による) >

グループ No G1	C1	F1	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
2	0.70	1.00	0.698	0.391	0.419	* []
3	0.35	1.13	0.397	0.222	0.211	-
4	0.10	2.40	0.237	0.132	0.059	-

< 1F 階 +X方向 2グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No G1	G2	C1	F1	C2	F2	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
2	3	0.36	1.00	0.35	1.13	0.536	0.300	0.211	-
2	4	0.63	1.00	0.10	2.40	0.670	0.375	0.059	-
3	4	0.27	1.13	0.10	2.40	0.383	0.215	0.059	-

< 1F 階 +X方向 3グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No			C1	F1	C2	F2	C3	F3	E0	Is	CTUSD	E0の最大値	
G1	G2	G3											
2	3	4	0.36	1.00	0.27	1.13	0.10	2.40	0.526	0.295	0.059		-

*** 1F 階 +Y方向 (RC) ***

(1) 最大11グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

グループNo.	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
極脆性柱 極脆性そで壁付柱				
せん断柱 せん断そで壁付柱				
せん断壁 せん断柱型付壁		1884.25		
曲げ壁 曲げ柱型付壁		1461.67		
曲げ柱 曲げそで壁付柱		404.98		589.41
せん断雑壁				
曲げ雑壁				
ブレス				
合計		3750.90		589.41
耐力ピーク値		4175.27		589.41

注) 耐力単純合計=4340.31KN そのうち補強ブレス耐力合計=0.00KN

(2) 強度寄与係数(正加力時)

NO.	通り-軸名	鉛直部材	靱性指標F	破壊タイプ	強度寄与係数				
					F1=0.8	F1=1.0	F1=1.13	1.27	F1
1	X1-Y4	□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
2	X1-Y5	*□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
3	X1-Y7	*□	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
4	X2-Y1	□	2.58	CB	0.511	0.722	0.858	1.000	
5	X2-Y2	□	2.58	CB	0.511	0.722	0.858	1.000	
6	X3-Y2	□***□	1.00	WS	1.000	1.000	---	---	
7	X3-Y7	□	2.58	CB	0.511	0.722	0.858	1.000	
8	X4-Y1	□	2.58	CB	0.511	0.722	0.858	1.000	
9	X4-Y2	□	2.58	CB	0.511	0.722	0.858	1.000	
10	X4-Y6	□*	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	
11	X4-Y7	*□	1.09	CWB	0.627	1.000	---	---	
12	X5-Y2	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
13	X5-Y6	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
14	X6-Y2	*□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
15	X6-Y3	*□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
16	X6-Y4	*□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
17	X6-Y6	*□	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	

注) F1 : グループングにおける先端第1グループの靱性指標

(3) 1グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

先端グループNo	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
グループNo	耐力	強度寄与係数		
2	3750.90	----	1.000	----
4	589.41	----	0.720	1.000
耐力ピーク値	----	4175.27	----	589.41

(a) 極脆性柱を考慮した場合 $E1Z = (Qzc + j \cdot Qj) \cdot Fzc \quad j=1 \sim 11$

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮した場合 $E1S = (Qsc + j \cdot Qj) \cdot Fsc$

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮しない場合 $E1M = Q \cdot F$

先端グループNo	Q (合計)	F	E1M
2	4175.27	1.00	4175.27

(4) 2グループに分類した場合の終局耐力(正加力時)(KN)

$$E2M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	E2M
2	1.000	3750.90		---	---		
4	---	---		1.000	589.41		
合計		3750.90	1.00		589.41	2.40	4008.77

(6) 最終結果(総重量 5110.64KNで除した指標)(正加力時)

R=1/500の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.824 T = 0.934
 R=1/250の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.824 T = 0.934

(a) 極脆性柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮せずにEoが最大となる結果(1~3グループ式のうち、1グループ式による)

構造種別	Cg1	Fg1	Cg2	Fg2	Cg3	Fg3	EOM	CTU	CTUSD
RC	0.817	1.00	0.000	0.00	0.000	0.00	0.816	0.816	0.673

(7) 各グループの途中結果(正加力時)

$E0 = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot \text{SQRT}\{(C1 \cdot F1)^2 + (C2 \cdot F2)^2 + (C3 \cdot F3)^2\}$
 $CTUSD = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot Cn \cdot SD$
 (Cn : 1グループの場合C1, 2グループの場合C2, 3グループの場合C3)
 E0の最大値 * : 極脆性柱を考慮しないE0の最大値
 [*] : CTUSD 0.3・Z・G・Uを考慮した場合で、極脆性柱を考慮しないE0の最大値
 注) CSS表示は極脆性柱を考慮した場合でE0の最大値(*, [*]共)の対象外となります。
 - 表示はCTUSD < 0.3・Z・G・Uの場合でE0の最大値[*]の対象外となります。

R=1/500の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.824 T = 0.934
 R=1/250の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.824 T = 0.934

< 1F 階 +Y方向 1グループ式の途中結果((5)式による) >

グループ No G1	C1	F1	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
2	0.82	1.00	0.816	0.629	0.673	* [*]
4	0.12	2.40	0.276	0.213	0.095	-

< 1F 階 +Y方向 2グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No		C1	F1	C2	F2	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
G1	G2								
2	4	0.73	1.00	0.12	2.40	0.784	0.604	0.095	-

10.3 第2種構造要素判定用データ(正加力時)

10.3.1 柱の残存軸耐力(正加力時)

部材:rc:RC柱、src:SRC柱、cw:格子型(cross web)、lw:ラチス型(lattice web)、fw:充腹型(full web)
 NL:長期軸力(KN) F値 :柱架構の靱性指標
 Pw:せん断補強筋比(%) s :帯筋間隔(cm)
 Ac:柱断面積(mm2) Fc :コンクリート強度(N/mm2)
 Ace:バンドプレートで囲まれたコンクリート断面積(mm2) c :拘束コンクリートの強度有効係数
 sA・s y:鉄骨主材断面積×降伏点強度(KN)
 r:残存軸耐力係数([]は軸支持能力係数) Nr :残存軸耐力([]は軸支持能力)(kN)
 破壊タイプ :CSS:極脆性柱 CSS:脆性柱(SRC柱)
 CS:せん断柱 CB:曲げ柱

CWSS:極脆性そで壁付柱 CWB:曲げそで壁付柱 CWS:せん断そで壁付柱

WCB:曲げ柱型付壁 WCS:せん断柱型付壁

#付きは直接入力値を表す。部材記号に+付きは傾斜部材の直交成分を表す。

3F 階(X方向正加力)

フレーム	部材 NL	破壊タイプ F値	Pw s	Ac Fc	Ace c	sA・s y		Fu値				
								1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
Y1-X2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	31.9	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y1-X4	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	48.4	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X2	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	61.1	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	25.4	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

2F 階(X方向正加力)

フレーム	部材 NL	破壊タイプ F値	Pw s	Ac Fc	Ace c	sA・s y		Fu値				
								1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
Y1-X2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	70.6	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y1-X4	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	121.4	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	100.3	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X5	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	82.1	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	66.7	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y3-X3	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	129.8	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y3-X6	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	119.2	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y4-X1	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	66.5	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y4-X3	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	208.8	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y4-X6	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	118.4	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y5-X1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	73.7	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y6-X4	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	123.3	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y6-X5	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	80.5	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y6-X6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---

フレーム	部材	破壊タイ°	Pw	Ac	Ace	SA・s y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
Y6-X6	66.3	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y7-X1	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	67.8	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y7-X3	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	110.6	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y7-X4	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	49.2	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

1F 階(X方向正加力)

フレーム	部材	破壊タイ°	Pw	Ac	Ace	SA・s y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
Y1-X2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	157.4	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y1-X4	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	150.3	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X4	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	227.1	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X5	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	187.2	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	181.2	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y3-X3	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	101.6	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y3-X6	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	231.6	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y4-X6	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	237.9	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y5-X1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	158.9	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y6-X4	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	257.9	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y6-X5	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	172.7	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y6-X6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	144.2	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y7-X1	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	165.3	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y7-X3	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	196.1	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y7-X4	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	136.4	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

3F 階(Y方向正加力)

フレーム	部材	破壊タイプ	Pw	Ac	Ace	sA・s y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
X2-Y1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	31.9	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X2-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	61.1	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	48.4	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	25.4	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

2F 階(Y方向正加力)

フレーム	部材	破壊タイプ	Pw	Ac	Ace	sA・s y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
X1-Y4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	66.5	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X1-Y5	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	73.7	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X1-Y7	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	67.8	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X2-Y1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	70.6	2.58	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X2-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	59.1	2.58	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X3-Y2	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	118.0	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X3-Y3	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	129.8	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X3-Y4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	208.8	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X3-Y7	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	110.6	2.07	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	121.4	2.58	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	100.3	2.58	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	123.3	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y7	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	49.2	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X5-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	82.1	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

フレーム	部材	破壊タイプ	Pw	Ac	Ace	sA・s y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
X5-Y6	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	80.5	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y2	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	66.7	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y3	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	119.2	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	118.4	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y6	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	66.3	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

1F 階(Y方向正加力)

フレーム	部材	破壊タイプ	Pw	Ac	Ace	sA・s y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
X1-Y4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	87.3	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X1-Y5	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	158.9	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X1-Y7	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	165.3	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X2-Y1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	157.4	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X2-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	96.1	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X3-Y7	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	196.1	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	150.3	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	227.1	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	257.9	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y7	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	136.4	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X5-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	187.2	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X5-Y6	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	172.7	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y2	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	181.2	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y3	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	231.6	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

フレーム	部材	破壊タイプ°	Pw	Ac	Ace	sA · s y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
X6-Y4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	237.9	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	144.2	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

10.3.2 第2種構造要素判定用データ(正加力時)

[2001年版、2017年版RC基準または 2009年SRC基準の場合]

1段目：破壊タイプ°(靱性指標F値)

2段目：長期柱軸力N(KN)(部材種別)

3段目：(F < Fu'の場合)残存軸耐力Nr または (F > Fu'の場合)軸力支持能力NR(KN)

注)直交方向に耐震壁の側柱となる部材は、Nrの計算対象としないため、3段目を出力しませんが、(F < Fu')の部材の本数に算入します。

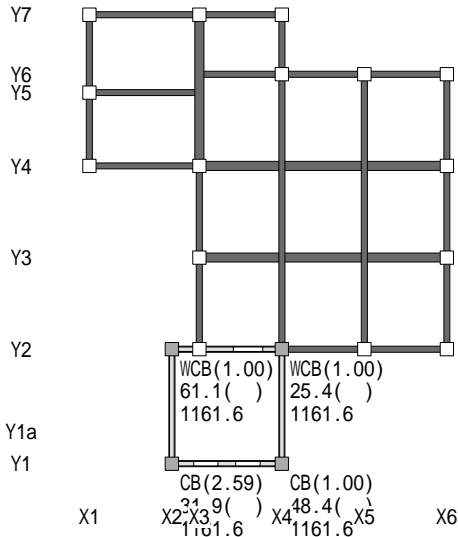
判定：? : 第2種構造要素の候補になる部材 (F < Fu'かつNr > N)

: 第2種構造要素の候補にならない部材 (F < Fu'かつNr < N、または F > Fu'かつ直交方向に耐震壁の側柱となる部材)

: 耐震壁の側柱または耐震診断に考慮しない柱で計算対象としない部材

: 計算対象としない部材(F > Fu')

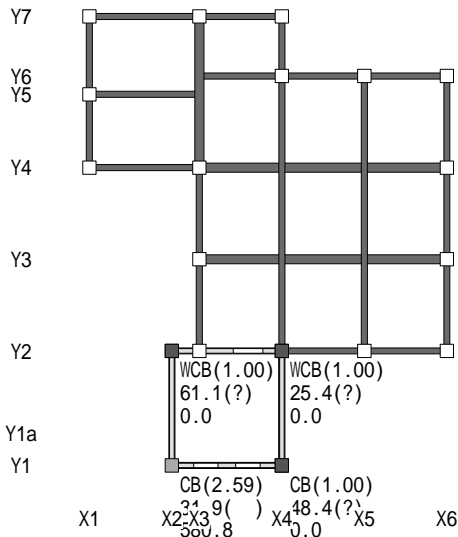
Fu' : 設定した終局限界変形の候補



3F 階 +X 方向 Fu'=1.00の場合

F < Fu'の部材の本数(第2種構造要素の候補を含む) : 0

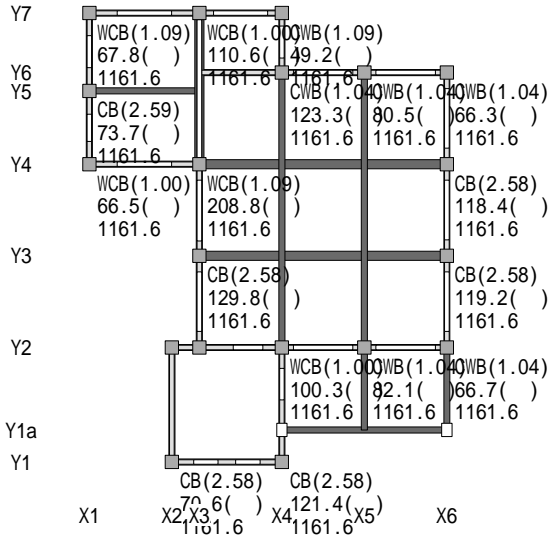
そのうち第2種構造要素の候補 (F < Fu'かつNr > N) となる部材の本数 : 0



3F 階 +X 方向 Fu'=2.40の場合

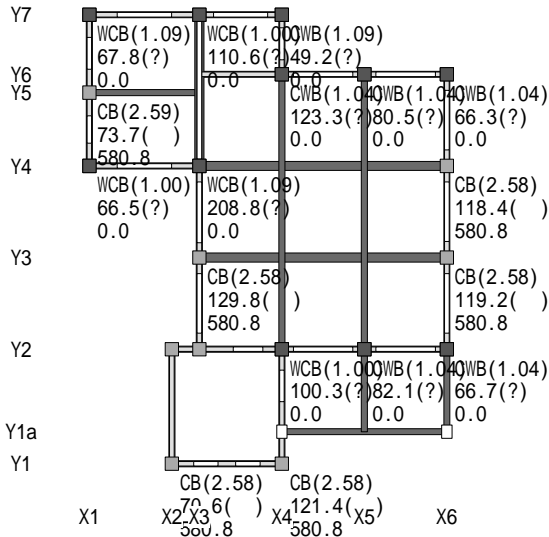
F < Fu'の部材の本数(第2種構造要素の候補を含む) : 3

そのうち第2種構造要素の候補 (F < Fu'かつNr > N) となる部材の本数 : 3



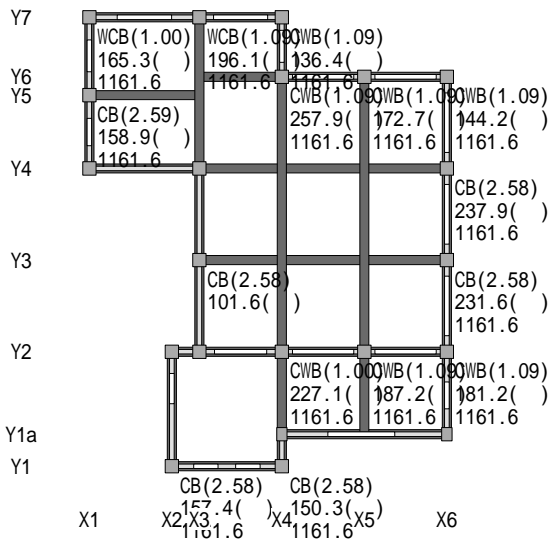
2F 階 +X 方向 $Fu'=1.00$ の場合

$F < Fu'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 0
 そのうち第2種構造要素の候補 ($F < Fu'$ かつ $Nr = N$) となる部材の本数 : 0



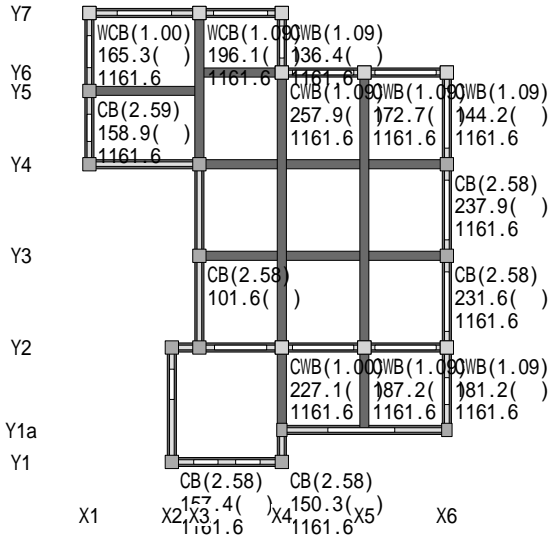
2F 階 +X 方向 $Fu'=2.40$ の場合

$F < Fu'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 11
 そのうち第2種構造要素の候補 ($F < Fu'$ かつ $Nr = N$) となる部材の本数 : 11



1F 階 +X 方向 $Fu'=1.00$ の場合

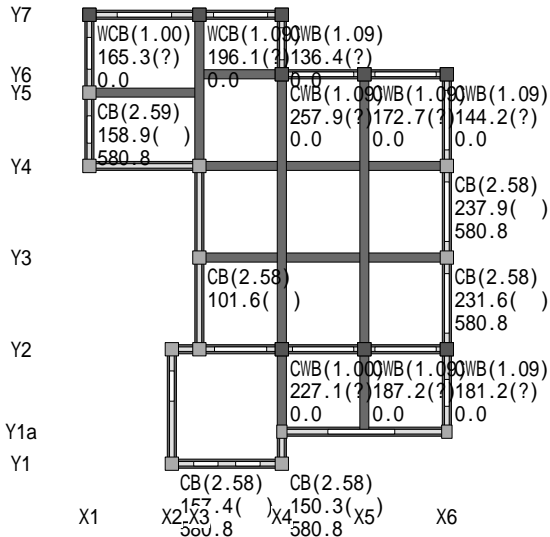
$F < Fu'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 0
 そのうち第2種構造要素の候補 ($F < Fu'$ かつ $Nr = N$) となる部材の本数 : 0



1F 階 +X 方向 $Fu' = 1.13$ の場合

$F < Fu'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 9

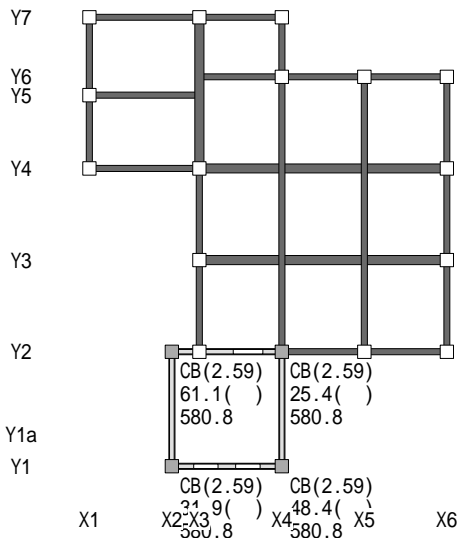
そのうち第2種構造要素の候補 ($F < Fu'$ かつ $Nr \leq N$) となる部材の本数 : 0



1F 階 +X 方向 $Fu' = 2.40$ の場合

$F < Fu'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 9

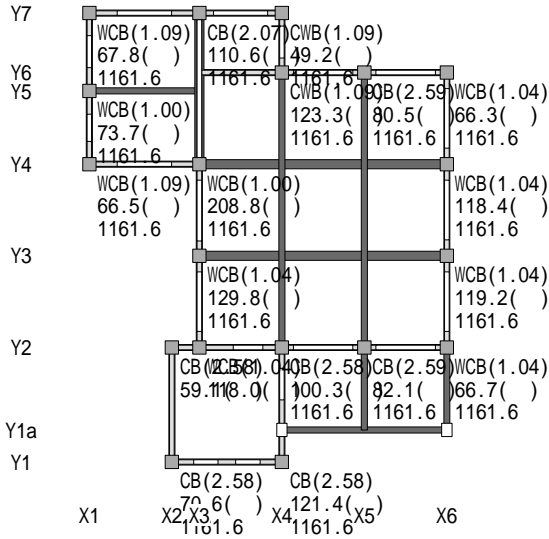
そのうち第2種構造要素の候補 ($F < Fu'$ かつ $Nr \leq N$) となる部材の本数 : 9



3F 階 +Y 方向 $Fu' = 2.40$ の場合

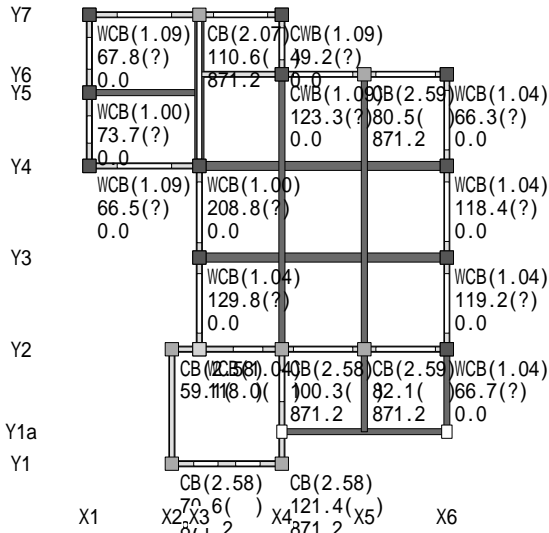
$F < Fu'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 0

そのうち第2種構造要素の候補 ($F < Fu'$ かつ $Nr \leq N$) となる部材の本数 : 0



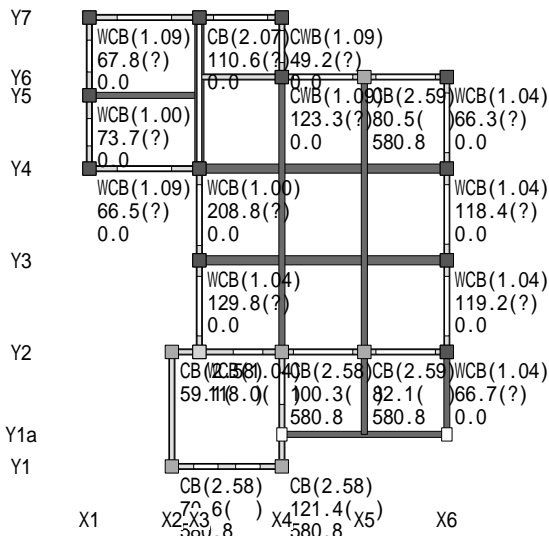
2F 階 +Y 方向 Fu'=1.00の場合

F < Fu' の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 0
 そのうち第2種構造要素の候補 (F < Fu' かつ Nr = N) となる部材の本数 : 0



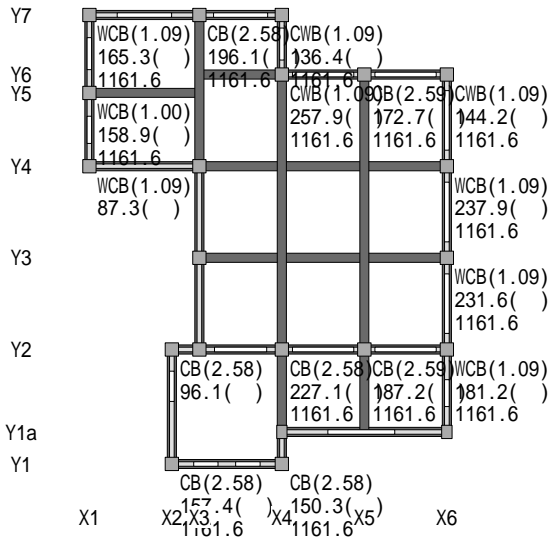
2F 階 +Y 方向 Fu'=2.00の場合

F < Fu' の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 12
 そのうち第2種構造要素の候補 (F < Fu' かつ Nr = N) となる部材の本数 : 11



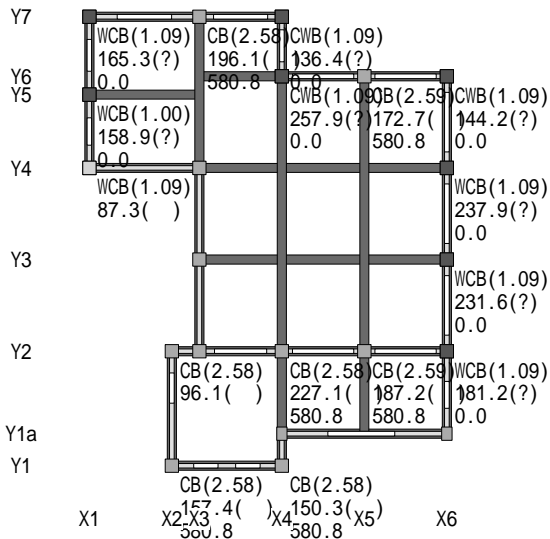
2F 階 +Y 方向 Fu'=2.40の場合

F < Fu' の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 13
 そのうち第2種構造要素の候補 (F < Fu' かつ Nr = N) となる部材の本数 : 12



1F 階 +Y 方向 $Fu'=1.00$ の場合

$F < Fu'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 0
 そのうち第2種構造要素の候補 ($F < Fu'$ かつ $Nr \leq N$) となる部材の本数 : 0



1F 階 +Y 方向 $Fu'=2.40$ の場合

$F < Fu'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 9
 そのうち第2種構造要素の候補 ($F < Fu'$ かつ $Nr \leq N$) となる部材の本数 : 8

10.4 破壊モード図(正加力時)

10.4.1 破壊モード図(伏図)(正加力時)

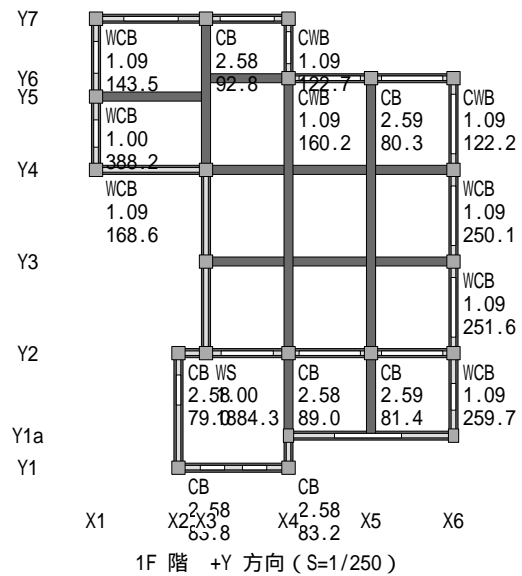
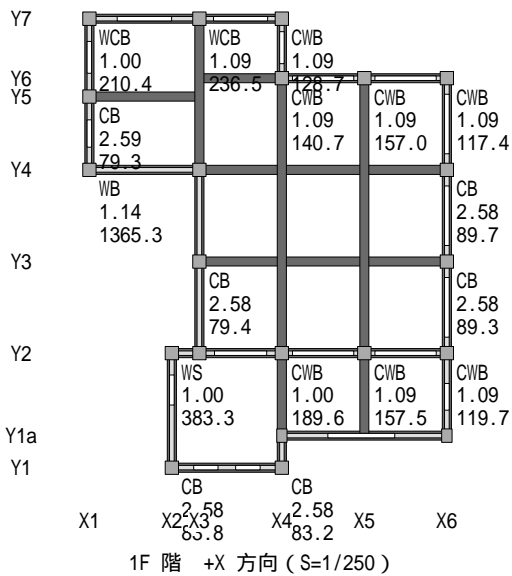
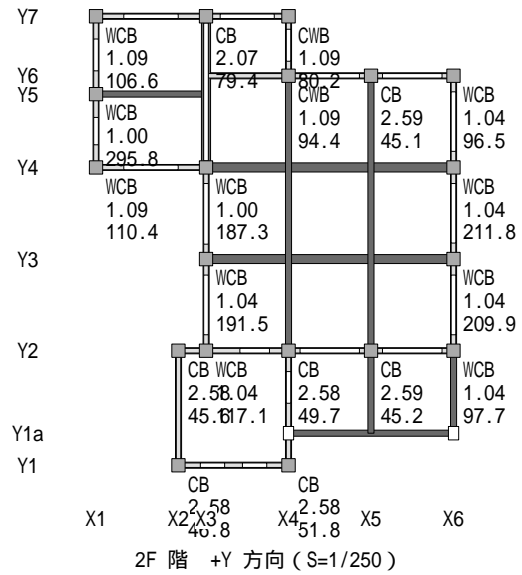
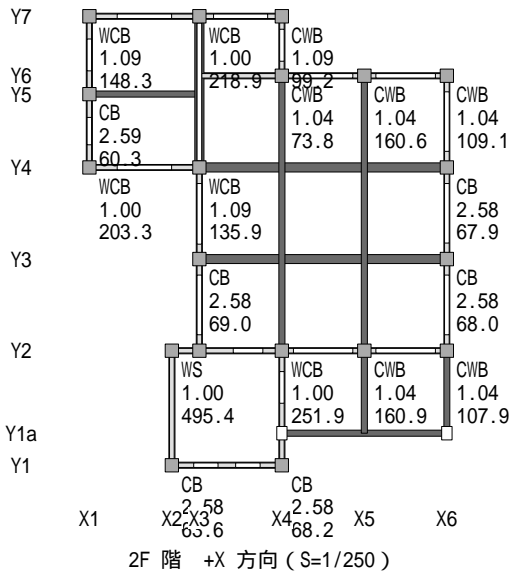
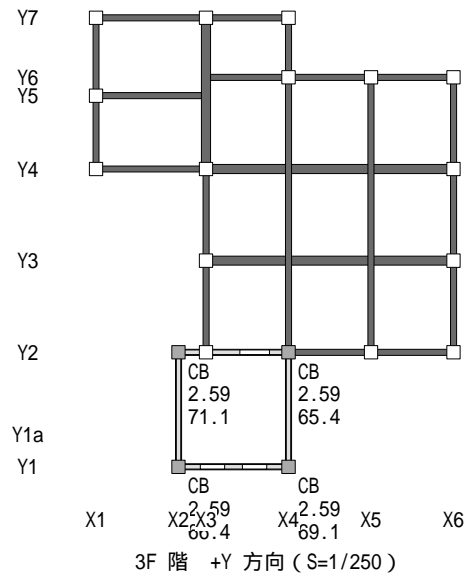
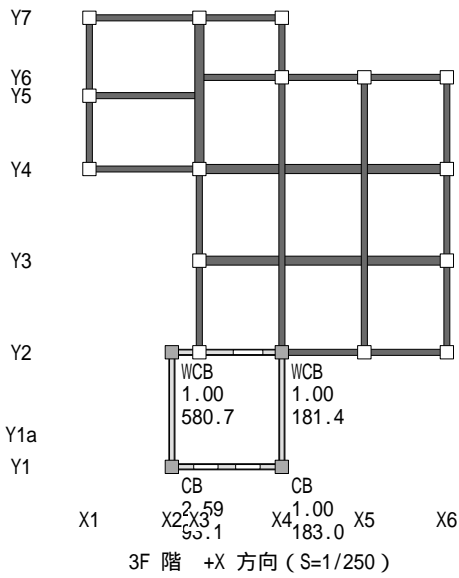
上段 : 破壊タイプ

CSS: 極脆性柱 CS: せん断柱 WS: せん断壁 WB: 曲げ壁 CB: 曲げ柱 CWSS: 極脆性壁付柱
 CWB: 曲げそで壁付柱 CWS: せん断そで壁付柱 WCB: 曲げ柱型付壁 WCS: せん断柱型付壁

中段 : 靱性指標 F値

下段 : 終局時保有せん断力 $Qu = \min\{Qmu, Qsu\}$ (KN)

注) 雑壁及び既存耐震壁があるところに配置する増設プレースの結果はここに出力しません。



10.4.2 破壊モード図(軸組図)(正加力時)

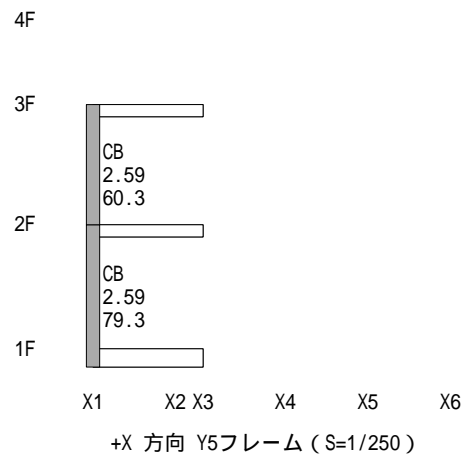
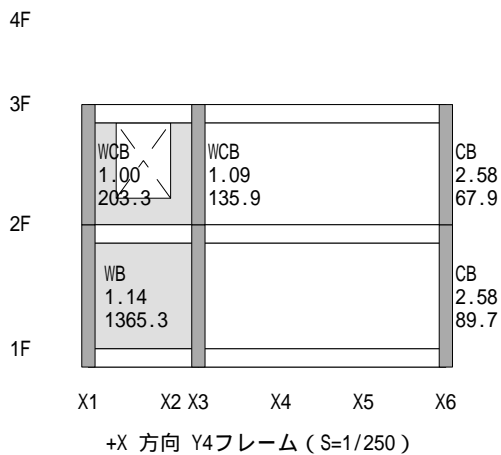
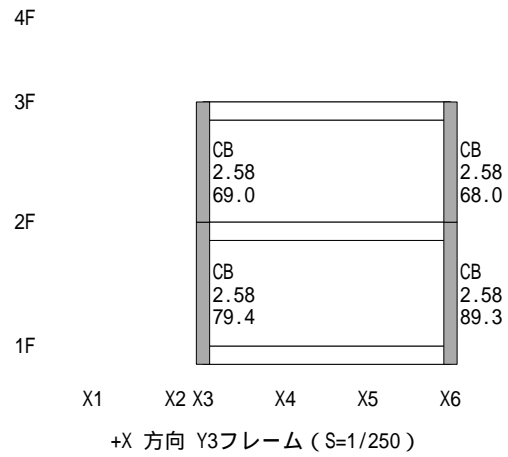
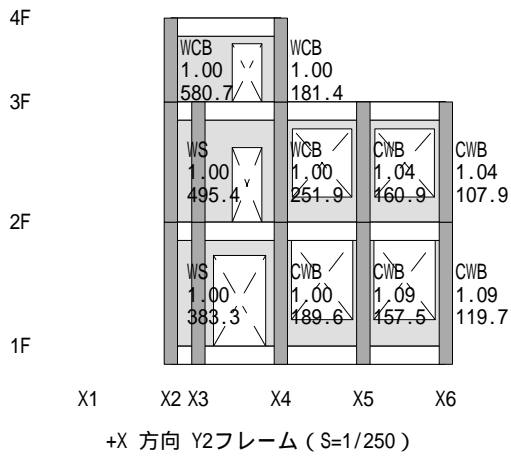
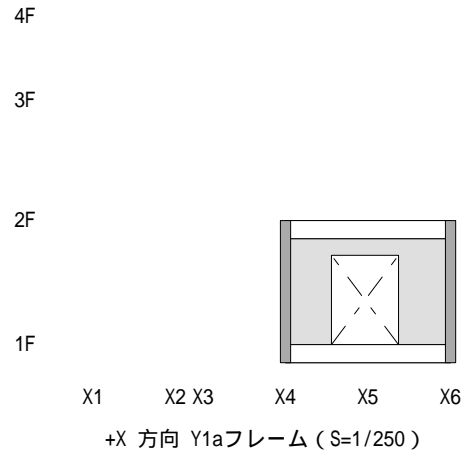
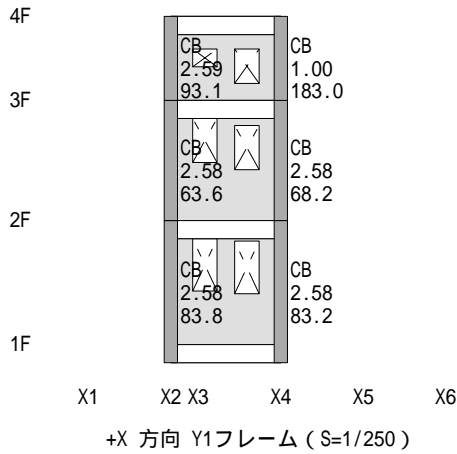
上段 : 破壊タイプ

CSS:極脆性柱 CS:せん断柱 WS:せん断壁 WB:曲げ壁 CB:曲げ柱 CWSS:極脆性壁付柱
 CWB:曲げそで壁付柱 CWS:せん断そで壁付柱 WCB:曲げ柱型付壁 WCS:せん断柱型付壁

中段 : 靱性指標 F値

下段 : 終局時保有せん断力 $Q_u = \min\{Q_{mu}, Q_{su}\}$ (KN)

注) 雑壁の結果はここに出力しません。

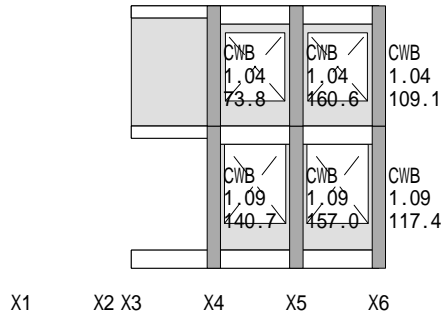


4F

3F

2F

1F



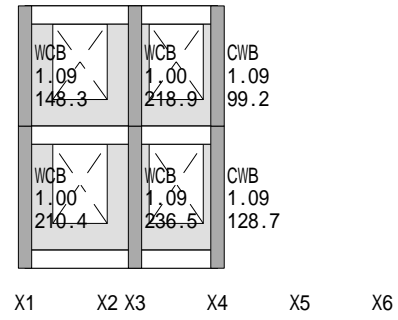
+X 方向 Y6フレーム (S=1/250)

4F

3F

2F

1F



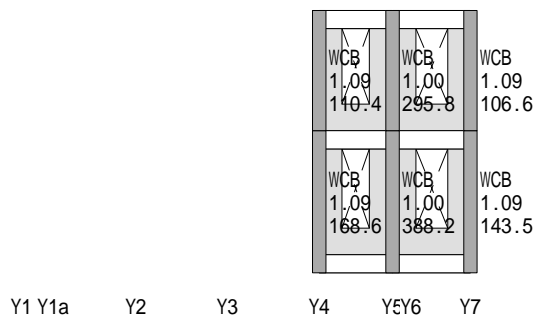
+X 方向 Y7フレーム (S=1/250)

4F

3F

2F

1F



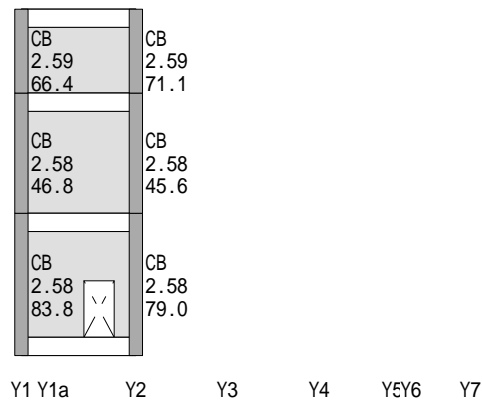
+Y 方向 X1フレーム (S=1/250)

4F

3F

2F

1F



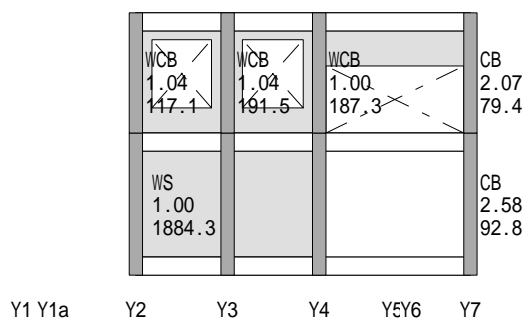
+Y 方向 X2フレーム (S=1/250)

4F

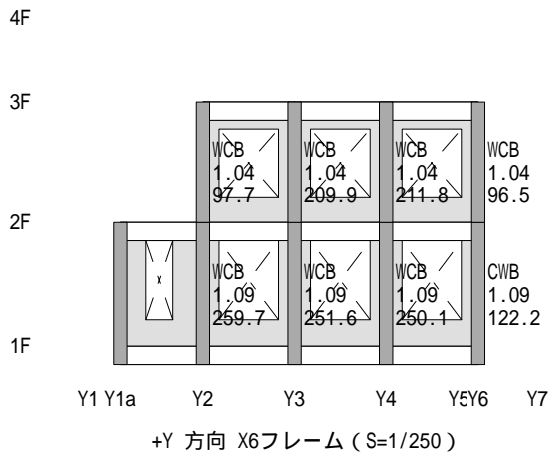
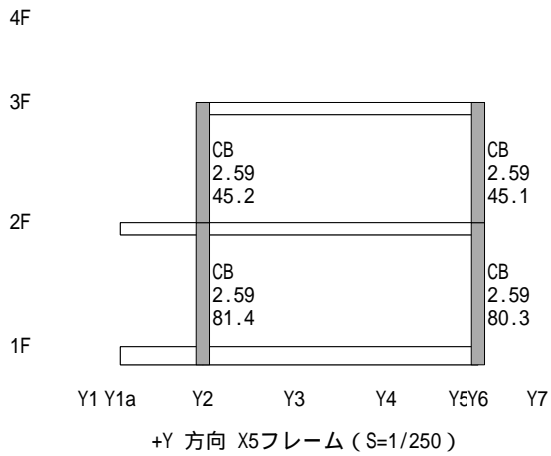
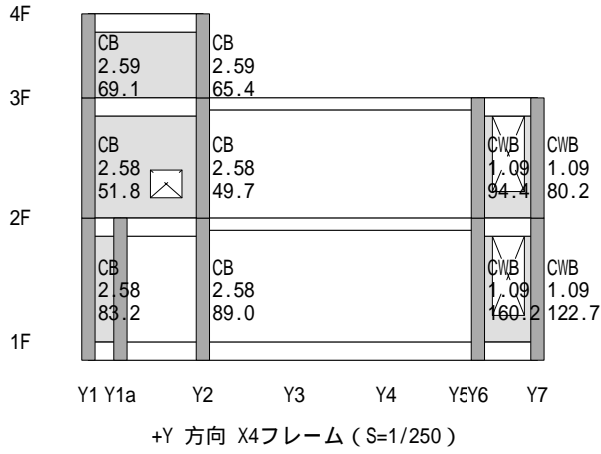
3F

2F

1F



+Y 方向 X3フレーム (S=1/250)



10.1* 保有性能基本指標(負加力時)

10.1.1* 部材の終局強度と靱性能(負加力時)

no : 部材番号
 *付きは片側のそで壁が指定長さ未満の場合で、耐力、剛性、靱性指標の計算に無視します。
 (b)付きは増設ブレースの側柱です。

Ld : そで壁長さを含む全部材長さ(2017年版の場合、柱せい)(cm) h0 : 柱のうちのり高さ(cm) hs : 構造階高(cm)
 hcw0 : 反曲点高さ(独立柱の場合、 $hcw0=h0 \cdot \mu_B / (\mu_T + \mu_B)$)(cm)
 剛性 : 水平剛性(耐震壁の場合は開口低減率 =1 - 1.25 考慮)(cm³)
 A : 部材全断面積 (cm²) Ag : 剛性計算に用いる部材断面積 (cm²)
 Mu : 曲げ終局強度 (KN・m) Qsu : せん断終局強度 (KN) Qmu : 曲げ終局強度時せん断力 (KN)
 $\min\{T, B\}$ (T付き: T<B, B付き: T>B)
 su : Qsu / A' (N/mm²) $\mu / Fc : (Qmu / A') / Fc$ Qsu/Qmu: せん断余裕度 (F 値用)
 A' : 独立柱= $B \cdot 0.8D /$, =1.0、その他= $A(1 -) /$, =1.2、そで壁付柱 =0 (cm²)
 F値 : 靱性指標
 Ncu : 柱の圧縮終局強度 FcBD (KN)
 NL : 部材長期軸力(耐震壁の場合は壁長期軸力も考慮します) (KN)
 NL : 部材長期軸力 (KN)
 タイプ : 破壊タイプ
 CSS=極脆性柱(SRC階はCSS=脆性柱) WS=せん断壁 CS=せん断柱
 WB=曲げ壁 CB=曲げ柱 CWSS=極脆性そで壁付柱
 WCB=曲げ柱型付壁 WCS=せん断柱型付壁 CWB=曲げそで壁付柱 CWS=せん断そで壁付柱
 Ns : 部材短期軸力(耐震壁の場合は壁軸力も考慮します。) (KN)
 be : 等価厚さ(独立柱のみ出力)(cm) kr : コンクリート強度による低減係数
 注) #付き: 直接入力 | 付き: 既存部材の補正係数部材 付き: 逆せん断が発生した部材
 Qsu(SRC造は指定より、FcまたはQsu)に、軽量コンクリート低減係数をかけています。(1種、2種=0.9 3種、4種=0.8)
 以降はF値の出力結果は末尾の下の桁を切り捨てています。
 部材番号に+付きの場合、傾斜部材の直交成分になります。

(1) 計算結果(負加力時)

3F 階 -X方向 (RC)

NO.	鉛直部材 通り-軸名	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
		h0/Ld	Ag		Ns	Mu-B	Qsu	su	
		hcw0	剛性			Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	
1	□	44.0	1936.0	44.0	31.9	101.2	93.1	0.040	2.59
	Y1-X2	4.943	1936.0	1.00	31.9	101.2	139.3	0.90	CB
		108.8	1936.0		2904.0	0.011	1.496	15.00	
2	□	44.0	1936.0	44.0	48.4	103.9	183.0	0.079	1.00
	Y1-X4	2.580	1936.0	1.00	48.4	103.9	190.7	1.23	CB
		56.8	1936.0		2904.0	0.017	1.042	15.00	
3	□*	225.0	4651.0		61.1	1191.3	299.7B	0.052	1.00
	Y2-X2	4.375	3375.0	1.00	61.1	380.5	673.2	1.74	WCB
		127.0	8437.5		2904.0	0.021	2.247	15.00	
4	*□	85.0	2551.0		25.4	143.2	126.1T	0.040	1.19
	Y2-X4	4.375	1275.0	1.00	25.4	279.0	232.7	1.09	WCB
		113.6	1275.0		2904.0	0.009	1.846	15.00	

破壊形式別の耐力の集計(この集計に増設ブレースの側柱は含みません)(KN)

極脆性柱(CSS CWSS)= 0.0
 せん断柱(CS CWS)= 0.0 曲げ柱(CB CWB)= 276.1
 せん断壁(WS WCS)= 0.0 曲げ壁(WB WCB)= 425.7
 合計 =701.84

(2) 結果内訳(負加力時)

h0 : 柱のうちのり高さ(cm) H0 : はり下から床上までの柱うちのり標準寸法 (cm)
 hcw0 : 反曲点高さ (cm) cos v: vは立面的な柱の傾斜角度
 $n' : (b \cdot D \cdot Fc)$ $n' : (- L) / (H - L)$
 s : 帯筋間隔 (mm) db : 柱脚主筋径 (mm)
 cTu/Fc : 柱の終局せん断応力度 $cTu/Fc = \min(Qmu / (b \cdot j), Qsu / (b \cdot j))$
 pt : 柱脚引張鉄筋比 (%)
 Rsu : 部材のせん断終局層間変形角 Rmu : 部材の曲げ終局層間変形角
 Rmy : 柱の降伏変形角 cRmy : 柱の曲げ降伏部材角
 cRmu : 柱の終局変形角 cRmp : 柱の塑性変形角
 cRmax : 柱の曲げ終局変形角の上限

cwRmu : 袖壁付き柱の曲げ終局変形角
 cwRmy : 袖壁付き柱の曲げ降伏部材角
 cwRmax : 袖壁付き柱の曲げ終局変形角の上限
 独立柱のcRmax記号 : cRmax(n), cRmax(s), cRmax(t), cRmax(b), cRmax(h)のうち、
 最小値となるものの記号
 (n):軸力による曲げ終局変形角の上限
 (s):せん断応力による曲げ終局変形角の上限
 (t):引張主筋比による曲げ終局変形角の上限
 (b):帯筋間隔による曲げ終局変形角の上限
 (h):うちのり高さによる曲げ終局変形角の上限
 (c):SRF補強時の拘束条件による終局変形角の上限
 ぞで壁付き柱のcwRmax記号 : cRmax(su), cRmax(s), cRmax(b), cRmax(h)のうち、
 最小値となるものの記号
 Qsu1 : 等価壁厚さ置換による袖壁付き柱の断終局強度 (KN)
 Qsu2 : 分割累加による袖壁付き柱の断終局強度 (KN)
 Qsu3 : そで壁を無視し、独立柱として算定したせん断終局強度 (KN)
 注) Qsu1、Qsu2、Qsu3は柱頭、柱脚の平均値
 #付き : 直接入力値

3F 階 -X方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ°
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
1	□	217.5	350.0	0.20	1/88	1/150	1/150	1/50		CB
	Y1-X2	217.5	19	0.40	1/50	1/50	1/38	(b)		
	柱	108.8	0.040	0.01						
		---	0.44	-0.95						
2	□	113.5	350.0	0.20	1/236	1/250	1/180	1/50		CB
	Y1-X4	217.5	19	0.40	1/250	1/180	0	(b)		
	柱	56.8	0.079	0.02						
		---	0.44	-0.92						
3	□*	192.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	470.2	WCB
	Y2-X2	217.5	19	0.40	1/250	1/250		(h)	673.2	
	柱付き壁	127.0	0.129	0.02					143.6	
		---	0.44	-0.89						
4	*□	192.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	229.1	WCB
	Y2-X4	217.5	19	0.40	1/169	1/150		(b)	232.7	
	柱付き壁	113.6	0.054	0.01					140.8	
		---	0.44	-0.96						

(1) 計算結果(負加力時)

3F 階 -Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材 通り-軸名	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
		h0/Ld	Ag	kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	タイプ°
		hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
1	□	44.0	1936.0	44.0	31.9	72.2	66.4	0.029	2.59
	X2-Y1	4.943	1936.0	1.00	31.9	72.2	132.9	0.86	CB
		108.8	1936.0		2904.0	0.011	2.001	15.00	
2	□	44.0	1936.0	44.0	61.1	77.3	71.1	0.031	2.59
	X2-Y2	4.943	1936.0	1.00	61.1	77.3	135.2	0.87	CB
		108.8	1936.0		2904.0	0.021	1.903	15.00	
3	□	44.0	1936.0	44.0	48.4	75.1	69.1	0.030	2.59
	X4-Y1	4.943	1936.0	1.00	48.4	75.1	134.2	0.87	CB
		108.8	1936.0		2904.0	0.017	1.943	15.00	
4	□	44.0	1936.0	44.0	25.4	71.1	65.4	0.028	2.59
	X4-Y2	4.943	1936.0	1.00	25.4	71.1	132.4	0.85	CB
		108.8	1936.0		2904.0	0.009	2.025	15.00	

破壊形式別の耐力の集計(この集計に増設グレースの側柱は含みません)(KN)

極脆性柱(CSS CWSS)= 0.0
 せん断柱(CS CWS)= 0.0 曲げ柱(CB CWB)= 272.0
 せん断壁(WS WCS)= 0.0 曲げ壁(WB WCB)= 0.0
 合計 =271.98

(2) 結果内訳(負加力時)

3F 階 -Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
1	□	217.5	350.0	0.20	1/62	1/150	1/150	1/50	CB	
	X2-Y1	217.5	19	0.40	1/50	1/50	1/17	(b)		
	柱	108.8	0.029	0.01						
		---	0.29	-0.95						
2	□	217.5	350.0	0.20	1/66	1/150	1/150	1/50	CB	
	X2-Y2	217.5	19	0.40	1/50	1/50	1/19	(b)		
	柱	108.8	0.031	0.02						
		---	0.29	-0.89						
3	□	217.5	350.0	0.20	1/64	1/150	1/150	1/50	CB	
	X4-Y1	217.5	19	0.40	1/50	1/50	1/18	(b)		
	柱	108.8	0.030	0.02						
		---	0.29	-0.92						
4	□	217.5	350.0	0.20	1/61	1/150	1/150	1/50	CB	
	X4-Y2	217.5	19	0.40	1/50	1/50	1/16	(b)		
	柱	108.8	0.028	0.01						
		---	0.29	-0.96						

(1) 計算結果(負加力時)

2F 階 -X方向 (RC)

NO.	鉛直部材 通り-軸名	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
		h0/Ld	Ag	kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	タイプ
		hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
1	□	44.0	1936.0	44.0	70.6	107.3	63.6	0.027	2.58
	Y1-X2	7.670	1936.0	1.00	70.6	107.3	142.4	0.92	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.024	2.239	15.00	
2	□	44.0	1936.0	44.0	121.4	115.1	68.2	0.029	2.58
	Y1-X4	7.670	1936.0	1.00	121.4	115.1	146.5	0.95	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.042	2.147	15.00	
3	□***□*	224.9	5925.5		198.9	1649.1	371.5B	0.050	2.00
	Y2-X2 X3		3043.5	1.00	198.9	948.9	495.4	1.00	WB
		255.4	7608.8				1.333	15.00	
4	*□*	101.0	2791.0		100.3	208.6	258.5T	0.074	1.00
	Y2-X4	3.716	1515.0	1.00	100.3	338.2	336.8	1.45	WCB
		80.7	1515.0		2904.0	0.035	1.303	15.00	
5	*□*	76.0	2416.0		82.1	181.8	160.9B	0.053	1.04
	Y2-X5	5.125	1140.0	1.00	82.1	181.8	219.1	1.09	CWB
		113.0	1140.0		2904.0	0.028	1.362	15.00	
6	*□	60.0	2176.0		66.7	127.1	118.0T	0.043	1.04
	Y2-X6	5.125	900.0	1.00	66.7	156.4	198.0	1.09	CWB
		107.7	900.0		2904.0	0.023	1.678	15.00	
7	□	44.0	1936.0	44.0	129.8	116.4	69.0	0.030	2.58
	Y3-X3	7.670	1936.0	1.00	129.8	116.4	147.1	0.95	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.045	2.134	15.00	
8	□	44.0	1936.0	44.0	119.2	114.8	68.0	0.029	2.58
	Y3-X6	7.670	1936.0	1.00	119.2	114.8	146.3	0.94	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.041	2.151	15.00	
9	□*	114.0	2986.0		66.5	468.5	114.3B	0.031	1.09
	Y4-X1	5.670	1710.0	1.00	66.5	182.5	271.5	1.09	WCB
		159.7	1710.0		2904.0	0.023	2.376	15.00	
10	*□	114.0	2986.0		208.8	202.1	200.5T	0.054	1.00
	Y4-X3	5.670	1710.0	1.00	208.8	559.9	347.8	1.40	WCB
		100.8	1710.0		2904.0	0.072	1.734	15.00	
11	□	44.0	1936.0	44.0	118.4	114.7	67.9	0.029	2.58
	Y4-X6	7.670	1936.0	1.00	118.4	114.7	146.2	0.94	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.041	2.152	15.00	
12	□	44.0	1936.0	44.0	73.7	107.8	60.3	0.026	2.59
	Y5-X1	8.125	1936.0	1.00	73.7	107.8	142.7	0.92	CB
		178.8	1936.0		2904.0	0.025	2.365	15.00	
13	□*	60.0	2176.0		123.3	167.7	91.4T	0.034	1.04
	Y6-X4	5.125	900.0	1.00	123.3	135.5	203.6	1.12	CWB
		183.5	900.0		2904.0	0.042	2.229	15.00	

NO.	鉛直部材 通り-軸名	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値	
		h0/Ld	Ag		kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	タイ°
		hcw0	剛性			Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
14	*□*	76.0	2416.0		80.5	181.4	160.6B	0.053	1.04	
	Y6-X5	5.125	1140.0	1.00	80.5	181.4	218.9	1.09	CWB	
		113.0	1140.0		2904.0	0.028	1.363	15.00		
15	*□	60.0	2176.0		66.3	127.0	116.5T	0.043	1.04	
	Y6-X6	5.125	900.0	1.00	66.3	156.4	197.9	1.09	CWB	
		109.0	900.0		2904.0	0.023	1.699	15.00		
16	□*	114.0	2986.0		67.8	469.4	154.5B	0.041	1.09	
	Y7-X1	5.670	1710.0	1.00	67.8	188.8	299.4	1.20	WCB	
		122.2	1710.0		2904.0	0.023	1.938	15.00		
17	*□*	139.0	3361.0		110.6	295.3	257.8T	0.061	1.00	
	Y7-X3	5.670	2085.0	1.00	110.6	550.7	387.3	1.38	WCB	
		114.6	3127.5		2904.0	0.038	1.502	15.00		
18	*□	69.0	2311.0		49.2	136.8	122.6T	0.042	1.09	
	Y7-X4	5.670	1035.0	1.00	49.2	199.0	204.7	1.06	CWB	
		111.6	1035.0		2904.0	0.017	1.669	15.00		

破壊形式別の耐力の集計(この集計に増設ブレースの側柱は含みません)(KN)

極脆性柱(CSS CWSS)= 0.0
 せん断柱(CS CWS)= 0.0 曲げ柱(CB CWB)= 1167.0
 せん断壁(WC WCS)= 0.0 曲げ壁(WB WCB)= 1357.0
 合計 =2524.04

(2) 結果内訳(負加力時)

2F 階 -X方向 (RC)

NO.	鉛直部材 通り-軸名 部材の分類	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイ°
		H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
		hcw0	cTu/Fc	n'					Qsu3	
		cos v	pt							
1	□	337.5	350.0	0.20	1/54	1/150	1/150	1/50		CB
	Y1-X2	338.6	19	0.40	1/50	1/50	1/13	(b)		
	柱	168.8	0.027	0.02						
		---	0.44	-0.88						
2	□	337.5	350.0	0.20	1/57	1/150	1/150	1/50		CB
	Y1-X4	338.6	19	0.40	1/50	1/50	1/14	(b)		
	柱	168.8	0.029	0.04						
		---	0.44	-0.79						
3	□***□*									WB
	Y2-X2 X3									
	壁	255.4								
4	*□*	163.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	326.3	WCB
	Y2-X4	338.6	19	0.40	1/250	1/250		(h)	336.8	
	柱付き壁	80.7	0.111	0.03					159.3	
		---	0.44	-0.83						
5	*□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	219.1	CWB
	Y2-X5	338.6	19	0.40	1/225	1/150		(b)	211.9	
	そで壁付き柱	113.0	0.069	0.03					143.3	
		---	0.44	-0.86						
6	*□	225.5	350.0	0.20		1/250	1/239	1/150	198.0	CWB
	Y2-X6	338.6	19	0.40	1/225	1/150		(b)	181.6	
	そで壁付き柱	107.7	0.051	0.02					142.1	
		---	0.44	-0.89						
7	□	337.5	350.0	0.20	1/57	1/150	1/150	1/50		CB
	Y3-X3	338.6	19	0.40	1/50	1/50	1/15	(b)		
	柱	168.8	0.030	0.04						
		---	0.44	-0.78						
8	□	337.5	350.0	0.20	1/57	1/150	1/150	1/50		CB
	Y3-X6	338.6	19	0.40	1/50	1/50	1/14	(b)		
	柱	168.8	0.029	0.04						
		---	0.44	-0.79						
9	□*	249.5	350.0	0.20		1/250	1/246	1/150	239.4	WCB
	Y4-X1	338.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	271.5	
	柱付き壁	159.7	0.049	0.02					142.1	
		---	0.44	-0.89						

2F 階 -X方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
10	*□	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	323.1	WCB
	Y4-X3	338.6	19	0.40	1/250	1/250		(h)	347.8	
	柱付き壁	100.8	0.086	0.07					153.5	
		---	0.44	-0.64						
11	□	337.5	350.0	0.20	1/57	1/150	1/150	1/50		CB
	Y4-X6	338.6	19	0.40	1/50	1/50	1/14	(b)		
	柱	168.8	0.029	0.04						
		---	0.44	-0.80						
12	□	357.5	350.0	0.20	1/51	1/150	1/150	1/50		CB
	Y5-X1	338.6	19	0.40	1/50	1/50	1/12	(b)		
	柱	178.8	0.026	0.03						
		---	0.44	-0.87						
13	□*	225.5	350.0	0.20		1/225	1/150	1/150	203.6	CWB
	Y6-X4	338.6	19	0.40	1/225	1/150		(b)	176.5	
	そで壁付き柱	183.5	0.039	0.04					146.6	
		---	0.44	-0.79						
14	*□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	218.9	CWB
	Y6-X5	338.6	19	0.40	1/225	1/150		(b)	211.7	
	そで壁付き柱	113.0	0.069	0.03					143.2	
		---	0.44	-0.86						
15	*□	225.5	350.0	0.20		1/250	1/235	1/150	197.9	CWB
	Y6-X6	338.6	19	0.40	1/225	1/150		(b)	180.4	
	そで壁付き柱	109.0	0.050	0.02					142.1	
		---	0.44	-0.89						
16	□*	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	275.9	WCB
	Y7-X1	338.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	299.4	
	柱付き壁	122.2	0.066	0.02					142.2	
		---	0.44	-0.88						
17	*□*	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	339.8	WCB
	Y7-X3	338.6	19	0.40	1/250	1/250		(h)	387.3	
	柱付き壁	114.6	0.111	0.04					145.6	
		---	0.44	-0.81						
18	*□	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	204.7	CWB
	Y7-X4	338.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	194.9	
	そで壁付き柱	111.6	0.053	0.02					140.7	
		---	0.44	-0.92						

(1) 計算結果(負加力時)

2F 階 -Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
	通り-軸名	h0/Ld	Ag	kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	タイプ
	部材の分類	hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
1	□*	97.0	2731.0		66.5	275.5	105.7B	0.031	1.09
	X1-Y4	5.670	1455.0	1.00	66.5	134.8	246.4	1.08	WCB
		127.4	1455.0		2904.0	0.023	2.330	15.00	
2	*□*	154.0	3586.0		73.7	380.0	295.8B	0.066	1.00
	X1-Y5	5.670	2310.0	1.00	73.7	380.0	403.6	1.35	WCB
		128.5	3465.0		2904.0	0.025	1.365	15.00	
3	*□	97.0	2731.0		67.8	137.7	114.4T	0.034	1.09
	X1-Y7	5.670	1455.0	1.00	67.8	276.3	253.3	1.11	WCB
		120.4	1455.0		2904.0	0.023	2.214	15.00	
4	□	44.0	1936.0	44.0	70.6	78.9	46.8	0.020	2.58
	X2-Y1	7.670	1936.0	1.00	70.6	78.9	136.0	0.88	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.024	2.908	15.00	
5	□	44.0	1936.0	44.0	59.1	77.0	45.6	0.020	2.58
	X2-Y2	7.670	1936.0	1.00	59.1	77.0	135.1	0.87	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.020	2.962	15.00	
6	□*	75.0	2401.0		118.0	200.6	98.1B	0.033	1.04
	X3-Y2	5.125	1125.0	1.00	118.0	120.4	204.7	1.02	WCB
		122.7	1125.0		2904.0	0.041	2.086	15.00	
7	*□*	102.0	2806.0		129.8	226.5	205.8B	0.059	1.04
	X3-Y3	5.125	1530.0	1.00	129.8	243.4	274.5	1.17	WCB
		118.3	1530.0		2904.0	0.045	1.334	15.00	

NO.	鉛直部材 通り-軸名	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
		h0/Ld	Ag	kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	タイ°
		hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
8	*□	75.0	2401.0		208.8	134.1	200.5T	0.067	1.00
	X3-Y4	3.148	1125.0	1.00	208.8	230.1	297.5	1.49	WCB
		66.9	1125.0		2904.0	0.072	1.484	15.00	
9	□	44.0	1936.0	44.0	110.6	88.0	79.4	0.034	2.07
	X3-Y7	5.034	1936.0	1.00	110.6	88.0	143.0	0.92	CB
		110.8	1936.0		2904.0	0.038	1.800	15.00	
10	□	44.0	1936.0	44.0	121.4	87.4	51.8	0.022	2.58
	X4-Y1	7.670	1936.0	1.00	121.4	87.4	140.1	0.90	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.042	2.704	15.00	
11	□	44.0	1936.0	44.0	100.3	83.9	49.7	0.021	2.58
	X4-Y2	7.670	1936.0	1.00	100.3	83.9	138.4	0.89	CB
		168.8	1936.0		2904.0	0.035	2.782	15.00	
12	□*	70.0	2326.0		123.3	179.0	92.7B	0.032	1.09
	X4-Y6	5.670	1050.0	1.00	123.3	116.7	200.8	1.04	CWB
		125.9	1050.0		2904.0	0.042	2.166	15.00	
13	*□	65.0	2251.0		49.2	102.6	84.3T	0.030	1.09
	X4-Y7	5.670	975.0	1.00	49.2	136.6	189.6	1.01	CWB
		121.6	975.0		2904.0	0.017	2.248	15.00	
14	□	44.0	1936.0	44.0	82.1	80.9	45.2	0.019	2.59
	X5-Y2	8.125	1936.0	1.00	82.1	80.9	136.9	0.88	CB
		178.8	1936.0		2904.0	0.028	3.027	15.00	
15	□	44.0	1936.0	44.0	80.5	80.6	45.1	0.019	2.59
	X5-Y6	8.125	1936.0	1.00	80.5	80.6	136.8	0.88	CB
		178.8	1936.0		2904.0	0.028	3.034	15.00	
16	□*	75.0	2401.0		66.7	182.4	101.2B	0.034	1.04
	X6-Y2	5.125	1125.0	1.00	66.7	112.1	210.8	1.05	WCB
		110.8	1125.0		2904.0	0.023	2.082	15.00	
17	*□*	106.0	2866.0		119.2	244.2	209.9B	0.059	1.04
	X6-Y3	5.125	1590.0	1.00	119.2	244.2	286.2	1.20	WCB
		116.4	1590.0		2904.0	0.041	1.364	15.00	
18	*□*	106.0	2866.0		118.4	244.0	211.8B	0.059	1.04
	X6-Y4	5.125	1590.0	1.00	118.4	244.0	287.7	1.20	WCB
		115.2	1590.0		2904.0	0.041	1.358	15.00	
19	*□	75.0	2401.0		66.3	112.1	102.5T	0.034	1.04
	X6-Y6	5.125	1125.0	1.00	66.3	182.2	212.2	1.06	WCB
		109.4	1125.0		2904.0	0.023	2.071	15.00	

破壊形式別の耐力の集計(この集計に増設グレースの側柱は含みません)(KN)

極脆性柱(CSS CWSS)= 0.0
 せん断柱(CS CWS)= 0.0 曲げ柱(CB CWB)= 540.7
 せん断壁(WS WCS)= 0.0 曲げ壁(WB WCB)= 1645.7
 合計 =2186.38

(2) 結果内訳(負加力時)

2F 階 -Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材 通り-軸名	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイ°
		H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
		hcw0	cTu/Fc	n'					Qsu3	
		cos v	pt							
1	□*	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	226.8	WCB
	X1-Y4	339.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	246.4	
	柱付き壁	127.4	0.046	0.02					135.7	
		---	0.29	-0.89						
2	*□*	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	323.0	WCB
	X1-Y5	339.6	19	0.40	1/250	1/250		(h)	403.6	
	柱付き壁	128.5	0.127	0.03					136.3	
		---	0.29	-0.87						
3	*□	249.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	234.0	WCB
	X1-Y7	339.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	253.3	
	柱付き壁	120.4	0.049	0.02					135.8	
		---	0.29	-0.88						
4	□	337.5	350.0	0.20	1/41	1/151	1/150	1/50		CB
	X2-Y1	339.6	19	0.40	1/50	1/50	1/8	(b)		
	柱	168.8	0.020	0.02						
		---	0.29	-0.88						

2F 階 -Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
5	□	337.5	350.0	0.20	1/40	1/151	1/150	1/50		CB
	X2-Y2	339.6	19	0.40	1/50	1/50	1/8	(b)		
	柱	168.8	0.020	0.02						
		---	0.29	-0.90						
6	□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/240	1/150	204.0	WCB
	X3-Y2	339.6	19	0.40	1/226	1/150		(b)	204.7	
	柱付き壁	122.7	0.042	0.04					139.8	
		---	0.29	-0.80						
7	*□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	251.0	WCB
	X3-Y3	339.6	19	0.40	1/226	1/150		(b)	274.5	
	柱付き壁	118.3	0.089	0.04					140.7	
		---	0.29	-0.78						
8	*□	138.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	290.9	WCB
	X3-Y4	339.6	19	0.40	1/250	1/250		(h)	297.5	
	柱付き壁	66.9	0.086	0.07					173.7	
		---	0.29	-0.64						
9	□	221.5	350.0	0.20	1/107	1/230	1/150	1/50		CB
	X3-Y7	339.6	19	0.40	1/77	1/50	1/21	(b)		
	柱	110.8	0.034	0.04						
		---	0.29	-0.81						
10	□	337.5	350.0	0.20	1/44	1/151	1/150	1/50		CB
	X4-Y1	339.6	19	0.40	1/50	1/50	1/9	(b)		
	柱	168.8	0.022	0.04						
		---	0.29	-0.79						
11	□	337.5	350.0	0.20	1/43	1/151	1/150	1/50		CB
	X4-Y2	339.6	19	0.40	1/50	1/50	1/9	(b)		
	柱	168.8	0.021	0.03						
		---	0.29	-0.83						
12	□*	249.5	350.0	0.20		1/250	1/219	1/150	200.8	CWB
	X4-Y6	339.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	192.0	
	そで壁付き柱	125.9	0.040	0.04					140.2	
		---	0.29	-0.79						
13	*□	249.5	350.0	0.20		1/250	1/217	1/150	189.6	CWB
	X4-Y7	339.6	19	0.40	1/204	1/150		(b)	173.1	
	そで壁付き柱	121.6	0.036	0.02					134.3	
		---	0.29	-0.92						
14	□	357.5	350.0	0.20	1/39	1/150	1/150	1/50		CB
	X5-Y2	339.6	19	0.40	1/50	1/50	1/8	(b)		
	柱	178.8	0.019	0.03						
		---	0.29	-0.86						
15	□	357.5	350.0	0.20	1/38	1/150	1/150	1/50		CB
	X5-Y6	339.6	19	0.40	1/50	1/50	1/8	(b)		
	柱	178.8	0.019	0.03						
		---	0.29	-0.86						
16	□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	206.6	WCB
	X6-Y2	339.6	19	0.40	1/226	1/150		(b)	210.8	
	柱付き壁	110.8	0.044	0.02					135.7	
		---	0.29	-0.89						
17	*□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	259.0	WCB
	X6-Y3	339.6	19	0.40	1/226	1/150		(b)	286.2	
	柱付き壁	116.4	0.090	0.04					139.9	
		---	0.29	-0.79						
18	*□*	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	260.4	WCB
	X6-Y4	339.6	19	0.40	1/226	1/150		(b)	287.7	
	柱付き壁	115.2	0.091	0.04					139.8	
		---	0.29	-0.80						
19	*□	225.5	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	208.0	WCB
	X6-Y6	339.6	19	0.40	1/226	1/150		(b)	212.2	
	柱付き壁	109.4	0.044	0.02					135.7	
		---	0.29	-0.89						

(1) 計算結果(負加力時)

1F 階 -X方向 (RC)

NO.	鉛直部材 通り-軸名	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
		h0/Ld	Ag	kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	タイプ
		hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
1	□	44.0	1936.0	44.0	157.4	146.6	83.8	0.036	2.58
	Y1-X2	7.955	1936.0	1.00	157.4	146.6	154.3	1.00	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.054	1.842	15.00	
2	□	44.0	1936.0	44.0	150.3	145.6	83.2	0.036	2.58
	Y1-X4	7.955	1936.0	1.00	150.3	145.6	153.8	0.99	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.052	1.848	15.00	
3	□***□*	162.9	4995.5		270.4	1421.7	466.7B	0.075	1.00
	Y2-X2 X3		1363.5	1.00	270.4	1282.9	383.3	0.92	WS
		274.9	1363.5				0.821	15.00	
4	*□*	85.0	2551.0		227.1	233.6	254.2B	0.080	1.00
	Y2-X4	4.818	1275.0	1.00	227.1	313.2	247.9	1.17	CWS
		123.2	1275.0		2904.0	0.078	0.975	15.00	
5	*□*	70.0	2326.0		187.2	214.9	157.5B	0.054	1.09
	Y2-X5	5.955	1050.0	1.00	187.2	214.9	226.1	1.17	CWB
		136.4	1050.0		2904.0	0.064	1.435	15.00	
6	*□	57.0	2131.0		181.2	166.8	136.1T	0.051	1.09
	Y2-X6	5.955	855.0	1.00	181.2	195.4	215.1	1.21	CWB
		122.6	855.0		2904.0	0.062	1.580	15.00	
7	□	44.0	1936.0	44.0	101.6	138.9	79.4	0.034	2.58
	Y3-X3	7.955	1936.0	1.00	101.6	138.9	149.9	0.97	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.035	1.888	15.00	
8	□	44.0	1936.0	44.0	231.6	156.3	89.3	0.038	2.58
	Y3-X6	7.955	1936.0	1.00	231.6	156.3	160.3	1.03	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.080	1.795	15.00	
9	□***□	407.6	8666.0		442.1	4853.1	1365.3B	0.126	1.14
	Y4-X1 X3		5454.0	1.00	442.1	4853.1	1423.9	1.97	WB
		355.5	13635.0				1.043	15.00	
10	□	44.0	1936.0	44.0	237.9	157.1	89.7	0.039	2.58
	Y4-X6	7.955	1936.0	1.00	237.9	157.1	160.8	1.04	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.082	1.791	15.00	
11	□	44.0	1936.0	44.0	158.9	146.8	79.3	0.034	2.59
	Y5-X1	8.409	1936.0	1.00	158.9	146.8	154.4	1.00	CB
		185.0	1936.0		2904.0	0.055	1.947	15.00	
12	□*	57.0	2131.0		257.9	207.9	119.3B	0.045	1.09
	Y6-X4	5.955	855.0	1.00	257.9	176.3	222.7	1.25	CWB
		147.8	855.0		2904.0	0.089	1.867	15.00	
13	*□*	70.0	2326.0		172.7	212.5	157.0B	0.054	1.09
	Y6-X5	5.955	1050.0	1.00	172.7	212.5	224.7	1.16	CWB
		135.3	1050.0		2904.0	0.059	1.431	15.00	
14	*□	57.0	2131.0		144.2	162.1	130.8T	0.049	1.09
	Y6-X6	5.955	855.0	1.00	144.2	189.2	211.4	1.19	CWB
		123.9	855.0		2904.0	0.050	1.616	15.00	
15	□*	114.0	2986.0		165.3	633.9	154.8B	0.041	1.09
	Y7-X1	5.955	1710.0	1.00	165.3	233.7	290.2	1.17	WCB
		151.0	1710.0		2904.0	0.057	1.875	15.00	
16	*□*	139.0	3361.0		196.1	347.2	301.4T	0.072	1.00
	Y7-X3	5.955	2085.0	1.00	196.1	698.5	398.7	1.42	WCB
		115.2	3127.5		2904.0	0.068	1.323	15.00	
17	*□	69.0	2311.0		136.4	181.0	149.1T	0.052	1.09
	Y7-X4	5.955	1035.0	1.00	136.4	254.9	220.2	1.14	CWB
		121.4	1035.0		2904.0	0.047	1.477	15.00	

破壊形式別の耐力の集計(この集計に増設ブレースの側柱は含みません)(KN)

極脆性柱(CSS CWSS)= 0.0
 せん断柱(CS CWS)= 247.9 曲げ柱(CB CWB)= 1354.6
 せん断壁(WS WCS)= 383.3 曲げ壁(WB WCB)= 1821.4
 合計 =3807.32

(2) 結果内訳(負加力時)

1F 階 -X方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
1	□	350.0	350.0	0.20	1/68	1/150	1/150	1/50		CB
	Y1-X2	351.0	22	0.40	1/50	1/50	1/20	(b)		
	柱	175.0	0.036	0.05						
		---	0.59	-0.73						
2	□	350.0	350.0	0.20	1/68	1/150	1/150	1/50		CB
	Y1-X4	351.0	22	0.40	1/50	1/50	1/20	(b)		
	柱	175.0	0.036	0.05						
		---	0.59	-0.74						
3	□**□*									WS
	Y2-X2 X3									
	壁	274.9								
4	*□*	212.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	247.9	CWS
	Y2-X4	351.0	22	0.40	1/250	1/250		(su)	243.2	
	そで壁付き柱	123.2	0.107	0.08					159.9	
		---	0.59	-0.61						
5	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/198	1/150	226.1	CWB
	Y2-X5	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	200.1	
	そで壁付き柱	136.4	0.068	0.06					156.7	
		---	0.59	-0.68						
6	*□	262.0	350.0	0.20		1/250	1/195	1/150	215.1	CWB
	Y2-X6	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	183.4	
	そで壁付き柱	122.6	0.059	0.06					156.2	
		---	0.59	-0.69						
7	□	350.0	350.0	0.20	1/66	1/150	1/150	1/50		CB
	Y3-X3	351.0	22	0.40	1/50	1/50	1/19	(b)		
	柱	175.0	0.034	0.03						
		---	0.59	-0.83						
8	□	350.0	350.0	0.20	1/70	1/150	1/150	1/50		CB
	Y3-X6	351.0	22	0.40	1/50	1/50	1/22	(b)		
	柱	175.0	0.038	0.08						
		---	0.59	-0.60						
9	□**□									WB
	Y4-X1 X3									
	壁	355.5								
10	□	350.0	350.0	0.20	1/71	1/150	1/150	1/50		CB
	Y4-X6	351.0	22	0.40	1/50	1/50	1/22	(b)		
	柱	175.0	0.039	0.08						
		---	0.59	-0.59						
11	□	370.0	350.0	0.20	1/64	1/150	1/150	1/50		CB
	Y5-X1	351.0	22	0.40	1/50	1/50	1/18	(b)		
	柱	185.0	0.034	0.05						
		---	0.59	-0.73						
12	*□*	262.0	350.0	0.20		1/207	1/155	1/150	222.7	CWB
	Y6-X4	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	189.7	
	そで壁付き柱	147.8	0.051	0.09					162.4	
		---	0.59	-0.56						
13	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/200	1/150	224.7	CWB
	Y6-X5	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	198.7	
	そで壁付き柱	135.3	0.068	0.06					155.6	
		---	0.59	-0.70						
14	*□	262.0	350.0	0.20		1/250	1/192	1/150	211.4	CWB
	Y6-X6	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	179.0	
	そで壁付き柱	123.9	0.056	0.05					153.3	
		---	0.59	-0.75						
15	*□	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	264.9	WCB
	Y7-X1	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	290.2	
	柱付き壁	151.0	0.067	0.06					155.0	
		---	0.59	-0.72						
16	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	362.3	WCB
	Y7-X3	351.0	22	0.40	1/250	1/250		(h)	398.7	
	柱付き壁	115.2	0.130	0.07					157.4	
		---	0.59	-0.66						

1F 階 -X方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
17	*□	262.0	350.0	0.20		1/250	1/228	1/150	220.2	CWB
	Y7-X4	351.0	22	0.40	1/201	1/150		(b)	198.9	
	そで壁付き柱	121.4	0.064	0.05					152.7	
		---	0.59	-0.77						

(1) 計算結果(負加力時)

1F 階 -Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材 通り-軸名	Ld	A	be	NL	Mu-T	Qmu	mu/Fc	F値
		h0/Ld	Ag	kr	Ns	Mu-B	Qsu	su	タイプ
		hcw0	剛性		Ncu	Ns/Ncu	Qsu/Qmu	Fc	
1	□*	97.0	2731.0		87.3	455.4	128.7B	0.038	1.09
	X1-Y4	5.955	1455.0	1.00	87.3	191.3	245.3	1.08	WCB
		148.6	1455.0		2904.0	0.030	1.905	15.00	
2	*□*	154.0	3586.0		158.9	579.8	388.2B	0.087	1.00
	X1-Y5	5.955	2310.0	1.00	158.9	579.8	396.1	1.33	WCB
		149.4	3465.0		2904.0	0.055	1.020	15.00	
3	□	97.0	2731.0		165.3	213.2	188.0T	0.055	1.09
	X1-Y7	5.955	1455.0	1.00	165.3	487.7	280.9	1.23	WCB
		113.4	1455.0		2904.0	0.057	1.494	15.00	
4	□	44.0	1936.0	44.0	157.4	146.6	83.8	0.036	2.58
	X2-Y1	7.955	1936.0	1.00	157.4	146.6	154.3	1.00	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.054	1.842	15.00	
5	□	44.0	1936.0	44.0	96.1	138.2	79.0	0.034	2.58
	X2-Y2	7.955	1936.0	1.00	96.1	138.2	149.4	0.96	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.033	1.893	15.00	
6	□***□	650.0	13578.0		803.5	12160.7	5680.1B	0.335	1.00
	X3-Y2 Y4		10465.9	1.00	803.5	12160.7	1884.3	1.67	WS
			214.1	36630.7				0.332	15.00
7	□	44.0	1936.0	44.0	196.1	162.4	92.8	0.040	2.58
	X3-Y7	7.955	1936.0	1.00	196.1	162.4	157.4	1.02	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.068	1.696	15.00	
8	□	44.0	1936.0	44.0	150.3	145.6	83.2	0.036	2.58
	X4-Y1	7.955	1936.0	1.00	150.3	145.6	153.8	0.99	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.052	1.848	15.00	
9	□	44.0	1936.0	44.0	227.1	155.7	89.0	0.038	2.58
	X4-Y2	7.955	1936.0	1.00	227.1	155.7	159.9	1.03	CB
		175.0	1936.0		2904.0	0.078	1.797	15.00	
10	□*	70.0	2326.0		257.9	284.9	128.1B	0.044	1.09
	X4-Y6	5.955	1050.0	1.00	257.9	186.5	233.2	1.20	CWB
		145.6	1050.0		2904.0	0.089	1.821	15.00	
11	*□	65.0	2251.0		136.4	177.6	151.5T	0.054	1.09
	X4-Y7	5.955	975.0	1.00	136.4	230.6	217.0	1.16	CWB
		117.2	975.0		2904.0	0.047	1.433	15.00	
12	□	44.0	1936.0	44.0	187.2	150.5	81.4	0.035	2.59
	X5-Y2	8.409	1936.0	1.00	187.2	150.5	156.7	1.01	CB
		185.0	1936.0		2904.0	0.064	1.926	15.00	
13	□	44.0	1936.0	44.0	172.7	148.6	80.3	0.035	2.59
	X5-Y6	8.409	1936.0	1.00	172.7	148.6	155.6	1.00	CB
		185.0	1936.0		2904.0	0.059	1.936	15.00	
14	*□*	153.0	3571.0		181.2	398.5	367.2T	0.082	1.00
	X6-Y2	5.955	2295.0	1.00	181.2	773.4	459.5	1.54	WCB
		108.5	3442.5		2904.0	0.062	1.251	15.00	
15	*□*	106.0	2866.0		231.6	353.0	251.6B	0.070	1.09
	X6-Y3	5.955	1590.0	1.00	231.6	353.0	284.7	1.19	WCB
		140.3	1590.0		2904.0	0.080	1.132	15.00	
16	*□*	106.0	2866.0		237.9	354.3	250.1B	0.070	1.09
	X6-Y4	5.955	1590.0	1.00	237.9	354.3	284.5	1.19	WCB
		141.7	1590.0		2904.0	0.082	1.138	15.00	
17	*□	75.0	2401.0		144.2	176.7	150.6T	0.050	1.09
	X6-Y6	5.955	1125.0	1.00	144.2	298.9	227.5	1.14	CWB
		117.3	1125.0		2904.0	0.050	1.511	15.00	

破壊形式別の耐力の集計(この集計に増設ブレースの側柱は含みません)(KN)

極脆性柱(CSS CWSS)= 0.0

せん断柱(CS CWS)= 0.0 曲げ柱(CB CWB)= 1019.6
 せん断壁(WS WCS)= 1884.3 曲げ壁(WB WCB)= 1573.8
 合計 =4477.61

(2) 結果内訳(負加力時)

1F 階 -Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
1	□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/233	1/150	237.5	WCB
	X1-Y4	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	245.3	
	柱付き壁	148.6	0.055	0.03					148.7	
		---	0.59	-0.85						
2	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	335.8	WCB
	X1-Y5	351.9	22	0.40	1/250	1/250		(h)	396.1	
	柱付き壁	149.4	0.167	0.05					154.4	
		---	0.59	-0.73						
3	*□	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	276.4	WCB
	X1-Y7	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	280.9	
	柱付き壁	113.4	0.081	0.06					155.0	
		---	0.59	-0.72						
4	□	350.0	350.0	0.20	1/68	1/151	1/150	1/50		CB
	X2-Y1	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/20	(b)		
	柱	175.0	0.036	0.05						
		---	0.59	-0.73						
5	□	350.0	350.0	0.20	1/66	1/151	1/150	1/50		CB
	X2-Y2	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/19	(b)		
	柱	175.0	0.034	0.03						
		---	0.59	-0.83						
6	□***□									WS
	X3-Y2 Y4									
	壁	214.1								
7	□	350.0	350.0	0.20	1/76	1/151	1/150	1/50		CB
	X3-Y7	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/25	(b)		
	柱	175.0	0.040	0.07						
		---	0.59	-0.66						
8	□	350.0	350.0	0.20	1/68	1/151	1/150	1/50		CB
	X4-Y1	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/20	(b)		
	柱	175.0	0.036	0.05						
		---	0.59	-0.74						
9	□	350.0	350.0	0.20	1/71	1/151	1/150	1/50		CB
	X4-Y2	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/22	(b)		
	柱	175.0	0.038	0.08						
		---	0.59	-0.61						
10	□*	262.0	350.0	0.20		1/245	1/183	1/150	233.2	CWB
	X4-Y6	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	211.6	
	そで壁付き柱	145.6	0.055	0.09					162.4	
		---	0.59	-0.56						
11	*□	262.0	350.0	0.20		1/250	1/227	1/150	217.0	CWB
	X4-Y7	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	194.4	
	そで壁付き柱	117.2	0.065	0.05					152.7	
		---	0.59	-0.77						
12	□	370.0	350.0	0.20	1/65	1/150	1/150	1/50		CB
	X5-Y2	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/18	(b)		
	柱	185.0	0.035	0.06						
		---	0.59	-0.68						
13	□	370.0	350.0	0.20	1/64	1/150	1/150	1/50		CB
	X5-Y6	351.9	22	0.40	1/50	1/50	1/18	(b)		
	柱	185.0	0.035	0.06						
		---	0.59	-0.70						
14	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/250	404.8	WCB
	X6-Y2	351.9	22	0.40	1/250	1/250		(h)	459.5	
	柱付き壁	108.5	0.158	0.06					156.2	
		---	0.59	-0.69						
15	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	268.1	WCB
	X6-Y3	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	284.7	
	柱付き壁	140.3	0.108	0.08					160.3	
		---	0.59	-0.60						

1F 階 -Y方向 (RC)

NO.	鉛直部材	h0	s	L	Rsu	Rmy	cRmy/cwRmy	cRmax/cwRmax	Qsu1	破壊タイプ
	通り-軸名	H0	db	H	Rmu	cRmu/cwRmu	cRmp		Qsu2	
	部材の分類	hcw0	cTu/Fc						Qsu3	
		cos v	pt	n'						
16	*□*	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	267.4	WCB
	X6-Y4	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	284.5	
	柱付き壁	141.7	0.108	0.08					160.8	
		---	0.59	-0.59						
17	*□	262.0	350.0	0.20		1/250	1/250	1/150	227.5	CWB
	X6-Y6	351.9	22	0.40	1/201	1/150		(b)	221.3	
	そで壁付き柱	117.3	0.065	0.05					153.3	
		---	0.59	-0.75						

10.2* 2次診断グルーピングの結果(負加力時)

*** 3F 階 -X方向 (RC) ***

(1) 最大11グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

グループ境界F値	グループF値範囲
0.8	F=0.8
1.0	1.00 F<1.13
1.13	1.13 F<1.27
1.27	1.27 F<1.40
1.40	1.40 F<1.60
1.60	1.60 F<1.80
1.80	1.80 F<2.00
2.00	2.00 F<2.40
2.40	2.40 F<2.80
2.80	2.80 F<3.20
3.20	F=3.20

グループNo.	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
極脆性柱				
極脆性そで壁付柱				
せん断柱				
せん断そで壁付柱				
せん断壁				
せん断柱型付壁				
曲げ壁		299.66	126.08	
曲げ柱型付壁				
曲げ柱		183.01		93.09
曲げそで壁付柱				
せん断雑壁				
曲げ雑壁				
ブレス				
合計		482.66	126.08	93.09
耐力ピーク値		675.77	205.66	93.09

注) 耐力単純合計=701.84KN そのうち補強ブレス耐力合計=0.00KN

(2) 強度寄与係数(負加力時)

NO.	通り-軸名	鉛直部材	靱性指標F	破壊タイプ	強度寄与係数				
					F1=0.8	F1=1.0	F1=1.13	1.27	F1
1	Y1-X2	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
2	Y1-X4	□	1.00	CB	0.650	1.000	---	---	
3	Y2-X2	□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
4	Y2-X4	*□	1.19	WCB	0.650	1.000	1.000	---	

注) F1 : グルーピングにおける先端第1グループの靱性指標

(3) 1グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

先端グループNo	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
グループNo	耐力	強度寄与係数		
2	482.66	----	1.000	----
3	126.08	----	1.000	1.000
4	93.09	----	0.720	0.855 1.000
耐力ピーク値	----	675.77	205.66	93.09

(a) 極脆性柱を考慮した場合 $E1Z = (Qzc + j \cdot Qj) \cdot Fzc \quad j=1 \sim 11$

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮した場合 $E1S = (Qsc + j \cdot Qj) \cdot Fsc$

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮しない場合 $E1M = Q \cdot F$

先端グループNo	Q (合計)	F	E1M
2	675.77	1.00	675.77

(4) 2グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

$$E2M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	E2M
2	1.000	482.66		---	---		
3	1.000	126.08		---	---		
4	---	---		1.000	93.09		
合計		608.75	1.00		93.09	2.40	648.45

(5) 3グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

$$E3M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2 + (Qg3 \cdot Fg3)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	3	Qg3	Fg3	E3M
2	1.000	482.66		---	---		---	---		
3	---	---		1.000	126.08		---	---		
4	---	---		---	---		1.000	93.09		
合計		482.66	1.00		126.08	1.13		93.09	2.40	550.62

(6) 最終結果(総重量 299.74KNで除した指標)(負加力時)

R=1/500の場合 (n+1)/(n+i) = 0.667 SD = 0.712 T = 0.934
 R=1/250の場合 (n+1)/(n+i) = 0.667 SD = 0.712 T = 0.934

(a) 極脆性柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮せずにEoが最大となる結果(1~3グループ式のうち、1グループ式による)

構造種別	Cg1	Fg1	Cg2	Fg2	Cg3	Fg3	E0M	CTU	CTUSD
RC	2.254	1.00	0.000	0.00	0.000	0.00	1.502	1.502	1.071

(7) 各グループピングの途中結果(負加力時)

$$E0 = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot \text{SQRT}\{(C1 \cdot F1)^2 + (C2 \cdot F2)^2 + (C3 \cdot F3)^2\}$$

$$CTUSD = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot Cn \cdot SD$$

(Cn : 1グループの場合C1, 2グループの場合C2, 3グループの場合C3)

E0の最大値 * : 極脆性柱を考慮しないE0の最大値

[*] : CTUSD 0.3・Z・G・Uを考慮した場合で、極脆性柱を考慮しないE0の最大値

注) CSS表示は極脆性柱を考慮した場合でE0の最大値(*, [*]共)の対象外となります。

- 表示はCTUSD < 0.3・Z・G・Uの場合でE0の最大値([*])の対象外となります。

R=1/500の場合 (n+1)/(n+i) = 0.667 SD = 0.712 T = 0.934

R=1/250の場合 (n+1)/(n+i) = 0.667 SD = 0.712 T = 0.934

< 3F 階 -X方向 1グループ式の途中結果((5)式による) >

グループNo G1	C1	F1	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
2	2.25	1.00	1.502	1.000	1.071	* []
3	0.69	1.13	0.516	0.344	0.325	
4	0.31	2.40	0.496	0.330	0.147	-

< 3F 階 -X方向 2グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No		C1	F1	C2	F2	E0	Is	CTUSD	E0の最大値	
G1	G2									
2	3	1.61	1.00	0.69	1.13	1.191	0.792	0.325		
2	4	2.03	1.00	0.31	2.40	1.442	0.959	0.147		-
3	4	0.42	1.13	0.31	2.40	0.589	0.392	0.147		-

< 3F 階 -X方向 3グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No			C1	F1	C2	F2	C3	F3	E0	Is	CTUSD	E0の最大値	
G1	G2	G3											
2	3	4	1.61	1.00	0.42	1.13	0.31	2.40	1.224	0.815	0.147		-

(1) 最大11グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

グループNo.	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
極脆性柱 極脆性そで壁付柱				
せん断柱 せん断そで壁付柱				
せん断壁 せん断柱型付壁				
曲げ壁 曲げ柱型付壁				
曲げ柱 曲げそで壁付柱				271.98
せん断雑壁				
曲げ雑壁				
ブレス				
合計				271.98
耐力ピーク値				271.98

注) 耐力単純合計=271.98KN そのうち補強ブレス耐力合計=0.00KN

(2) 強度寄与係数(負加力時)

NO.	通り-軸名	鉛直部材	靱性指標F	破壊タイプ	強度寄与係数				
					F1=0.8	F1=1.0	F1=1.13	1.27	F1
1	X2-Y1	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
2	X2-Y2	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
3	X4-Y1	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
4	X4-Y2	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	

注) F1 : グループングにおける先端第1グループの靱性指標

(3) 1グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

先端グループNo	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
グループNo	耐力	強度寄与係数		
4	271.98	----	----	1.000
耐力ピーク値	----	----	----	271.98

(a) 極脆性柱を考慮した場合 $E1Z = (Qzc + j \cdot Qj) \cdot Fzc \quad j=1 \sim 11$

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮した場合 $E1S = (Qsc + j \cdot Qj) \cdot Fsc$

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮しない場合 $E1M = Q \cdot F$

先端グループNo	Q (合計)	F	E1M
4	271.98	2.40	652.76

(6) 最終結果(総重量 299.74KNで除した指標)(負加力時)

$R=1/500$ の場合 $(n+1)/(n+i) = 0.667 \quad SD = 0.746 \quad T = 0.934$

$R=1/250$ の場合 $(n+1)/(n+i) = 0.667 \quad SD = 0.746 \quad T = 0.934$

(a) 極脆性柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮せずにE0が最大となる結果(1~3グループ式のうち、1グループ式による)

構造種別	Cg1	Fg1	Cg2	Fg2	Cg3	Fg3	E0M	CTU	CTUSD
RC	0.907	2.40	0.000	0.00	0.000	0.00	1.451	0.604	0.451

(7) 各グループピングの途中結果(負加力時)

$$E0 = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot \text{SQRT}\{(C1 \cdot F1)^2 + (C2 \cdot F2)^2 + (C3 \cdot F3)^2\}$$

$$CTUSD = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot Cn \cdot SD$$

(Cn : 1グループの場合C1, 2グループの場合C2, 3グループの場合C3)

E0の最大値 * : 極脆性柱を考慮しないE0の最大値

[*] : CTUSD $< 0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U$ を考慮した場合、極脆性柱を考慮しないE0の最大値

注) CSS表示は極脆性柱を考慮した場合でE0の最大値(*, [*]共)の対象外となります。

- 表示はCTUSD $< 0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U$ の場合でE0の最大値([*])の対象外となります。

R= 1 /500の場合 $(n+1)/(n+i) = 0.667$ SD = 0.746 T = 0.934

R= 1 /250の場合 $(n+1)/(n+i) = 0.667$ SD = 0.746 T = 0.934

< 3F 階 -Y方向 1グループ式の途中結果((5)式による) >

グループ No G1	C1	F1	E0	Is	CTUSD	E0の最大値	
4	0.91	2.40	1.451	1.012	0.451	*	[*]

(1) 最大11グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

グループNo.	1	2	3	4	5
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.00	2.40
極脆性柱					
極脆性そで壁付柱					
せん断柱					
せん断そで壁付柱					
せん断壁					
せん断柱型付壁					
曲げ壁		985.55		371.49	
曲げ柱型付壁					
曲げ柱		769.94			397.06
曲げそで壁付柱					
せん断雑壁					
曲げ雑壁					
ブレス					
合計		1755.49		371.49	397.06
耐力ピーク値		2412.86		768.55	397.06

注) 耐力単純合計=2524.04KN そのうち補強ブレス耐力合計=0.00KN

(2) 強度寄与係数(負加力時)

NO.	通り-軸名	鉛直部材	靱性指標F	破壊タイプ	強度寄与係数				
					F1=0.8	F1=1.0	F1=1.13	1.27	F1
1	Y1-X2	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.857	1.000	
2	Y1-X4	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.857	1.000	
3	Y2-X2	□***□*	2.00	WB	0.650	1.000	1.000	1.000	
4	Y2-X4	*□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
5	Y2-X5	*□*	1.04	CWB	0.650	1.000	---	---	
6	Y2-X6	*□	1.04	CWB	0.650	1.000	---	---	
7	Y3-X3	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.857	1.000	
8	Y3-X6	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.857	1.000	
9	Y4-X1	□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
10	Y4-X3	*□	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
11	Y4-X6	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.857	1.000	
12	Y5-X1	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
13	Y6-X4	□*	1.04	CWB	0.615	1.000	---	---	
14	Y6-X5	*□*	1.04	CWB	0.650	1.000	---	---	
15	Y6-X6	*□	1.04	CWB	0.650	1.000	---	---	
16	Y7-X1	□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
17	Y7-X3	*□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
18	Y7-X4	*□	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	

注) F1 : グループングにおける先端第1グループの靱性指標

(3) 1グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

先端グループNo	1	2	3	4	5
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.00	2.40
グループNo	耐力	強度寄与係数			
2	1755.49	----	1.000	----	----
4	371.49	----	1.000	----	1.000
5	397.06	----	0.720	----	1.000
耐力ピーク値	----	2412.86	----	768.55	397.06

(a) 極脆性柱を考慮した場合 $E1Z = (Qzc + j \cdot Qj) \cdot Fzc$ $j=1 \sim 11$

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮した場合 $E1S = (Qsc + j \cdot Qj) \cdot Fsc$

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮しない場合 $E1M = Q \cdot F$

先端グループNo	Q (合計)	F	E1M
2	2412.86	1.00	2412.86

(4) 2グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

$$E2M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	E2M
2	1.000	1755.49		---	---		
4	---	---		1.000	371.49		
5	---	---		1.000	397.06		
合計		1755.49	1.00		768.55	2.00	2333.33

(5) 3グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

$$E3M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2 + (Qg3 \cdot Fg3)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	3	Qg3	Fg3	E3M
2	1.000	1755.49		---	---		---	---		
4	---	---		1.000	371.49		---	---		
5	---	---		---	---		1.000	397.06		
合計		1755.49	1.00		371.49	2.00		397.06	2.40	2131.16

(6) 最終結果(総重量 2135.84KNで除した指標)(負加力時)

R = 1 / 500の場合 (n+1)/(n+i) = 0.800 SD = 0.693 T = 0.934
 R = 1 / 250の場合 (n+1)/(n+i) = 0.800 SD = 0.693 T = 0.934

(a) 極脆性柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮せずにEoが最大となる結果(1~3グループ式のうち、1グループ式による)

構造種別	Cg1	Fg1	Cg2	Fg2	Cg3	Fg3	EOM	CTU	CTUSD
RC	1.130	1.00	0.000	0.00	0.000	0.00	0.903	0.903	0.627

(7) 各グループピングの途中結果(負加力時)

$$E0 = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot \text{SQRT}\{(C1 \cdot F1)^2 + (C2 \cdot F2)^2 + (C3 \cdot F3)^2\}$$

$$CTUSD = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot Cn \cdot SD$$

(Cn : 1グループの場合C1, 2グループの場合C2, 3グループの場合C3)

E0の最大値 * : 極脆性柱を考慮しないE0の最大値

[*] : CTUSD 0.3・Z・G・Uを考慮した場合で、極脆性柱を考慮しないE0の最大値

注) CSS表示は極脆性柱を考慮した場合でE0の最大値(*, [*]共)の対象外となります。

- 表示はCTUSD < 0.3・Z・G・Uの場合でE0の最大値([*])の対象外となります。

R = 1 / 500の場合 (n+1)/(n+i) = 0.800 SD = 0.693 T = 0.934
 R = 1 / 250の場合 (n+1)/(n+i) = 0.800 SD = 0.693 T = 0.934

< 2F 階 -X方向 1グループ式の途中結果((5)式による) >

グループ No G1	C1	F1	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
2	1.13	1.00	0.903	0.585	0.627	* []
4	0.36	2.00	0.575	0.373	0.199	-
5	0.19	2.40	0.356	0.231	0.103	-

< 2F 階 -X方向 2グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No		C1	F1	C2	F2	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
G1	G2								
2	4	0.82	1.00	0.36	2.00	0.873	0.566	0.199	-
2	5	1.00	1.00	0.19	2.40	0.872	0.565	0.103	-
4	5	0.17	2.00	0.19	2.40	0.452	0.293	0.103	-

< 2F 階 -X方向 3グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No			C1	F1	C2	F2	C3	F3	E0	Is	CTUSD	E0の最大値	
G1	G2	G3											
2	4	5	0.82	1.00	0.17	2.00	0.19	2.40	0.798	0.517	0.103		-

(1) 最大11グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

グループNo.	1	2	3	4	5
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.00	2.40
極脆性柱 極脆性そで壁付柱					
せん断柱 せん断そで壁付柱					
せん断壁 せん断柱型付壁					
曲げ壁 曲げ柱型付壁		1645.69			
曲げ柱 曲げそで壁付柱		177.02		79.44	284.24
せん断雑壁					
曲げ雑壁					
ブレス					
合計		1822.71		79.44	284.24
耐力ピーク値		2102.34		363.68	284.24

注) 耐力単純合計=2186.38KN そのうち補強ブレス耐力合計=0.00KN

(2) 強度寄与係数(負加力時)

NO.	通り-軸名	鉛直部材	靱性指標F	破壊タイプ	強度寄与係数				
					F1=0.8	F1=1.0	F1=1.13	1.27	F1
1	X1-Y4	□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
2	X1-Y5	*□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
3	X1-Y7	*□	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
4	X2-Y1	□	2.58	CB	0.511	0.723	0.858	1.000	
5	X2-Y2	□	2.58	CB	0.511	0.723	0.858	1.000	
6	X3-Y2	□*	1.04	WCB	0.650	1.000	---	---	
7	X3-Y3	*□*	1.04	WCB	0.650	1.000	---	---	
8	X3-Y4	*□	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
9	X3-Y7	□	2.07	CB	0.622	0.944	1.000	1.000	
10	X4-Y1	□	2.58	CB	0.511	0.723	0.858	1.000	
11	X4-Y2	□	2.58	CB	0.511	0.723	0.858	1.000	
12	X4-Y6	□*	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	
13	X4-Y7	*□	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	
14	X5-Y2	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
15	X5-Y6	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
16	X6-Y2	□*	1.04	WCB	0.650	1.000	---	---	
17	X6-Y3	*□*	1.04	WCB	0.650	1.000	---	---	
18	X6-Y4	*□*	1.04	WCB	0.650	1.000	---	---	
19	X6-Y6	*□	1.04	WCB	0.650	1.000	---	---	

注) F1 : グループにおける先端第1グループの靱性指標

(3) 1グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

先端グループNo	1	2	3	4	5
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.00	2.40
グループNo	耐力	強度寄与係数			
2	1822.71	----	1.000	----	----
4	79.44	----	0.944	----	1.000
5	284.24	----	0.720	----	1.000
耐力ピーク値	----	2102.34	----	363.68	284.24

(a) 極脆性柱を考慮した場合 $E1Z = (Qzc + j \cdot Qj) \cdot Fzc \quad j=1 \sim 11$

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮した場合 $E1S = (Qsc + j \cdot Qj) \cdot Fsc$

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮しない場合 $E1M = Q \cdot F$

先端グループNo	Q (合計)	F	E1M
2	2102.34	1.00	2102.34

(4) 2グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

$$E2M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	E2M
2	1.000	1822.71		---	---		
4	0.944	79.44		---	---		
5	---	---		1.000	284.24		
合計		1897.69	1.00		284.24	2.40	2016.58

(5) 3グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

$$E3M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2 + (Qg3 \cdot Fg3)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	3	Qg3	Fg3	E3M
2	1.000	1822.71		---	---		---	---		
4	---	---		1.000	79.44		---	---		
5	---	---		---	---		1.000	284.24		
合計		1822.71	1.00		79.44	2.00		284.24	2.40	1952.66

(6) 最終結果(総重量 2135.84KNで除した指標)(負加力時)

R=1/500の場合 (n+1)/(n+i) = 0.800 SD = 0.896 T = 0.934
 R=1/250の場合 (n+1)/(n+i) = 0.800 SD = 0.896 T = 0.934

(a) 極脆性柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮せずにEoが最大となる結果(1~3グループ式のうち、1グループ式による)

構造種別	Cg1	Fg1	Cg2	Fg2	Cg3	Fg3	EOM	CTU	CTUSD
RC	0.984	1.00	0.000	0.00	0.000	0.00	0.787	0.787	0.706

(7) 各グループピングの途中結果(負加力時)

$$E0 = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot \text{SQRT}\{(C1 \cdot F1)^2 + (C2 \cdot F2)^2 + (C3 \cdot F3)^2\}$$

$$CTUSD = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot Cn \cdot SD$$

(Cn : 1グループの場合C1, 2グループの場合C2, 3グループの場合C3)

E0の最大値 * : 極脆性柱を考慮しないE0の最大値

[*] : CTUSD 0.3・Z・G・Uを考慮した場合で、極脆性柱を考慮しないE0の最大値

注) CSS表示は極脆性柱を考慮した場合でE0の最大値(*, [*]共)の対象外となります。

- 表示はCTUSD < 0.3・Z・G・Uの場合でE0の最大値([*])の対象外となります。

R=1/500の場合 (n+1)/(n+i) = 0.800 SD = 0.896 T = 0.934

R=1/250の場合 (n+1)/(n+i) = 0.800 SD = 0.896 T = 0.934

< 2F 階 -Y方向 1グループ式の途中結果((5)式による) >

グループNo G1	C1	F1	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
2	0.98	1.00	0.787	0.659	0.706	* []
4	0.17	2.00	0.272	0.228	0.122	-
5	0.13	2.40	0.255	0.213	0.095	-

< 2F 階 -Y方向 2グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No		C1	F1	C2	F2	E0	Is	CTUSD	E0の最大値	
G1	G2									
2	4	0.85	1.00	0.17	2.00	0.735	0.615	0.122		-
2	5	0.89	1.00	0.13	2.40	0.755	0.632	0.095		-
4	5	0.04	2.00	0.13	2.40	0.262	0.219	0.095		-

< 2F 階 -Y方向 3グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No			C1	F1	C2	F2	C3	F3	E0	Is	CTUSD	E0の最大値	
G1	G2	G3											
2	4	5	0.85	1.00	0.04	2.00	0.13	2.40	0.731	0.612	0.095		-

*** 1F 階 -X方向 (RC) ***

(1) 最大11グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

グループNo.	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
極脆性柱				
極脆性そで壁付柱				
せん断柱		247.95		
せん断そで壁付柱				
せん断壁		383.31		
せん断柱型付壁				
曲げ壁		456.19	1365.25	
曲げ柱型付壁				
曲げ柱		849.86		504.76
曲げそで壁付柱				
せん断雑壁				
曲げ雑壁				
ブレース				
合計		1937.31	1365.25	504.76
耐力ピーク値		3665.99	1796.72	504.76

注) 耐力単純合計=3807.32KN そのうち補強ブレース耐力合計=0.00KN

(2) 強度寄与係数(負加力時)

NO.	通り-軸名	鉛直部材	靱性指標F	破壊タイプ	強度寄与係数				
					F1=0.8	F1=1.0	F1=1.13	1.27	F1
1	Y1-X2	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.856	1.000	
2	Y1-X4	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.856	1.000	
3	Y2-X2	□***□*	1.00	WS	0.791	1.000	---	---	
4	Y2-X4	*□*	1.00	CWS	0.666	1.000	---	---	
5	Y2-X5	*□*	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	
6	Y2-X6	*□	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	
7	Y3-X3	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.856	1.000	
8	Y3-X6	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.856	1.000	
9	Y4-X1	□***□	1.14	WB	0.650	1.000	1.000	---	
10	Y4-X6	□	2.58	CB	0.511	0.721	0.856	1.000	
11	Y5-X1	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
12	Y6-X4	□*	1.09	CWB	0.590	1.000	---	---	
13	Y6-X5	*□*	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	
14	Y6-X6	*□	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	
15	Y7-X1	□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
16	Y7-X3	*□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
17	Y7-X4	*□	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	

注) F1 : グループングにおける先端第1グループの靱性指標

(3) 1グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

先端グループNo	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
グループNo	耐力	強度寄与係数		
2	1937.31	----	1.000	----
3	1365.25	----	1.000	1.000
4	504.76	----	0.720	0.855
耐力ピーク値	----	3665.99	1796.72	504.76

(a) 極脆性柱を考慮した場合 $E1Z = (Qzc + \sum_j Qj) \cdot Fzc \quad j=1 \sim 11$

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮した場合 $E1S = (Qsc + \sum_j Qj) \cdot Fsc \quad j>2$

Q (合計)	Fsc	E1S
3665.99	1.00	3665.99

(c) 極脆性柱を考慮しない場合 $E1M = Q \cdot F$

先端グループNo	Q (合計)	F	E1M
2	3665.99	1.00	3665.99

(4) 2グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

$$E2M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	E2M
2	1.000	1937.31		---	---		
3	1.000	1365.25		---	---		
4	---	---		1.000	504.76		
合計		3302.56	1.00		504.76	2.40	3517.73

(5) 3グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

$$E3M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2 + (Qg3 \cdot Fg3)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	3	Qg3	Fg3	E3M
2	1.000	1937.31		---	---		---	---		
3	---	---		1.000	1365.25		---	---		
4	---	---		---	---		1.000	504.76		
合計		1937.31	1.00		1365.25	1.13		504.76	2.40	2756.94

(6) 最終結果(総重量 5110.64KNで除した指標)(負加力時)

R = 1 / 500の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.619 T = 0.934
 R = 1 / 250の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.619 T = 0.934

(a) 極脆性柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

構造種別	C(合計)	F	EOZ	CTU	CTUSD
RC	0.717	1.00	0.717	0.717	0.444

(c) 極脆性柱を考慮せずにEoが最大となる結果(1~3グループ式のうち、1グループ式による)

構造種別	Cg1	Fg1	Cg2	Fg2	Cg3	Fg3	EOM	CTU	CTUSD
RC	0.717	1.00	0.000	0.00	0.000	0.00	0.717	0.717	0.444

(7) 各グループの途中結果(負加力時)

$$E0 = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot \text{SQRT}\{(C1 \cdot F1)^2 + (C2 \cdot F2)^2 + (C3 \cdot F3)^2\}$$

$$CTUSD = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot Cn \cdot SD$$

(Cn : 1グループの場合C1, 2グループの場合C2, 3グループの場合C3)

E0の最大値 * : 極脆性柱を考慮しないE0の最大値

[*] : CTUSD 0.3・Z・G・Uを考慮した場合で、極脆性柱を考慮しないE0の最大値

注) CSS表示は極脆性柱を考慮した場合でE0の最大値(*, [*]共)の対象外となります。

- 表示はCTUSD < 0.3・Z・G・Uの場合でE0の最大値([*])の対象外となります。

R = 1 / 500の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.619 T = 0.934

R = 1 / 250の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.619 T = 0.934

< 1F 階 -X方向 1グループ式の途中結果((5)式による) >

グループ No G1	C1	F1	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
2	0.72	1.00	0.717	0.415	0.444	* []
3	0.35	1.13	0.397	0.229	0.217	-
4	0.10	2.40	0.237	0.137	0.061	-

< 1F 階 -X方向 2グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No		C1	F1	C2	F2	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
G1	G2								
2	3	0.38	1.00	0.35	1.13	0.549	0.317	0.217	-
2	4	0.65	1.00	0.10	2.40	0.688	0.398	0.061	-

グループ No			C1	F1	C2	F2	E0	Is	CTUSD	E0の最大値	
G1	G2										
3	4		0.27	1.13	0.10	2.40	0.383	0.222	0.061		-

< 1F 階 -X方向 3グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No				C1	F1	C2	F2	C3	F3	E0	Is	CTUSD	E0の最大値	
G1	G2	G3												
2	3	4		0.38	1.00	0.27	1.13	0.10	2.40	0.539	0.312	0.061		-

(1) 最大11グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

グループNo.	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
極脆性柱				
極脆性そで壁付柱				
せん断柱				
せん断そで壁付柱				
せん断壁		1884.25		
せん断柱型付壁				
曲げ壁		1573.80		
曲げ柱型付壁				
曲げ柱		430.14		589.41
曲げそで壁付柱				
せん断雑壁				
曲げ雑壁				
ブレース				
合計		3888.20		589.41
耐力ピーク値		4312.57		589.41

注) 耐力単純合計=4477.61KN そのうち補強ブレース耐力合計=0.00KN

(2) 強度寄与係数(負加力時)

NO.	通り-軸名	鉛直部材	靱性指標F	破壊タイプ	強度寄与係数				
					F1=0.8	F1=1.0	F1=1.13	1.27	F1
1	X1-Y4	□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
2	X1-Y5	*□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
3	X1-Y7	*□	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
4	X2-Y1	□	2.58	CB	0.511	0.722	0.858	1.000	
5	X2-Y2	□	2.58	CB	0.511	0.722	0.858	1.000	
6	X3-Y2	□***□	1.00	WS	1.000	1.000	---	---	
7	X3-Y7	□	2.58	CB	0.511	0.722	0.858	1.000	
8	X4-Y1	□	2.58	CB	0.511	0.722	0.858	1.000	
9	X4-Y2	□	2.58	CB	0.511	0.722	0.858	1.000	
10	X4-Y6	□*	1.09	CWB	0.643	1.000	---	---	
11	X4-Y7	*□	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	
12	X5-Y2	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
13	X5-Y6	□	2.59	CB	0.510	0.720	0.855	1.000	
14	X6-Y2	*□*	1.00	WCB	0.650	1.000	---	---	
15	X6-Y3	*□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
16	X6-Y4	*□*	1.09	WCB	0.650	1.000	---	---	
17	X6-Y6	*□	1.09	CWB	0.650	1.000	---	---	

注) F1 : グループリングにおける先端第1グループの靱性指標

(3) 1グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

先端グループNo	1	2	3	4
F指標値	0.80	1.00	1.13	2.40
グループNo	耐力	強度寄与係数		
2	3888.20	----	1.000	----
4	589.41	----	0.720	1.000
耐力ピーク値	----	4312.57	----	589.41

(a) 極脆性柱を考慮した場合 $E1Z = (Qzc + j \cdot Qj) \cdot Fzc \quad j=1 \sim 11$

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮した場合 $E1S = (Qsc + j \cdot Qj) \cdot Fsc$

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮しない場合 $E1M = Q \cdot F$

先端グループNo	Q (合計)	F	E1M
2	4312.57	1.00	4312.57

(4) 2グループに分類した場合の終局耐力(負加力時)(KN)

$$E2M = \text{SQRT}\{ ((Qg1 \cdot Fg1)^2 + (Qg2 \cdot Fg2)^2) \}$$

先端グループNo	1	Qg1	Fg1	2	Qg2	Fg2	E2M
2	1.000	3888.20		---	---		
4	---	---		1.000	589.41		
合計		3888.20	1.00		589.41	2.40	4137.53

(6) 最終結果(総重量 5110.64KNで除した指標)(負加力時)

R = 1 / 500の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.866 T = 0.934
 R = 1 / 250の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.866 T = 0.934

(a) 極脆性柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) 極脆性柱はありません。

(b) せん断柱を考慮し、Eoが最大となる結果(1グループ式のみによる)

注) せん断柱はありません。

(c) 極脆性柱を考慮せずにEoが最大となる結果(1~3グループ式のうち、1グループ式による)

構造種別	Cg1	Fg1	Cg2	Fg2	Cg3	Fg3	EOM	CTU	CTUSD
RC	0.844	1.00	0.000	0.00	0.000	0.00	0.843	0.843	0.730

(7) 各グルーピングの途中結果(負加力時)

$$E0 = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot \text{SQRT}\{(C1 \cdot F1)^2 + (C2 \cdot F2)^2 + (C3 \cdot F3)^2\}$$

$$CTUSD = \{(n+1)/(n+i)\} \cdot Cn \cdot SD$$

(Cn : 1グループの場合C1, 2グループの場合C2, 3グループの場合C3)

E0の最大値 * : 極脆性柱を考慮しないE0の最大値

[*] : CTUSD 0.3・Z・G・Uを考慮した場合で、極脆性柱を考慮しないE0の最大値

注) CSS表示は極脆性柱を考慮した場合でE0の最大値(*, [*]共)の対象外となります。

- 表示はCTUSD < 0.3・Z・G・Uの場合でE0の最大値([*])の対象外となります。

R = 1 / 500の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.866 T = 0.934

R = 1 / 250の場合 (n+1)/(n+i) = 1.000 SD = 0.866 T = 0.934

< 1F階 -Y方向 1グループ式の途中結果((5)式による) >

グループ No G1	C1	F1	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
2	0.84	1.00	0.843	0.682	0.730	* []
4	0.12	2.40	0.276	0.223	0.099	-

< 1F階 -Y方向 2グループ式の途中結果((4)式による) >

グループ No		C1	F1	C2	F2	E0	Is	CTUSD	E0の最大値
G1	G2								
2	4	0.76	1.00	0.12	2.40	0.809	0.655	0.099	-

10.3* 第2種構造要素判定用データ(負加力時)

10.3.1* 柱の残存軸耐力(負加力時)

部材:rc:RC柱、src:SRC柱、cw:格子型(cross web)、lw:ラチス型(lattice web)、fw:充腹型(full web)

NL:長期軸力(KN)

F値 : 柱架構の靱性指標

Pw:せん断補強筋比(%)

s : 帯筋間隔(cm)

Ac:柱断面積(mm2)

Fc : コンクリート強度(N/mm2)

Ace:バンドプレートで囲まれたコンクリート断面積(mm2)

c : 拘束コンクリートの強度有効係数

sA・s y:鉄骨主材断面積×降伏点強度(KN)

Nr : 残存軸耐力([]は軸支持能力)(kN)

r:残存軸耐力係数([]は軸支持能力係数)

破壊タイプ : CSS:極脆性柱 CSS:脆性柱(SRC柱)

CS:せん断柱 CB:曲げ柱

CWSS:極脆性そで壁付柱 CWB:曲げそで壁付柱 CWS:せん断そで壁付柱

WCB:曲げ柱型付壁 WCS:せん断柱型付壁

#付きは直接入力値を表す。部材記号に+付きは傾斜部材の直交成分を表す。

3F 階(X方向負加力)

フレーム	部材 NL	破壊タイプ F値	Pw s	Ac Fc	Ace c	sA・s y		Fu値				
								1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
Y1-X2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	31.9	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y1-X4	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	48.4	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X2	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	61.1	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	25.4	1.19	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

2F 階(X方向負加力)

フレーム	部材 NL	破壊タイプ F値	Pw s	Ac Fc	Ace c	sA・s y		Fu値				
								1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
Y1-X2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	70.6	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y1-X4	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	121.4	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	100.3	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X5	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	82.1	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	66.7	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y3-X3	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	129.8	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y3-X6	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	119.2	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y4-X1	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	66.5	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y4-X3	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	208.8	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y4-X6	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	118.4	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y5-X1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	73.7	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y6-X4	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	123.3	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y6-X5	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	80.5	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y6-X6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---

フレーム	部材	破壊タイ ^o	Pw	Ac	Ace	SA・S y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
Y6-X6	66.3	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y7-X1	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	67.8	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y7-X3	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	110.6	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y7-X4	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	49.2	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

1F 階(X方向負加力)

フレーム	部材	破壊タイ ^o	Pw	Ac	Ace	SA・S y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
Y1-X2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	157.4	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y1-X4	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	150.3	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X4	rc	CWS	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.0 [0.4]	0.0 [0.0]	0.0 [0.0]	---
	227.1	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	0.0 [1161.6]	0.0 [0.0]	0.0 [0.0]	---
Y2-X5	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	187.2	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y2-X6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	181.2	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y3-X3	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	101.6	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y3-X6	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	231.6	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y4-X6	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	237.9	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y5-X1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	158.9	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y6-X4	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	257.9	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y6-X5	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	172.7	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y6-X6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	144.2	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y7-X1	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	165.3	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y7-X3	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	196.1	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
Y7-X4	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	136.4	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

3F 階(Y方向負加力)

フレーム	部材	破壊タイプ	Pw	Ac	Ace	sA・s y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
X2-Y1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	31.9	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X2-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	61.1	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	48.4	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	25.4	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

2F 階(Y方向負加力)

フレーム	部材	破壊タイプ	Pw	Ac	Ace	sA・s y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
X1-Y4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	66.5	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X1-Y5	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	73.7	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X1-Y7	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	67.8	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X2-Y1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	70.6	2.58	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X2-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	59.1	2.58	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X3-Y2	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	118.0	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X3-Y3	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	129.8	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X3-Y4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	208.8	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X3-Y7	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	110.6	2.07	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	121.4	2.58	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	100.3	2.58	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	123.3	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y7	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	49.2	1.09	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X5-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	82.1	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

フレーム	部材	破壊タイプ	Pw	Ac	Ace	sA・s y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
X5-Y6	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	80.5	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y2	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	66.7	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y3	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	119.2	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	118.4	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y6	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	66.3	1.04	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

1F 階(Y方向負加力)

フレーム	部材	破壊タイプ	Pw	Ac	Ace	sA・s y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
X1-Y4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	87.3	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X1-Y5	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	158.9	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X1-Y7	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	165.3	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X2-Y1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	157.4	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X2-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	96.1	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X3-Y7	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	196.1	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y1	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	150.3	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	227.1	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	257.9	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X4-Y7	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	136.4	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X5-Y2	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	187.2	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X5-Y6	rc	CB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	172.7	2.59	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y2	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	181.2	1.00	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y3	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	231.6	1.10	35.0	15.0	---		Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

フレーム	部材	破壊タイプ	Pw	Ac	Ace	sA・s y		Fu値				
	NL	F値	s	Fc	c			1.0	1.27	2.0	3.0	3.5
X6-Y4	rc	WCB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	237.9	1.10	35.0	15.0	---	---	Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---
X6-Y6	rc	CWB	0.083	193600.0	---	---	r	0.4 [0.4]	0.4 [0.4]	0.0 [0.3]	0.0 [0.2]	---
	144.2	1.10	35.0	15.0	---	---	Nr	1161.6 [1161.6]	1161.6 [1161.6]	0.0 [871.2]	0.0 [580.8]	---

10.3.2* 第2種構造要素判定用データ(負加力時)

[2001年版、2017年版RC基準または 2009年SRC基準の場合]

1段目：破壊タイプ(靱性指標F値)

2段目：長期柱軸力N(KN)(部材種別)

3段目：(F < Fu'の場合)残存軸耐力Nr または (F > Fu'の場合)軸力支持能力NR(KN)

注)直交方向に耐震壁の側柱となる部材は、Nrの計算対象としないため、3段目を出力しませんが、(F < Fu')の部材の本数に算入します。

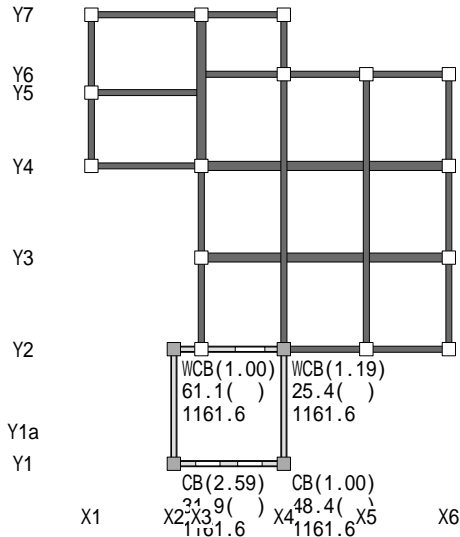
判定：? : 第2種構造要素の候補になる部材 (F < Fu'かつNr > N)

: 第2種構造要素の候補にならない部材 (F < Fu'かつNr < N、または F > Fu'かつ直交方向に耐震壁の側柱となる部材)

: 耐震壁の側柱または耐震診断に考慮しない柱で計算対象としない部材

: 計算対象としない部材(F > Fu')

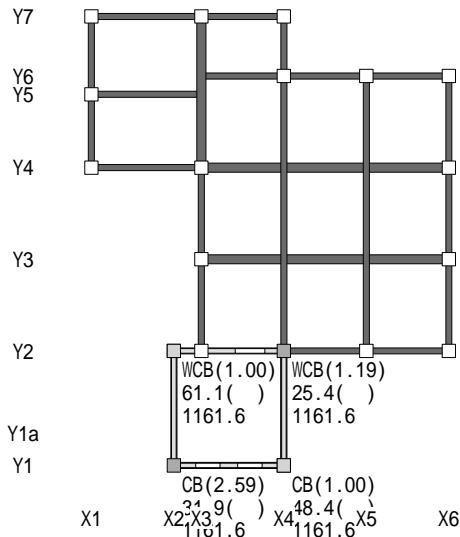
Fu' : 設定した終局限界変形の候補



3F 階 -X 方向 Fu'=1.00の場合

F < Fu'の部材の本数(第2種構造要素の候補を含む) : 0

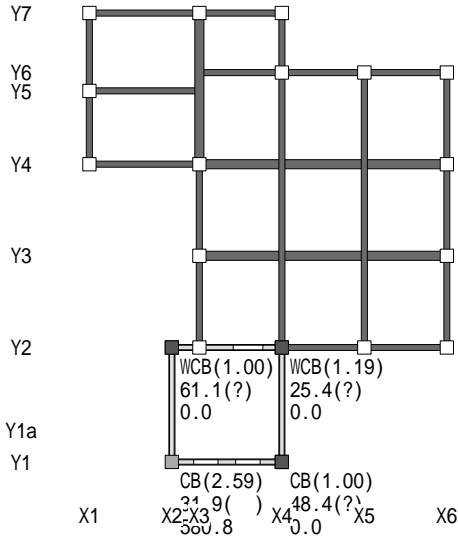
そのうち第2種構造要素の候補 (F < Fu'かつNr > N) となる部材の本数 : 0



3F 階 -X 方向 Fu'=1.13の場合

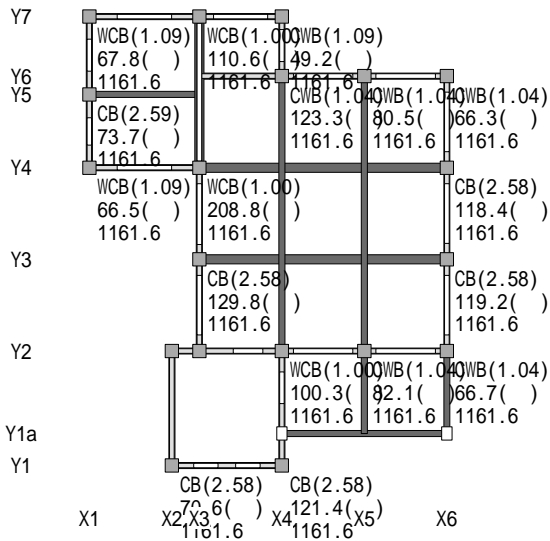
F < Fu'の部材の本数(第2種構造要素の候補を含む) : 2

そのうち第2種構造要素の候補 (F < Fu'かつNr > N) となる部材の本数 : 0



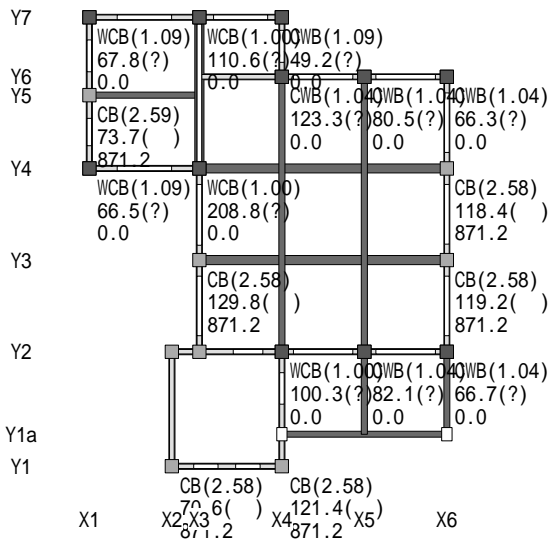
3F 階 -X 方向 $F_u'=2.40$ の場合

$F < F_u'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 3
 そのうち第2種構造要素の候補 ($F < F_u'$ かつ $N_r \leq N$) となる部材の本数 : 3



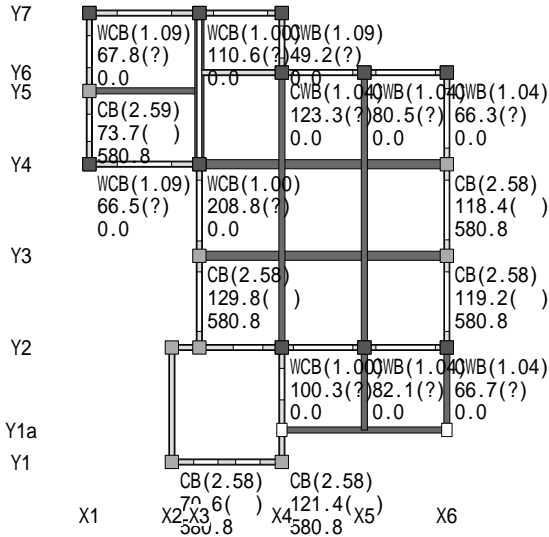
2F 階 -X 方向 $F_u'=1.00$ の場合

$F < F_u'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 0
 そのうち第2種構造要素の候補 ($F < F_u'$ かつ $N_r \leq N$) となる部材の本数 : 0



2F 階 -X 方向 $F_u'=2.00$ の場合

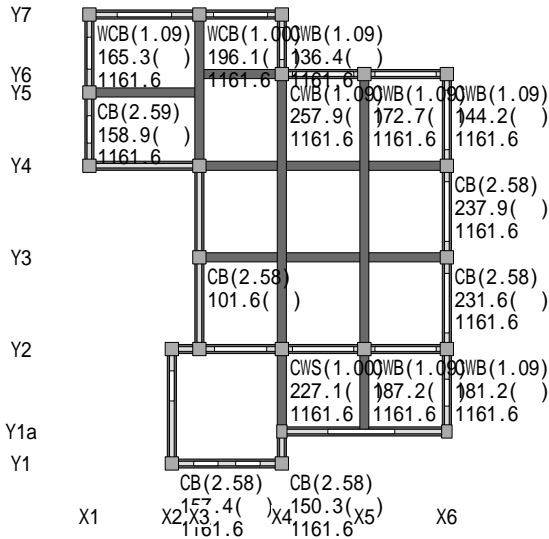
$F < F_u'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 11
 そのうち第2種構造要素の候補 ($F < F_u'$ かつ $N_r \leq N$) となる部材の本数 : 11



2F 階 -X 方向 $Fu'=2.40$ の場合

$F < Fu'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 11

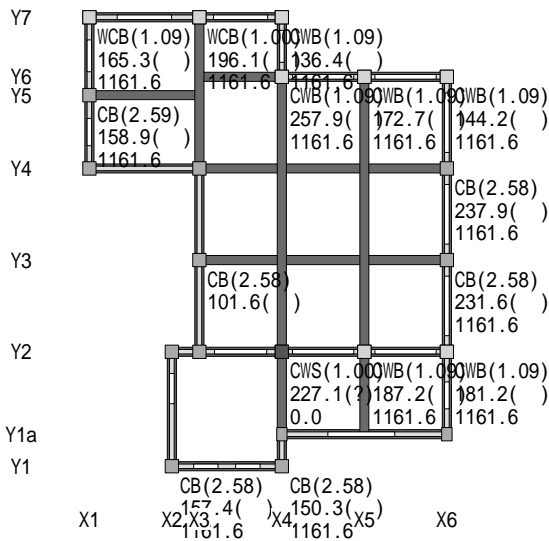
そのうち第2種構造要素の候補 ($F < Fu'$ かつ $Nr \leq N$) となる部材の本数 : 11



1F 階 -X 方向 $Fu'=1.00$ の場合

$F < Fu'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 0

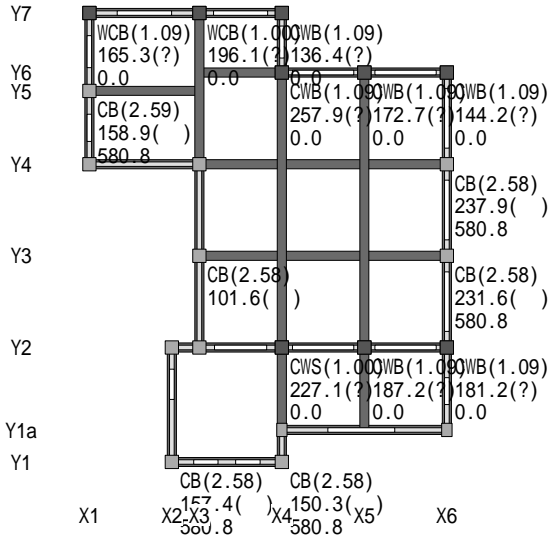
そのうち第2種構造要素の候補 ($F < Fu'$ かつ $Nr \leq N$) となる部材の本数 : 0



1F 階 -X 方向 $Fu'=1.13$ の場合

$F < Fu'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 9

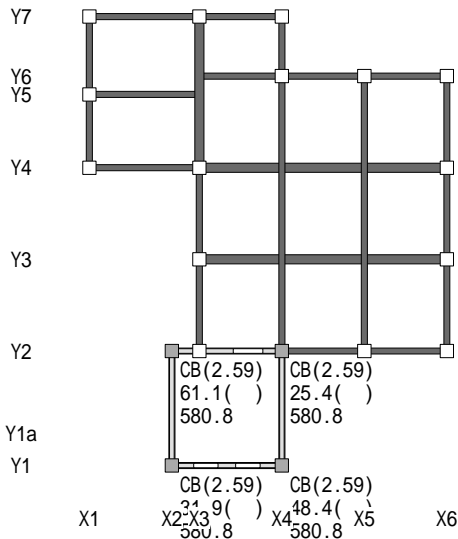
そのうち第2種構造要素の候補 ($F < Fu'$ かつ $Nr \leq N$) となる部材の本数 : 1



1F 階 -X 方向 Fu'=2.40の場合

F < Fu' の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 9

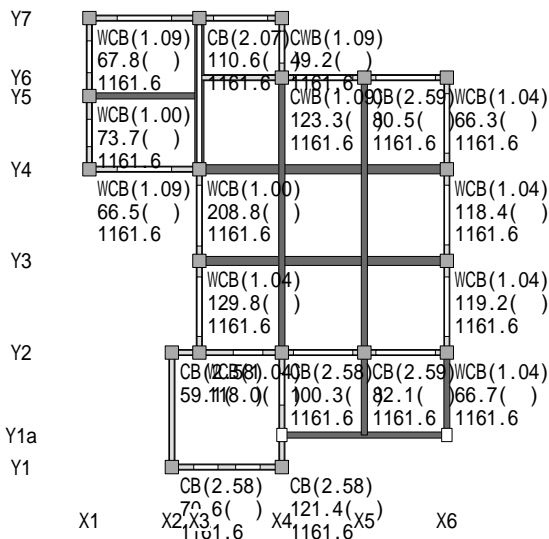
そのうち第2種構造要素の候補 (F < Fu' かつ Nr < N) となる部材の本数 : 9



3F 階 -Y 方向 Fu'=2.40の場合

F < Fu' の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 0

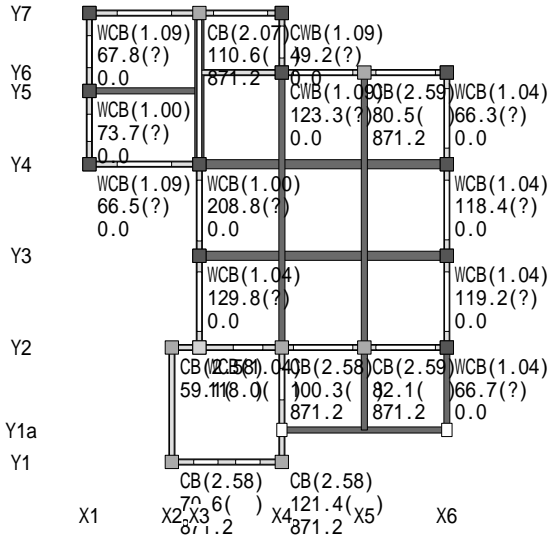
そのうち第2種構造要素の候補 (F < Fu' かつ Nr < N) となる部材の本数 : 0



2F 階 -Y 方向 Fu'=1.00の場合

F < Fu' の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 0

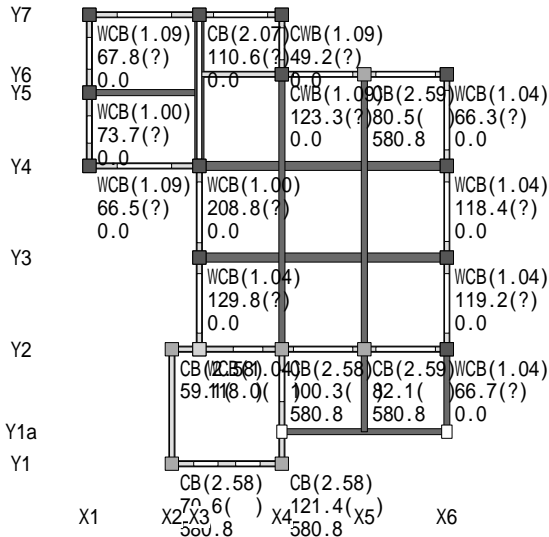
そのうち第2種構造要素の候補 (F < Fu' かつ Nr < N) となる部材の本数 : 0



2F 階 -Y 方向 Fu'=2.00の場合

F < Fu' の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 12

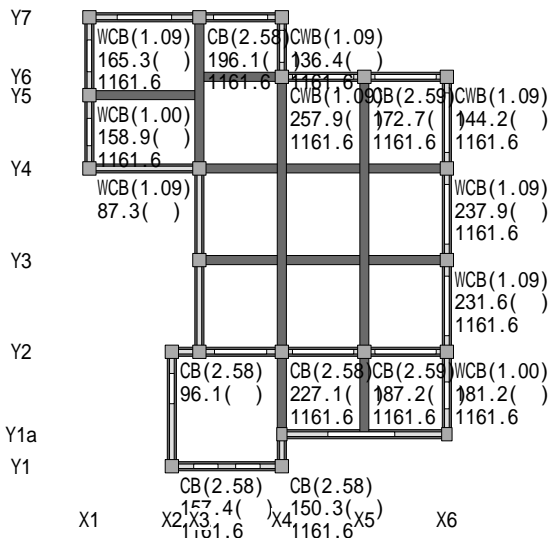
そのうち第2種構造要素の候補 (F < Fu' かつ Nr < N) となる部材の本数 : 11



2F 階 -Y 方向 Fu'=2.40の場合

F < Fu' の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 13

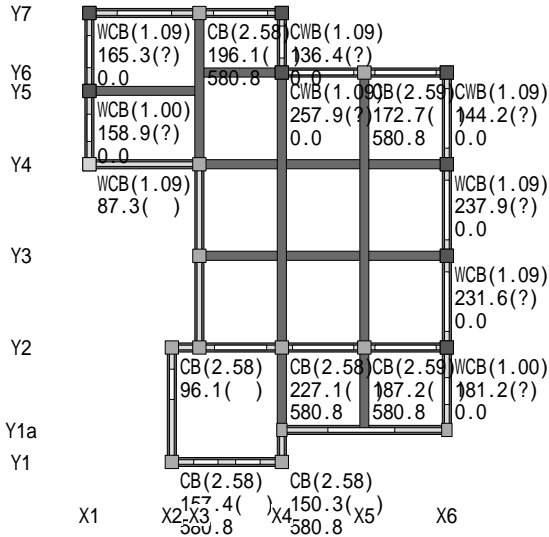
そのうち第2種構造要素の候補 (F < Fu' かつ Nr < N) となる部材の本数 : 12



1F 階 -Y 方向 Fu'=1.00の場合

F < Fu' の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 0

そのうち第2種構造要素の候補 (F < Fu' かつ Nr < N) となる部材の本数 : 0



1F 階 -Y 方向 $F_u' = 2.40$ の場合

$F < F_u'$ の部材の本数 (第2種構造要素の候補を含む) : 9

そのうち第2種構造要素の候補 ($F < F_u'$ かつ $N_r \leq N$) となる部材の本数 : 8

10.4* 破壊モード図(負加力時)

10.4.1* 破壊モード図(伏図)(負加力時)

上段 : 破壊タイプ

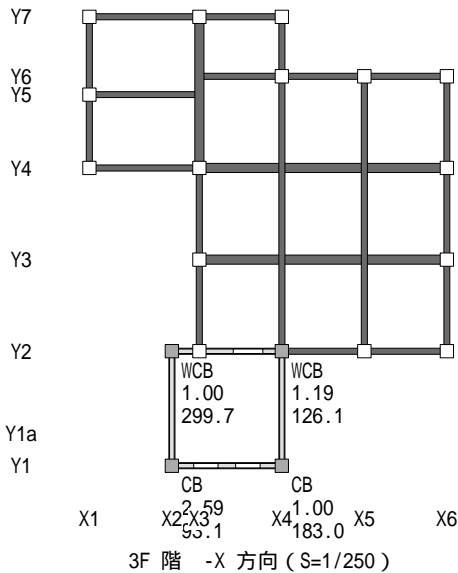
CSS:極脆性柱 CS:せん断柱 WS:せん断壁 WB:曲げ壁 CB:曲げ柱 CWSS:極脆性壁付柱

CWB:曲げそで壁付柱 CWS:せん断そで壁付柱 WCB:曲げ柱型付壁 WCS:せん断柱型付壁

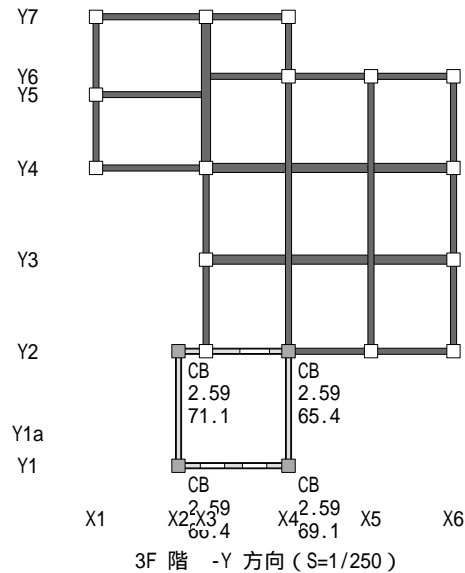
中段 : 靱性指標 F値

下段 : 終局時保有せん断力 $Q_u = \min\{Q_{mu}, Q_{su}\}$ (KN)

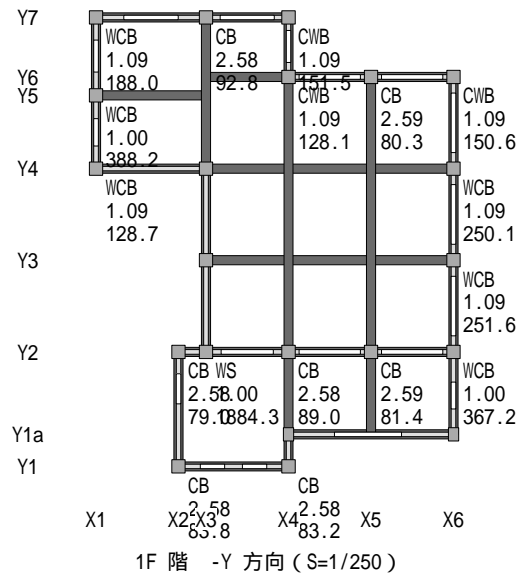
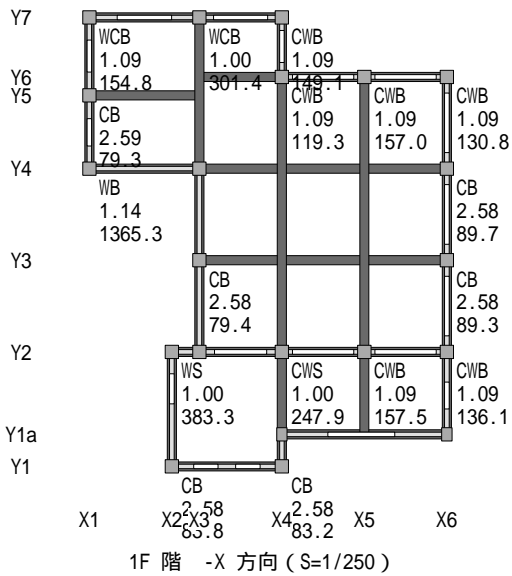
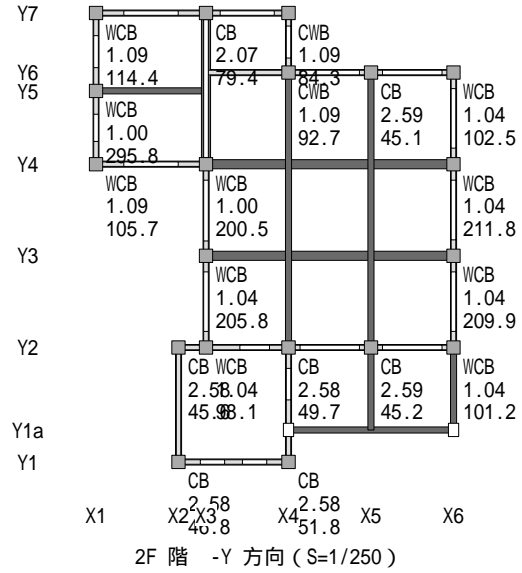
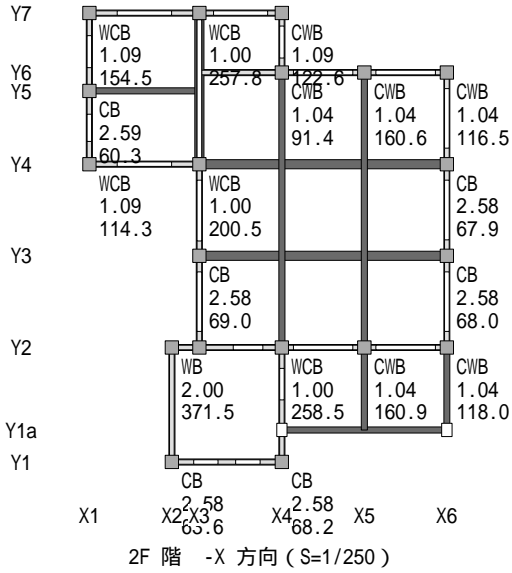
注) 雑壁及び既存耐震壁があるところに配置する増設ブレースの結果はここに出力しません。



3F 階 -X 方向 (S=1/250)



3F 階 -Y 方向 (S=1/250)



10.4.2* 破壊モード図(軸組図)(負加力時)

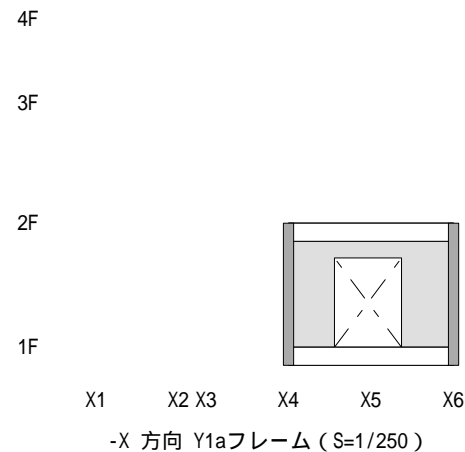
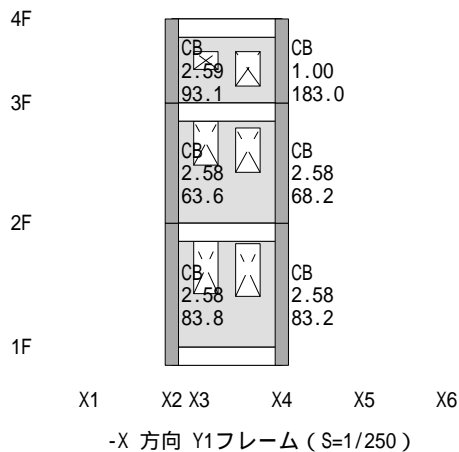
上段 : 破壊タイプ

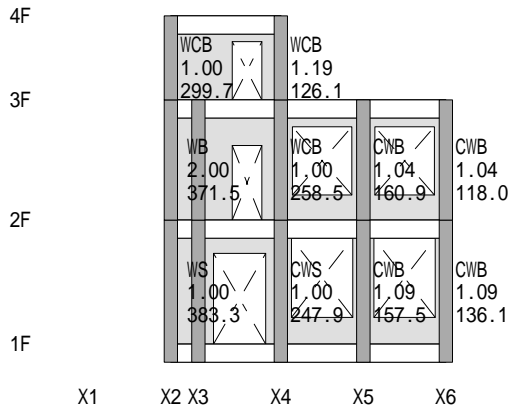
CSS:極脆性柱 CS:せん断柱 WS:せん断壁 WB:曲げ壁 CB:曲げ柱 CWSS:極脆性壁付柱
 CWB:曲げそで壁付柱 CWS:せん断そで壁付柱 WCB:曲げ柱型付壁 WCS:せん断柱型付壁

中段 : 靱性指標 F値

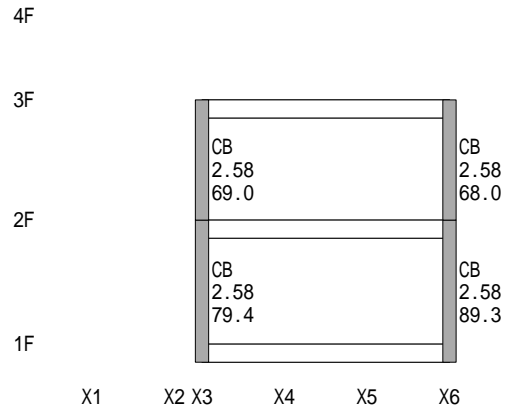
下段 : 終局時保有せん断力 $Q_u = \min\{Q_{mu}, Q_{su}\}$ (KN)

注) 雑壁の結果はここに出しません。

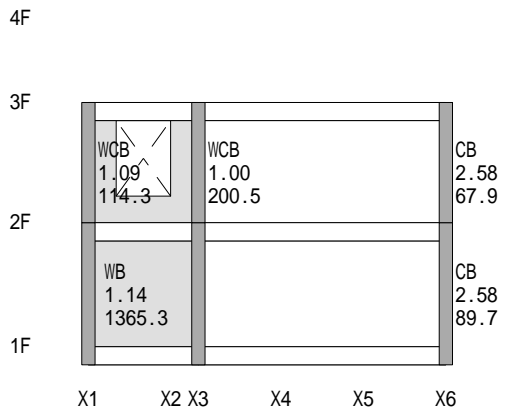




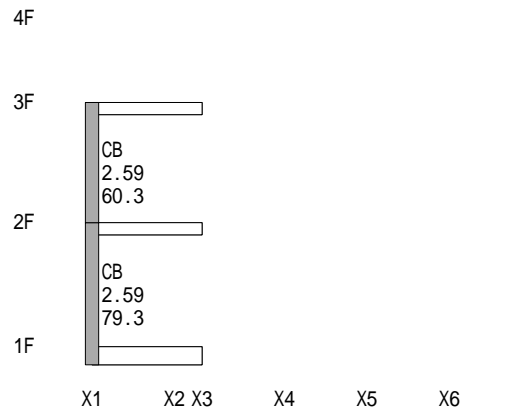
-X 方向 Y2フレーム (S=1/250)



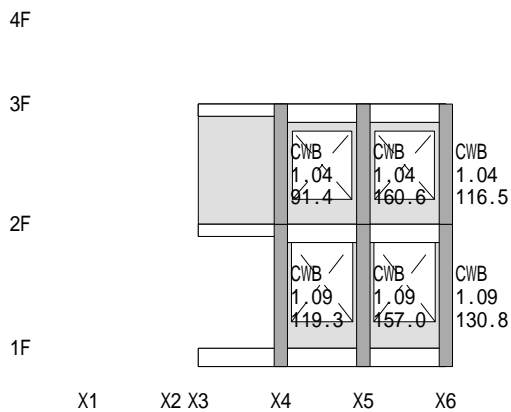
-X 方向 Y3フレーム (S=1/250)



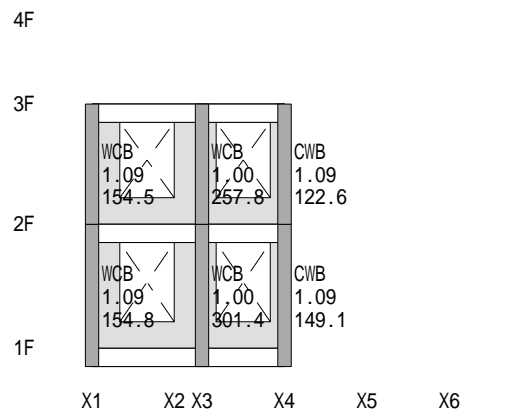
-X 方向 Y4フレーム (S=1/250)



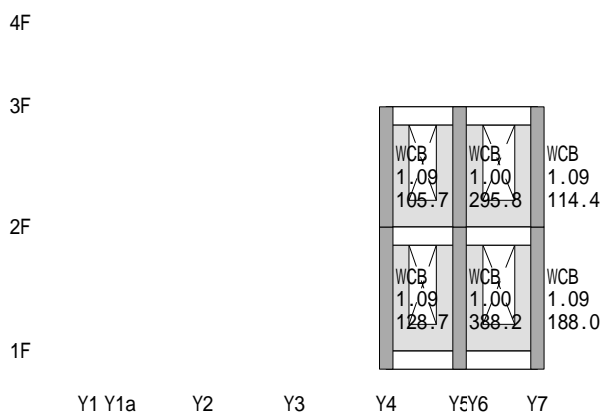
-X 方向 Y5フレーム (S=1/250)



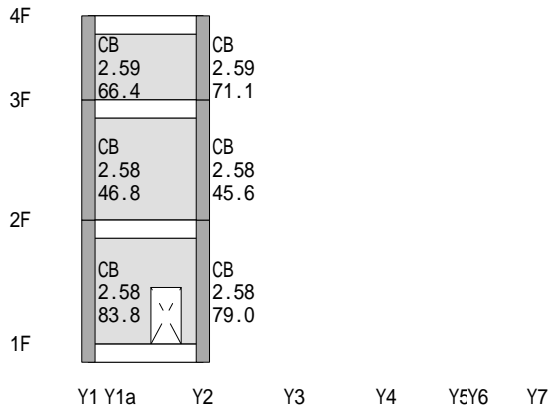
-X 方向 Y6フレーム (S=1/250)



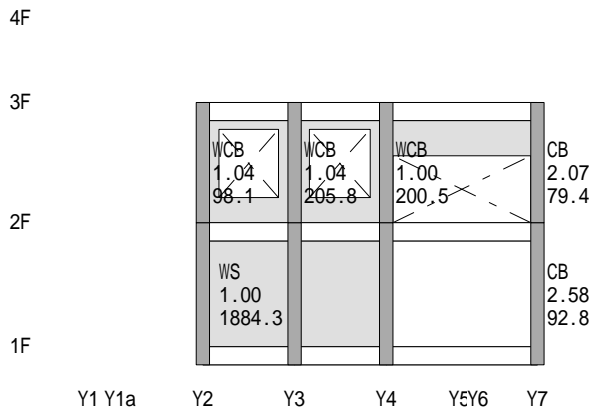
-X 方向 Y7フレーム (S=1/250)



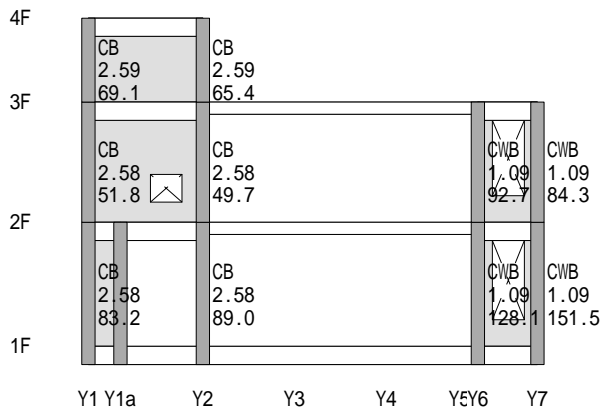
-Y 方向 X1フレーム (S=1/250)



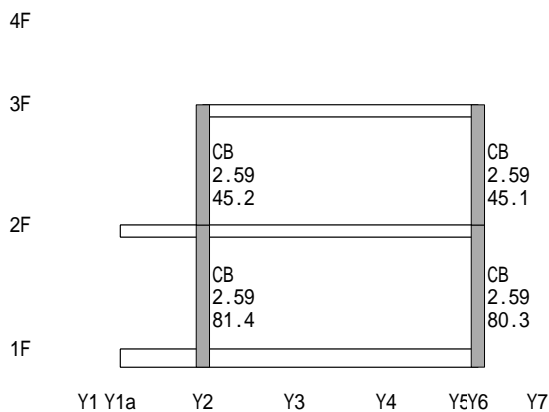
-Y 方向 X2フレーム (S=1/250)



-Y 方向 X3フレーム (S=1/250)



-Y 方向 X4フレーム (S=1/250)



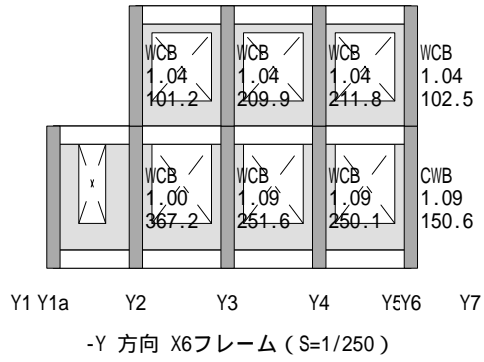
-Y 方向 X5フレーム (S=1/250)

4F

3F

2F

1F



10.5 形状指標

10.5.1 1次形状指標

(a) グレード一覧

RC造2017年版診断基準の場合

項目		Gi	R1i	R2i	
水平方向	a 整形性	0.90	1.00	0.50	
	b 辺長比	1.00	0.50	0.25	
	c くびれ	1.00	0.50	0.25	
	d EXP.J	X	0.80	0.50	0.25
		Y	0.80	0.50	0.25
	e 吹抜	1.00	0.50	0.25	
	f 剛床仮定の成立	X	1.00	0.50	0.50
Y		1.00	0.50	0.50	
高さ方向	h 地下室の有無	0.80	1.00	1.00	
	i 層高の均等性	1.00	0.50	-	
	j ビームの有無	1.00	1.00	1.00	

項目			不連続の割合(%)		Gi	R1i	R2i
			X	Y			
高さ方向	k 下階への柱の連続性	3F	0.00	0.00	1.00	0.50	0.50
		2F	0.00	0.00	1.00	0.50	0.50
		1F	0.00	0.00	1.00	0.50	0.50

(b) SD指標一覧

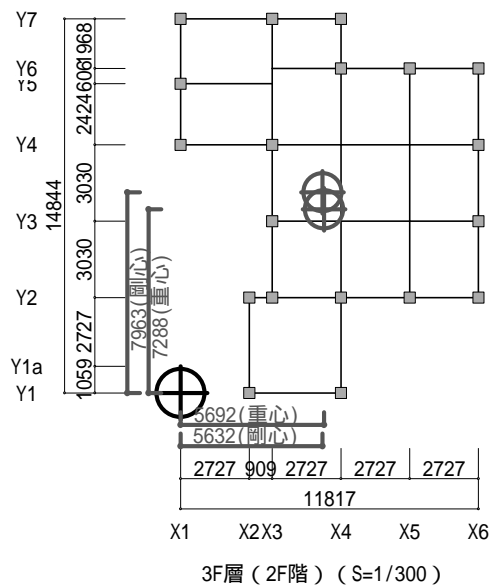
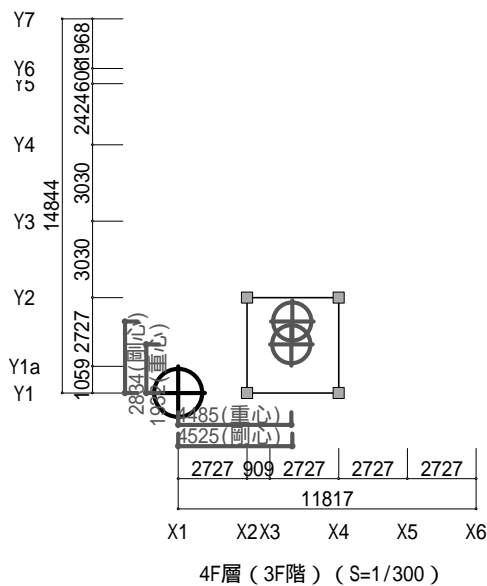
注) #: 直接入力です。

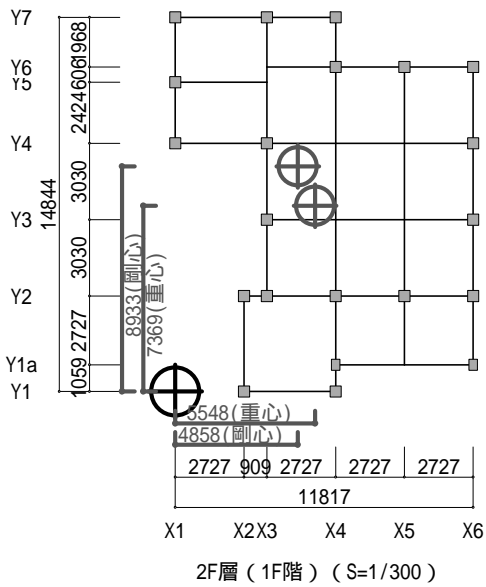
階	1次SD指標		2次診断計算用SD指標(a~kまで)	
	X	Y	X	Y
3F	0.810	0.810	0.902	0.902
2F	0.810	0.810	0.902	0.902
1F	0.810	0.810	0.902	0.902

10.5.2 重心・剛心図(2017年診断基準C法による)

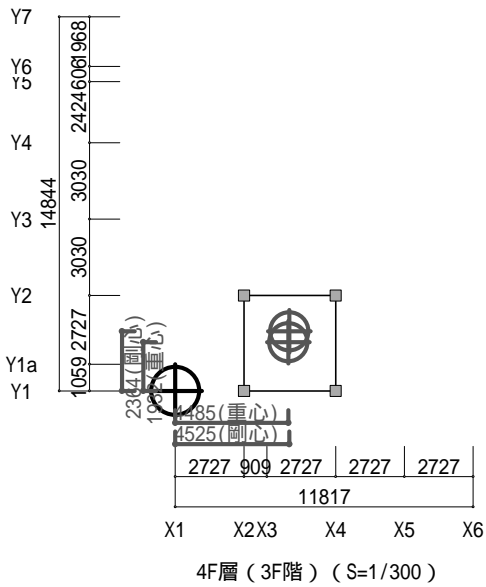
< 正加力 > R=1/500

< 正加力 > R=1/500

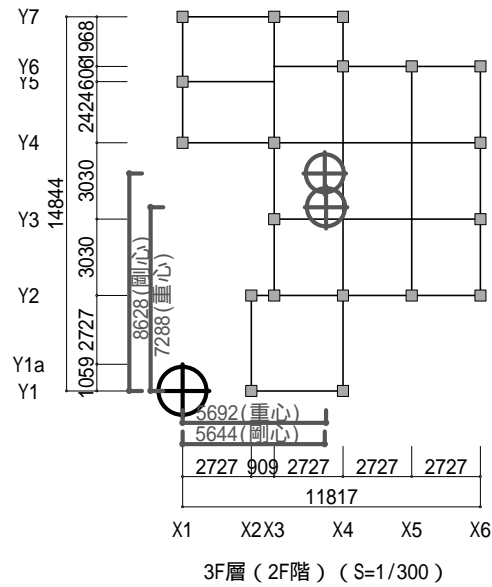




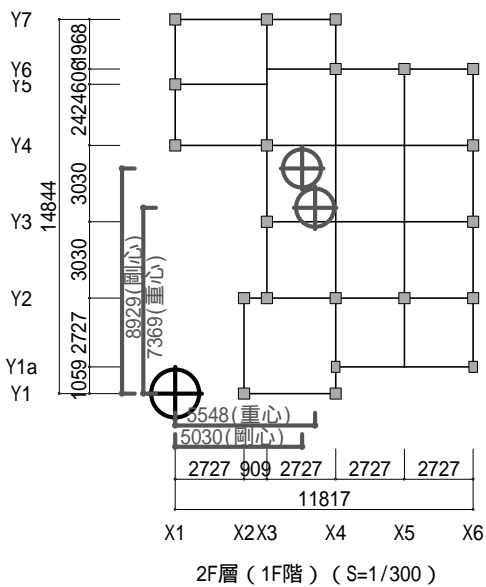
< 負加力 > R=1/500

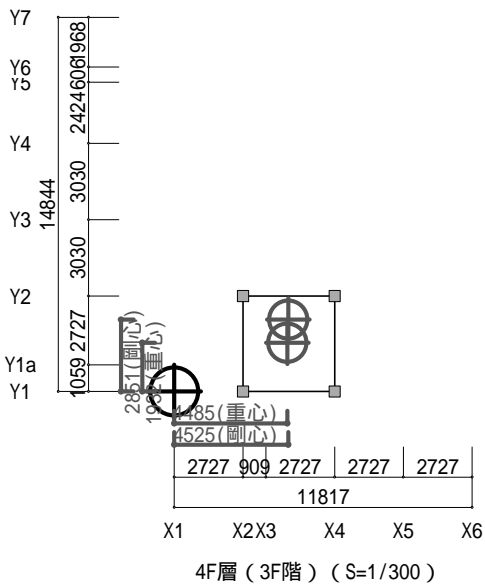


< 負加力 > R=1/500

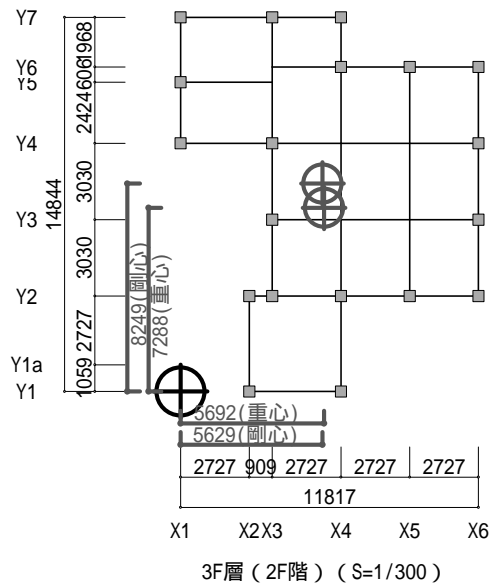


< 負加力 > R=1/500

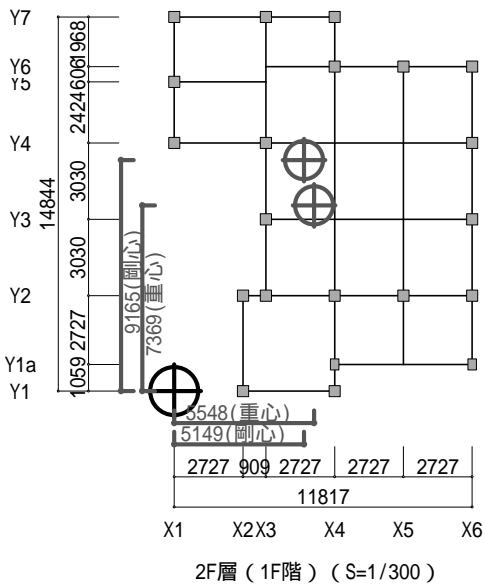




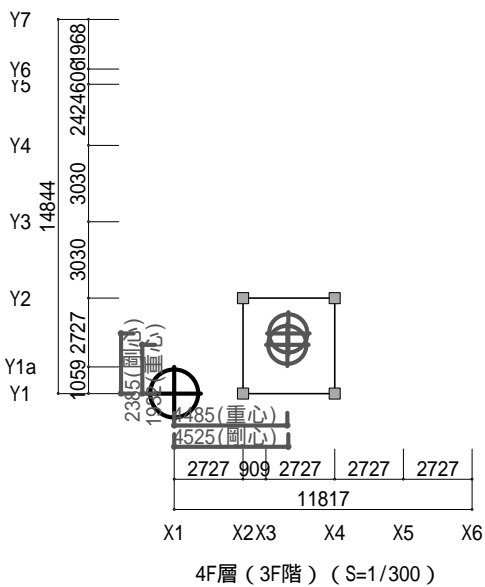
< 正加力 > R=1/250



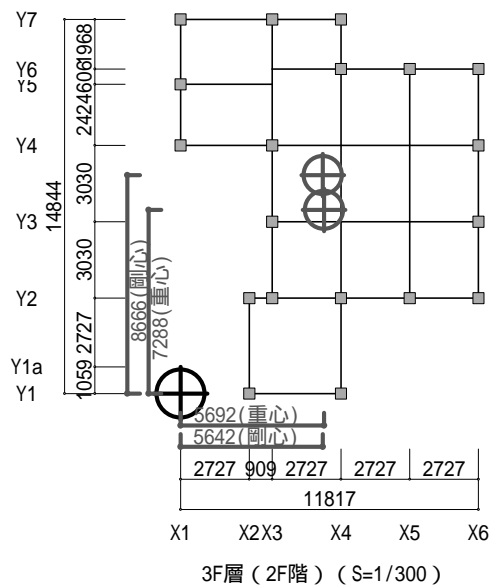
< 正加力 > R=1/250

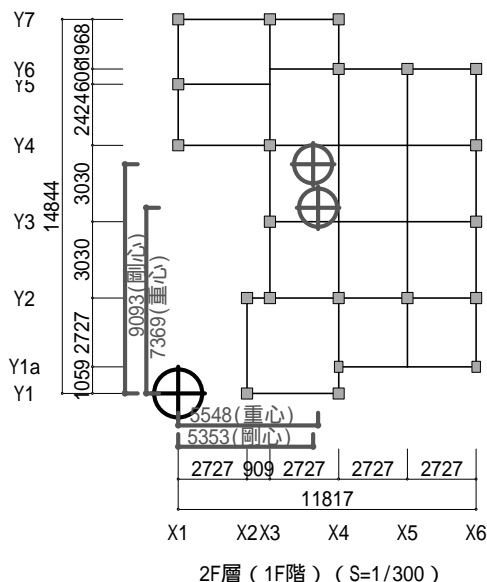


< 負加力 > R=1/250



< 負加力 > R=1/250





10.5.3 剛性バランス(2017年診断基準C法による、雑壁考慮)

注) #: 直接入力です。

正加力時R=1/500の結果

階	i		Wi (KN)		K (MN/rad)		KR (MN/rad)	偏心距離(m)		Ri (rad)		Req/Ri		n項グレード	
	X	Y	X	Y	Kx	Ky		ex	ey	X	Y	X	Y	X	Y
3F	0.667	0.667	299.7	299.7	330.9	69.4	1.122e+003	0.039	0.902	1.685e-003	6.483e-003	2.30	0.55	1.000	0.824
2F	0.800	0.800	2135.8	2135.8	852.5	682.0	3.357e+004	0.060	0.675	3.168e-003	3.915e-003	1.22	0.91	1.000	1.000
1F	1.000	1.000	5110.6	5110.6	1205.7	1697.9	4.311e+004	0.690	1.564	4.531e-003	3.069e-003	0.86	1.16	1.000	1.000

負加力時R=1/500の結果

階	i		Wi (KN)		K (MN/rad)		KR (MN/rad)	偏心距離(m)		Ri (rad)		Req/Ri		n項グレード	
	X	Y	X	Y	Kx	Ky		ex	ey	X	Y	X	Y	X	Y
3F	0.667	0.667	299.7	299.7	221.6	69.4	9.740e+002	0.039	0.432	2.115e-003	6.484e-003	1.88	0.54	1.000	0.813
2F	0.800	0.800	2135.8	2135.8	791.0	689.7	3.314e+004	0.048	1.340	3.520e-003	3.871e-003	1.13	0.90	1.000	1.000
1F	1.000	1.000	5110.6	5110.6	1227.7	1743.5	4.589e+004	0.518	1.560	4.434e-003	2.962e-003	0.90	1.18	1.000	1.000

正加力時R=1/250の結果

階	i		Wi (KN)		K (MN/rad)		KR (MN/rad)	偏心距離(m)		Ri (rad)		Req/Ri		n項グレード	
	X	Y	X	Y	Kx	Ky		ex	ey	X	Y	X	Y	X	Y
3F	0.667	0.667	299.7	299.7	253.0	49.0	8.364e+002	0.039	0.919	2.231e-003	9.185e-003	2.41	0.57	1.000	0.844
2F	0.800	0.800	2135.8	2135.8	612.8	519.8	2.495e+004	0.063	0.960	4.455e-003	5.136e-003	1.21	1.02	1.000	1.000
1F	1.000	1.000	5110.6	5110.6	892.5	1044.1	3.157e+004	0.399	1.795	6.249e-003	4.922e-003	0.86	1.07	1.000	1.000

負加力時R=1/250の結果

階	i		Wi (KN)		K (MN/rad)		KR (MN/rad)	偏心距離(m)		Ri (rad)		Req/Ri		n項グレード	
	X	Y	X	Y	Kx	Ky		ex	ey	X	Y	X	Y	X	Y
3F	0.667	0.667	299.7	299.7	168.9	49.0	7.263e+002	0.039	0.453	2.789e-003	9.185e-003	1.91	0.56	1.000	0.831
2F	0.800	0.800	2135.8	2135.8	603.3	525.7	2.530e+004	0.050	1.378	4.625e-003	5.079e-003	1.15	1.01	1.000	1.000
1F	1.000	1.000	5110.6	5110.6	916.6	1078.4	3.382e+004	0.195	1.724	6.025e-003	4.745e-003	0.89	1.08	1.000	1.000

10.5.4 偏心率(2017年診断基準C法による、雑壁考慮)

注) #: 直接入力です。

正加力時R=1/500の結果

階	構造種別	重心位置 (m)		剛心位置 (m)		剛心からの距離 (m)		K (MN/rad)		偏心距離 (m)		ねじり剛性KR (MNm ² /rad)	I項グレード	
		gy	gx	ly	lx	X	Y	Kx	Ky	ex	ey		X	Y
3F	RC	1.932	4.485	2.834	4.525	1.838	2.834	330.9	69.4	0.039	0.902	1.122e+003	0.549	0.995
2F	RC	7.288	5.692	7.963	5.632	6.185	7.963	852.5	682.0	0.060	0.675	3.357e+004	0.876	0.992
1F	RC	7.369	5.548	8.933	4.858	6.959	8.933	1205.7	1697.9	0.690	1.564	4.311e+004	0.702	0.823

負加力時R=1/500の結果

階	構造種別	重心位置 (m)		剛心位置 (m)		剛心からの距離 (m)		K (MN/rad)		偏心距離 (m)		ねじり剛性KR (MNm ² /rad)	I項グレード	
		gy	gx	ly	lx	X	Y	Kx	Ky	ex	ey		X	Y
3F	RC	1.932	4.485	2.364	4.525	1.838	2.364	221.6	69.4	0.039	0.432	9.740e+002	0.802	0.994
2F	RC	7.288	5.692	8.628	5.644	6.173	8.628	791.0	689.7	0.048	1.340	3.314e+004	0.774	0.993
1F	RC	7.369	5.548	8.929	5.030	6.787	8.929	1227.7	1743.5	0.518	1.560	4.589e+004	0.713	0.871

正加力時R=1/250の結果

階	構造種別	重心位置 (m)		剛心位置 (m)		剛心からの距離 (m)		K (MN/rad)		偏心距離 (m)		ねじり剛性KR (MNm ² /rad)	I項グレード	
		gy	gx	ly	lx	X	Y	Kx	Ky	ex	ey		X	Y
3F	RC	1.932	4.485	2.851	4.525	1.838	2.851	253.0	49.0	0.039	0.919	8.364e+002	0.536	0.995
2F	RC	7.288	5.692	8.249	5.629	6.188	8.249	612.8	519.8	0.063	0.960	2.495e+004	0.830	0.991
1F	RC	7.369	5.548	9.165	5.149	6.668	9.165	892.5	1044.1	0.399	1.795	3.157e+004	0.665	0.913

負加力時R=1/250の結果

階	構造種別	重心位置 (m)		剛心位置 (m)		剛心からの距離 (m)		K (MN/rad)		偏心距離 (m)		ねじり剛性KR (MNm ² /rad)	I項グレード	
		gy	gx	ly	lx	X	Y	Kx	Ky	ex	ey		X	Y
3F	RC	1.932	4.485	2.385	4.525	1.838	2.385	168.9	49.0	0.039	0.453	7.263e+002	0.789	0.995
2F	RC	7.288	5.692	8.666	5.642	6.175	8.666	603.3	525.7	0.050	1.378	2.530e+004	0.768	0.993
1F	RC	7.369	5.548	9.093	5.353	6.464	9.093	916.6	1078.4	0.195	1.724	3.382e+004	0.686	0.959

10.5.5 2次形状指標

注) #: 直接入力です。

R=1/500の結果

階	SD指標			
	正加力		負加力	
	X	Y	X	Y
3F	0.495	0.740	0.724	0.730
2F	0.790	0.895	0.698	0.896
1F	0.633	0.743	0.643	0.786

R=1/250の結果

階	SD指標			
	正加力		負加力	
	X	Y	X	Y
3F	0.484	0.759	0.712	0.746
2F	0.749	0.895	0.693	0.896
1F	0.600	0.824	0.619	0.866

10.6 2次経年指標

第2次診断用減点数集計表

3F階	構造きれつ・変形			変質・老朽化		
	A	B	C	A	B	C
床・小ばり	0.000	0.000	0.000	0.000	0.005	0.001
大ばり	0.000	0.000	0.000	0.000	0.015	0.000
壁・柱	0.000	0.000	0.000	0.000	0.045	0.000
合計	0.000			0.066		
T n	0.934					

2F階	構造きれつ・変形			変質・老朽化		
	A	B	C	A	B	C
床・小ばり	0.000	0.000	0.000	0.000	0.005	0.000
大ばり	0.000	0.000	0.000	0.000	0.015	0.000
壁・柱	0.000	0.000	0.000	0.000	0.045	0.001
合計	0.000			0.066		
T n	0.934					

1F階	構造きれつ・変形			変質・老朽化		
	A	B	C	A	B	C
床・小ばり	0.000	0.000	0.000	0.000	0.005	0.000
大ばり	0.000	0.000	0.000	0.000	0.015	0.000
壁・柱	0.000	0.000	0.000	0.000	0.045	0.001
合計	0.000			0.066		
T n	0.934					

2次診断T指標 = 0.934

§ 11. 診断結果

11.1 診断表

11.1.1 2次診断表(正加力)

(1) 耐震診断計算条件

RC階準拠する耐震診断の基準	2017年版RC診断基準
RC階形状指標の偏心率、剛重比の求め方	2017年版C法(割線剛性)
2次診断の正負加力の取り扱い	正負加力別
2次診断で地震時軸力の割増係数 ($N_s = N_L + N_e$)	考慮しない
耐力壁の判別	等価開口周比で判別
傾斜部材の直交方向への考慮	考慮しない
そで壁付柱のそで壁部分の強度算定方法	曲げ耐力は実断面で M_u を算出 せん断耐力は実断面で Q_{su} を算出
耐力計算に考慮するそで壁長さの最小値	10.0cm
そで壁付柱の反曲点高さの取り方	弾性応力解析結果より算出
雑壁の反曲点高さの取り方	構造階高の1/2
雑壁の平均せん断応力度 の上限(構面内)	3.0N/mm ²
(構面外)	2.0N/mm ²
雑壁F値の扱い	防災協会(せん断破壊は $F=1.0$ 、曲げ破壊は $F=1.0\sim 1.5$)

(2) 2次診断正加力時診断表(RC造2017年版診断基準C法の場合)

(2-1) +X方向診断表

建物名称：2025水俣市蘇峰記念館
 建設年月日： 全階数：3 地下階数：0
 診断年月日： 診断担当者：
 構造耐震判定指標 $I_{so} = E_s \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.60 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.600$
 CTUSDの判定条件 $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.3 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.300$
 階の補正係数：(n+1)/(n+i)により、SRC階の補正係数：1/Aiによります。

階	構造種別	階の補正係数	Fu'	F1	C1	F2	C2	F3	C3	Eo	SD	T	Is	CTUSD	第2種構造要素候補本数	判定
3F	RC	0.667	1.00	1.00	3.38					2.250	0.484	0.934	1.018	1.089	0(0)	
			2.40	1.00	3.15	2.40	0.31			2.159			0.976	0.100	3(3)	
2F	RC	0.800	1.00	1.00	1.15					0.917	0.749	0.934	0.642	0.688	0(0)	
			2.40	1.00	1.01	2.40	0.19			0.885			0.620	0.111	11(11)	
1F	RC	1.000	1.00	1.00	0.70					0.698	0.600	0.934	0.391	0.419	0(0)	
			1.13	1.00	0.36	1.13	0.35			0.536			0.300	0.211	0(9)	
			2.40	1.00	0.63	2.40	0.10			0.670			0.375	0.059	9(9)	

(注) 第2種構造要素の候補本数：F < Fu' かつ Nr Nの部材本数、()内はF < Fu'の部材本数
 Eo、SD、T、Is、CTUSDの出力結果は末尾の下の桁を切り捨てています。
 他は四捨五入で表示しています。

*** 評価範囲外メッセージ一覧 ***

- (1) 鋼材降伏点強度が、240N/mm²未滿、又は439N/mm²を超えています。
- (2) 耐震壁の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。
- (3) そで壁付柱の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。

*** 評価範囲内メッセージ一覧 ***

- (1) 診断時に考慮しない部材の指定があります。
- (2) せん断終局強度決定時の引張鉄筋比 p_t が0.1%を下回っている部材があります。 $p_t=0.1\%$ として、計算を行いました。

建物名称：2025水俣市蘇峰記念館

建設年月日： 全階数：3 地下階数：0

診断年月日： 診断担当者：

構造耐震判定指標 $I_{so} = E_s \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.60 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.600$

CTUSDの判定条件 $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.3 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.300$

階の補正係数：(n+1)/(n+i)により、SRC階の補正係数：1/Aiによります。

階	構造種別	階の補正係数	Fu'	F1	C1	F2	C2	F3	C3	Eo	SD	T	Is	CTUSD	第2種構造要素候補本数	判定
3F	RC	0.667	2.40	2.40	0.91					1.451	0.759	0.934	1.029	0.459	0(0)	
2F	RC	0.800	1.00	1.00	0.97					0.778	0.895	0.934	0.651	0.697	0(0)	
			2.00	1.00	0.84	2.00	0.17			0.726			0.607	0.121	11(12)	
			2.40	1.00	0.88	2.40	0.13			0.747			0.624	0.095	12(13)	
1F	RC	1.000	1.00	1.00	0.82					0.816	0.824	0.934	0.629	0.673	0(0)	
			2.40	1.00	0.73	2.40	0.12			0.784			0.604	0.095	8(9)	

(注) 第2種構造要素の候補本数：F<Fu'かつNr Nの部材本数、()内はF<Fu'の部材本数
 Eo、SD、T、Is、CTUSDの出力結果は末尾の下の桁を切り捨てています。
 他は四捨五入で表示しています。

*** 評価範囲外メッセージ一覧 ***

- (1) 鋼材降伏点強度が、240N/mm²未満、又は439N/mm²を超えています。
- (2) 耐震壁の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。
- (3) そで壁付柱の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。

*** 評価範囲内メッセージ一覧 ***

- (1) 診断時に考慮しない部材の指定があります。
- (2) せん断終局強度決定時の引張鉄筋比ptが0.1%を下回っている部材があります。pt=0.1%として、計算を行いました。

11.1.1* 2次診断表(負加力)

(1) 耐震診断計算条件

RC階準拠する耐震診断の基準	2017年版RC診断基準
RC階形状指標の偏心率、剛重比の求め方	2017年版C法(割線剛性)
2次診断の正負加力の取り扱い	正負加力別
2次診断で地震時軸力の割増係数 ($N_s = N_L + N_e$)	考慮しない
耐力壁の判別	等価開口周比で判別
傾斜部材の直交方向への考慮	考慮しない
そで壁付柱のそで壁部分の強度算定方法	曲げ耐力は実断面で M_u を算出 せん断耐力は実断面で Q_{su} を算出
耐力計算に考慮するそで壁長さの最小値	10.0cm
そで壁付柱の反曲点高さの取り方	弾性応力解析結果より算出
雑壁の反曲点高さの取り方	構造階高の1/2
雑壁の平均せん断応力度 の上限(構面内)	3.0N/mm ²
(構面外)	2.0N/mm ²
雑壁F値の扱い	防災協会(せん断破壊は $F=1.0$ 、曲げ破壊は $F=1.0\sim 1.5$)

(2) 2次診断負加力時診断表(RC造2017年版診断基準C法の場合)

(2-1)* -X方向診断表

建物名称：2025水俣市蘇峰記念館

建設年月日： 全階数：3 地下階数：0

診断年月日： 診断担当者：

構造耐震判定指標 $I_{so} = E_s \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.60 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.600$

CTUSDの判定条件 $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.3 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.300$

階の補正係数： $(n+1)/(n+i)$ により、SRC階の補正係数： $1/A_i$ によります。

階	構造種別	階の補正係数	Fu'	F1	C1	F2	C2	F3	C3	Eo	SD	T	Is	CTUSD	第2種構造要素候補本数	判定
3F	RC	0.667	1.00	1.00	2.25					1.502	0.712	0.934	1.000	1.071	0(0)	
			1.13	1.00	1.61	1.13	0.69			1.191			0.792	0.325	0(2)	
			2.40	1.00	2.03	2.40	0.31			1.442			0.959	0.147	3(3)	
2F	RC	0.800	1.00	1.00	1.13					0.903	0.693	0.934	0.585	0.627	0(0)	
			2.00	1.00	0.82	2.00	0.36			0.873			0.566	0.199	11(11)	
			2.40	1.00	1.00	2.40	0.19			0.872			0.565	0.103	11(11)	
1F	RC	1.000	1.00	1.00	0.72					0.717	0.619	0.934	0.415	0.444	0(0)	
			1.13	1.00	0.38	1.13	0.35			0.549			0.317	0.217	1(9)	
			2.40	1.00	0.65	2.40	0.10			0.688			0.398	0.061	9(9)	

(注) 第2種構造要素の候補本数：F < Fu' かつ Nr Nの部材本数、()内はF < Fu'の部材本数
Eo、SD、T、Is、CTUSDの出力結果は末尾の下の桁を切り捨てています。
他は四捨五入で表示しています。

*** 評価範囲外メッセージ一覧 ***

- (1) 鋼材降伏点強度が、240N/mm²未満、又は439N/mm²を超えています。
- (2) 耐震壁の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。
- (3) そで壁付柱の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。

*** 評価範囲内メッセージ一覧 ***

- (1) 診断時に考慮しない部材の指定があります。
- (2) せん断終局強度決定時の引張鉄筋比 p_t が0.1%を下回っている部材があります。 $p_t=0.1\%$ として、計算を行いました。

建物名称：2025水俣市蘇峰記念館

建設年月日： 全階数：3 地下階数：0

診断年月日： 診断担当者：

構造耐震判定指標 $I_{so} = E_s \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.60 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.600$

CTUSDの判定条件 $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.3 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.300$

階の補正係数：(n+1)/(n+i)により、SRC階の補正係数：1/Aiによります。

階	構造種別	階の補正係数	Fu'	F1	C1	F2	C2	F3	C3	Eo	SD	T	Is	CTUSD	第2種構造要素候補本数	判定
3F	RC	0.667	2.40	2.40	0.91					1.451	0.746	0.934	1.012	0.451	0(0)	
2F	RC	0.800	1.00	1.00	0.98					0.787	0.896	0.934	0.659	0.706	0(0)	
			2.00	1.00	0.85	2.00	0.17			0.735			0.615	0.122	11(12)	
			2.40	1.00	0.89	2.40	0.13			0.755			0.632	0.095	12(13)	
1F	RC	1.000	1.00	1.00	0.84					0.843	0.866	0.934	0.682	0.730	0(0)	
			2.40	1.00	0.76	2.40	0.12			0.809			0.655	0.099	8(9)	

(注) 第2種構造要素の候補本数：F<Fu'かつNr Nの部材本数、()内はF<Fu'の部材本数
 Eo、SD、T、Is、CTUSDの出力結果は末尾の下の桁を切り捨てています。
 他は四捨五入で表示しています。

*** 評価範囲外メッセージ一覧 ***

- (1) 鋼材降伏点強度が、240N/mm²未満、又は439N/mm²を超えています。
- (2) 耐震壁の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。
- (3) そで壁付柱の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。

*** 評価範囲内メッセージ一覧 ***

- (1) 診断時に考慮しない部材の指定があります。
- (2) せん断終局強度決定時の引張鉄筋比ptが0.1%を下回っている部材があります。pt=0.1%として、計算を行いました。

11.1.2 2次診断表2(正加力)

(1) 耐震診断計算条件

RC階準拠する耐震診断の基準	2017年版RC診断基準
RC階形状指標の偏心率、剛重比の求め方	2017年版C法(割線剛性)
2次診断の正負加力の取り扱い	正負加力別
2次診断で地震時軸力の割増係数 ($N_s = N_L + N_e$)	考慮しない
耐力壁の判別	等価開口周比で判別
傾斜部材の直交方向への考慮	考慮しない
そで壁付柱のそで壁部分の強度算定方法	曲げ耐力は実断面で M_u を算出 せん断耐力は実断面で Q_{su} を算出
耐力計算に考慮するそで壁長さの最小値	10.0cm
そで壁付柱の反曲点高さの取り方	弾性応力解析結果より算出
雑壁の反曲点高さの取り方	構造階高の1/2
雑壁の平均せん断応力度 の上限(構面内)	3.0N/mm ²
(構面外)	2.0N/mm ²
雑壁F値の扱い	防災協会(せん断破壊は $F=1.0$ 、曲げ破壊は $F=1.0\sim 1.5$)

(2) 2次診断正加力時診断表2(RC造2017年版診断基準C法の場合)

(2-1) +X方向診断表

建物名称：2025水俣市蘇峰記念館
 建設年月日： 全階数：3 地下階数：0
 診断年月日： 診断担当者：
 構造耐震判定指標 $I_{so} = E_s \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.60 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.600$
 CTUSDの判定条件 $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.3 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.300$
 階の補正係数：(n+1)/(n+i)により、SRC階の補正係数：1/Aiによります。

階	構造種別	階の補正係数	式番号	Fu'	F1	C1	F2	C2	F3	C3	Eo	SD	T	Is	CTUSD	第2種構造要素候補本数	判定
3F	RC	0.667	(5)	1.00	1.00	3.38					2.250	0.484	0.934	1.018	1.089	0(0)	
				2.40	2.40	0.31				0.496	0.224			0.100	3(3)		
			(4)	2.40	1.00	3.15	2.40	0.31		2.159	0.976			0.100	3(3)		
2F	RC	0.800	(5)	1.00	1.00	1.15					0.917	0.749	0.934	0.642	0.688	0(0)	
				2.40	2.40	0.19				0.356	0.250			0.111	11(11)		
			(4)	2.40	1.00	1.01	2.40	0.19		0.885	0.620			0.111	11(11)		
1F	RC	1.000	(5)	1.00	1.00	0.70					0.698	0.600	0.934	0.391	0.419	0(0)	
				1.13	1.13	0.35				0.397	0.222			0.211	0(9)		
				2.40	2.40	0.10				0.237	0.132			0.059	9(9)		
			(4)	1.13	1.00	0.36	1.13	0.35		0.536	0.300			0.211	0(9)		
			2.40	1.00	0.63	2.40	0.10		0.670	0.375	0.059			9(9)			

(注) 第2種構造要素の候補本数：F < Fu' かつ Nr Nの部材本数、()内はF < Fu'の部材本数
 Eo、SD、T、Is、CTUSDの出力結果は末尾の下の桁を切り捨てています。
 他は四捨五入で表示しています。

*** 評価範囲外メッセージ一覧 ***

- (1) 鋼材降伏点強度が、240N/mm²未満、又は439N/mm²を超えています。
- (2) 耐震壁の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。
- (3) そで壁付柱の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。

*** 評価範囲内メッセージ一覧 ***

- (1) 診断時に考慮しない部材の指定があります。
- (2) せん断終局強度決定時の引張鉄筋比 p_t が0.1%を下回っている部材があります。 $p_t=0.1\%$ として、計算を行いました。

建物名称：2025水俣市蘇峰記念館

建設年月日： 全階数：3 地下階数：0

診断年月日： 診断担当者：

構造耐震判定指標 $I_{so} = E_s \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.60 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.600$

CTUSDの判定条件 $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.3 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.300$

階の補正係数：(n+1)/(n+i)により、SRC階の補正係数：1/Aiによります。

階	構造種別	階の補正係数	式番号	Fu'	F1	C1	F2	C2	F3	C3	Eo	SD	T	Is	CTUSD	第2種構造要素候補本数	判定
3F	RC	0.667	(5)	2.40	2.40	0.91					1.451	0.759	0.934	1.029	0.459	0(0)	
2F	RC	0.800	(5)	1.00	1.00	0.97					0.778	0.895	0.934	0.651	0.697	0(0)	
				2.00	2.00	0.17				0.272	0.227			0.121	11(12)		
				2.40	2.40	0.13				0.255	0.213			0.095	12(13)		
			(4)	2.00	1.00	0.84	2.00	0.17		0.726	0.607			0.121	11(12)		
				2.40	1.00	0.88	2.40	0.13		0.747	0.624			0.095	12(13)		
				1.00	1.00	0.82				0.816	0.629			0.673	0(0)		
1F	RC	1.000	(5)	1.00	1.00	0.82				0.816	0.824	0.934	0.934	0.629	0.673	0(0)	
				2.40	2.40	0.12				0.276				0.213	0.095	8(9)	
				2.40	1.00	0.73	2.40	0.12		0.784				0.604	0.095	8(9)	

(注) 第2種構造要素の候補本数：F < Fu' かつ Nr Nの部材本数、()内はF < Fu'の部材本数
 Eo、SD、T、Is、CTUSDの出力結果は末尾の下の桁を切り捨てています。
 他は四捨五入で表示しています。

*** 評価範囲外メッセージ一覧 ***

- (1) 鋼材降伏点強度が、240 N/mm²未満、又は439 N/mm²を超えています。
- (2) 耐震壁の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。
- (3) そで壁付柱の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。

*** 評価範囲内メッセージ一覧 ***

- (1) 診断時に考慮しない部材の指定があります。
- (2) せん断終局強度決定時の引張鉄筋比ptが0.1%を下回っている部材があります。pt=0.1%として、計算を行いました。

11.1.2* 2次診断表2(負加力)

(1) 耐震診断計算条件

RC階準拠する耐震診断の基準	2017年版RC診断基準
RC階形状指標の偏心率、剛重比の求め方	2017年版C法(割線剛性)
2次診断の正負加力の取り扱い	正負加力別
2次診断で地震時軸力の割増係数 ($N_s = N_L + N_e$)	考慮しない
耐力壁の判別	等価開口周比で判別
傾斜部材の直交方向への考慮	考慮しない
そで壁付柱のそで壁部分の強度算定方法	曲げ耐力は実断面でMuを算出 せん断耐力は実断面でQsuを算出
耐力計算に考慮するそで壁長さの最小値	10.0cm
そで壁付柱の反曲点高さの取り方	弾性応力解析結果より算出
雑壁の反曲点高さの取り方	構造階高の1/2
雑壁の平均せん断応力度 の上限(構面内)	3.0N/mm ²
(構面外)	2.0N/mm ²
雑壁F値の扱い	防災協会(せん断破壊はF=1.0、曲げ破壊はF=1.0~1.5)

(2) 2次診断負加力時診断表2(RC造2017年版診断基準C法の場合)

(2-1)* -X方向診断表

建物名称：2025水俣市蘇峰記念館
 建設年月日： 全階数：3 地下階数：0
 診断年月日： 診断担当者：
 構造耐震判定指標 $I_{so} = E_s \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.60 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.600$
 CTUSDの判定条件 $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.3 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.300$
 階の補正係数：(n+1)/(n+i)により、SRC階の補正係数：1/Aiによります。

階	構造種別	階の補正係数	式番号	Fu'	F1	C1	F2	C2	F3	C3	Eo	SD	T	Is	CTUSD	第2種構造要素候補本数	判定
3F	RC	0.667	(5)	1.00	1.00	2.25					1.502	0.712	0.934	1.000	1.071	0(0)	
				1.13	1.13	0.69				0.516	0.344			0.325	0(2)		
				2.40	2.40	0.31				0.496	0.330			0.147	3(3)		
			(4)	1.13	1.00	1.61	1.13	0.69		1.191	0.792			0.325	0(2)		
				2.40	1.00	2.03	2.40	0.31		1.442	0.959			0.147	3(3)		
2F	RC	0.800	(5)	1.00	1.00	1.13					0.903	0.693	0.934	0.585	0.627	0(0)	
				2.00	2.00	0.36				0.575	0.373			0.199	11(11)		
				2.40	2.40	0.19				0.356	0.231			0.103	11(11)		
			(4)	2.00	1.00	0.82	2.00	0.36		0.873	0.566			0.199	11(11)		
				2.40	1.00	1.00	2.40	0.19		0.872	0.565			0.103	11(11)		
1F	RC	1.000	(5)	1.00	1.00	0.72					0.717	0.619	0.934	0.415	0.444	0(0)	
				1.13	1.13	0.35				0.397	0.229			0.217	1(9)		
				2.40	2.40	0.10				0.237	0.137			0.061	9(9)		
			(4)	1.13	1.00	0.38	1.13	0.35		0.549	0.317			0.217	1(9)		
				2.40	1.00	0.65	2.40	0.10		0.688	0.398			0.061	9(9)		

(注) 第2種構造要素の候補本数：F < Fu' かつ Nr Nの部材本数、()内はF < Fu'の部材本数
 Eo、SD、T、Is、CTUSDの出力結果は末尾の下の桁を切り捨てています。
 他は四捨五入で表示しています。

*** 評価範囲外メッセージ一覧 ***

- (1) 鋼材降伏点強度が、240N/mm²未滿、又は439N/mm²を超えています。
- (2) 耐震壁の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。
- (3) そで壁付柱の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。

*** 評価範囲内メッセージ一覧 ***

- (1) 診断時に考慮しない部材の指定があります。
- (2) せん断終局強度決定時の引張鉄筋比ptが0.1%を下回っている部材があります。pt=0.1%として、計算を行いました。

建物名称：2025水俣市蘇峰記念館

建設年月日： 全階数：3 地下階数：0

診断年月日： 診断担当者：

構造耐震判定指標 $I_{so} = E_s \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.60 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.600$

CTUSDの判定条件 $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U = 0.3 \cdot 1.00 \cdot 1.00 \cdot 1.00 = 0.300$

階の補正係数：(n+1)/(n+i)により、SRC階の補正係数：1/Aiによります。

階	構造種別	階の補正係数	式番号	Fu'	F1	C1	F2	C2	F3	C3	Eo	SD	T	Is	CTUSD	第2種構造要素候補本数	判定
3F	RC	0.667	(5)	2.40	2.40	0.91					1.451	0.746	0.934	1.012	0.451	0(0)	
2F	RC	0.800	(5)	1.00	1.00	0.98					0.787	0.896	0.934	0.659	0.706	0(0)	
				2.00	2.00	0.17				0.272	0.228			0.122	11(12)		
				2.40	2.40	0.13				0.255	0.213			0.095	12(13)		
			(4)	2.00	1.00	0.85	2.00	0.17		0.735	0.615			0.122	11(12)		
				2.40	1.00	0.89	2.40	0.13		0.755	0.632			0.095	12(13)		
				1.00	1.00	0.84				0.843	0.682			0.730	0(0)		
1F	RC	1.000	(5)	1.00	1.00	0.84				0.843	0.866	0.934	0.934	0.682	0.730	0(0)	
				2.40	2.40	0.12				0.276				0.223	0.099	8(9)	
				2.40	1.00	0.76	2.40	0.12		0.809				0.655	0.099	8(9)	

(注) 第2種構造要素の候補本数：F < Fu' かつ Nr Nの部材本数、()内はF < Fu'の部材本数
 Eo、SD、T、Is、CTUSDの出力結果は末尾の下の桁を切り捨てています。
 他は四捨五入で表示しています。

*** 評価範囲外メッセージ一覧 ***

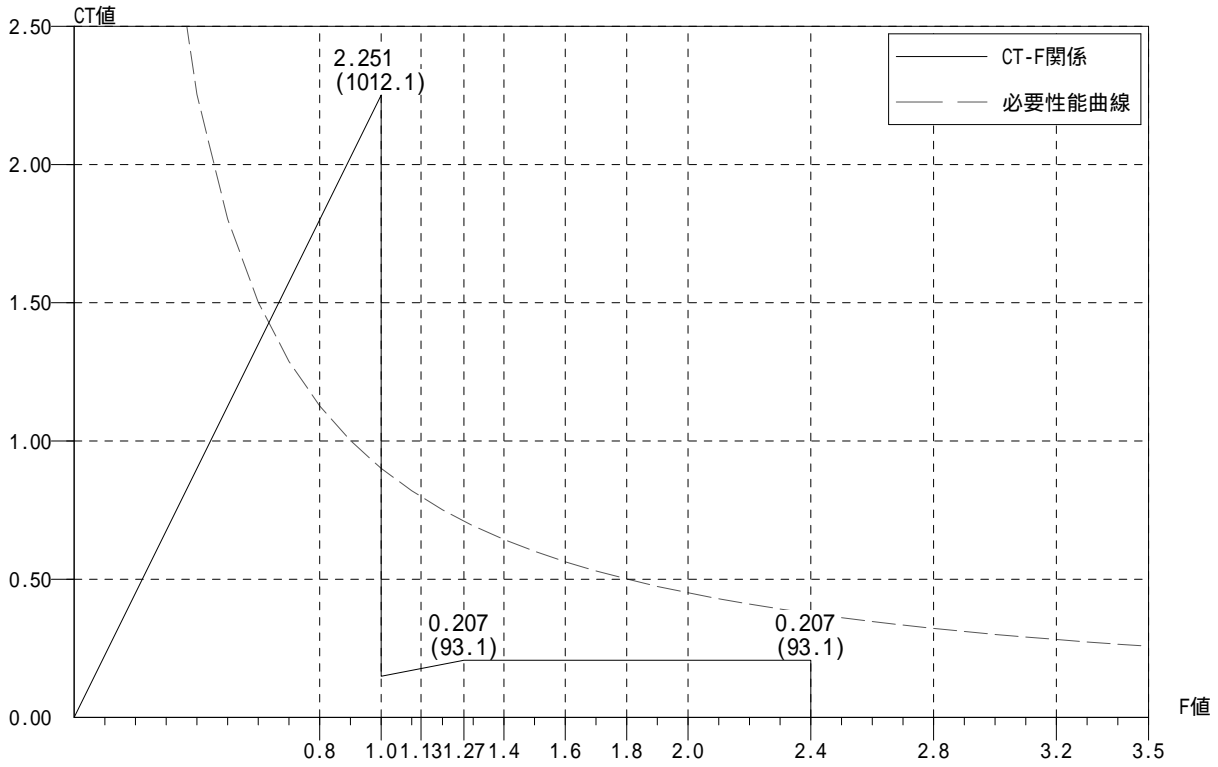
- (1) 鋼材降伏点強度が、240 N/mm²未満、又は439 N/mm²を超えています。
- (2) 耐震壁の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。
- (3) そで壁付柱の反曲点高さは弾性解析の結果を利用する場合、評価範囲外です。

*** 評価範囲内メッセージ一覧 ***

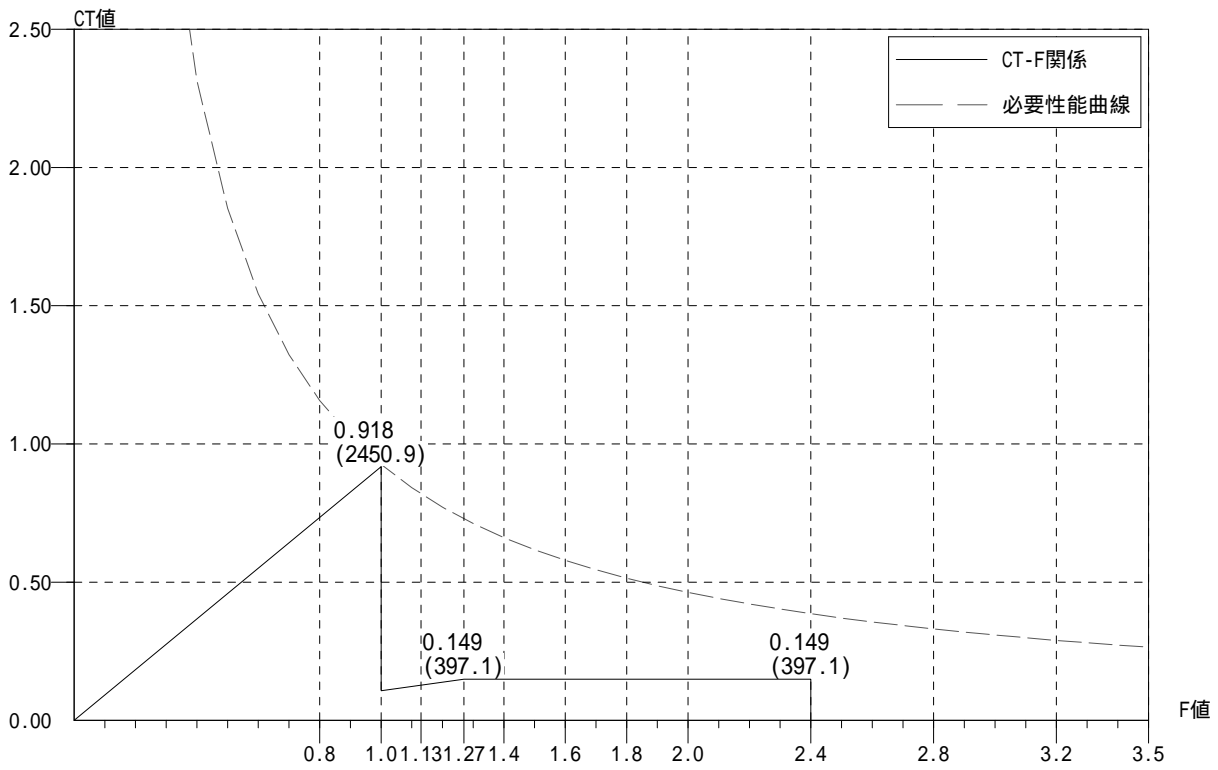
- (1) 診断時に考慮しない部材の指定があります。
- (2) せん断終局強度決定時の引張鉄筋比ptが0.1%を下回っている部材があります。pt=0.1%として、計算を行いました。

11.2 CT-Fグラフ

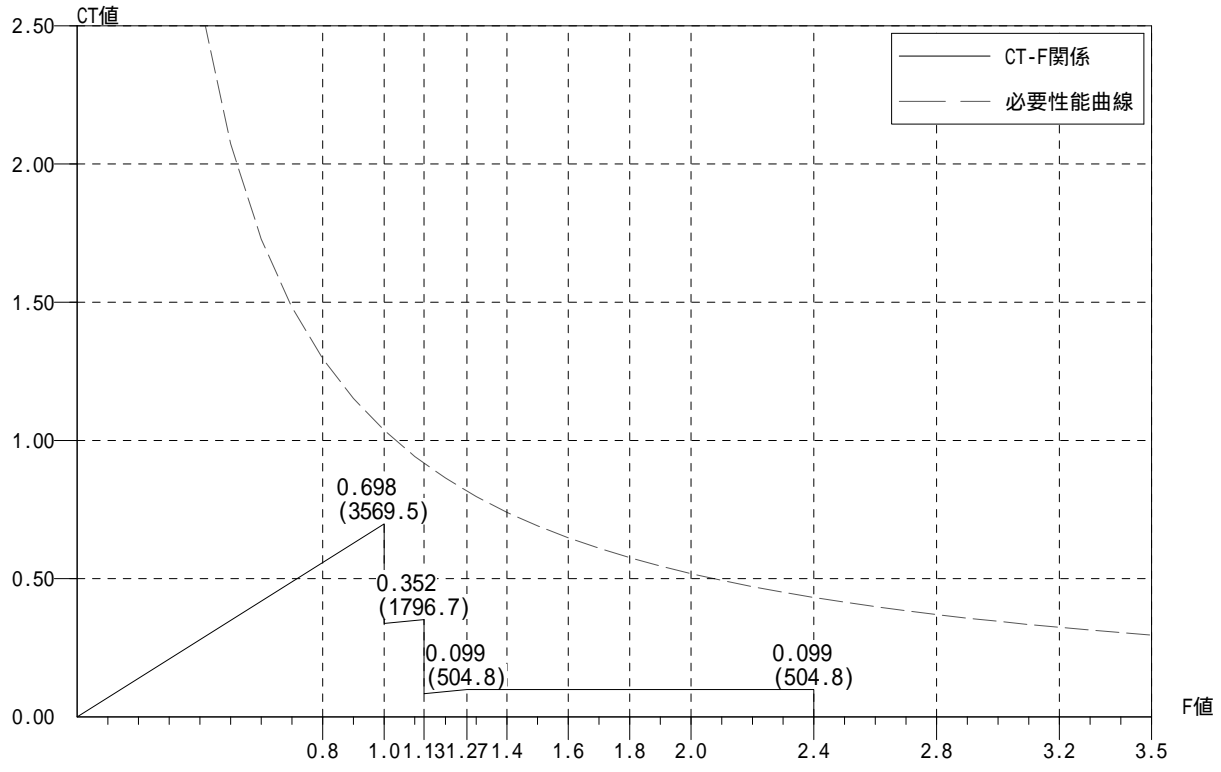
()内の数値はQ(kN)です。



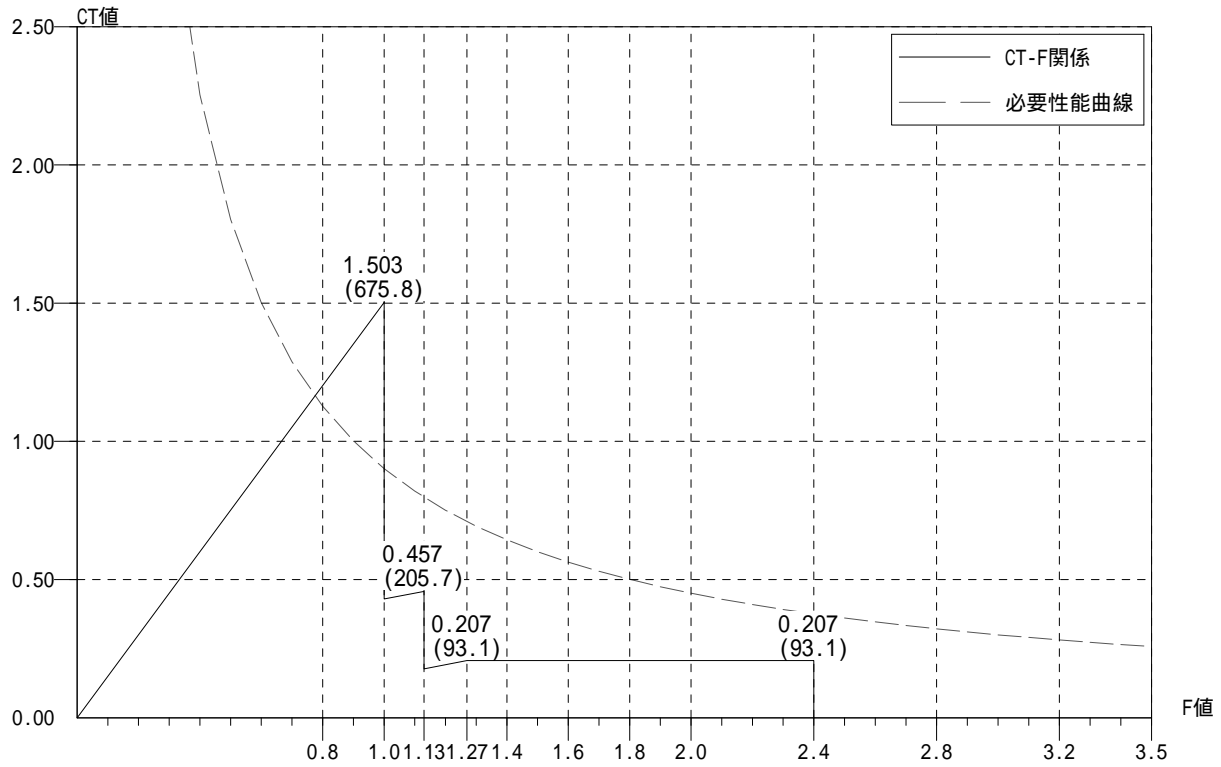
CT-Fグラフ(X方向正加力 3F階)



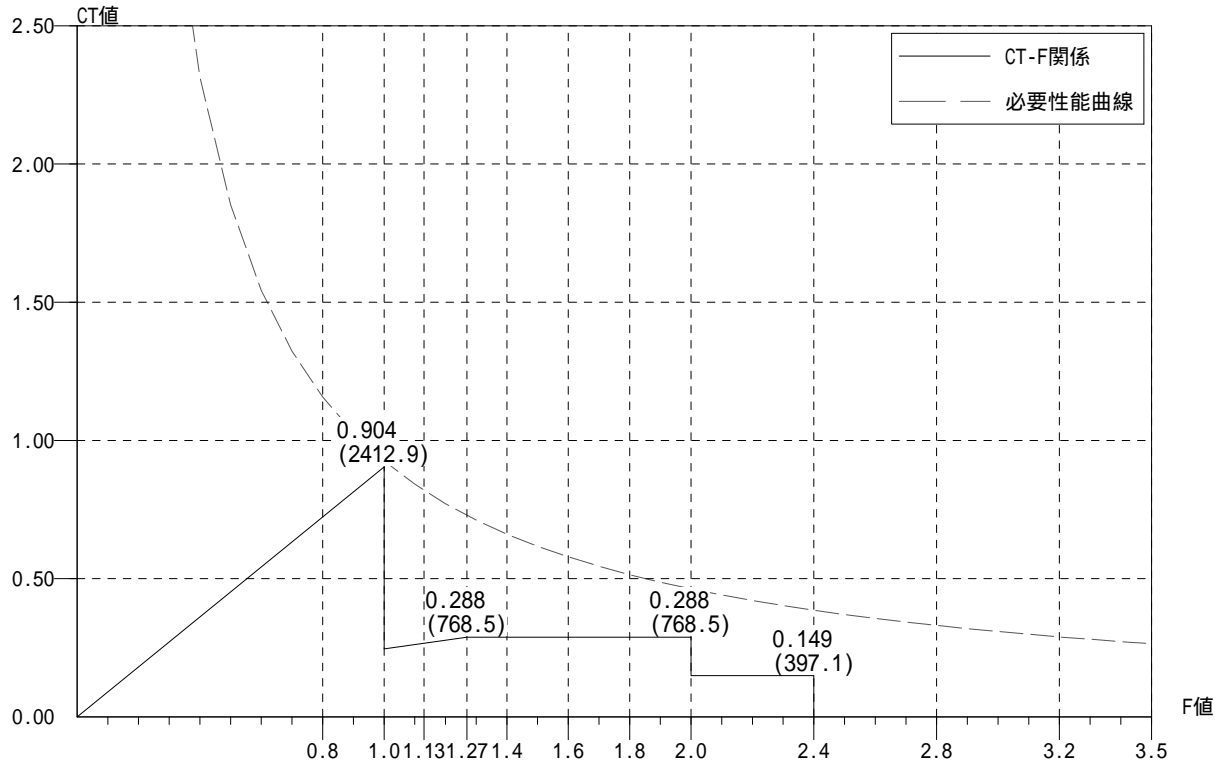
CT-Fグラフ(X方向正加力 2F階)



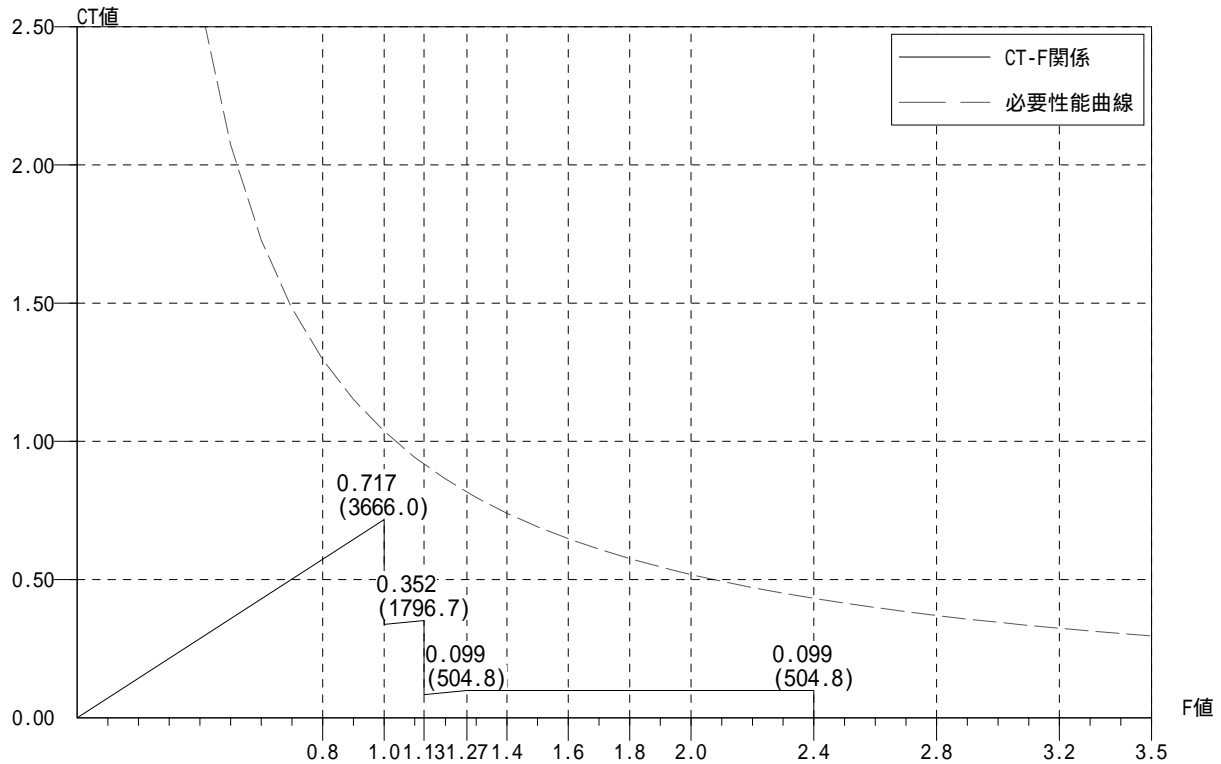
CT-Fグラフ(X方向正加力 1F階)



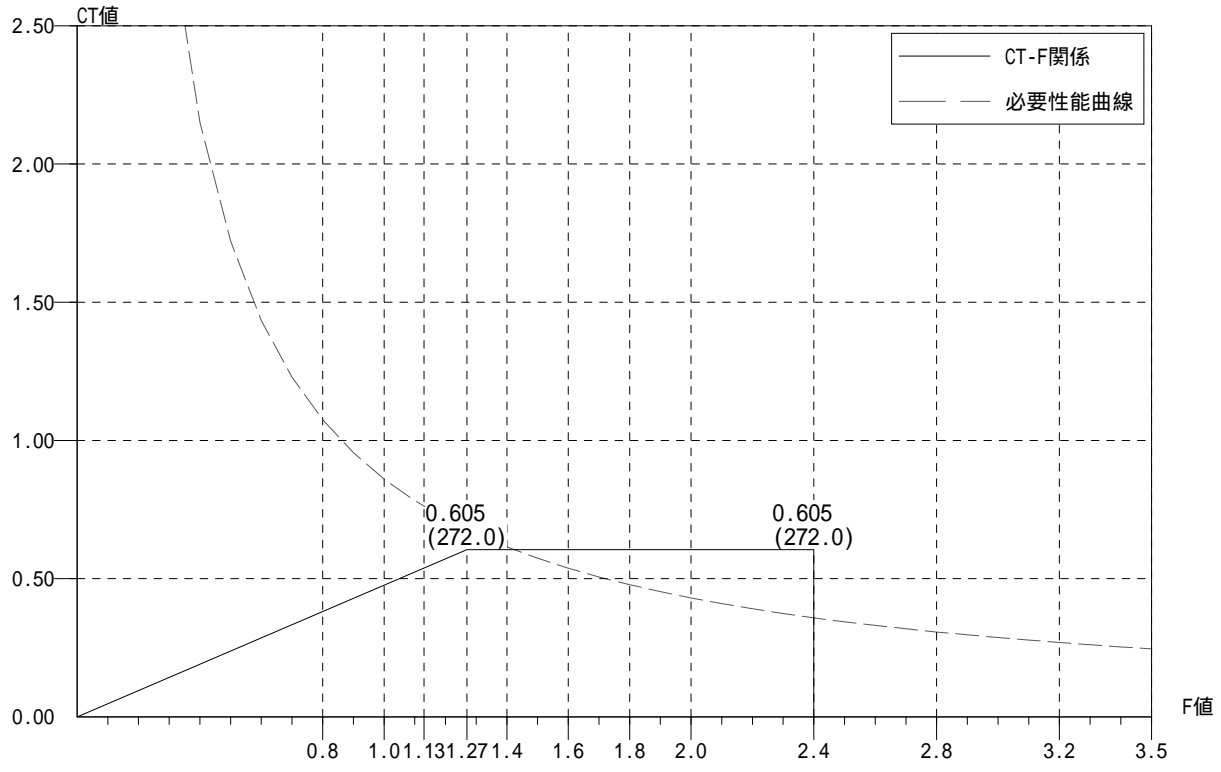
CT-Fグラフ(X方向負加力 3F階)



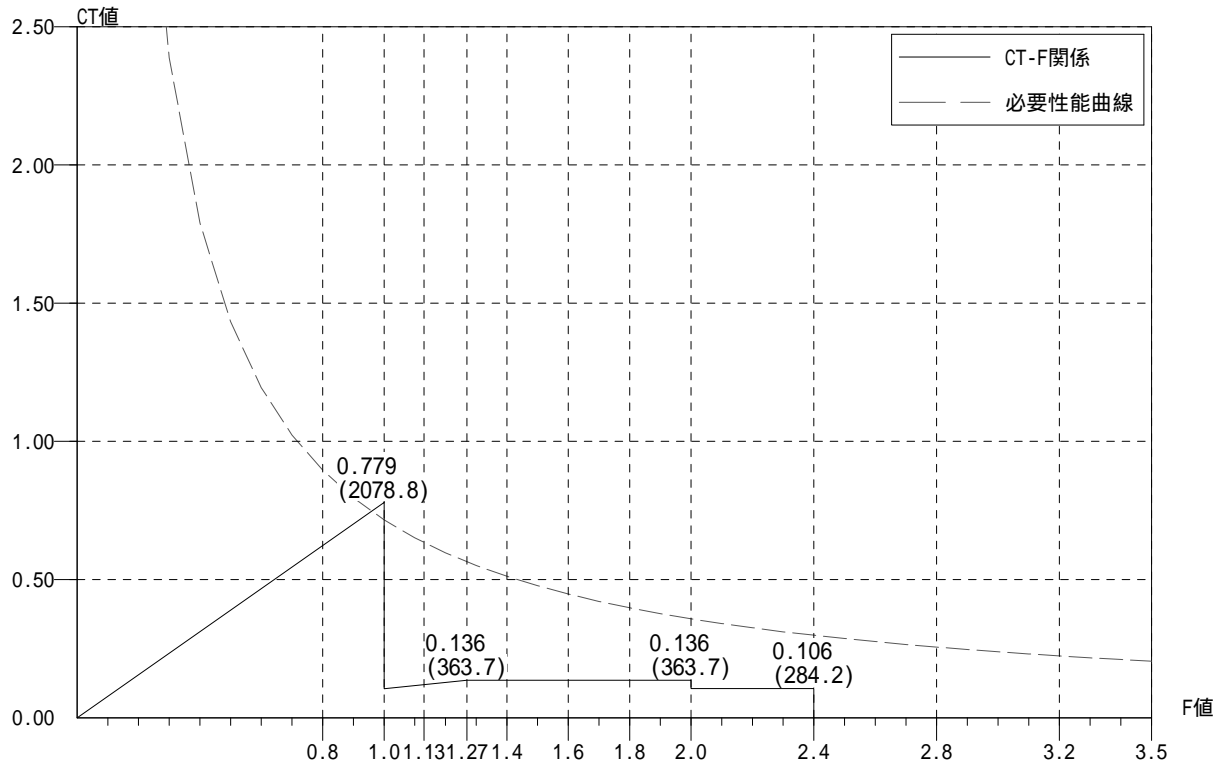
CT-Fグラフ(X方向負加力 2F階)



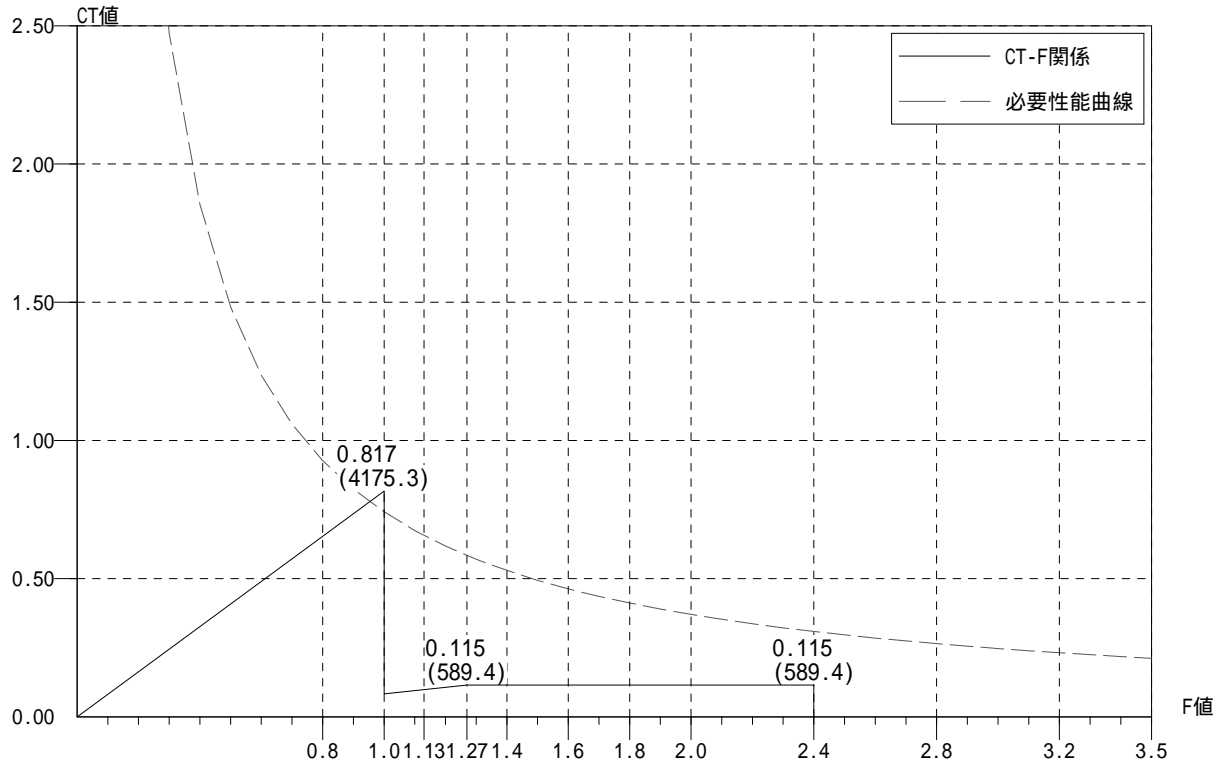
CT-Fグラフ(X方向負加力 1F階)



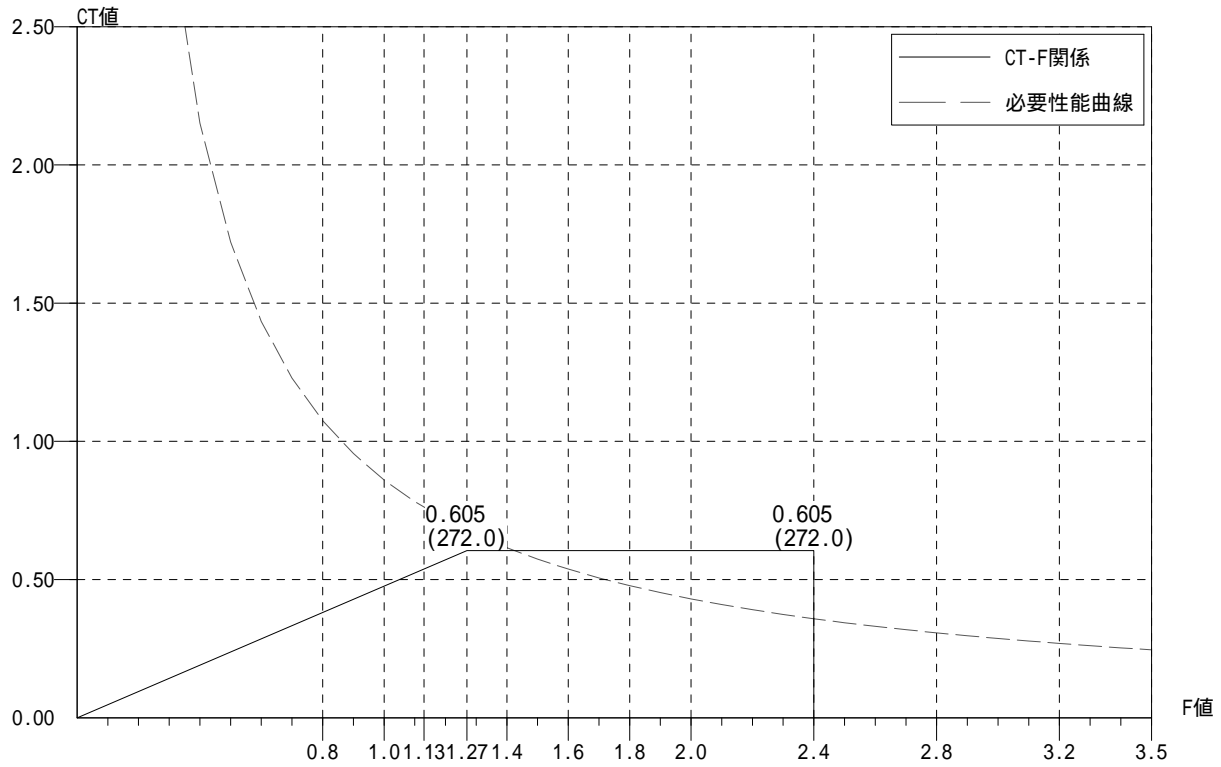
CT-Fグラフ(Y方向正加力 3F階)



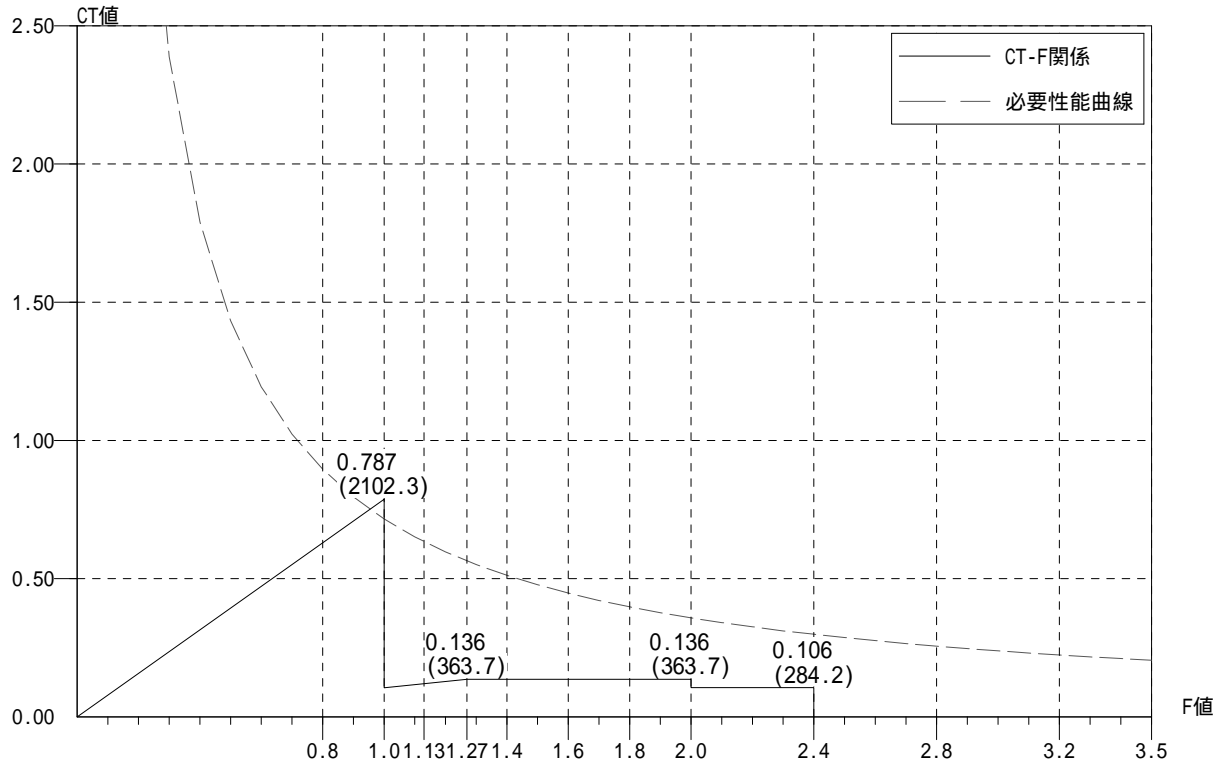
CT-Fグラフ(Y方向正加力 2F階)



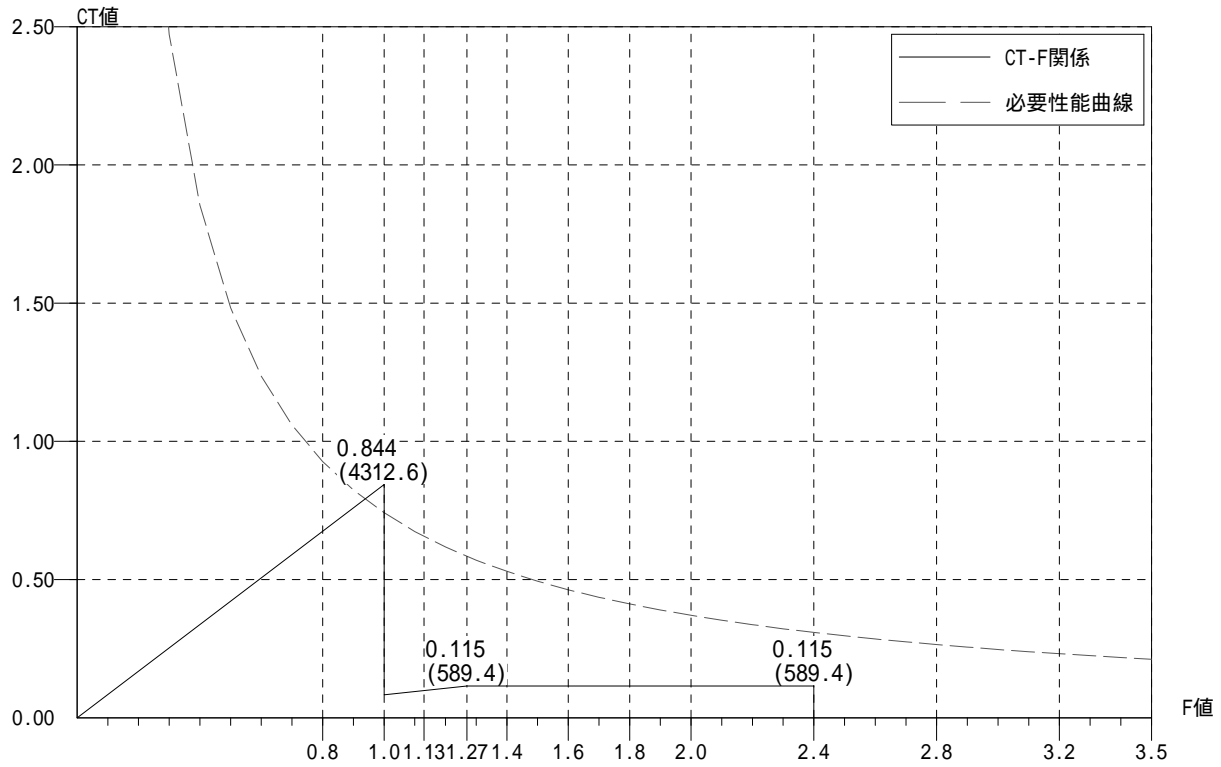
CT-Fグラフ(Y方向正加力 1F階)



CT-Fグラフ(Y方向負加力 3F階)



CT-Fグラフ(Y方向負加力 2F階)



CT-Fグラフ(Y方向負加力 1F階)

§ 12. メッセージ一覧

*** プリチェックメッセージ一覧 ***

- ・ C2811 FMC. Y6フレーム2F階X3軸の柱にダミー部材の指定がされている。
- ・ C2811 FMC. X3フレーム2F階Y6軸の柱にダミー部材の指定がされている。
- ・ AC2028 FC2.BLD. 主な構造種別が「RC造」または「SRC造」であるが、鉛直荷重時柱軸方向変位が「拘束しない」に設定されている。
- ・ AC2164 FKV. Y1aフレームX5軸の鉛直荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ AC2164 FKV. Y3フレームX4軸の鉛直荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ AC2164 FKV. Y3フレームX5軸の鉛直荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ AC2164 FKV. Y4フレームX4軸の鉛直荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ AC2164 FKV. Y4フレームX5軸の鉛直荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ AC2164 FKV. Y5フレームX3軸の鉛直荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ AC2164 FKV. Y6フレームX3軸の鉛直荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ AC2164 FKV. Y1aフレームX5軸の水平荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ AC2164 FKV. Y3フレームX4軸の水平荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ AC2164 FKV. Y3フレームX5軸の水平荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ AC2164 FKV. Y4フレームX4軸の水平荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ AC2164 FKV. Y4フレームX5軸の水平荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ AC2164 FKV. Y5フレームX3軸の水平荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ AC2164 FKV. Y6フレームX3軸の水平荷重時上下方向バネが0で入力されているため支点が解除されます。
- ・ DC1501 DN1. Y1aフレーム1F階X4軸の柱に耐震診断に考慮しない柱の指定がされている。
- ・ DC1501 DN1. Y1aフレーム1F階X6軸の柱に耐震診断に考慮しない柱の指定がされている。
- ・ DC1501 DN1. X4フレーム1F階Y1a軸の柱に耐震診断に考慮しない柱の指定がされている。
- ・ DC1501 DN1. X6フレーム1F階Y1a軸の柱に耐震診断に考慮しない柱の指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. Y1フレーム1F階X2軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. Y1フレーム1F階X3軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. Y1フレーム2F階X2軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. Y1フレーム2F階X3軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. Y1フレーム3F階X2軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. Y1フレーム3F階X3軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. Y1aフレーム1F階X4軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. Y1aフレーム1F階X5軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. Y6フレーム2F階X3軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. X2フレーム1F階Y1軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. X2フレーム1F階Y1a軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. X2フレーム2F階Y1軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. X2フレーム2F階Y1a軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. X2フレーム3F階Y1軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. X2フレーム3F階Y1a軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. X4フレーム1F階Y1軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. X4フレーム2F階Y1軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. X4フレーム2F階Y1a軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. X4フレーム3F階Y1軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ DC1551 DN2. X4フレーム3F階Y1a軸の壁・ブレースに耐震診断に考慮しない壁・ブレースの指定がされている。
- ・ 建物基本入力データ
- ・ エラー メッセージ : 0
- ・ 警告 メッセージ : 0
- ・ 注意 メッセージ : 2
- ・ 許容応力度等計算
- ・ エラー メッセージ : 0
- ・ 警告 メッセージ : 0
- ・ 注意 メッセージ : 15
- ・ 耐震診断計算
- ・ エラー メッセージ : 0
- ・ 警告 メッセージ : 0
- ・ 注意 メッセージ : 24

*** 計算結果メッセージ一覧 ***

- 1 DW615 1F階Y17L-X2軸 耐震壁の壁板に耐震診断に考慮しない壁の指定がありますが、そで壁付柱の反曲点高さの計算方法が弾性解析結果のため、付帯そで壁付柱の反曲点高さとし耐力を0とします。
- 2 DW615 1F階Y17L-X4軸 耐震壁の壁板に耐震診断に考慮しない壁の指定がありますが、そで壁付柱の反曲点高さの計算方法が弾性解析結果のため、付帯そで壁付柱の反曲点高さとし耐力を0とします。
- 3 DW615 1F階Y27L-X2軸 耐震壁の壁板に耐震診断に考慮しない壁の指定がありますが、そで壁付柱の反曲点高さの計算方法が弾性解析結果のため、付帯そで壁付柱の反曲点高さとし耐力を0とします。
- 4 DW615 2F階Y17L-X2軸 耐震壁の壁板に耐震診断に考慮しない壁の指定がありますが、そで壁付柱の反曲点高さの計算方法が弾性解析結果のため、付帯そで壁付柱の反曲点高さとし耐力を0とします。

5 DW615 2F階Y17レ-MX4軸 耐震壁の壁板に耐震診断に考慮しない壁の指定がありますが、そで壁付柱の反曲点高さの計算方法が弾性解析結果のため、付帯そで壁付柱の反曲点高さとなりを0とします。

6 DW615 2F階Y27レ-MX4軸 耐震壁の壁板に耐震診断に考慮しない壁の指定がありますが、そで壁付柱の反曲点高さの計算方法が弾性解析結果のため、付帯そで壁付柱の反曲点高さとなりを0とします。

7 DW615 2F階Y27レ-MX4軸 耐震壁の壁板に耐震診断に考慮しない壁の指定がありますが、そで壁付柱の反曲点高さの計算方法が弾性解析結果のため、付帯そで壁付柱の反曲点高さとなりを0とします。

8 DW615 3F階Y17レ-MX2軸 耐震壁の壁板に耐震診断に考慮しない壁の指定がありますが、そで壁付柱の反曲点高さの計算方法が弾性解析結果のため、付帯そで壁付柱の反曲点高さとなりを0とします。

9 DW615 3F階Y17レ-MX4軸 耐震壁の壁板に耐震診断に考慮しない壁の指定がありますが、そで壁付柱の反曲点高さの計算方法が弾性解析結果のため、付帯そで壁付柱の反曲点高さとなりを0とします。

10 DW615 3F階Y27レ-MX2軸 耐震壁の壁板に耐震診断に考慮しない壁の指定がありますが、そで壁付柱の反曲点高さの計算方法が弾性解析結果のため、付帯そで壁付柱の反曲点高さとなりを0とします。

11 DW615 3F階Y27レ-MX4軸 耐震壁の壁板に耐震診断に考慮しない壁の指定がありますが、そで壁付柱の反曲点高さの計算方法が弾性解析結果のため、付帯そで壁付柱の反曲点高さとなりを0とします。

水俣市蘇峰記念館 地盤調査業務

株式会社 修復技術システム

地盤調査報告書

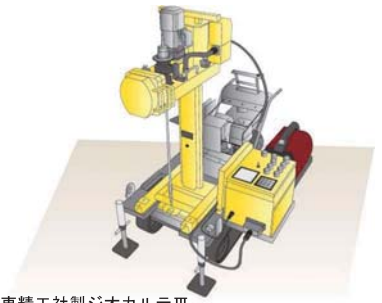
令和 8 年 1 月 23 日

株式会社 江藤建設工業

スクリーウエイト貫入試験方法

▶ スクリューウエイト貫入試験 概要

スクリーウエイト貫入試験は日本工業規格(JIS A 1221)により規定された試験方法です。試験装置(手動・半自動・全自動)を用いて、土の硬軟、締まり具合および土質の構成を判定します。



日東精工社製ジオカルテⅢ
(スクリーウエイト 自動貫入試験機)

▶ スクリューウエイト貫入試験 試験方法



ロッドの先端にスクリーポイントを取り付け、調査ポイントに地盤調査機を設置します。ロッドに6段階(0.05kN⇒0.15kN⇒0.25kN⇒0.5kN⇒0.75kN⇒1kN)で荷重(Wsw)をかけていきスクリーポイントが沈んでいくかを測定します。荷重のみを地盤にかけて沈んでいく層を自沈層と呼び、軟弱地盤の可能性があります。



100kgをかけても自沈しない場合、荷重は100kgのままロッドを右回転させ、25cm貫入させるのに要する半回転数(Na)を測定します。測定中はロッドから伝わる音や感触などの情報も記録します。



堅固層に到達した場合、回転貫入が不可能となりますので、ハンマーでロッドを打撃し貫入させます。地中障害物などによる貫入不可でないと確認ができたところで調査を終了します。

※地盤調査の終了条件は地盤調査会社により異なります。

▶ スクリューウエイト貫入試験 試験結果

地盤調査データおよび推定土質により下記式にて換算N値を算定する。

換算N値(稲田式)

粘性土 : $N = 3 \times Wsw + 0.05 \times Nsw$

砂質土 : $N = 2 \times Wsw + 0.067 \times Nsw$

許容支持力(住宅地盤品質協会)

$qa = 30Wsw + 0.6 \times Nsw$ (kN/m²)

Wsw : 載荷荷重(kN)

Nsw : スクリューウエイト貫入試験における1.00mあたりの半回転数(回)

地形図



主な地図記号

市役所	◎	神社	卍	田		広葉樹林	Ω
警察署	⊗	寺院	卍	畑	∨	針葉樹林	▲
小中学校	⊗	工場	⊙	果樹園	○	竹林	⊎
高等学校	⊗	発電所等	⊙	桑畑	∟	荒地	山

地形図と旧版地形図の比較

土地の利用状況を確認することで、地盤調査データだけでは確認ができない
不同沈下のリスクを把握することができます。

条件図



分類	特徴
三角州	海水面の低下によって海底が陸化した平坦地や、河口部にあつて砂や粘土等が堆積してできた平坦地。
その他	海岸低地

地形図と条件図の比較

高低差(地形図)や地形の成り立ち(土地条件図)を確認することで調査地・調査地周辺の不同沈下のリスクや液状化のリスクを予測できます。





スクリーウエイト貫入試験結果

管理番号		K202601232			調査名		水俣市蘇峰記念館 地盤調査業務													
調査住所		熊本県水俣市陣内1丁目1-1			測点番号		001													
試験深度		3.42 m			調査者		白石 賢吾													
年月日		2026年01月23日		調査時刻		09:44 ~ 09:50		標高												
緯度・経度		北緯: 03212.69300			東経: 13024.49950			水位		不明										
シリアル番号		本体: 3G0022			制御装置: 3G0022			調査機器		ジオカルテ 天候 曇										
貫入 深さ D (m)	貫入量 L (cm)	荷重 Wsw (kN)	半回転数 Na (回)	1m当たり 半回転数 Nsw (回)	記 事		荷 重 Wsw (kN)			貫入量1m当たりの半回転数 Nsw (回)						推 定 柱状図	推定 水位 (m)	換算 N値 (回)	換算 qa (kN/m ²)	
					音・感触	貫入状況	0.05	0.50	1.00	0.25	0.75	50	100	150	200					250
0.25	25	0.05	0	0		自沈													0.1	1.5
0.50	25	1.00	11	44															5.2	56.4
0.75	25	1.00	4	16															3.8	39.6
1.00	25	1.00	5	20															4.0	42.0
1.25	25	1.00	5	20															4.0	42.0
1.50	25	1.00	3	12															3.6	37.2
1.75	25	1.00	4	16															3.8	39.6
2.00	25	1.00	3	12															3.6	37.2
2.25	25	1.00	2	8															3.4	34.8
2.50	25	1.00	4	16															3.8	39.6
2.75	25	1.00	1	4															3.2	32.4
3.00	25	1.00	12	48															5.4	58.8
3.25	25	1.00	11	44															5.2	56.4
3.42	17	1.00	99	582		強打撃貫入													41.0	379.4

土質凡例 粘性土 砂質土

: 回転層
 : 自沈層



スクリーウエイト貫入試験結果



管理番号		K202601232			調査名		水俣市蘇峰記念館 地盤調査業務												
調査住所		熊本県水俣市陣内1丁目1-1			測点番号		004												
試験深度		3.41 m					調査者		白石 賢吾										
年月日		2026年01月23日		調査時刻		10:11 ~ 10:17		標高											
緯度・経度		北緯: 03212.68180			東経: 13024.49540			水位		不明									
シリアル番号		本体: 3G0022			制御装置: 3G0022			調査機器		ジオカルテ 天候 曇									
貫入 深さ D (m)	貫入量 L (cm)	荷重 Wsw (kN)	半回転数 Na (回)	1m当たり 半回転数 Nsw (回)	記事		荷重 Wsw (kN)			貫入量1m当たりの半回転数 Nsw (回)						推定 柱状図	推定 水位 (m)	換算 N値 (回)	換算 qa (kN/m ²)
					音・感触	貫入状況	0.05	0.50	1.00	0.25	0.75	50	100	150	200				
0.25	25	0.15	0	0		自沈												0.4	4.5
0.50	25	1.00	3	12														3.6	37.2
0.75	25	1.00	4	16														3.8	39.6
1.00	25	1.00	4	16														3.8	39.6
1.25	25	1.00	3	12														3.6	37.2
1.50	25	1.00	5	20														4.0	42.0
1.75	25	1.00	3	12														3.6	37.2
2.00	25	1.00	3	12														3.6	37.2
2.25	25	1.00	3	12														3.6	37.2
2.50	25	1.00	4	16														3.8	39.6
2.75	25	1.00	3	12														3.6	37.2
3.00	25	1.00	3	12														3.6	37.2
3.25	25	1.00	3	12														3.6	37.2
3.41	16	1.00	63	394	ガリガリ	強打撃貫入												28.3	266.3



土質凡例 粘性土 砂質土

: 回転層
 : 自沈層

スクリーウエイト貫入試験結果

管理番号		K202601232			調査名		水俣市蘇峰記念館 地盤調査業務												
調査住所		熊本県水俣市陣内1丁目1-1			測点番号		006												
試験深度		3.31 m					調査者		白石 賢吾										
年月日		2026年01月23日		調査時刻		10:27 ~ 10:33		標高											
緯度・経度		北緯: 03212.68360			東経: 13024.49140			水位		不明									
シリアル番号		本体: 3G0022			制御装置: 3G0022			調査機器		ジオカルテ 天候 曇									
貫入 深さ D (m)	貫入量 L (cm)	荷重 Wsw (kN)	半回転数 Na (回)	1m当たり 半回転数 Nsw (回)	記 事		荷 重 Wsw (kN)			貫入量1m当たりの半回転数 Nsw (回)						推 定 柱状図	推定 水位 (m)	換算 N値 (回)	換算 qa (kN/m ²)
					音・感触	貫入状況	0.05	0.50	1.00	0.25	0.75	50	100	150	200				
0.25	25	1.00	3	12														3.6	37.2
0.50	25	1.00	4	16														3.8	39.6
0.75	25	1.00	26	104														8.2	92.4
1.00	25	1.00	2	8														3.4	34.8
1.25	25	1.00	5	20														4.0	42.0
1.50	25	1.00	3	12														3.6	37.2
1.75	25	1.00	2	8														3.4	34.8
2.00	25	1.00	2	8														3.4	34.8
2.25	25	1.00	3	12														3.6	37.2
2.50	25	1.00	6	24														4.2	44.4
2.75	25	1.00	1	4														3.2	32.4
3.00	25	1.00	2	8														3.4	34.8
3.25	25	1.00	4	16														3.8	39.6
3.31	6	1.00	64	1067		強打撃貫入												73.4	670.0

土質凡例  粘性土  砂質土

 : 回転層
 : 自沈層

換算N値・許容支持力一覧表

調査高	NO1 N	NO2 N	NO3 N	NO4 N	NO5 N	NO6 N	NO7 N	AVE N
0.00	0.1	1.5	5.6	0.4	4.2	3.6	9.8	3.60
-0.25	5.2	5.6	5.6	3.6	29.8	3.8	6.0	8.51
-0.50	3.8	3.6	6.2	3.8		8.2	32.8	9.73
-0.75	4.0	10.4	18.8	3.8		3.4		8.08
-1.00	4.0	5.4	517.9	3.6		4.0		106.98
-1.25	3.6	6.2		4.0		3.6		4.35
-1.50	3.8	6.0		3.6		3.4		4.20
-1.75	3.6	5.2		3.6		3.4		3.95
-2.00	3.4	4.8		3.6		3.6		3.85
-2.25	3.8	4.4		3.8		4.2		4.05
-2.50	3.2	4.8		3.6		3.2		3.70
-2.75	5.4	15.9		3.6		3.4		7.08
-3.00	5.2	239.8		3.6		3.8		63.10
-3.25	41.0			28.3		73.4		47.57
-3.50								
-3.75								
-4.00								
-4.25								
-4.50								
-4.75								
-5.00								
-5.25								
-5.50								
-5.75								
-6.00								
-6.25								
-6.50								
-6.75								
-7.00								
-7.25								
-7.50								
-7.75								
-8.00								
-8.25								
-8.50								
-8.75								
-9.00								
-9.25								
-9.50								
-9.75								
-10.00								

調査高	NO1 qa(kN/m ²)	NO2 qa(kN/m ²)	NO3 qa(kN/m ²)	NO4 qa(kN/m ²)	NO5 qa(kN/m ²)	NO6 qa(kN/m ²)	NO7 qa(kN/m ²)	AVE qa(kN/m ²)
0.00	1.5	15.0	61.2	4.5	44.4	37.2	111.6	39.34
-0.25	56.4	61.2	61.2	37.2	279.2	39.6	66.0	85.83
-0.50	39.6	37.2	68.4	39.6		92.4	306.0	97.20
-0.75	42.0	118.8	181.2	39.6		34.8		83.28
-1.00	42.0	58.8	4650.0	37.2		42.0		966.00
-1.25	37.2	68.4		42.0		37.2		46.20
-1.50	39.6	66.0		37.2		34.8		44.40
-1.75	37.2	56.4		37.2		34.8		41.40
-2.00	34.8	51.6		37.2		37.2		40.20
-2.25	39.6	46.8		39.6		44.4		42.60
-2.50	32.4	51.6		37.2		32.4		38.40
-2.75	58.8	154.8		37.2		34.8		71.40
-3.00	56.4	2160.0		37.2		39.6		573.30
-3.25	379.4			266.3		670.0		438.57
-3.50								
-3.75								
-4.00								
-4.25								
-4.50								
-4.75								
-5.00								
-5.25								
-5.50								
-5.75								
-6.00								
-6.25								
-6.50								
-6.75								
-7.00								
-7.25								
-7.50								
-7.75								
-8.00								
-8.25								
-8.50								
-8.75								
-9.00								
-9.25								
-9.50								
-9.75								
-10.00								

無回転で沈む自沈層

N値10以上の硬質層

※長期許容支持力度(qa)は、スクリーン工費入試験の貫入抵抗値(Nsw)を用いて下式にて算定する。

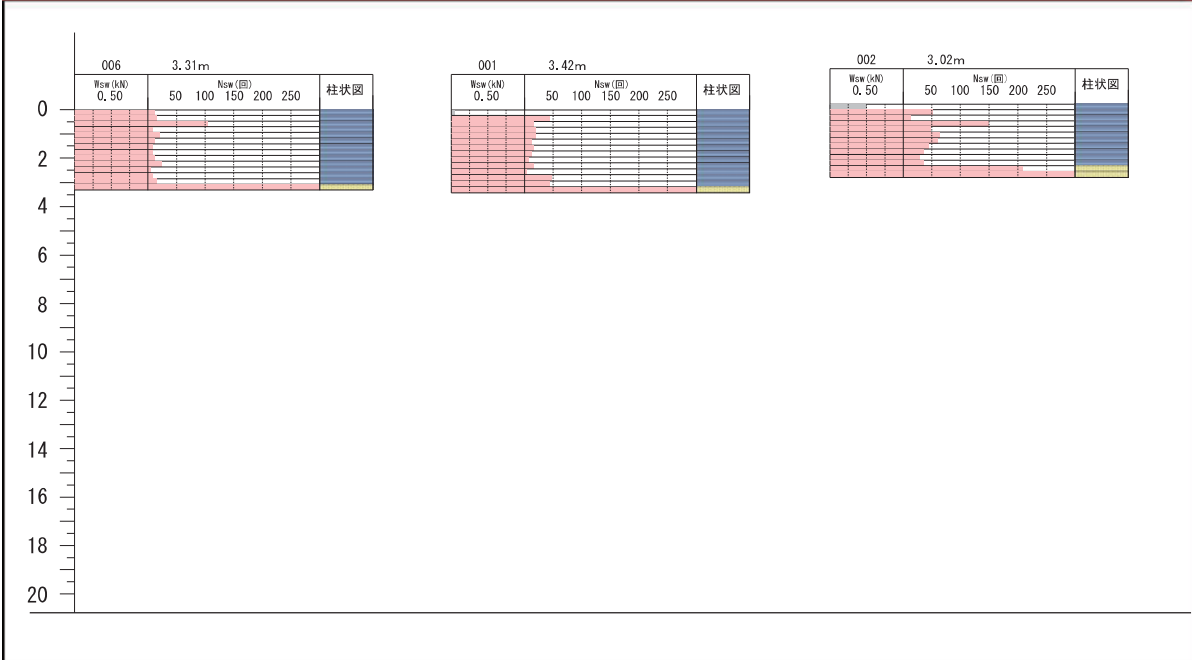
$$qa = 30W_{sw} + 0.6 \times N_{sw} \text{ (kN/m}^2\text{)} \quad \dots \text{ 住宅地盤品質協会の式}$$

調査位置図

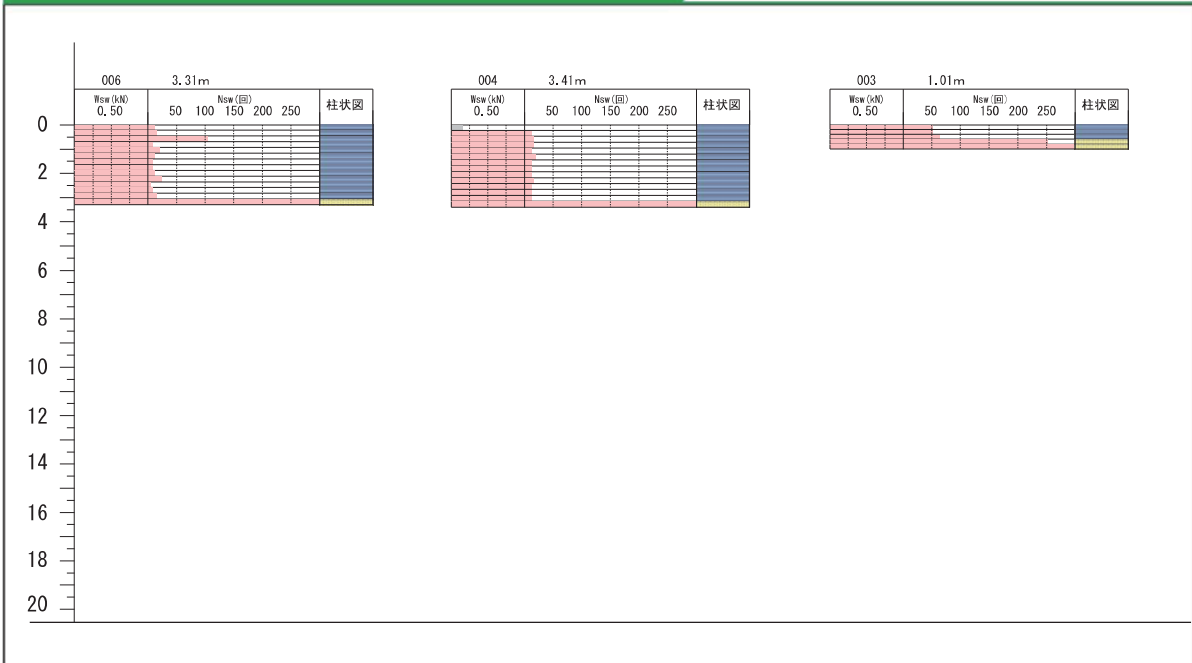


断面図

No. 006-No. 001-No. 002



No. 006-No. 004-No. 003



地盤の「見える化」

地盤調査データは測点により地盤の硬さにバラつきが出ることがあります。
お客様へ精度の高い提案を行うために、複数の調査ポイントを並べて確認することで、地盤の弱い層・強い層が現れる深度を確認します。

現場写真

2026/01/23 09:46:23.283 N(3212.690234) E(13024.499614)



調査-1

測点No.1

2026/01/23 09:21:10.280 N(3212.694218) E(13024.520968)



調査-2

測点No.2

2026/01/23 10:08:03.284 N(3212.68283) E(13024.499392)



調査-3

測点No.3

2026/01/23 10:13:40.285 N(3212.683448) E(13024.496998)



調査-4

測点No.4

2026/01/23 10:23:49.284 N(3212.683622) E(13024.496446)



調査-5

測点No.5

2026/01/23 10:29:08.285 N(3212.687168) E(13024.492858)



調査-6

測点No.6

現場写真

2026/01/23 10:47:22.285 N(3212.681654) E(13024.499818)



調査-7

測点No.7

2026/01/23 08:50:17.278 N(3212.682584) E(13024.505794)



調査-8

スクリーポイント

2026/01/23 09:35:33.281 N(3212.685434) E(13024.50835)



調査-9

付着土

2026/01/23 09:32:21.282 N(3212.687462) E(13024.511764)



調査-10

付着土

2. 建物現況写真

写真

建物現況写真

外観

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧淇水文庫)

調査日

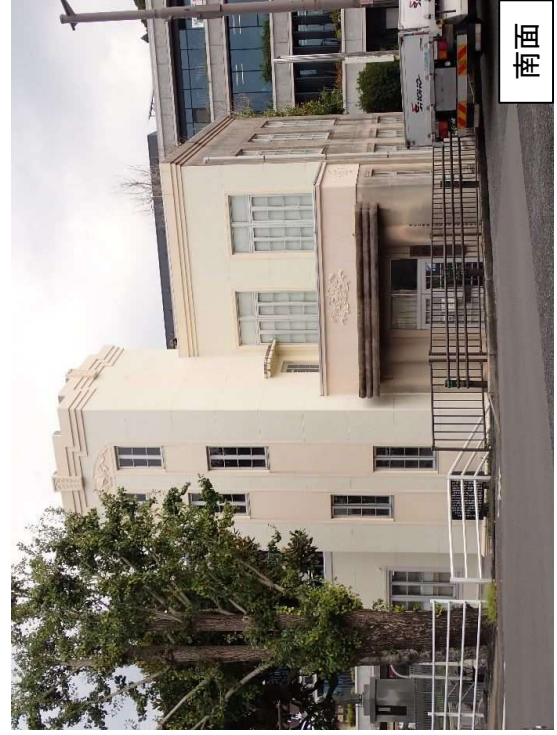
R 7 年 9 月 24 日



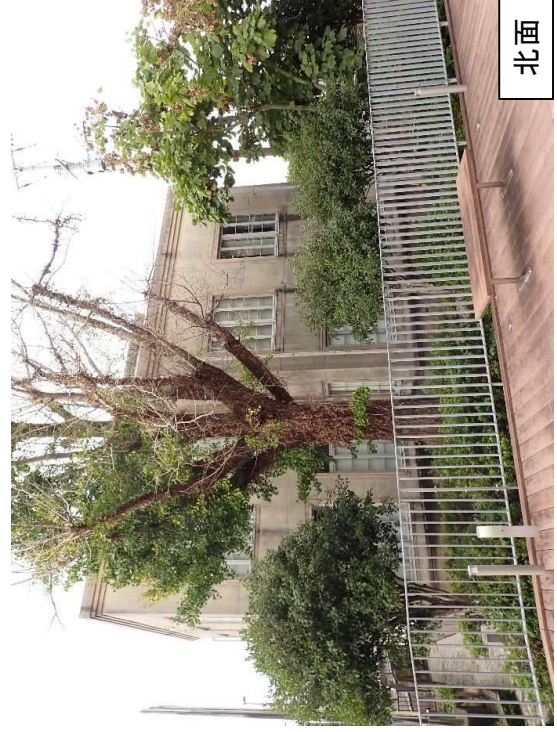
東面



西面



南面



北面

2. 建物現況写真

写真

建物現況写真

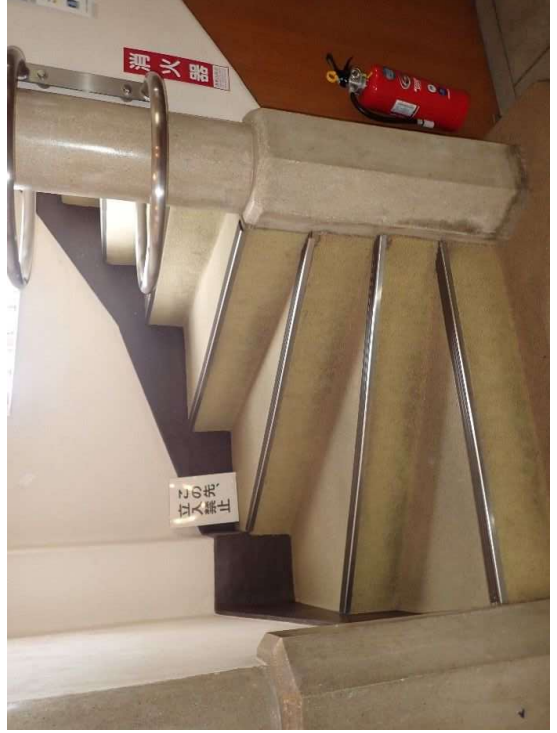
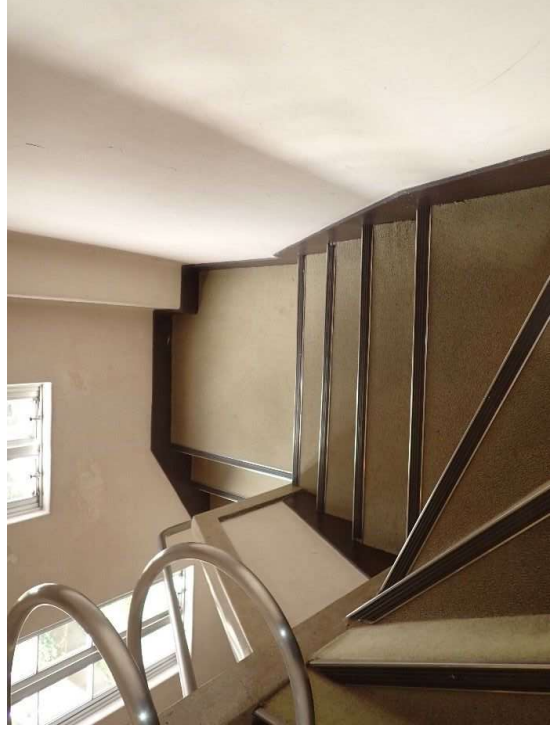
内観

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧淇水文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



2. 建物現況写真

写真

建物現況写真

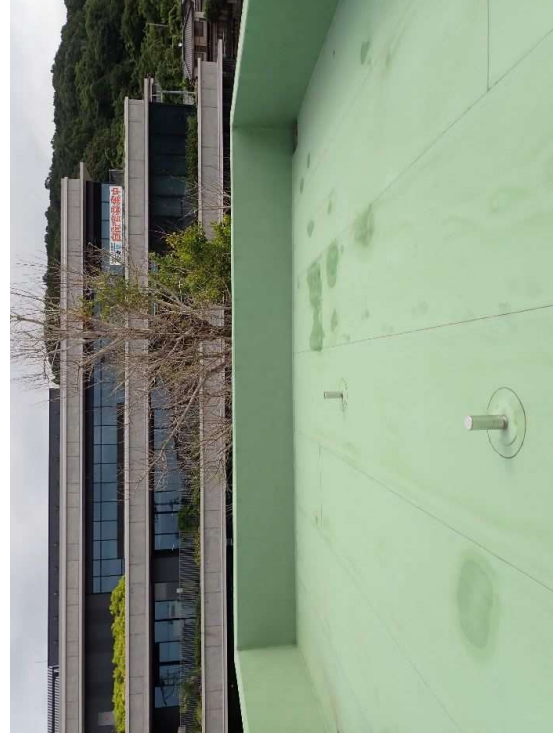
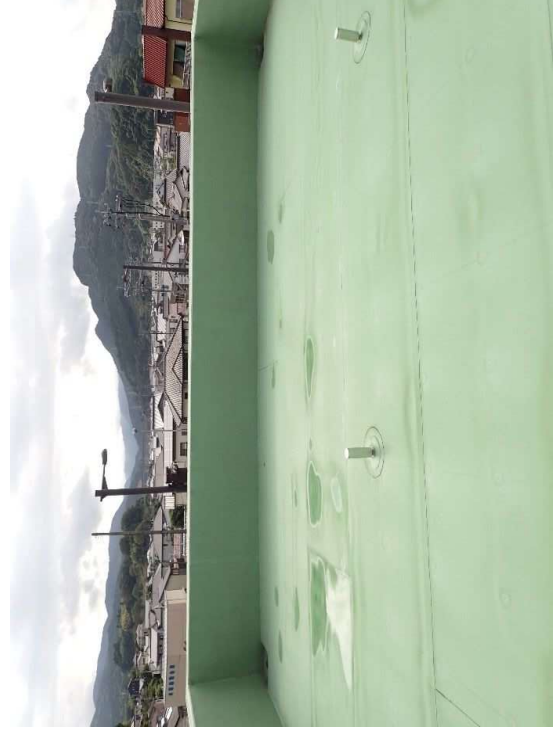
屋上

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧淇水文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



3.1 現地調査結果のまとめ

1 経年指標 T = 0.93

① T = 0.934 (S4年建築・築後97年 -ヶ月経過)

② 減点のポイント

- ・ コンクリートの中性化
- ・ 漏水による汚れ
- ・ 仕上材の軽微な剥落

4 中性化…標準深度を超える中性化進行が見られる

① 標準深度 築後97年経過 … 3.64 cm

② 実測値

	モルタル仕上部			打放し部		
	平均値	最大値	発生頻度	平均値	最大値	発生頻度
柱	0.9	1.7	2箇所中1箇所	-	-	-
壁	5.4	8.4	4箇所中3箇所	5.0	5.5	2箇所中2箇所
梁	6.0	7.2	6箇所中6箇所	-	-	-
床	0.0	0.0	2箇所中0箇所	-	-	-

壁・梁で標準深度を超える中性化進行が見られた。

2 ひび割れ…仕上材に微さなひび割れが見られる程度

	a:0.3mm以上		b:0.2mm程度		c:0.1mm未満	
	最大ランク	総減点数	最大ランク	総減点数	最大ランク	総減点数
床 小梁を含む	IV	0.000	IV	0.000	IV	0.000
大梁	IV	0.000	IV	0.000	IV	0.000
柱・壁	IV	0.000	IV	0.000	IV	0.000

3 コンクリート強度

① 設計基準強度 $F_c = 210 \text{ kgf/cm}^2$

② 実測値

・ シュミット 柱・梁・壁
 推定強度 24.8 N/mm²
 (各階推定強度)

1階	2階
29.8	25.5

 N/mm²

・ コア壁
 推定強度 17.5 N/mm²
 (各階推定強度)

1階	2階	R階
15.2	17.7	23.2

 N/mm²

5 鉄筋被り厚と発錆…部分点錆の発生

① 使用鉄筋 … 主筋 → φ 18.5 ~ 25.5 mm 帯筋 → φ 6.2 mm
 縦筋 → φ 9.6 mm 横筋 → φ 10.0 mm
 肋筋 → φ 9.4 ~ 10.0 mm

② 発錆状況 …

ランク	発生率	発生頻度
錆無し A	0 %	0箇所中0箇所
部分点錆 B	100 %	16箇所中16箇所
大部分錆 C	0 %	0箇所中0箇所

③ 被り厚 …

主筋 →	平均値	7.6 cm	最小値	4.8 cm
縦筋 →	平均値	6.7 cm	最小値	6.7 cm
帯筋 →	平均値	9.5 cm	最小値	7.2 cm
横筋 →	平均値	7.8 cm	最小値	7.8 cm
肋筋 →	平均値	4.7 cm	最小値	3.5 cm

6 その他

- ① 不同沈下 … 不同沈下傾向なし(1/606)
- ② ジャン力 … 発生は見られなかった。
- ③ 仕上材浮き … 大梁、天井、内壁に発生、2階天井で剥落が見られた。
- ④ 屋上防水 … 経年による劣化が見られた。
- ⑤ シール防水 … 硬化・破断が見られた。
- ⑥ その他 … ドア枠の欠損、樋支持金物の錆、ドレン詰りが見られた。

表名

現地調査結果のまとめ

建物名

水俣市立蘇峰記念館
 (旧市立蘇峰文庫)

調査日

R 7年9月24日

3.2 現地調査概要

調査項目		調査方針		詳細
①	変形調査	柱、梁、床、耐力壁を対象とする。 目視調査。		・レベル測定他。 ・肉眼で梁・柱の変形が認められる。
②	ひび割れ調査	柱、梁、床、耐力壁を対象とする。 クラックスケール測定。 目視調査。(梁・床については、天井裏から調査を行う)		・0.2mm以下・・・離れると肉眼では認められないひび割れ巾。 ・0.3mm以上・・・離れても肉眼で認められるひび割れ巾。
③	コンクリート強度調査	耐力壁及び床を対象とする。 圧縮試験。 (熊本高等専門学校 建設技術材料試験所)		・φ90コア採取。 ・ジャンカ等不良部分除外。 ・1階・2階：壁1ヶ所、梁1ヶ所 PH階：壁1ヶ所、床1ヶ所。
④	シュミットハンマー試験	柱を対象とする。 デジタルシュミット。		・コンクリート面を研磨すること。 ・20ポイント、ピッチ30mm以上。 ・平均値を測定値とする。
⑤	コンクリート中性化試験	耐力壁にて測定。 柱は切り箇所を測定。		・フェノールフタレイン1%溶液を塗布。 ・1時間以内に測定。 ・最大深さを採用する。(鉄筋位置との比較)
⑥	鉄筋被り厚試験	柱・梁を対象とする。 ・斫り、水系、スケール測定。		・主筋、補強筋とも測定。 ・XY両方測定。 ・最小値を採用する。(中性化深度との比較)
⑦	鉄筋腐食度調査	柱・梁を対象とする。 ・斫り、主筋、帯筋にて測定。		・ランクは耐力度調査の1、2、3、4、をA、B、C、D、とした。 ・平均値を採用する。
⑧	鉄筋引張試験	設計図書あれば省略してよい。 ・1棟1本程度 引張試験(熊本県建設技術センター)	省略	・土間筋を採取する。 ・採取寸法 約40cm
⑨	配筋調査	柱1ヶ所、耐力壁1ヶ所、梁2ヶ所 鉄筋探査機により測定。		・ハンディサーチを使用し、鉄筋位置をマーク後ピッチを計測。
⑩	非構造材の 耐震性の調査	目視調査。 ・モルタル、タイル一部分打診。 ・ガラス、モルタル、タイル、ガラスブロック、PC、ALC。		・写真、コメント。
⑪	建築設備・付属工作物の 耐震性の調査	高架水槽、クーリングタワー、屋外機、煙突、看板等。 目視、ハンマー打検。		・写真、コメント。

表名

現地調査概要

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧淇水図書館)

調査日

R 7 年 9 月 24 日

3.3 履歴外観調査の結果

3.3 履歴外観調査の結果										表名																																																																																																														
<table border="1"> <tr> <td>1階床面積</td> <td>133.04 m²</td> <td>総延床面積</td> <td>118.44 m²</td> </tr> <tr> <td>塔屋床面積</td> <td>14.31 m²</td> <td>総延床面積</td> <td>265.79 m²</td> </tr> </table>										1階床面積	133.04 m ²	総延床面積	118.44 m ²	塔屋床面積	14.31 m ²	総延床面積	265.79 m ²	履歴外観調査の結果																																																																																																						
1階床面積	133.04 m ²	総延床面積	118.44 m ²																																																																																																																					
塔屋床面積	14.31 m ²	総延床面積	265.79 m ²																																																																																																																					
										建物名																																																																																																														
調査ブロック略平面図										水俣市立蘇峰記念館 (旧洪水文庫)																																																																																																														
<table border="1"> <tr> <th>建築物の履歴</th> <th>建築年次</th> <th>階数</th> <th>補強の有無</th> <th>補強の内容</th> <th>大規模な補修模様替の有無</th> <th>雨漏の有無</th> <th>雨漏補修の有無</th> <th>再塗装の有無</th> <th>設計者</th> <th>施工者</th> </tr> <tr> <td></td> <td>RC・S4</td> <td>2</td> <td>無</td> <td>-</td> <td>有</td> <td>有</td> <td>有</td> <td>有</td> <td>渡辺録治</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td></td> <td>.</td> <td>/</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>.</td> <td>/</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>.</td> <td>/</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>.</td> <td>/</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>.</td> <td>/</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>.</td> <td>/</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>.</td> <td>/</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>.</td> <td>/</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>										建築物の履歴	建築年次	階数	補強の有無	補強の内容	大規模な補修模様替の有無	雨漏の有無	雨漏補修の有無	再塗装の有無	設計者	施工者		RC・S4	2	無	-	有	有	有	有	渡辺録治	-		.	/										.	/										.	/										.	/										.	/										.	/										.	/										.	/									調査日
建築物の履歴	建築年次	階数	補強の有無	補強の内容	大規模な補修模様替の有無	雨漏の有無	雨漏補修の有無	再塗装の有無	設計者	施工者																																																																																																														
	RC・S4	2	無	-	有	有	有	有	渡辺録治	-																																																																																																														
	.	/																																																																																																																						
	.	/																																																																																																																						
	.	/																																																																																																																						
	.	/																																																																																																																						
	.	/																																																																																																																						
	.	/																																																																																																																						
	.	/																																																																																																																						
	.	/																																																																																																																						
被災種類										R 7 年 9 月 24 日																																																																																																														
被災の有無																																																																																																																								
年月日																																																																																																																								
工期																																																																																																																								
被災の種類										被災状況																																																																																																														
地震被害										平成28年熊本地震により壁面漆喰にひび																																																																																																														
火災																																																																																																																								
水害										土石流災害により陣内地区で浸水被害、最大1.5m程度																																																																																																														
その他																																																																																																																								
主な仕上																																																																																																																								
外装										1種 2種 3種																																																																																																														
屋根										平坦地・傾斜地・その他()																																																																																																														
壁										無・有()側 高さ()m																																																																																																														
腰壁										無・有																																																																																																														
床										無・有																																																																																																														
天井										無・有()側 幅員(11)m 交通量(多)・普通・少ない																																																																																																														
美観上										無・有()側 幅員(20)m 交通量(多)・普通・少ない																																																																																																														
建築物の形状										無・有 名称()																																																																																																														
建築物の傾斜										-																																																																																																														
外壁のひび割れ										用途地域種別																																																																																																														
その他										その他																																																																																																														
外観に関する印象																																																																																																																								
備考																																																																																																																								

3.4 経年指標(T)二次診断用調査

部位	範囲	a 1 不同沈下に関連するひび割れ				b 1 二次部材に支障をきたしているスラブ、梁の变形				c 1 a b には該当しない軽微な構造ひび割れ 2 a b には該当しないスラブ、梁のため				
		1階	2階	R階	R階	1階	2階	R階	R階	1階	2階	R階	R階	
構造ひび割れ・変形 P1	I 床 小梁を含む	I 総部材数の1/3以上	0.017				0.005				0.001			
		II 同上	0.006				0.002				0.000			
		III 同上	0.002				0.001				0.000			
		IV 同上	0.000				0.000				0.000			
	II 大梁	I 総部材数の1/3以上	0.050				0.015				0.004			
		II 同上	0.017				0.005				0.001			
		III 同上	0.006				0.002				0.000			
		IV 同上	0.000				0.000				0.000			
	III 壁・柱	I 総部材数の1/3以上	0.150				0.045				0.011			
		II 同上	0.050				0.015				0.004			
		III 同上	0.017				0.005				0.001			
		IV 同上	0.000				0.000				0.000			
	減点数集計欄		小計	1階=0	2階=0	R階=0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計			1階=0	2階=0	R階=0	0	0	0	0	0	0	0	
	変質・老朽化 P2	I 床 小梁を含む	I 総部材数の1/3以上	0.017				0.005				0.001		
			II 同上	0.006				0.002				0.000		
III 同上			0.002				0.001				0.000			
IV 同上			0.000				0.000				0.000			
II 大梁		I 総部材数の1/3以上	0.050				0.015				0.004			
		II 同上	0.017				0.005				0.001			
		III 同上	0.006				0.002				0.000			
		IV 同上	0.000				0.000				0.000			
III 壁・柱		I 総部材数の1/3以上	0.150				0.045				0.011			
		II 同上	0.050				0.015				0.004			
		III 同上	0.017				0.005				0.001			
		IV 同上	0.000				0.000				0.000			
減点数集計欄		小計	1階=0	2階=0	R階=0	0.065	0.065	0.065	0	0.001	0.001	0.001		
合計			1階=0.066	2階=0.066	R階=0.066	0.065	0.065	0.065	0	0.001	0.001	0.001		
経年指標 (T)		1階の経年指標	0.934	2階の経年指標	0.934	R階の経年指標	0.934	調査した階の数・N	3	二次経年指標		T = 0.93		
		0.934	+	0.934	=	2.802	/	0.934	=					

水俣市立蘇峰記念館
(旧市立洪水文庫)

調査日
R 7 年 9 月 24 日

建物名

経年指標 (T) 二次診断用調査

表名

3.5 不同沈下

図名

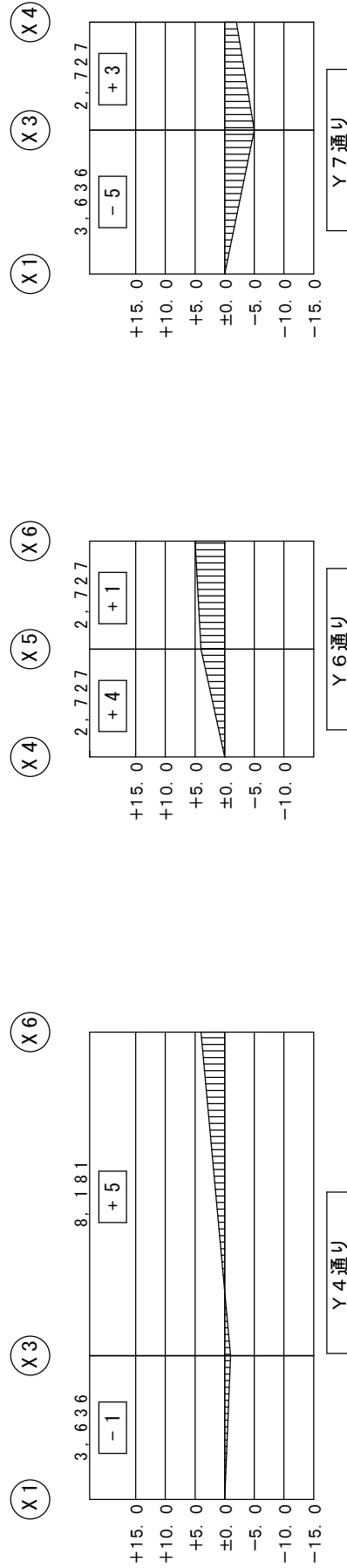
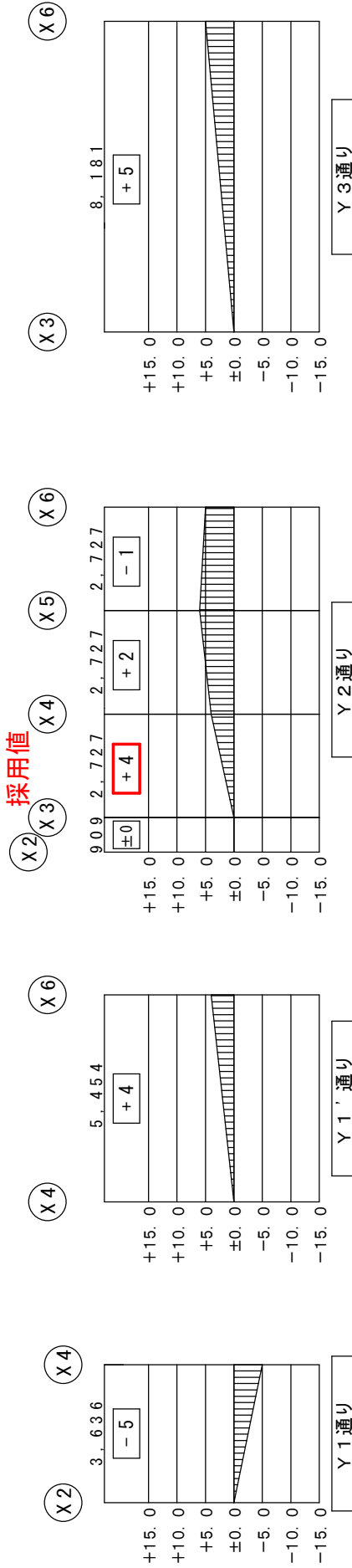
不同沈下レベル測定及び結果

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧津水文庫記念館)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



3.5 不同沈下

図名

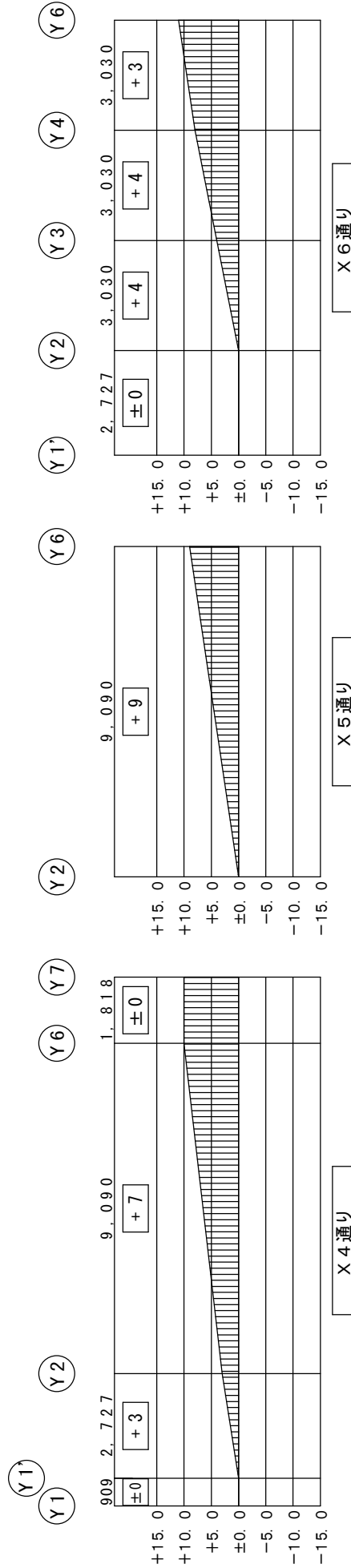
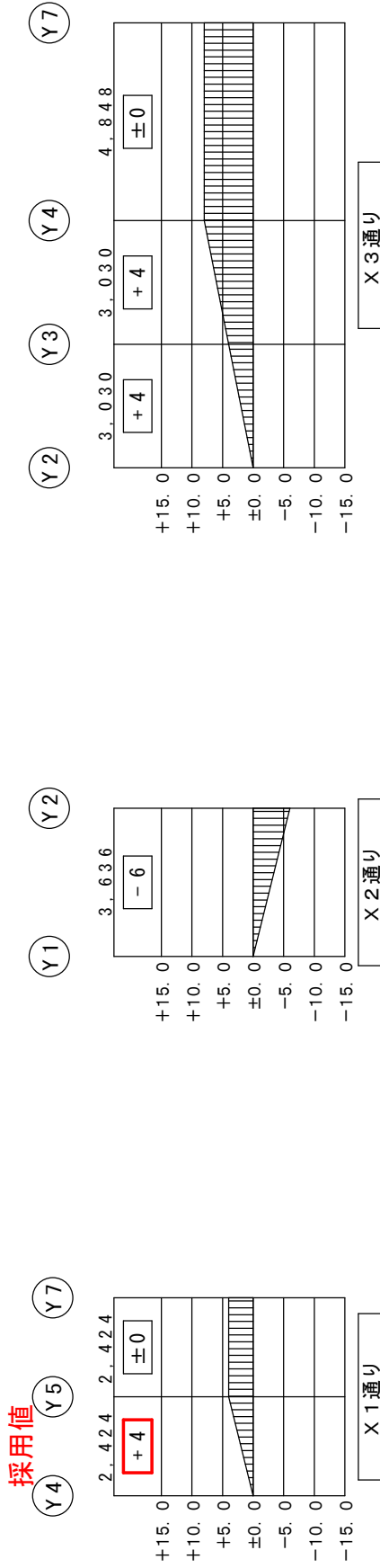
不同沈下レベル測定及び結果

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧津水図書館)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



不同沈下測定状況写真

写真

不同沈下測定状況写真

建物名

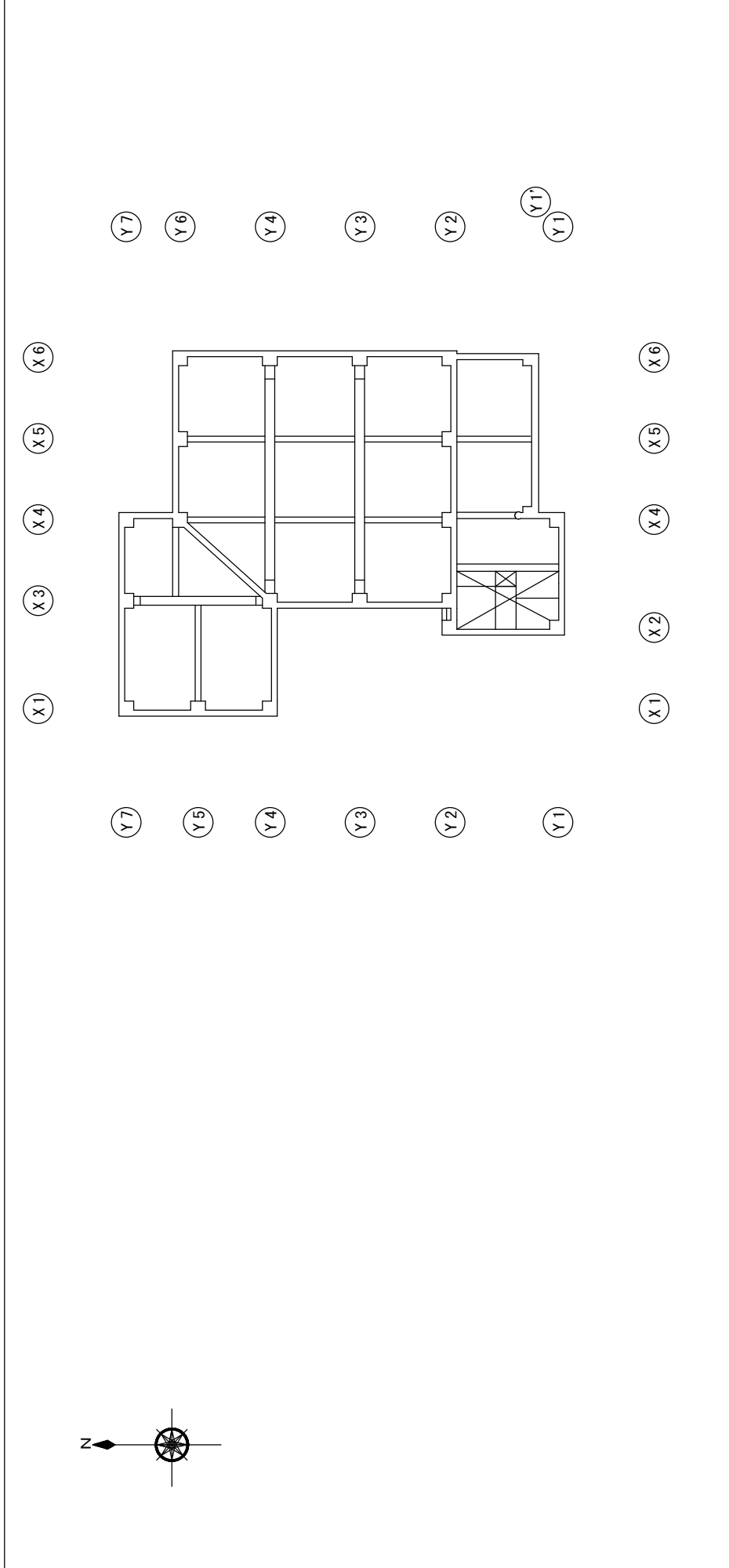
水俣市立蘇峰記念館
(旧 淇水文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



3.6 ひび割れ発生位置及区分図

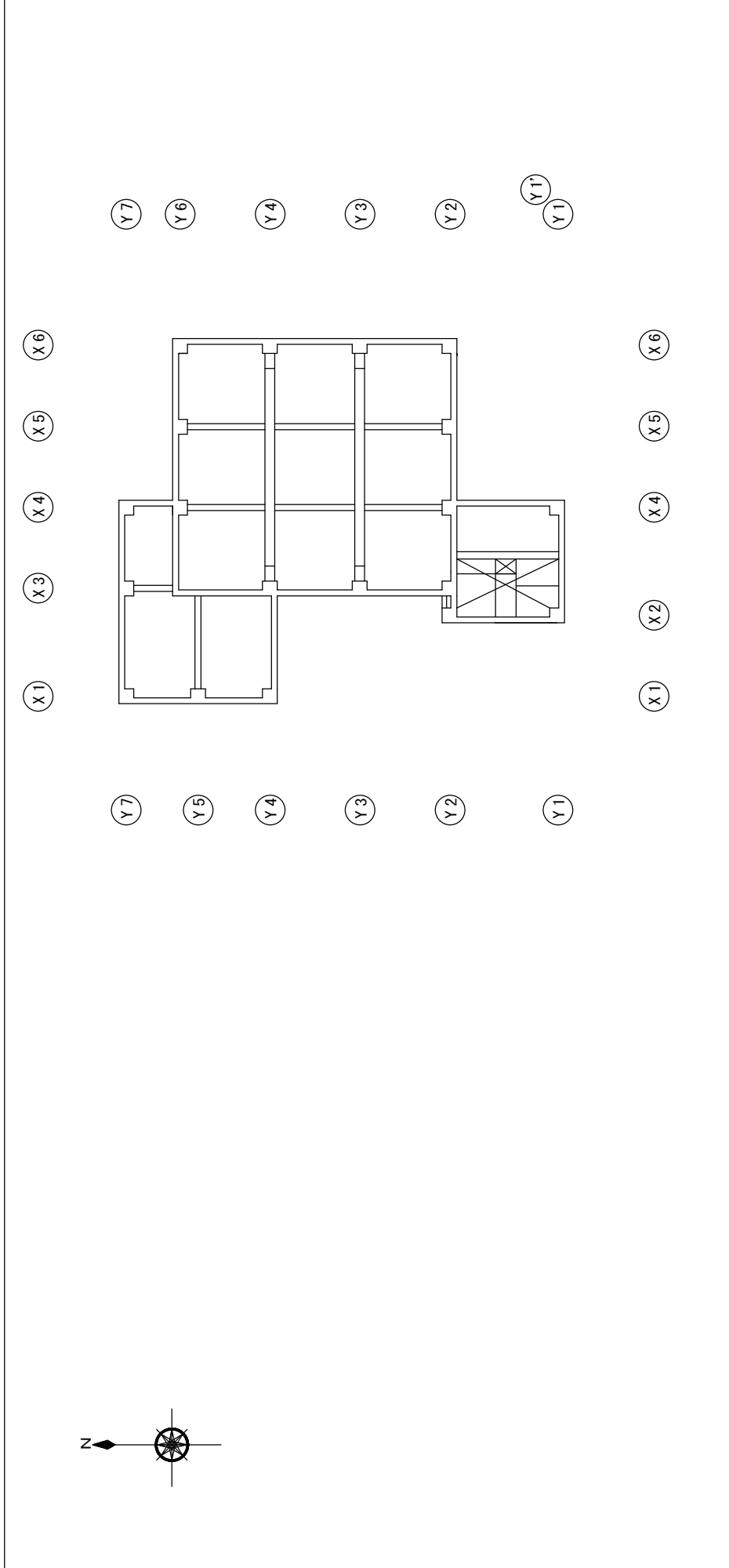


区分	線種	区分条件	床		梁	
			発生部材数 小梁	発生部材数 床	発生部材数	発生部材数
a-1		不同沈下によるひび割れ		0 / 26	0 / 27	IV
a-2	—	0.3mm以上のひび割れ		0 / 26	0 / 27	IV
b-1	—	二次部材の支障スラブ、梁の変形		0 / 26	0 / 27	IV
b-2	---	0.2mm以上のひび割れ		0 / 26	0 / 27	IV
b-3	—	0.3mm以上のひび割れ・垂直ひび割れ		0 / 26	0 / 27	IV
c-1	—	a、bに該当しない軽微な構造ひび割れ		0 / 26	0 / 27	IV
c-2		a、bに該当しないスラブのたわみ		0 / 26	0 / 27	IV

1階天井平面図

総部材数	小梁	10	床	16	梁	27
	26					
調査部材数	小梁	10	床	16	梁	27
	26					

3.6 ひび割れ発生位置及区分図

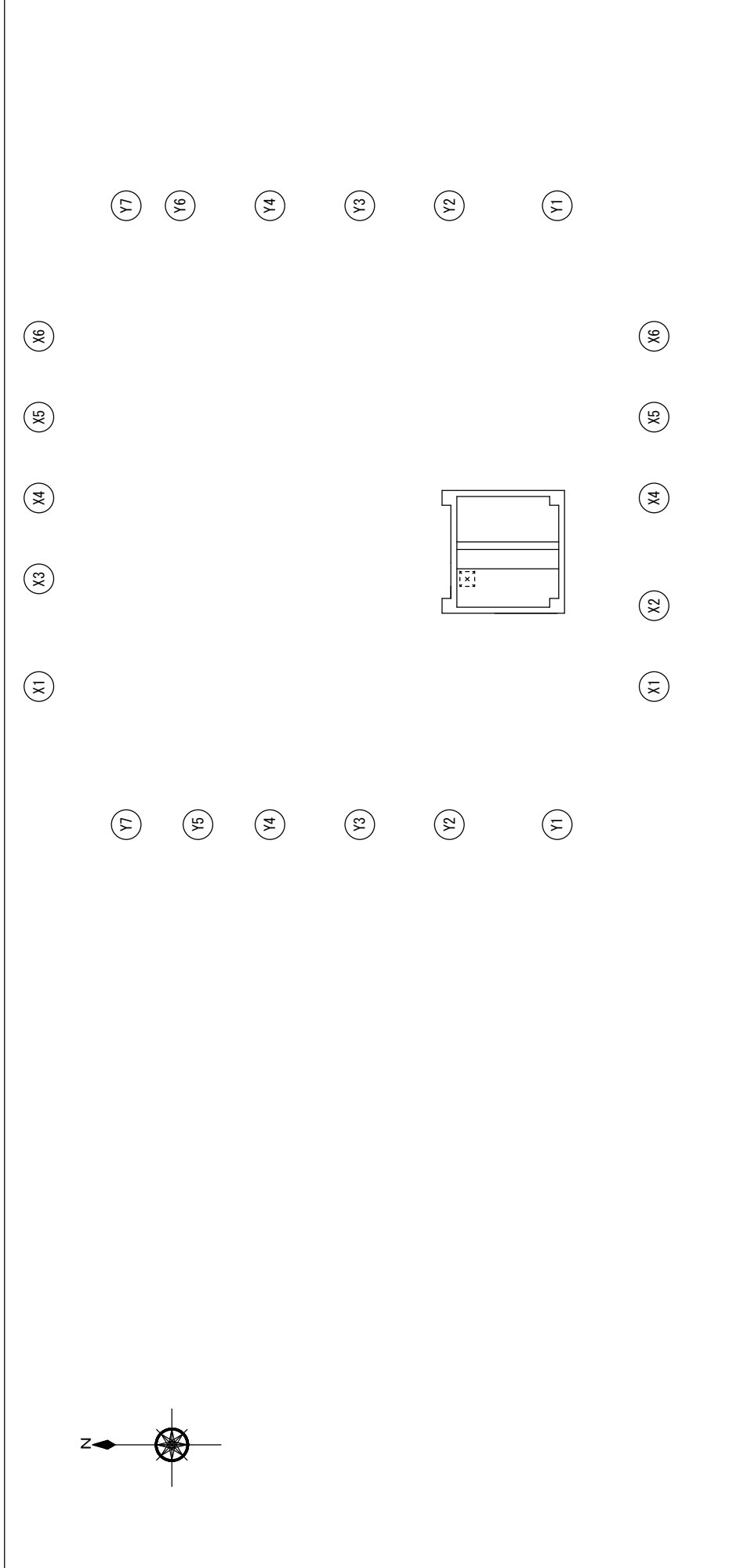


区分	線種	区分条件	床		梁	
			発生部材数 小梁	発生部材数 床	発生部材数	発生部材数
a-1		不同沈下によるひび割れ		0 / 22	0 / 22	IV
a-2	—	0.3mm以上のひび割れ				IV
b-1	—	二次部材の支障スラブ、梁の変形				IV
b-2	---	0.2mm以上のひび割れ		0 / 22	0 / 22	IV
b-3	—	0.3mm以上のひび割れ・垂直ひび割れ				IV
c-1	—	a、bに該当しない軽微な構造ひび割れ		0 / 22	0 / 22	IV
c-2		a、bに該当しないスラブのたわみ				IV

2階天井上図

総部材数	床		梁
	小梁	床	
調査部材数	9	13	22
	22		
調査部材数	9	13	22
	22		

3.6 ひび割れ発生位置及区分図

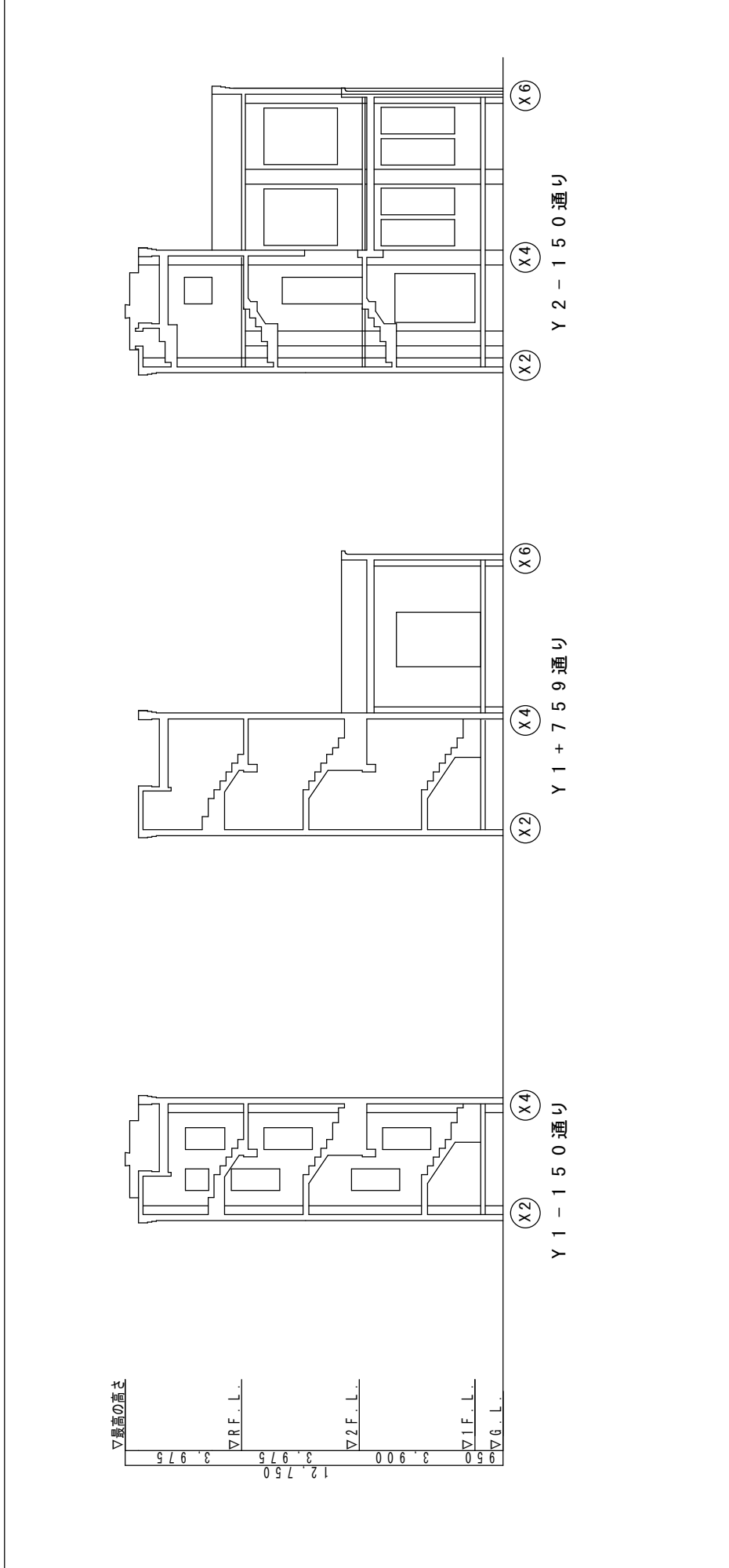


区分	線種	区分条件	床		梁	
			発生部材数 小梁	発生部材数 床	発生部材数	発生部材数
a-1		不同沈下によるひび割れ		0 / 3	0 / 5	IV
a-2		0.3mm以上のひび割れ				
b-1		二次部材の支障スラブ、梁の変形		0 / 3	0 / 5	IV
b-2		0.2mm以上のひび割れ				
b-3		0.3mm以上のひび割れ・垂直ひび割れ				
c-1		a、bに該当しない軽微な構造ひび割れ		0 / 3	0 / 5	IV
c-2		a、bに該当しないスラブのたわみ				

R階天井上図

総部材数	床		梁
	小梁	床	
調査部材数	1	2	5
	3		
	1	2	5
	3		

3.6 ひび割れ発生位置及区分図



区分	線種	区分条件	1階		2階		R階	
			発生部材数 壁 柱	範囲	発生部材数 壁 柱	範囲	発生部材数 壁 柱	範囲
a-1		不同沈下によるひび割れ	0	0 / 24	0	0 / 22	0	0 / 7
a-2	—	0.3mm以上のひび割れ						
b-1	—	二次部材の支障スラブ、梁の変形						
b-2	---	0.2mm以上のひび割れ	0	0 / 24	0	0 / 22	0	0 / 7
b-3	—	0.3mm以上のひび割れ・垂直ひび割れ						
c-1	—	a、bに該当しない軽微な構造ひび割れ						
c-2		a、bに該当しないスラブのたわみ						

	1階		2階		R階	
	壁	柱	壁	柱	壁	柱
総部材数	3	21	3	19	3	4
	24		22		7	
調査部材数	3	21	3	19	3	4
	24		22		7	

図名

P1 壁・柱のひび割れ変形

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧水俣文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日

3.6 ひび割れ発生位置及区分図

図名

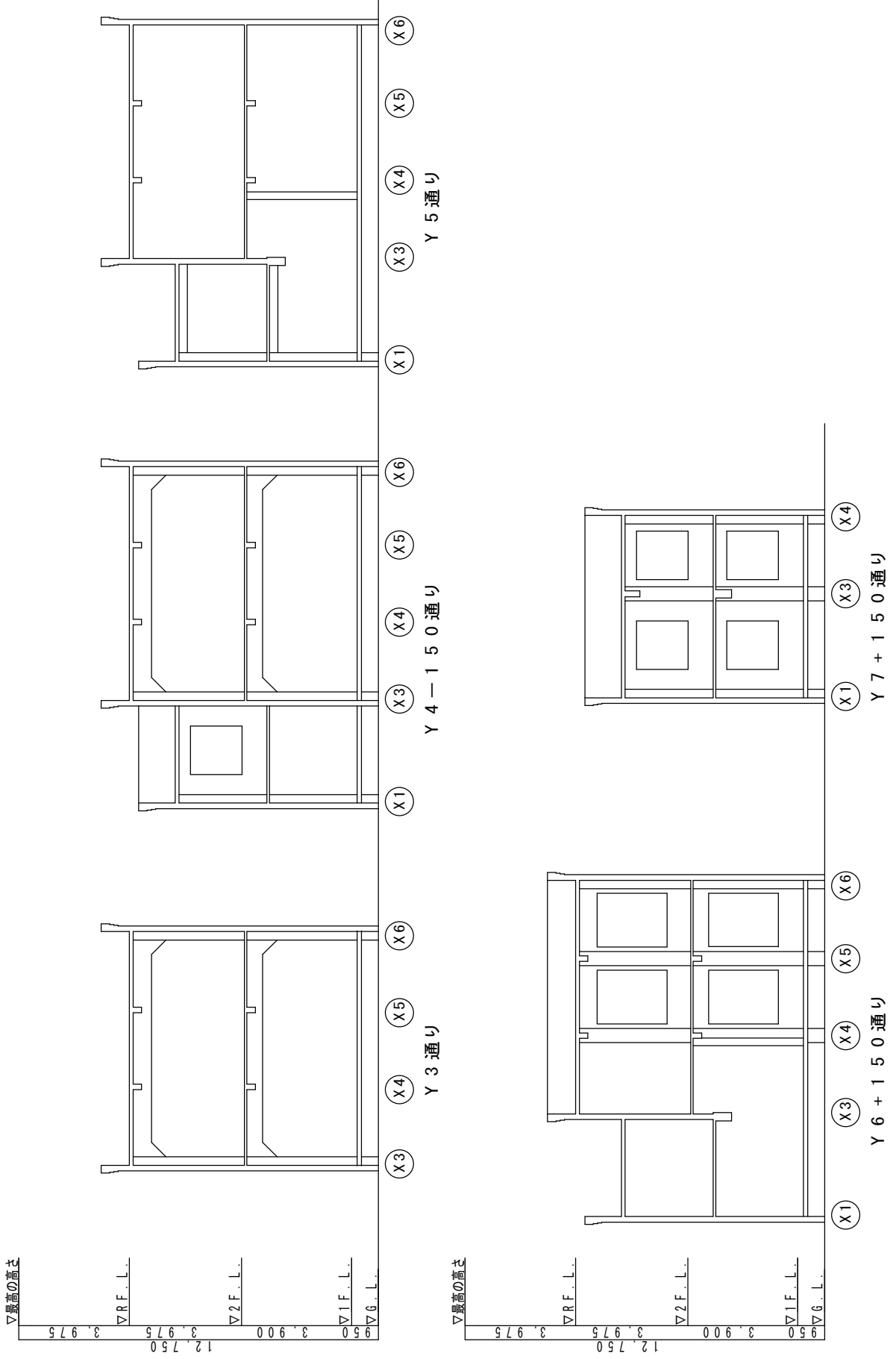
P1 壁・柱のひび割れ 変形

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧 淇水 文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



3.6 ひび割れ発生位置及区分図

図名

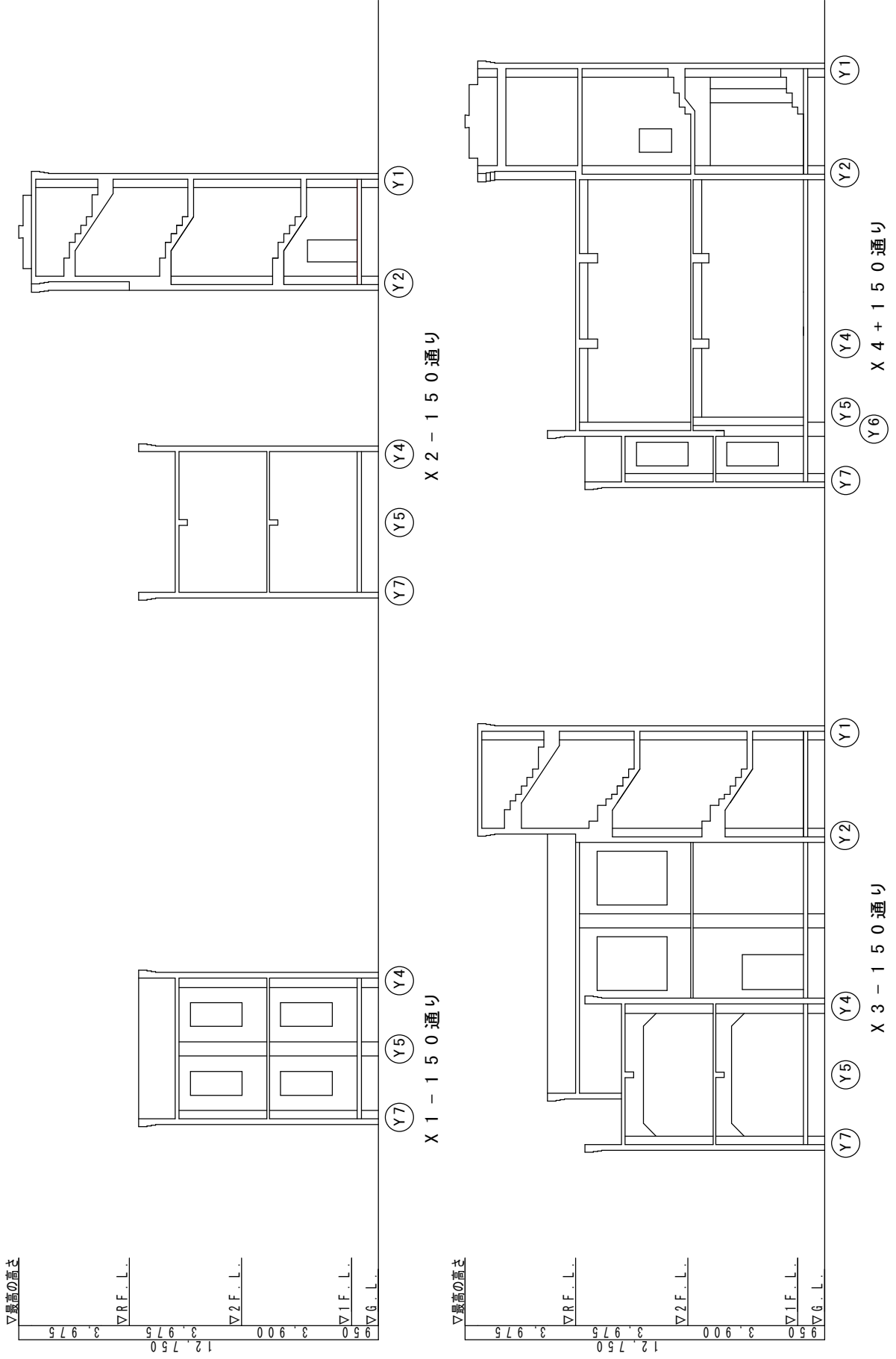
P1 壁・柱のひび割れ 変形

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧 淇水 文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



3.6 ひび割れ発生位置及区分図

図名

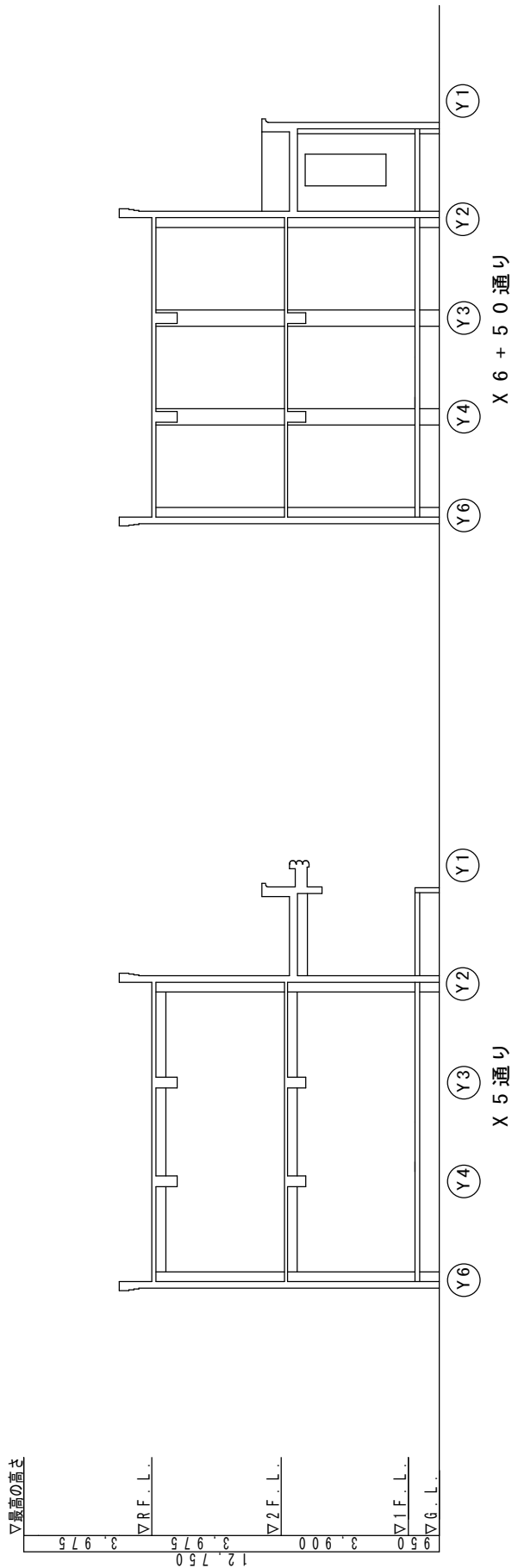
P1 壁・柱のひび割れ 変形

建物名

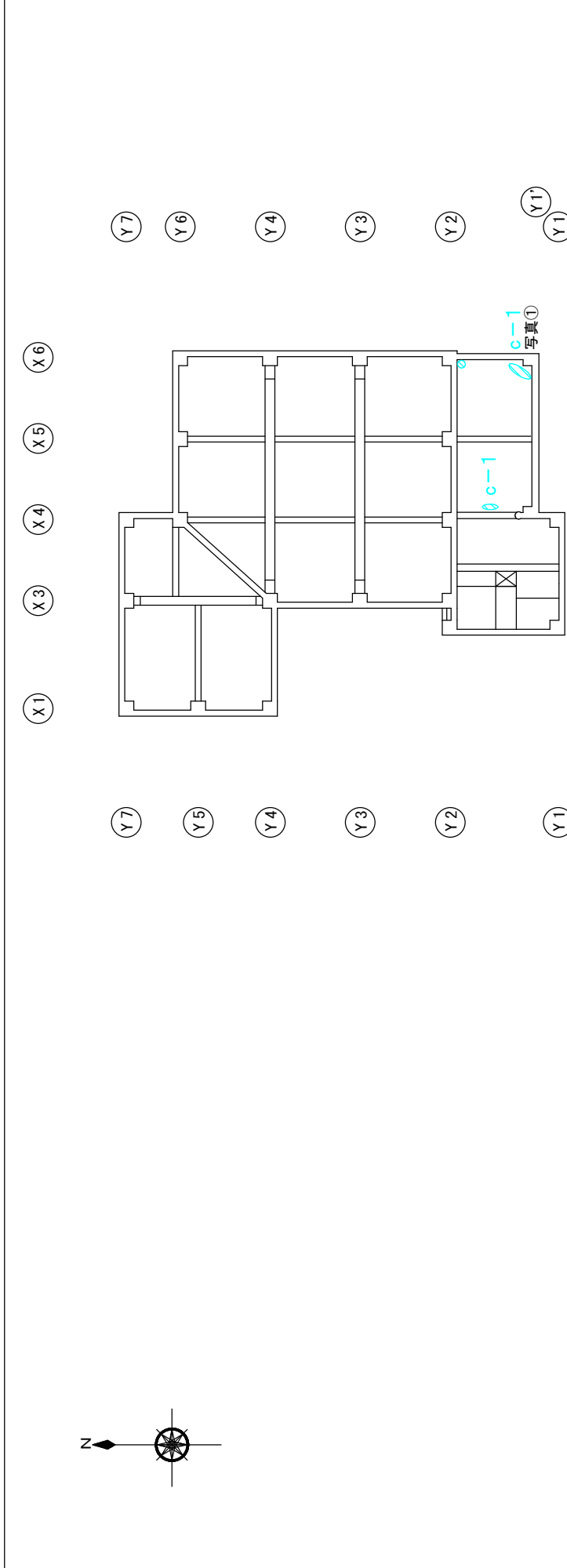
水俣市立蘇峰記念館
(旧 淇水 文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



3.7 変質老朽化発生位置及区分図

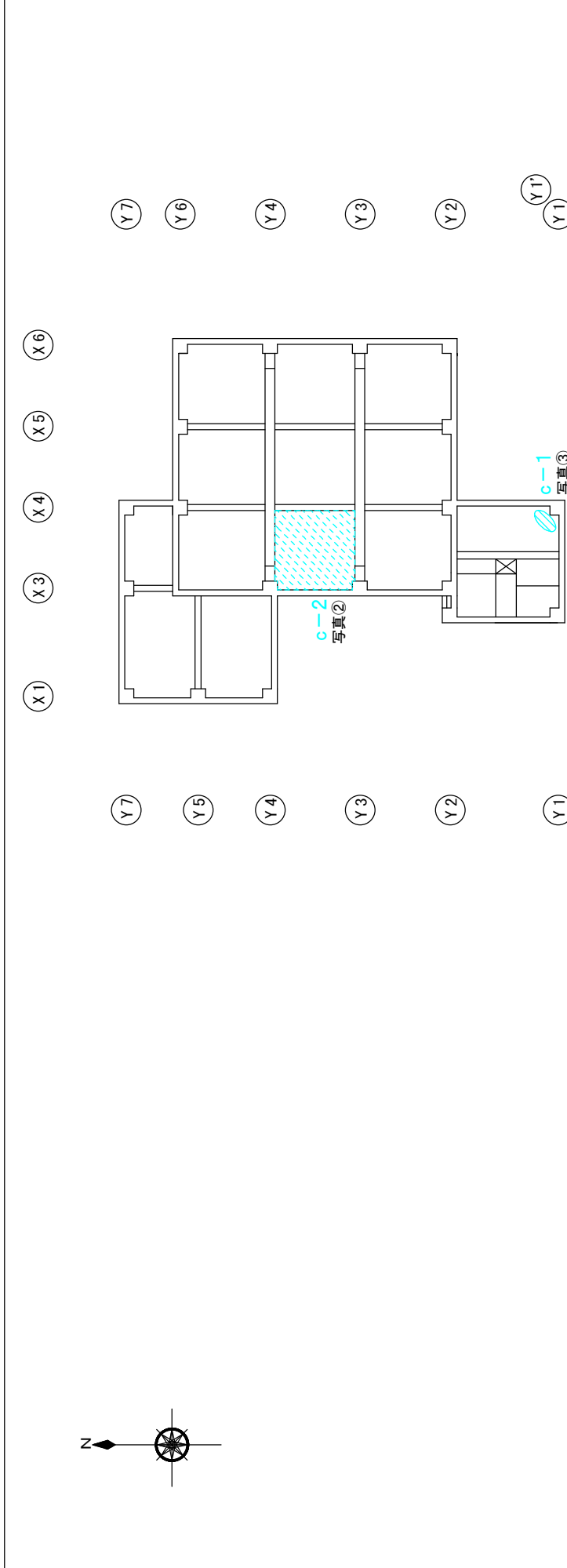


区分	線種	区分条件	床		梁	
			発生部材数 小梁	発生部材数 床	発生部材数	発生部材数 範囲
a-1	—	鉄筋錆の膨張ひび割れ			0 / 27	IV
a-2	+++	鉄筋の腐食				
a-3	—	火災によるコンクリートの変質				
a-4	—	化学薬品等によるコンクリートの変質				
b-1	- - -	雨水・漏水による鉄筋錆の溶け出し			0 / 26	IV
b-2	—	鉄筋位置までの中性化、同等の材令				
b-3	///	仕上材の著しい剥落				
c-1	///	雨水・漏水・化学薬品等による著しい汚れ、しみ	2	2 / 26	0 / 27	IV
c-2	///	仕上材の軽微な剥落、老朽化				
—	///	ジャンカ				-

1 階天井上図

総部材数	小梁	10	床	16	梁	27
	26					
調査部材数	小梁	10	床	16	27	
	26					

3.7 変質老朽化発生位置及区分図

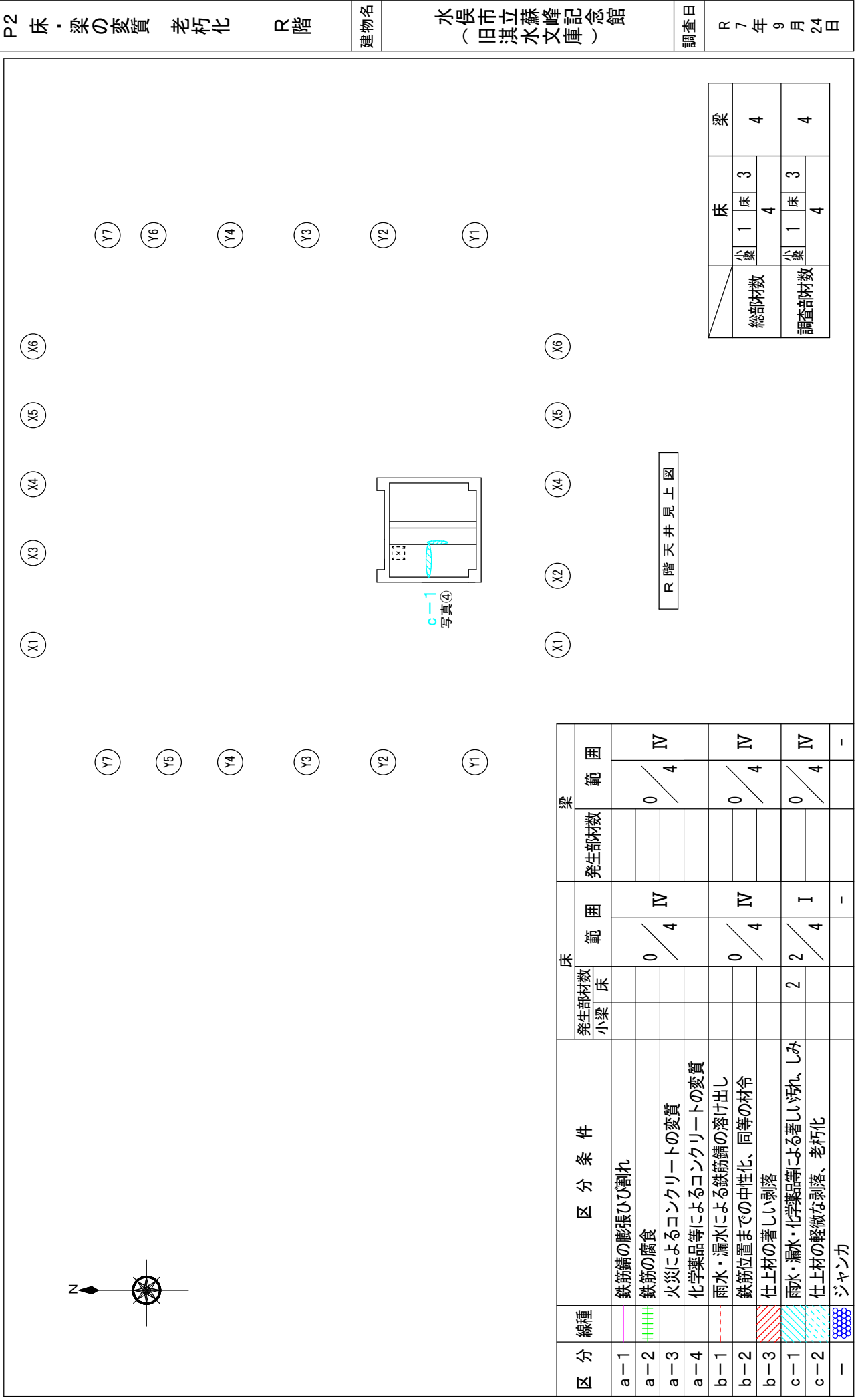


区分	線種	区分条件	床		梁	
			発生部材数 小梁	発生部材数 床	発生部材数	発生部材数 範囲
a-1	—	鉄筋錆の膨張ひび割れ			0 / 22	IV
a-2	+++	鉄筋の腐食				
a-3	—	火災によるコンクリートの変質				
a-4	—	化学薬品等によるコンクリートの変質				
b-1	- - -	雨水・漏水による鉄筋錆の溶け出し			0 / 22	IV
b-2	—	鉄筋位置までの中性化、同等の材令				
b-3	///	仕上材の著しい剥落				
c-1	///	雨水・漏水・化学薬品等による著しい汚れ、しみ	1	2 / 22	0 / 22	IV
c-2	///	仕上材の軽微な剥落、老朽化	1			
—	///	ジャンカ				-

2階天井平面図

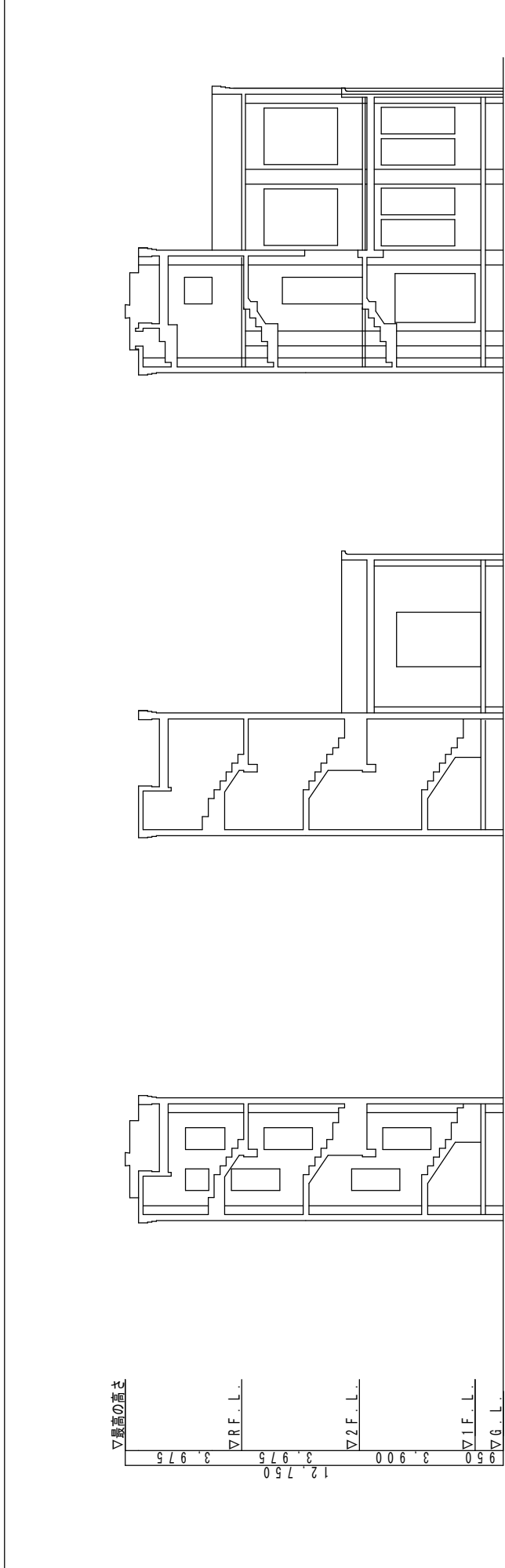
総部材数	小梁	9	床	13	梁
	22		22		
調査部材数	小梁	9	床	13	22
	22		22		

3.7 変質老朽化発生位置及区分図



図名	P2 床・梁の変質 老朽化 R 階
建物名	水俣市立蘇峰記念館 (旧清水文庫)

3.7 変質老朽化発生位置及区分図



Y1-150通り (X2, X4, X6)
 Y1+759通り (X2, X4, X6)
 Y2-150通り (X2, X4, X6)

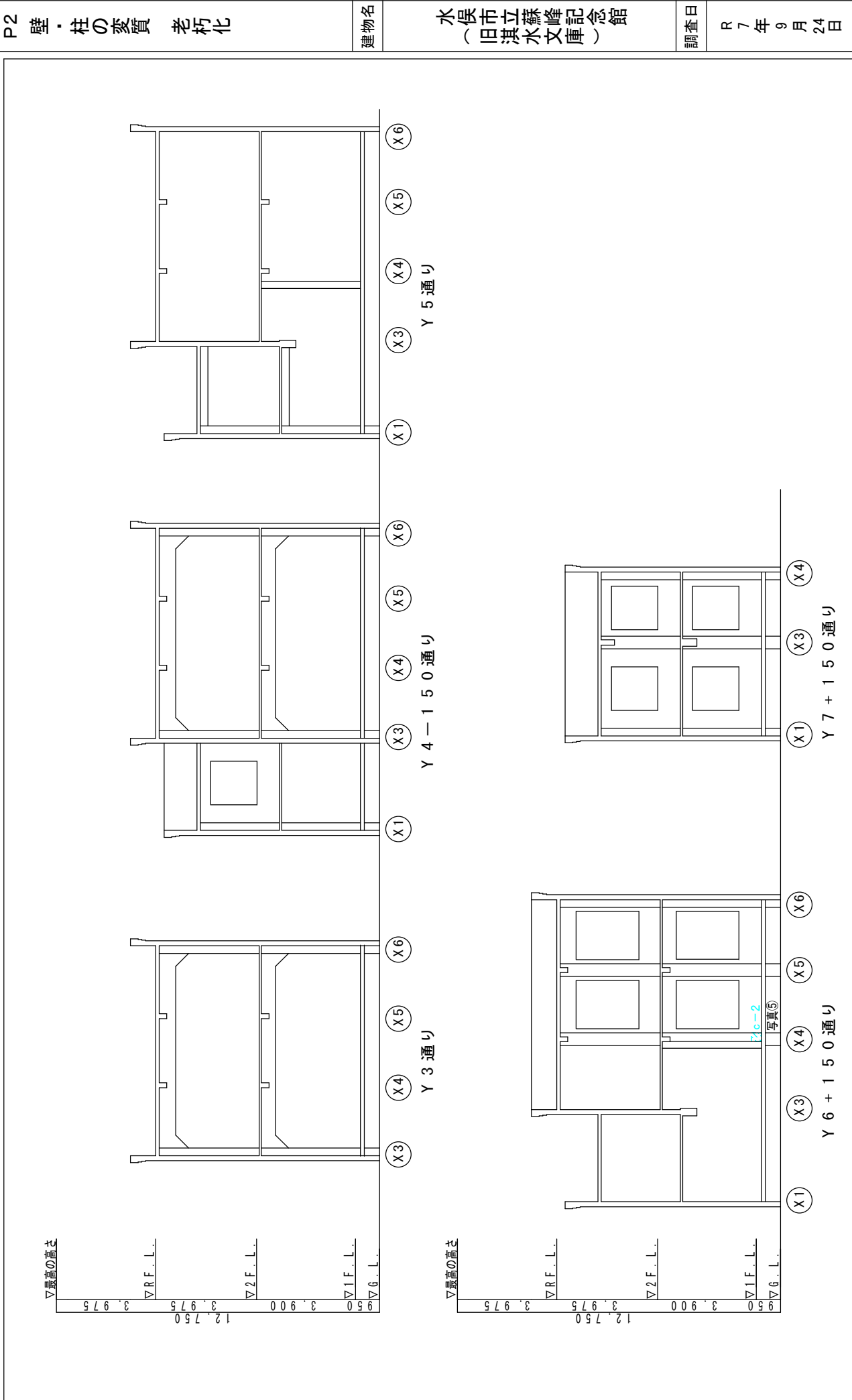
建物名 水俣市立蘇峰記念館
 (旧水俣文庫)

調査日 R 7 年 9 月 24 日

区分	線種	区分条件	1階		2階		R階	
			発生部材数 壁 柱	範囲	発生部材数 壁 柱	範囲	発生部材数 壁 柱	範囲
a-1	—	鉄筋錆の膨張ひび割れ						
a-2	—	鉄筋の腐食	0 / 24	IV	0 / 22	IV	0 / 7	IV
a-3	—	火災によるコンクリートの変質						
a-4	—	化学薬品等によるコンクリートの変質						
b-1	—	雨水・漏水による鉄筋錆の溶け出し	0 / 24	IV	0 / 22	IV	0 / 7	IV
b-2	—	鉄筋位置までの中性化、同等の材令						
b-3	—	仕上材の著しい剥落	1 / 24	III	1 / 22	III	0 / 7	IV
c-1	—	雨水・漏水・化学薬品等による著しい汚れ、しみ						
c-2	—	仕上材の軽微な剥落、老朽化						
—	—	ジャンカ						

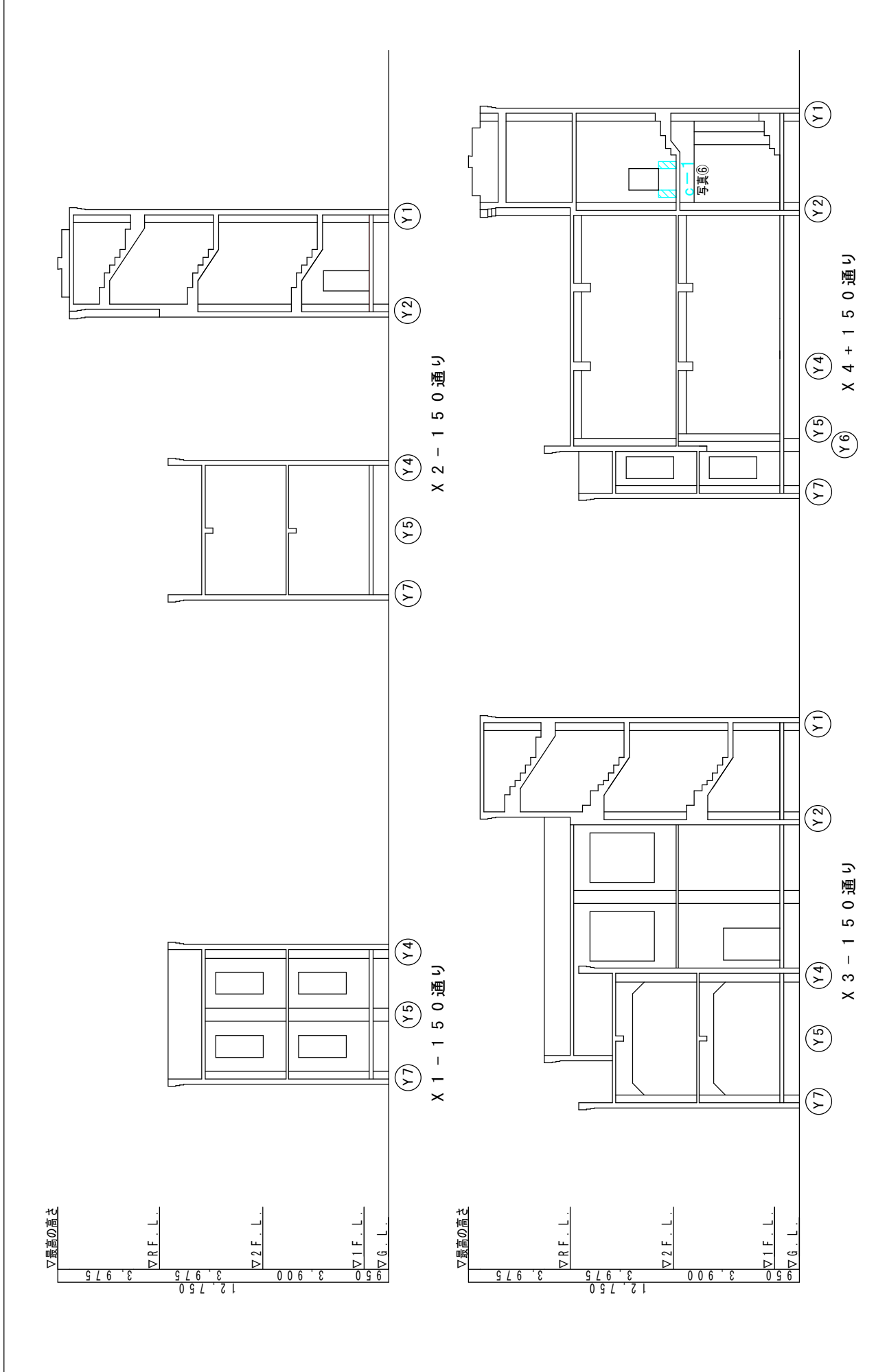
	1階		2階		R階	
	壁	柱	壁	柱	壁	柱
総部材数	3	21	3	19	3	4
	24		22		7	
調査部材数	3	21	3	19	3	4
	24		22		7	

3.7 変質腐朽化発生位置及区分図



3.7 変質腐朽化発生位置及区分図

図名	P2 壁・柱の変質 腐朽化	建物名	水俣市立蘇峰記念館 (旧淇水文庫)	調査日	R 7 年 9 月 24 日
----	---------------	-----	----------------------	-----	----------------



3.7 変質老朽化発生位置及区分図

図名

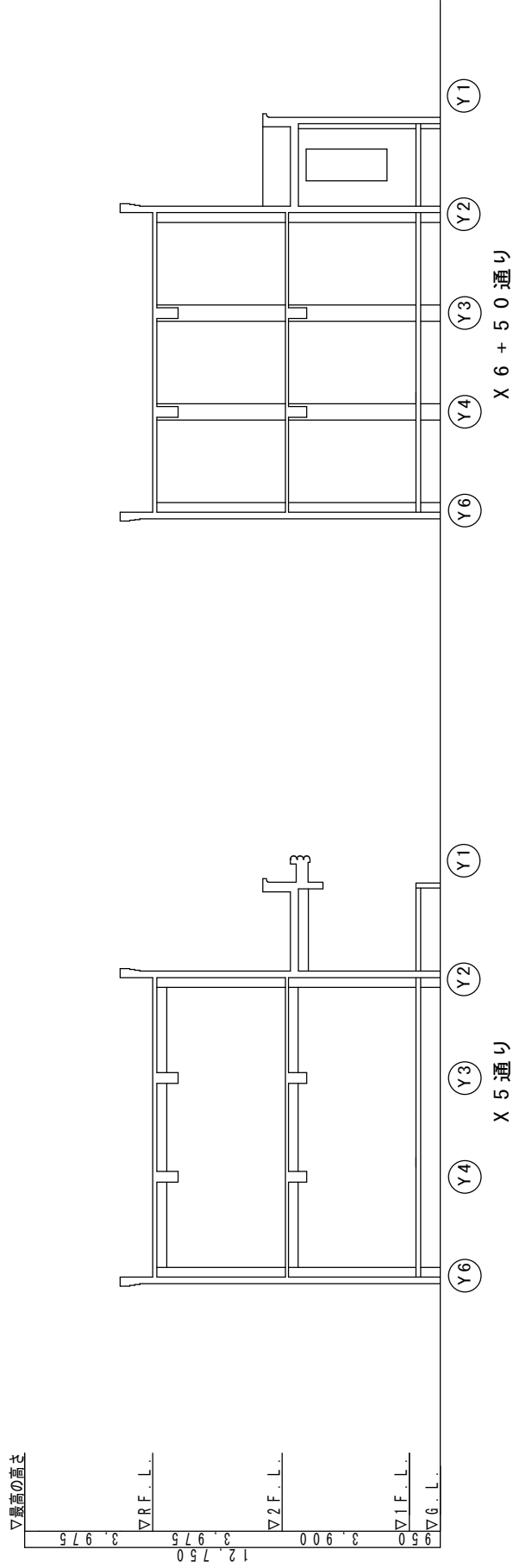
P2 壁・柱の変質 老朽化

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧 淇水 文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



変質・老朽化写真



写真①1階天井 X-X5~X6 ・Y-Y1'~Y2、c-1 漏水跡



写真③2階天井 X-X2~X4 ・Y-Y1~Y2、c-1 漏水跡



写真②2階天井 X-X3~X4 ・Y-Y3~Y4、c-2 仕上材の剥落



写真④R階天井 X-X2~X4 ・Y-Y1~Y2、c-1 漏水跡

写真

P2 変質・老朽化写真

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧淇水文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日

変質・老朽化写真

No.



写真⑤1階柱 X-X4 ・Y-Y6 、c-2 仕上材の剥落



写真⑥2階壁 X-X4 ・Y-Y1～Y2 、c-1 漏水跡

写真

P2 変質・老朽化写真

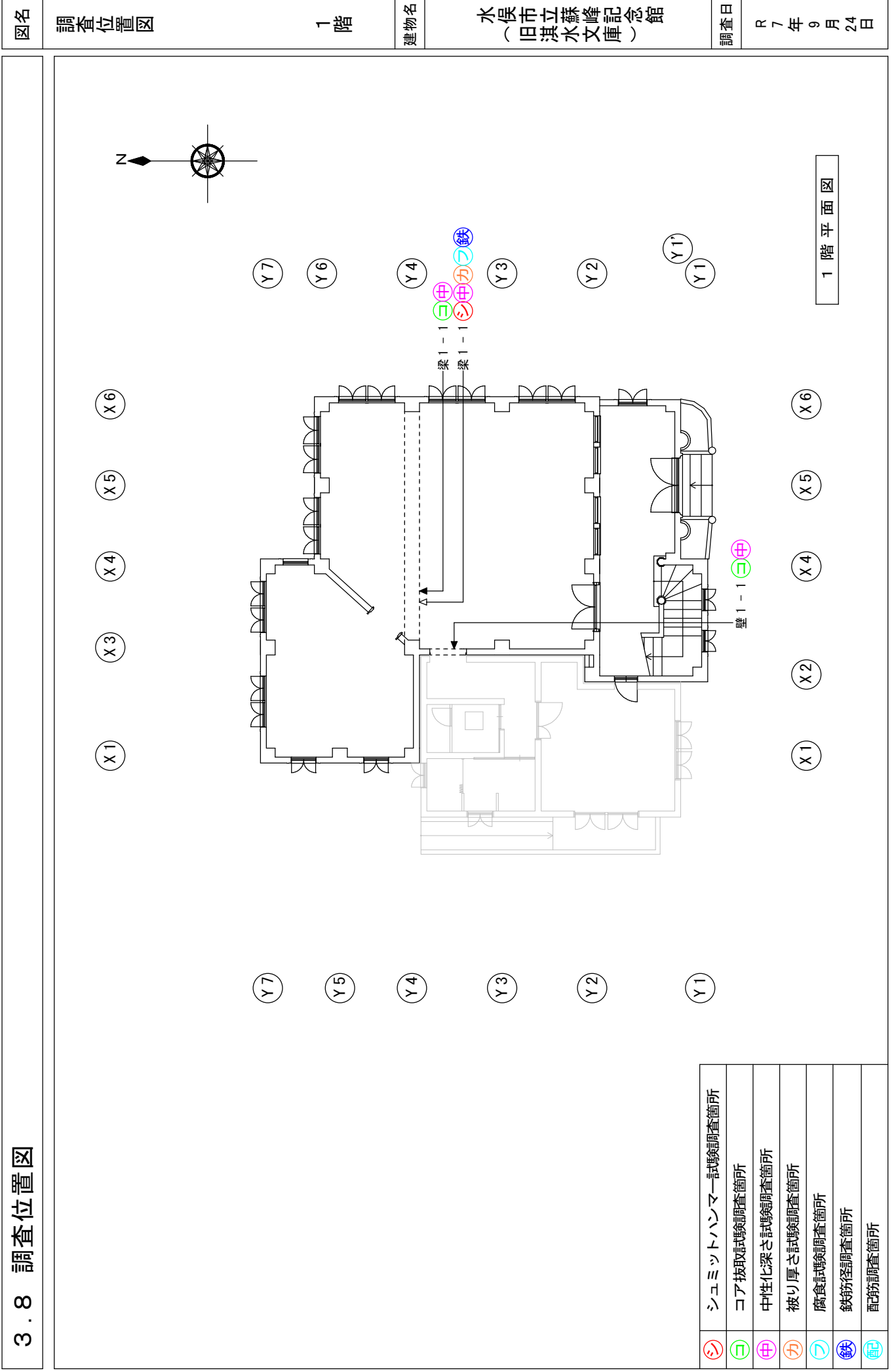
建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧淇水文庫)

調査日

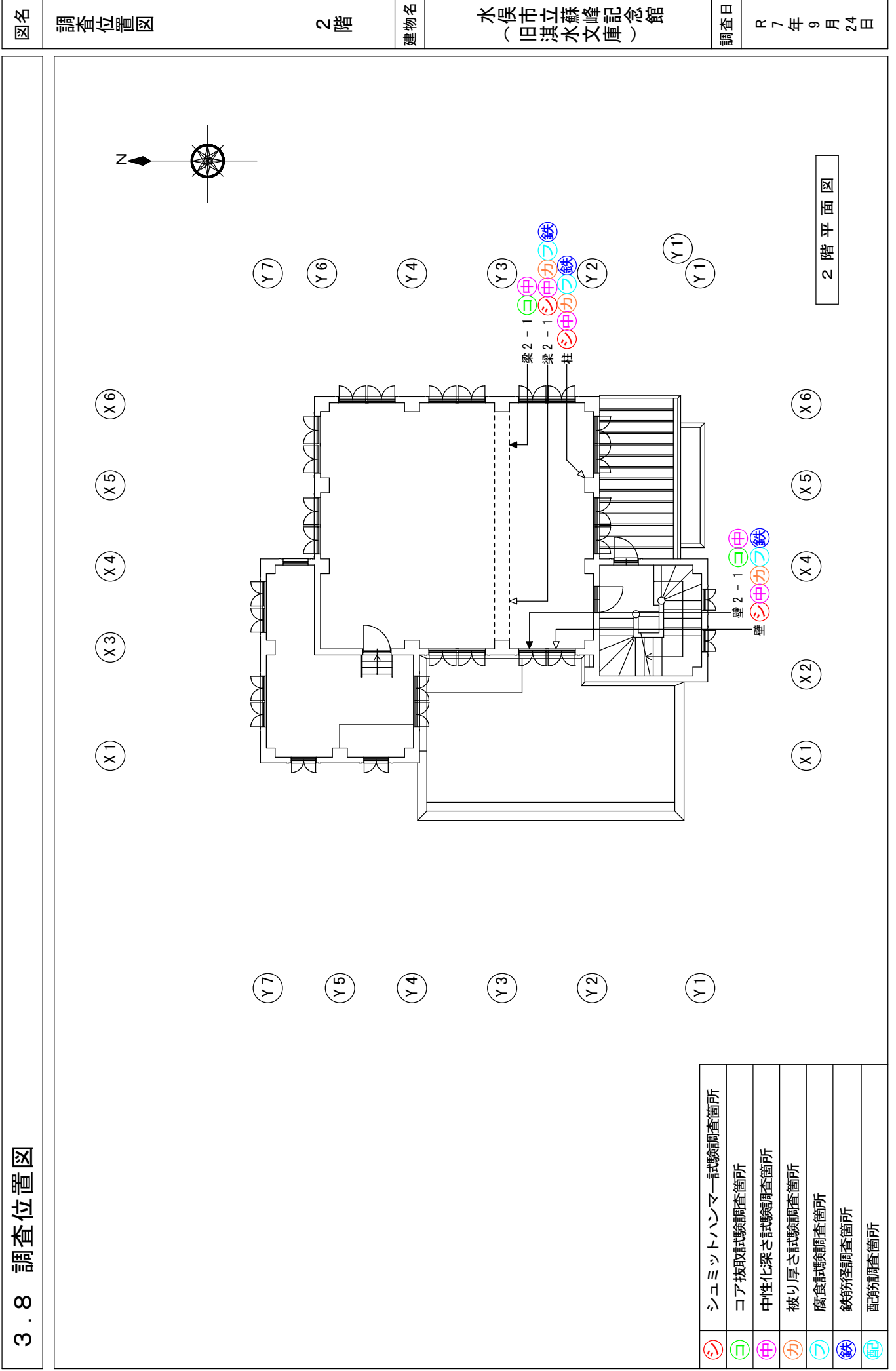
R 7 年 9 月 24 日

3.8 調査位置図

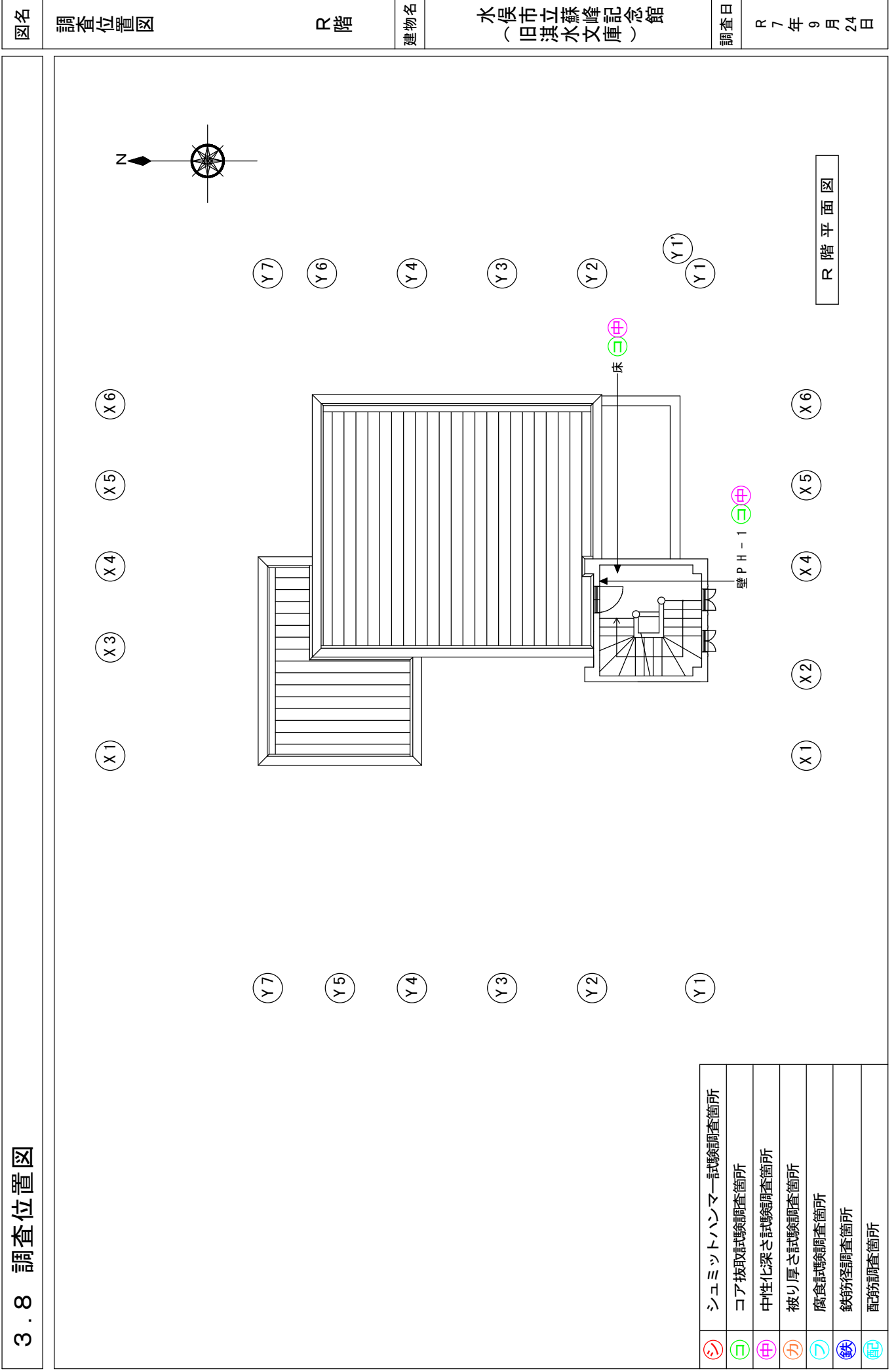


(斜線)	シュミットハンマー試験調査箇所
(緑)	コア採取試験調査箇所
(ピンク)	中性化深さ試験調査箇所
(オレンジ)	被り厚さ試験調査箇所
(青)	腐食試験調査箇所
(紫)	鉄筋径調査箇所
(水色)	配筋調査箇所

3.8 調査位置図



3.8 調査位置図



3.9 コンクリートの中性化・鉄筋被り厚・腐食

区分	方法	番号	位置	室内外	中性化		被り厚・深度比		鉄筋発錆	使用鉄筋						
					標準深度	測定値	判定	仕上材			被り厚	判定	ランク	種類・径		
梁	研り	梁 1-1	X - X3~X6	Y - Y4	内	3.64	4.8	C	有	主筋	4.8	NG	主筋	丸鋼	24.8	
							7.2	C	有	肋筋	7.2	NG	肋筋	丸鋼	9.4	
梁・壁	コア	壁 1-1	X - X3	Y - Y3~Y4	内	3.64	8.3	C	有							
							5.5	C	無							
							6.0	C	有							
梁・壁	コア	梁 1-1	X - X3~X6	内	3.64	-	-	-	-							

発生率判定	中性化深度	中中性化深度	発生率判定	鉄筋位置と中性化(b-2)		発生率判定	ランク	鉄筋の腐食(a-2)		発生率判定	ランク
				被り厚 ≤ 中性化	調査箇所数			被り厚 ≤ 中性化	調査箇所数		
I	0.045	0.045	I	4	4	I	0.045	0	2	IV	0.000
標準深度 = $0.37\sqrt{t} = 3.64$ cm	実測平均値 = 6.4 cm	平均値	最小値	主筋 6.0 cm		主筋 4.8 cm		肋筋 3.5 cm		肋筋 4.8 cm	
基準	基準	基準	基準	A : 2cm未滿		B : 3cm未滿		C : 3cm以上		又は 2以上	
ランク	ランク	ランク	ランク	A : 2cm未滿		B : 3cm未滿		C : 3cm以上		又は 2以上	

経年指標 P2 の算出

3.9 コンクリートの中性化・鉄筋被り厚・腐食

3.9 コンクリートの中性化・鉄筋被り厚・腐食										表名	
										コンクリートの中性化・鉄筋被り厚・腐食 R 階	
										建物名	
										水俣市立蘇峰記念館 (旧淇水図書館)	
										調査日	
										R 7 年 9 月 24 日	
区分	方法	番号	位置	室内外	標準深度	中性化測定値	深度判定	仕上材			
	コア	壁 PH-1	X - X3~X4	内	3.64	5.0	C	有			
			Y - Y2	外		-	-	-			
	コア	床	X - X3~X4	上	3.64	0.0	A	有			
			Y - Y1~Y2	下		0.0	A	有			
壁・床											
経年指標 P2 の算出											
中性化深度 (b-2)					ランク						
発生率判定		$\frac{B + C}{\text{調査箇所数}} = \frac{1}{3}$			I						
		0.045									
中性化深度		$\text{標準深度} = 0.37\sqrt{t} = 3.64 \text{ cm}$ $\text{実測平均値} = 1.7 \text{ cm}$									
		基準									
ランク		中性化深度 基準値との比 A : 2cm未滿 かつ 1未滿 B : 3cm未滿 かつ 2未滿 C : 3cm以上 又は 2以上									

3.10 中性化他測定データ(コンクリート中性化測定データ表)

調査位置	2階	X - X3	Y - Y2~Y3	記号	壁	部材	環境	屋外・屋内
コンクリート	中性化深度 8.4 cm	骨材 小 <input checked="" type="checkbox"/> 普通	状況 大 全体	鉄筋径・被り厚 縦筋 φ 9.6 mm 横筋 φ 10.0 mm	配筋 縦筋 6.7 cm 横筋 7.8 cm	壁	モルタル厚 (1.0) cm 被り厚(縦筋) (6.7) cm 被り厚(横筋) (7.8) cm 中性化 (8.4) cm	中性化 <input checked="" type="checkbox"/> 中性化 <input type="checkbox"/> 仕上材
仕上材	仕上厚 モルタル 1.0 cm	状況 局所 <input type="checkbox"/> 悪 <input checked="" type="checkbox"/> 普通	良好 茶色	鉄筋錆	状況 縦筋 A・B・C・D 横筋 A・B・C・D			

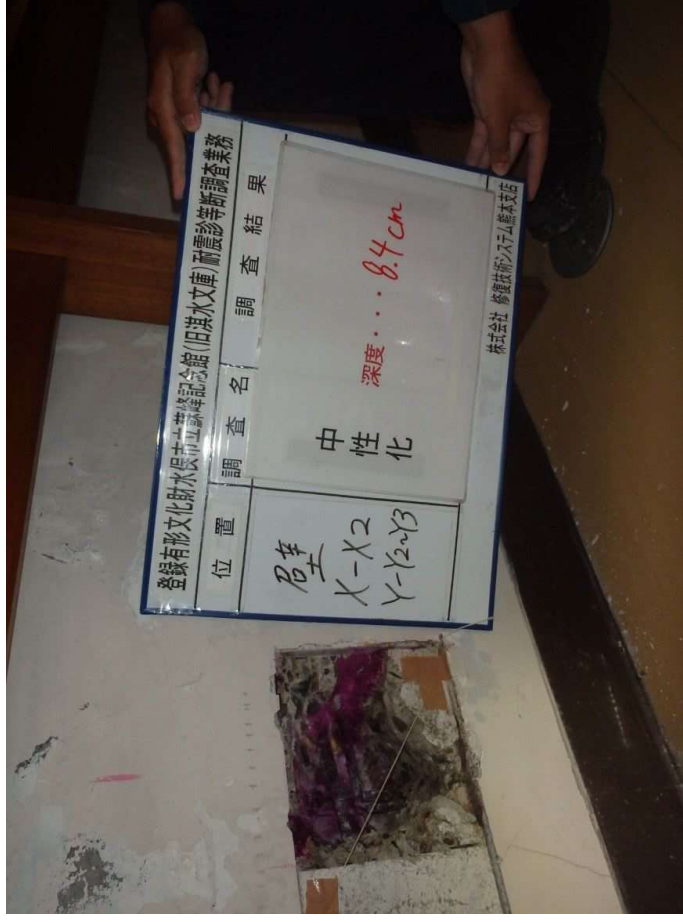
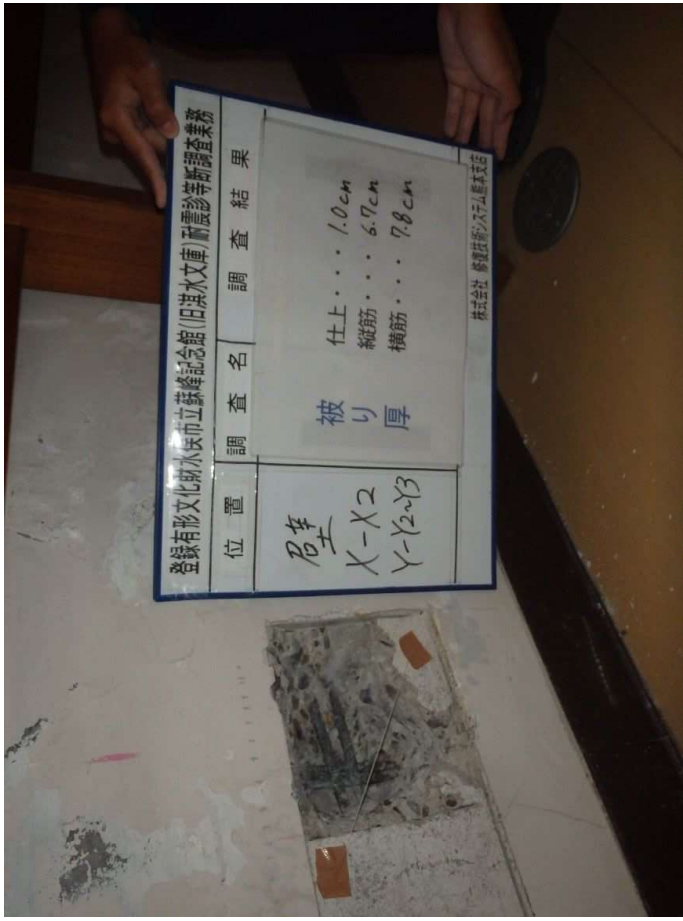
コンクリートの状態 ※写真の通番号は調査時のもの ※耐震診断等調査業務→耐震診断等調査業務

中性化の状態 ※写真の通番号は調査時のもの ※耐震診断等調査業務→耐震診断等調査業務

表名 中性化他測定データ (コンクリート中性化測定データ表)

建物名 水俣市立蘇峰記念館 (旧洪水文庫)

調査日 R 7 年 9 月 24 日



3.10 中性化他測定データ(コンクリート中性化測定データ表)

調査位置	1階	X-X3~X6	Y-Y4	記号	梁	1-1
中性化深度	側面	4.8 cm	7.2 cm	鉄筋径・被り厚	配筋	被り厚
側面	骨材	小	普通	主筋	φ 24.8 mm	4.8 cm
側面	ジャンカ	無	局部	補強筋	φ 9.4 mm @ 290 mm	7.2 cm
下端	充填状況	悪	普通	良好		3.5 cm
下端	色合い	正常	黄色	茶色		6.0 cm
仕上材	仕上厚	厚	鉄筋	発錆	状況	
側面	モルタル	1.6 cm	主筋	A・B・C・D		
下端	モルタル	1.0 cm	補強筋	A・B・C・D		

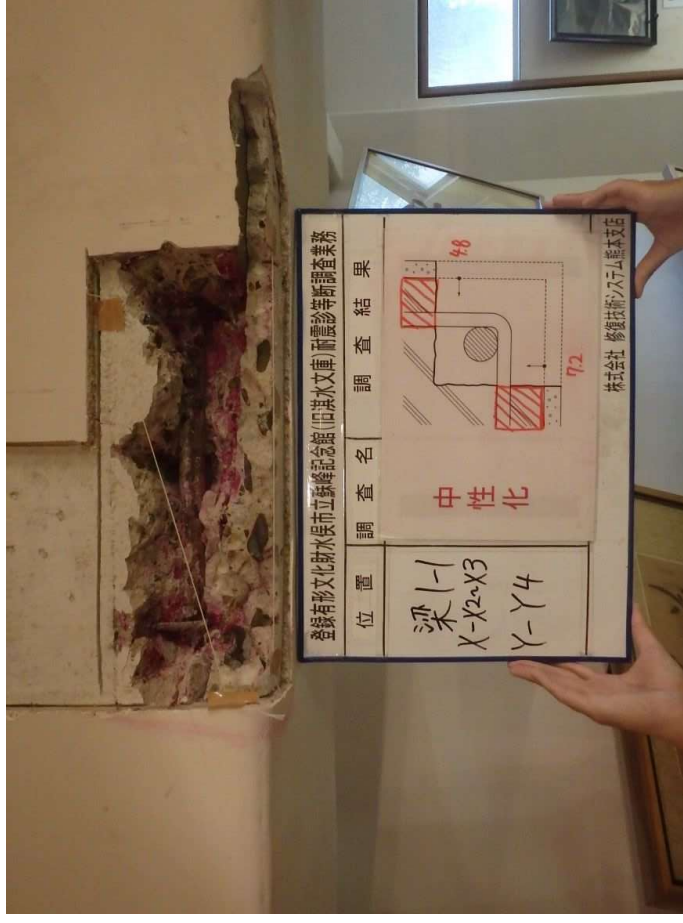
中性化深さ=最大値 配筋ピッチ=平均値 被り厚=中性化採用方向 発錆程度=最も悪いもの 仕上げ厚=最小値

コンクリートの状態 ※写真の通番号は調査時のもの ※耐震診断等調査業務⇒耐震診断等調査業務



部材	梁	環境	屋外・屋内
調査図 (単位:cm)		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; background-color: red;"></div> 中性化</div> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; background-color: white;"></div> 仕上材	

中性化の状態 ※写真の通番号は調査時のもの ※耐震診断等調査業務⇒耐震診断等調査業務



表名 中性化他測定データ (コンクリート中性化測定データ表)

建物名 水俣市立蘇峰記念館 (旧洪水文庫)

調査日 R 7 年 9 月 24 日

3.10 中性化他測定データ(コンクリート中性化測定データ表)

調査位置	2階	X-X3~X6	Y-Y3	記号	梁	2-1
コンクリート	中性化深度	側面	6.8 cm	鉄筋径	主筋	φ 25.4 mm
	側面	下	4.8 cm	鉄筋径・被り厚	補強筋	φ 10.0 mm @ 265 mm
仕上材	打設状況	骨材	小	普通	大	
	充填状況	悪	普通	良好	茶色	
仕上材	色合い	正	常	黄色	茶色	
	厚	側面	モルタル	1.0 cm	鉄筋	主筋
仕上材	側面	下	モルタル	1.0 cm	鉄筋	補強筋
	下	モルタル	1.0 cm	鉄筋	主筋	A・B・C・D
仕上材	下	モルタル	1.0 cm	鉄筋	補強筋	A・B・C・D
	下	モルタル	1.0 cm	鉄筋	主筋	A・B・C・D

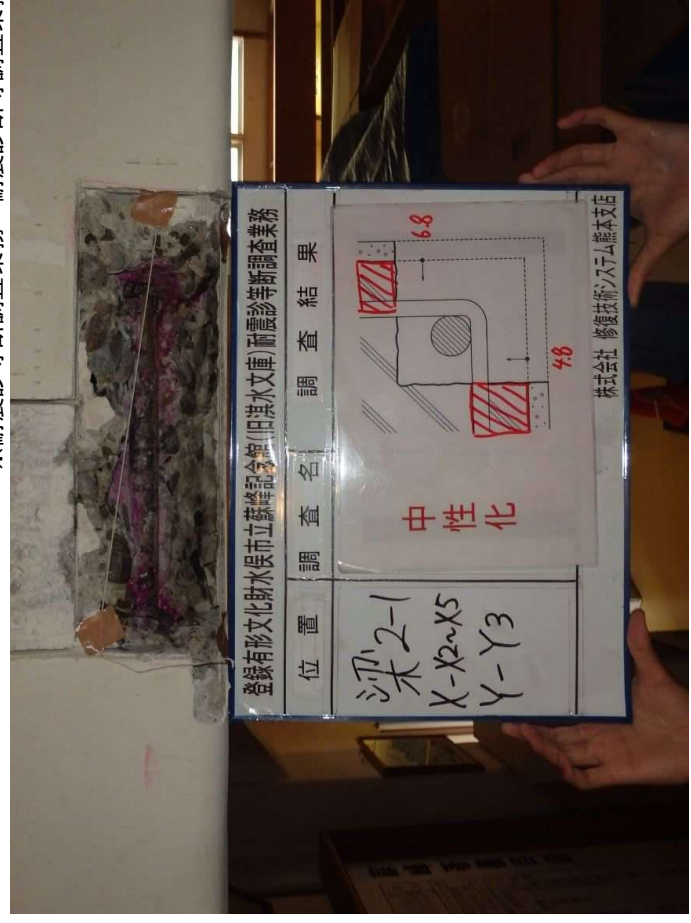
中性化深さ=最大値 配筋ピッチ=平均値 被り厚=中性化採用方向 発錆程度=最も悪いもの 仕上げ厚=最小値

コンクリートの状態 ※写真の通番号は調査時のもの ※耐震診断等調査業務⇒耐震診断等調査業務



部材	梁	環境	屋外・屋内
調査図 (単位:cm)			
調査結果	中性化 (4.8) cm モルタル厚 (1.0) cm 被り厚 (3.7) cm 中性化 (6.8) cm 被り厚 (5.6) cm モルタル厚 (1.0) cm		

中性化の状態 ※写真の通番号は調査時のもの ※耐震診断等調査業務⇒耐震診断等調査業務



表名 中性化他測定データ (コンクリート中性化測定データ表)

建物名 水俣市立蘇峰記念館 (旧淇水文庫)

調査日 R 7 年 9 月 24 日

鉄筋腐食度



壁 X-X3 ・ Y-Y2~Y3



梁 1-1 X-X3~X6 ・ Y-Y4



柱 X-X5 ・ Y-Y2



梁 2-1 X-X3~X6 ・ Y-Y3

写真

鉄筋腐食度

建物名
水俣市立蘇峰記念館
(旧 淇水文庫)

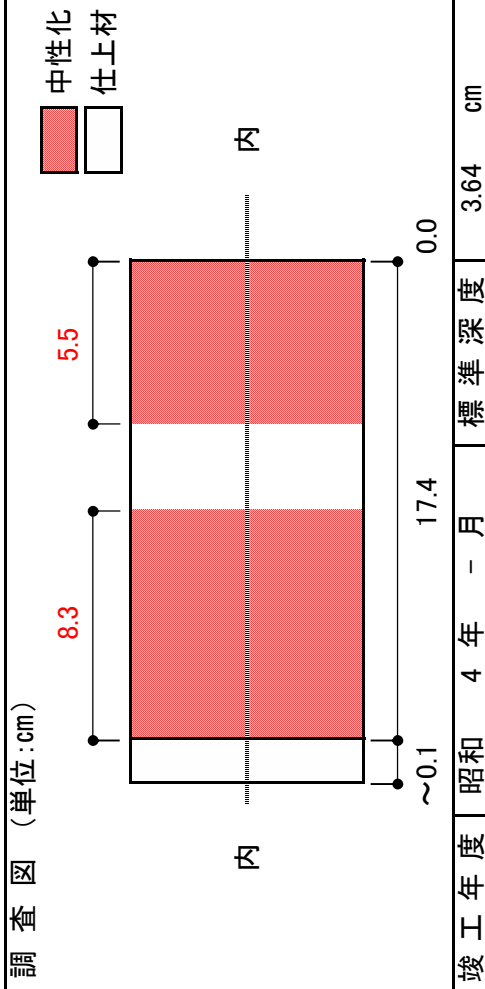
調査日
R 7 年 9 月 24 日

※耐震診断等調査業務⇒耐震診断等調査業務
※写真の通番号は調査時のもの

3.10 中性化他測定データ(コンクリートコア中性化測定データ表)

調査位置	1階 X - X3	Y - Y3~Y4	記号	壁 1-1
コア採取状況	直径 × 高さ =	8.38 cm × 17.50~	cm	(仕上厚込み)
コア圧縮供試体	直径 × 高さ =	8.38 cm × 12.81	cm	h/d = 1.53
圧縮最大荷重	81.40 kN			
単位容積質量	2.22 t/m ³			
圧縮強度(補正後)	14.20 N/mm ²			
躯体中性化試験	内側 =	8.3 cm	内側 =	5.5 cm
仕上の種類	内側 = モルタル			
備考	内側 = なし			
表面状態	正常	やや粗い	粗い	
コンクリートの色	正常	うす黄	うす茶	うす桃

コンクリートの状態 ※耐震診断等調査業務⇒耐震診断等調査業務



表名 中性化他測定データ (コンクリートコア中性化測定データ表)

建物名 水俣市立蘇峰記念館 (旧淇水文庫)

調査日 R7年9月24日



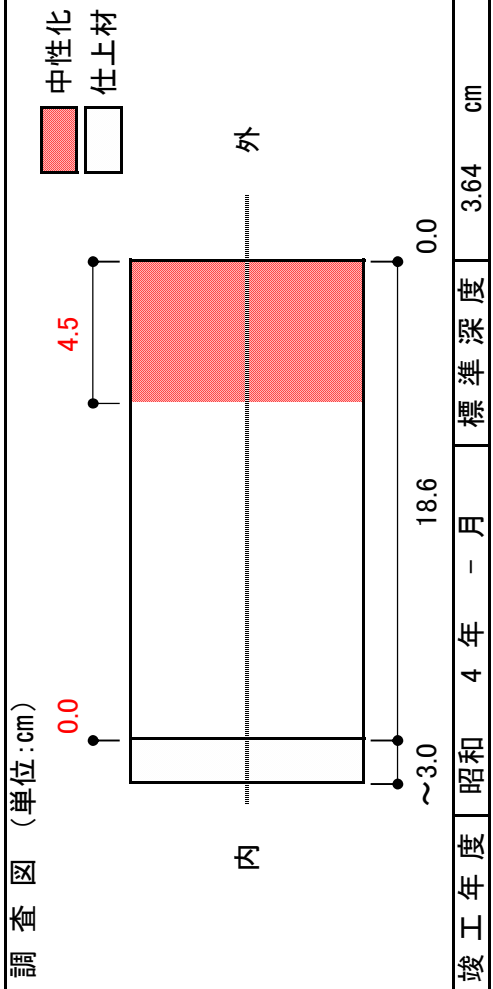
株式会社 修復技術システム熊本支店

株式会社 修復技術システム熊本支店

3.10 中性化他測定データ(コンクリートコア中性化測定データ表)

調査位置	2階 X - X3	Y - Y2~Y3	記号	壁 2-1
コア採取状況	直径 × 高さ = 8.38 cm × 21.60~ cm	(仕上厚込み)		
コア圧縮供試体	直径 × 高さ = 8.38 cm × 14.63 cm	h/d = 1.75		
圧縮最大荷重	120.00 kN			
単位容積質量	2.40 t/m ³			
圧縮強度(補正後)	21.40 N/mm ² 218 kgf/cm ²			
躯体中性化試験	内側 = 0.0 cm	外側 = 4.5 cm		
仕上の種類	内側 = モルタル 外側 = なし			
備考				
表面状態	正常 ・ やや粗い ・ 粗い			
コンクリートの色	正常 ・ うす黄 ・ うす茶 ・ うす桃			

コンクリートの状態 ※耐震診断等調査業務⇒耐震診断等調査業務



表名 中性化他測定データ (コンクリートコア中性化測定データ表)

建物名 水俣市立蘇峰記念館 (旧淇水文庫)

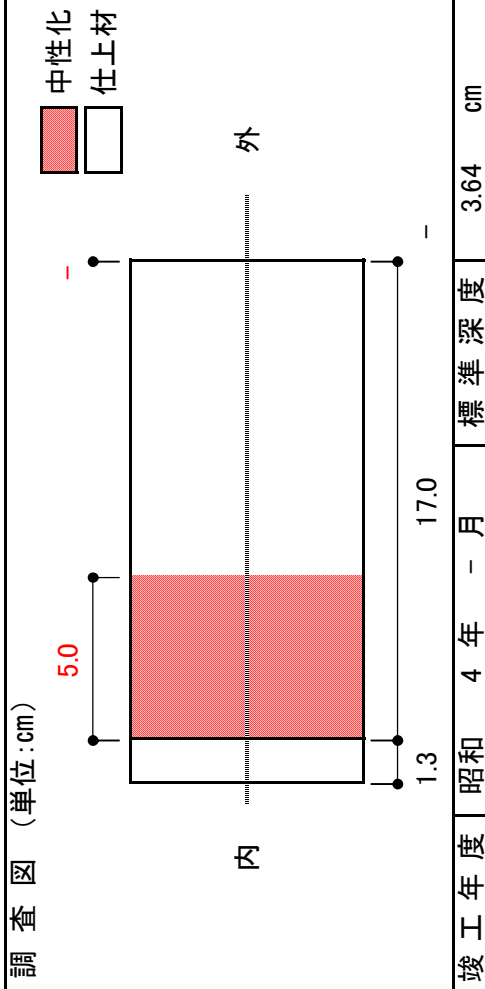
調査日 R 7 年 9 月 24 日



3.10 中性化他測定データ(コンクリートコア中性化測定データ表)

調査位置	R階	X - X3~X4	Y - Y2	記号	壁 PH-1
コア採取状況	直径 × 高さ =	8.38 cm × 18.30~ cm	(仕上厚込み)		
コア圧縮供試体	直径 × 高さ =	8.38 cm × 11.62 cm	h/d =	1.39	
圧縮最大荷重	114.00 kN				
単位容積質量	2.08 t/m ³				
圧縮強度(補正後)	19.50 N/mm ²				
躯体中性化試験	内側 =	5.0 cm	外側 =	- cm	
仕上の種類	内側 = モルタル 外側 = -				
備考					
表面状態	...	正常	...	やや粗い	...
コンクリートの色	...	正常	...	うす黄	...
				うす茶	...
				うす桃	

コンクリートの状態 ※耐震診断等調査業務⇒耐震診断等調査業務



表名 中性化他測定データ (コンクリートコア中性化測定データ表)

建物名 水俣市立蘇峰記念館 (旧淇水文庫)

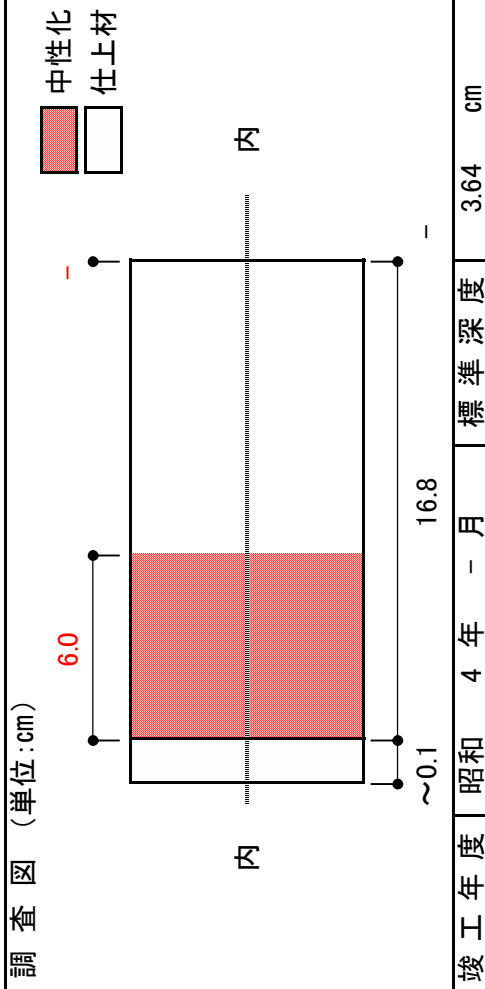
調査日 R 7 年 9 月 24 日



3.10 中性化他測定データ(コンクリートコア中性化測定データ表)

調査位置	1階 X-X3~X6・Y-Y4	記号	梁 1-1
コア採取状況	直径×高さ = 8.38 cm × 16.90~cm (仕上厚込み)		
コア圧縮供試体	直径×高さ = 8.38 cm × 11.60 cm h/d = 1.38		
圧縮最大荷重	122.00 kN		
単位容積質量	2.19 t/m ³		
圧縮強度(補正後)	20.80 N/mm ²	212	kgf/cm ²
躯体中性化試験	内側 = 6.0 cm	内側 =	- cm
仕上の種類	内側 = モルタル	内側 =	-
備考	表面状態… <input type="checkbox"/> 正常 ・ やや粗い ・ 粗い		
コンクリートの色	<input type="checkbox"/> 正常 ・ うす黄 ・ うす茶 ・ うす桃		

コンクリートの状態 ※耐震診断等調査業務⇒耐震診断等調査業務



表名 中性化他測定データ (コンクリートコア中性化測定データ表)

建物名

水俣市立蘇峰記念館 (旧洪水文庫)

調査日

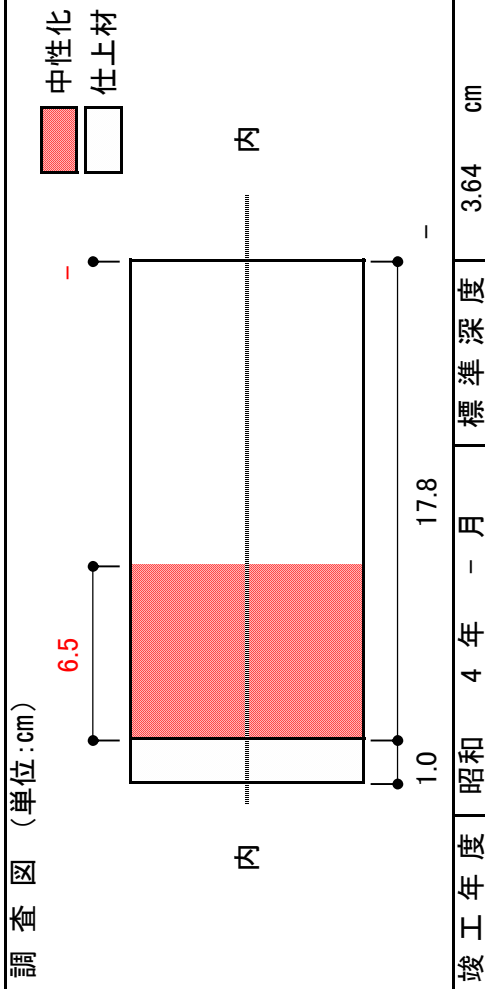
R 7 年 9 月 24 日



3.10 中性化他測定データ(コンクリートコア中性化測定データ表)

調査位置	2階 X-X3~X6・Y-Y3	記号	梁 2-1
コア採取状況	直径×高さ = 8.38 cm × 18.80~cm (仕上厚込み)		
コア圧縮供試体	直径×高さ = 8.38 cm × 11.77 cm h/d = 1.40		
圧縮最大荷重	99.40 kN		
単位容積質量	2.26 t/m ³		
圧縮強度(補正後)	17.10 N/mm ²	174	kgf/cm ²
躯体中性化試験	内側 = 6.5 cm	内側 =	- cm
仕上の種類	内側 = モルタル	内側 =	--
備考			
表面状態	正常 ・ やや粗い ・ 粗い		
コンクリートの色	正常 ・ うす黄 ・ うす茶 ・ うす桃		

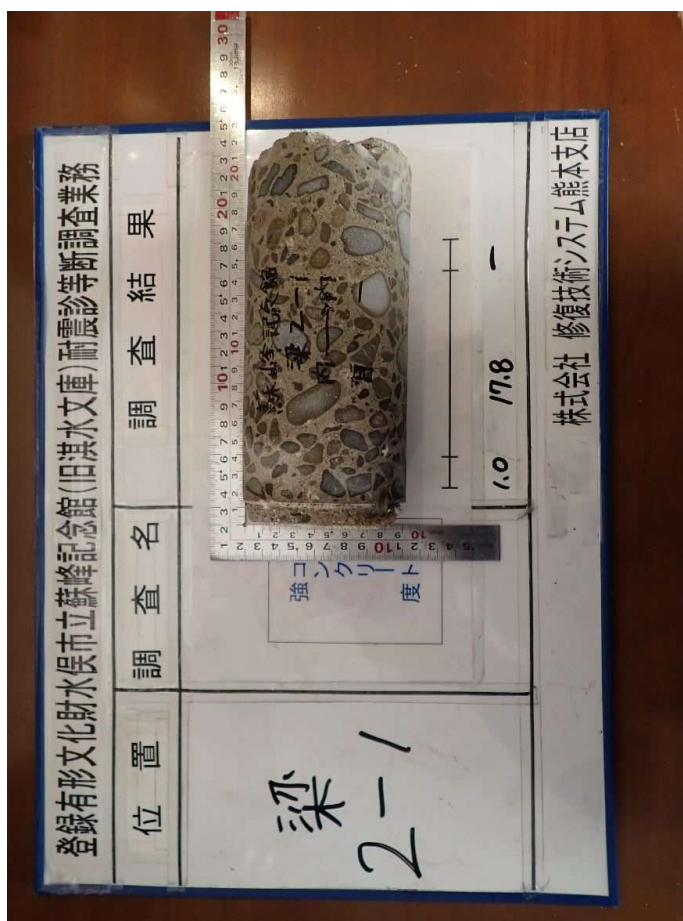
コンクリートの状態 ※耐震診断等調査業務⇒耐震診断等調査業務



表名	中性化他測定データ (コンクリートコア中性化測定データ表)
----	----------------------------------

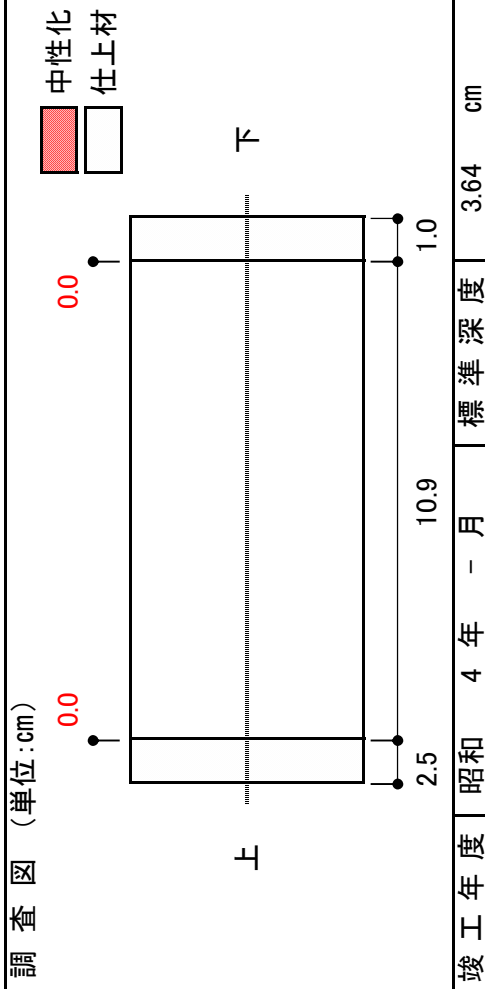
建物名	水俣市立蘇峰記念館 (旧洪水文庫)
-----	----------------------

調査日	R 7 年 9 月 24 日
-----	----------------



3.10 中性化他測定データ(コンクリートコア中性化測定データ表)

調査位置	R階	X-X3~X4	Y-Y1~Y2	記号	床
コア採取状況	直径 × 高さ =	8.38 cm ×	14.40 cm	(仕上厚込み)	
コア圧縮供試体	直径 × 高さ =	8.38 cm ×	9.79 cm	h/d = 1.17	
圧縮最大荷重	270.00 kN				
単位容積質量	2.33 t/m ³				
圧縮強度(補正後)	44.60 N/mm ²				
躯体中性化試験	内側 =	0.0 cm	内側 =	0.0 cm	
仕上の種類	内側 = モルタル				
備考					
表面状態	...	正常	...	やや粗い	...
コンクリートの色	...	正常	...	うす黄	...
コンクリートの状態	※耐震診断等調査業務⇒耐震診断等調査業務				



表名 中性化他測定データ
(コンクリートコア中性化測定データ表)



建物名 水俣市立蘇峰記念館
(旧淇水文庫)

調査日 R 7 年 9 月 24 日

3.11 コンクリート強度(コンクリート強度一覽表)

表名		コンクリート強度 (コンクリート強度一覽表)											
建物名		水俣市立蘇峰記念館 (旧淇水文庫)											
調査日		R 7 年 9 月 24 日											
部位	方法 シユミット ハンマー法	1 階				2 階				R 階			
		測定		測定値		測定		測定値		測定		測定値	
		梁1-1	29.8	壁	21.5	壁PH-1	19.5	床	44.6	平均値	32.1	標準偏差	17.7
				柱	27.5					平均値	32.1		23.2
				梁2-1	27.5	梁2-1	27.5			平均値	32.1		23.2
										平均値	32.1		23.2
				平均値	29.8	平均値	25.5	平均値	19.3	平均値	32.1	標準偏差	17.7
										標準偏差	3.0	標準偏差	17.7
										推定強度	15.2	推定強度	17.7
										推定強度	29.8	推定強度	17.7
				平均値	29.8	平均値	25.5	平均値	19.3	平均値	32.1	推定強度	23.2
		部位	方法 コア圧縮法	1 階				2 階				R 階	
測定				測定値		測定		測定値		測定		測定値	
梁1-1	14.2			壁1-1	21.4	壁PH-1	19.5	床	44.6	平均値	32.1	標準偏差	17.7
梁1-1	20.8			梁2-1	17.1					平均値	32.1		23.2
										平均値	32.1		23.2
										平均値	32.1		23.2
				平均値	17.5	平均値	19.3	平均値	19.3	平均値	32.1	標準偏差	17.7
										標準偏差	3.0	標準偏差	17.7
										推定強度	15.2	推定強度	17.7
										推定強度	15.2	推定強度	17.7
				平均値	17.5	平均値	19.3	平均値	19.3	平均値	32.1	推定強度	23.2

● $N/mm^2 = kgf/cm^2 \times 0.0980665$

● シュミットハンマー・使用測定値 $FO = (1.27R - 18) \times$ 補正値 N/mm^2

● 推定強度 = 平均値 - (標準偏差 ÷ 2)

シュミットハンマー法 柱・梁 全平均値 26.6 N/mm^2

全標準偏差 3.6 N/mm^2

コア圧縮法 梁・壁 全平均値 22.9 N/mm^2

全標準偏差 10.9 N/mm^2

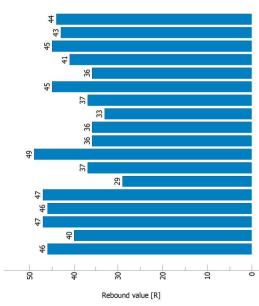
設計基準強度 $F_c =$ 210 kgf/cm^2

推定強度 24.8 N/mm^2

推定強度 17.5 N/mm^2

3.11 コンクリート強度(シュミット法測定データ)

PROCEQ - DIGISCHMIDT (4.7, 91-4927, NO 6506)
 Title: 壁測定結果 Name: 壁
 Date: 24-Sep-2025 14:53
 Remarks: 1/1



Set parameters
 Impact direction →
 Eliminate outliers M1
 Conversion curve M-JAP
 Form factor 1.00
 Time factor 0.63
 Carbonation depth -

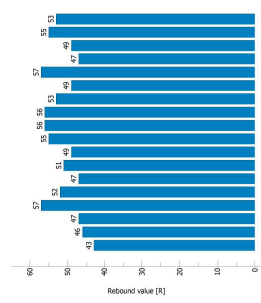
Statistic
 Number of measurements
 Mean rebound value
 Mean compressive strength
 Standard deviation
 Maximum rebound value
 Minimum rebound value
 Span

N = 18
 \bar{m} = 40.9 R
 f_{ck} = 21.5 N/mm²
 s_B = 5.7 R
 Max = 49 R
 Min = 29 R
 R = 20 R

d = -

壁 X-X3 • Y-Y2~Y3

PROCEQ - DIGISCHMIDT (4.7, 91-4927, NO 6506)
 Title: 壁測定結果 Name: 壁-1
 Date: 24-Sep-2025 14:59
 Remarks: 1/1



Set parameters
 Impact direction →
 Eliminate outliers M1
 Conversion curve M-JAP
 Form factor 1.00
 Time factor 0.63
 Carbonation depth -

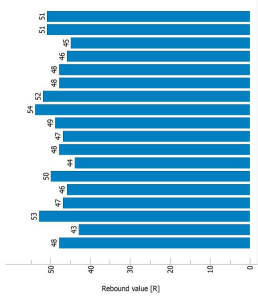
Statistic
 Number of measurements
 Mean rebound value
 Mean compressive strength
 Standard deviation
 Maximum rebound value
 Minimum rebound value
 Span

N = 18
 \bar{m} = 51.2 R
 f_{ck} = 29.8 N/mm²
 s_B = 4.3 R
 Max = 57 R
 Min = 43 R
 R = 14 R

d = -

梁 1-1 X-X3~X6 • Y-Y4

PROCEQ - DIGISCHMIDT (4.7, 91-4927, NO 6506)
 Title: 柱測定結果 Name: 柱
 Date: 24-Sep-2025 15:07
 Remarks: 1/1



Set parameters
 Impact direction →
 Eliminate outliers M1
 Conversion curve M-JAP
 Form factor 1.00
 Time factor 0.63
 Carbonation depth -

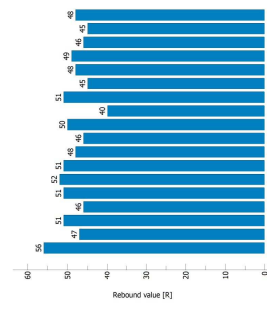
Statistic
 Number of measurements
 Mean rebound value
 Mean compressive strength
 Standard deviation
 Maximum rebound value
 Minimum rebound value
 Span

N = 18
 \bar{m} = 48.3 R
 f_{ck} = 27.5 N/mm²
 s_B = 3.0 R
 Max = 54 R
 Min = 43 R
 R = 11 R

d = -

柱 X-X5 • Y-Y2

PROCEQ - DIGISCHMIDT (4.7, 91-4927, NO 6506)
 Title: 柱測定結果 Name: 柱-1
 Date: 25-Sep-2025 09:39
 Remarks: 1/1



Set parameters
 Impact direction →
 Eliminate outliers M1
 Conversion curve M-JAP
 Form factor 1.00
 Time factor 0.63
 Carbonation depth -

Statistic
 Number of measurements
 Mean rebound value
 Mean compressive strength
 Standard deviation
 Maximum rebound value
 Minimum rebound value
 Span

N = 18
 \bar{m} = 48.3 R
 f_{ck} = 27.5 N/mm²
 s_B = 3.5 R
 Max = 56 R
 Min = 40 R
 R = 16 R

d = -

梁 2-1 X-X3~X6 • Y-Y3

表名
 コンクリート強度
 (シュミット法測定データ)

建物名
 水俣市立蘇峰記念館
 (旧水俣文庫)

調査日
 R 7 年 9 月 24 日

コンクリート強度(シュミット法)

写真

コンクリート強度
(シュミット法)

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧 淇水 文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



壁 X-X3 ・ Y-Y2 ~ Y3



柱 X-5 ・ Y-2



梁 1-1 X-X3 ~ X6 ・ Y-Y4



梁 2-1 X-X3 ~ X6 ・ Y-Y3

3.11 コンクリート強度(コア圧縮試験データ)

報告番号【COR-25016】
 受付日：令和 7年 10月 3日

試験報告書

依頼された試験について次のとおり報告します。

令和 7年 10月 10日

熊本高等専門学校
 建設技術材料試験所
 所長 松家 武樹

試験方法	コンクリートからのコアの採取方法及び圧縮強度試験方法 (JIS A 1107)									
試験依頼者名 及び住所・電話	株式会社 修復技術システム 〒862-0950 熊本県熊本市中央区水前寺1丁目2番15号 TEL.096-288-0586									
調査対象建築物の 名称など	登録有形文化財水俣市立蘇峰記念館(旧洪水文庫)耐震診断等調査業務 (コア試験)									
コア採取場所	壁									
コア採取年月日	令和 7年 9月 24日									
供試体受領年月日	令和 7年 10月 3日									
試験実施年月日	令和 7年 10月 10日									
試験結果	供試体 番号	質量 (g)	平均 直径 (mm)	平均 高さ (mm)	補正 係数	最大荷重 (kN)	補正前の 圧縮強度 (N/mm ²)	補正後の 圧縮強度 (N/mm ²)		
	壁 1-1	1565	83.8	128.1	0.96	81.4	14.8	14.2		
	壁 2-1	1939	83.8	146.3	0.98	120	21.8	21.4		
	壁 PH-1	1335	83.8	116.2	0.94	114	20.7	19.5		
備考										
試験責任者	役職・承認者名(所長・松家 武樹 (印))									
試験場所	熊本高等専門学校建設技術材料試験所 〒866-8501 熊本県八代市平山新町 2627 試験所 TEL/FAX.0965(53)1344 総務課受付 TEL.0965(53)1390									

受付番号【00016】

試験所長の文書による承認なしでは、完全な複製を除き、
 一部分のみを複製してはならない。

表名

コンクリート強度
 (コア圧縮試験データ)

建物名

水俣市立蘇峰記念館
 (旧洪水文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日

報告番号【COR-25016】
 受付日：令和 7年 10月 3日

試験報告書

依頼された試験について次のとおり報告します。

令和 7年 10月 10日

熊本高等専門学校
 建設技術材料試験所
 所長 松家 武樹

試験方法	コンクリートからのコアの採取方法及び圧縮強度試験方法 (JIS A 1107)									
試験依頼者名 及び住所・電話	株式会社 修復技術システム 〒862-0950 熊本県熊本市中央区水前寺1丁目2番15号 TEL.096-288-0586									
調査対象建築物の 名称など	登録有形文化財水俣市立蘇峰記念館(旧洪水文庫)耐震診断等調査業務 (コア試験)									
コア採取場所	梁									
コア採取年月日	令和 7年 9月 24日									
供試体受領年月日	令和 7年 10月 3日									
試験実施年月日	令和 7年 10月 10日									
試験結果	供試体 番号	質量 (g)	平均 直径 (mm)	平均 高さ (mm)	補正 係数	最大荷重 (kN)	補正前の 圧縮強度 (N/mm ²)	補正後の 圧縮強度 (N/mm ²)		
	梁 1-1	1403	83.8	116.0	0.94	122	22.1	20.8		
	梁 2-1	1469	83.8	117.7	0.95	99.4	18.0	17.1		
備考										
試験責任者	役職・承認者名(所長・松家 武樹 (印))									
試験場所	熊本高等専門学校建設技術材料試験所 〒866-8501 熊本県八代市平山新町 2627 試験所 TEL/FAX.0965(53)1344 総務課受付 TEL.0965(53)1390									

受付番号【00016】

試験所長の文書による承認なしでは、完全な複製を除き、
 一部分のみを複製してはならない。

3.11 コンクリート強度(コア圧縮試験データ)

報告番号【COR-25016】
 受付日：令和 7年 10月 3日

試験報告書

依頼された試験について次のとおり報告します。

令和 7年 10月 10日

熊本高等専門学校
 建設技術材料試験所
 所長 松家 武樹

試験方法	コンクリートからのコアの採取方法及び圧縮強度試験方法 (JIS A 1107)									
試験依頼者名 及び住所・電話	株式会社 修復技術システム 〒862-0950 熊本県熊本市中央区水前寺1丁目2番15号 TEL.096-288-0586									
調査対象建築物の 名称など	登録有形文化財水俣市立蘇峰記念館(旧洪水文庫)耐震診断等調査業務 (コア試験)									
コア採取場所	床									
コア採取年月日	令和 7年 9月 24日									
供試体受領年月日	令和 7年 10月 3日									
試験実施年月日	令和 7年 10月 10日									
試験結果	供試体 番号	質量 (g)	平均 直径 (mm)	平均 高さ (mm)	補正 係数	最大荷重 (kN)	補正前の 圧縮強度 (N/mm ²)	補正後の 圧縮強度 (N/mm ²)		
	床	1256	83.8	97.9	0.91	270	49.0	44.6		
備考										
試験責任者	役職・承認署名者(所長・松家 武樹 印)									
試験場所	熊本高等専門学校建設技術材料試験所 〒866-8501 熊本県八代市平山新町 2627 試験所 TEL/FAX.0965(53)1344 総務課受付 TEL.0965(53)1390									

受付番号【00016】

試験所長の文書による承認なしでは、完全な複製を焼き、
 一部分のみを複製してはならない。

表名

コンクリート強度
 (コア圧縮試験データ)

建物名

水俣市立蘇峰記念館
 (旧洪水文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日

コンクリート強度・コア圧縮試験



端面整形



壁 1-1 X-X3 ・Y-Y3~Y4



壁 2-1 X-X3 ・Y-Y2~Y3



壁 PH-1 X-X3~X4 ・Y-Y2

写真

コンクリート強度・コア圧縮試験

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧 淇水文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日

※耐震診断調査業務⇒耐震診断等調査業務

コンクリート強度・コア圧縮試験



梁 1-1 X-X3~X6 ・Y-Y4



梁 2-1 X-X3~X6 ・Y-Y3



床 X-X3~X4 ・Y-Y1~Y2

※耐震診断調査業務⇒耐震診断等調査業務

写真

コンクリート強度・コア圧縮試験

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧 淇水文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日

3. 12 保全調査(構造部材の耐久性の調査)

劣化の状況	有無 又は 程度		耐久性の評価	
	(a) No	(b) Yes	A B及びC以外の場合	基準
I 変形・たわみ	1 建物が傾斜している。又は明らかに不同沈下している。	(a) No	(b) Yes	A
	2 柱が肉眼で観察できるほど変形している。	(a) No	(b) Yes	B
	3 梁が肉眼で観察できるほどたわんでいる。	(a) No	(b) Yes	C
	4 小梁・スラブが肉眼で観察できるほどたわんでいる。	(a) No	(b) Yes	C
II ひび割れ等	5 柱のひび割れ	(a) ない又は少ない	(b) やや多い	(c) かなり多い
	6 梁のひび割れ	(a) ない又は少ない	(b) やや多い	(c) かなり多い
	7 スラブのひび割れ	(a) ない又は少ない	(b) やや多い	(c) かなり多い
	8 外壁のひび割れ	(a) ない又は少ない	(b) やや多い	(c) かなり多い
	9 内壁のひび割れ	(a) ない又は少ない	(b) やや多い	(c) かなり多い
	10 コンクリートのジャンカ・剥落	(a) ない又は少ない	(b) やや多い	(c) かなり多い
	11 鉄筋の錆	(a) ない又は少ない	(b) やや多い	(c) かなり多い
	12 コンクリートの中性化	(a) 1cm以下	(b) 1cm～3cm	(c) 3cm以上
	13 外壁仕上材(モルタル等)の老朽化(ひび割れ・剥離・剥落・変色等)	(a) ない又は少ない	(b) やや多い	(c) かなり多い
14 内壁仕上材(モルタル等)の老朽化(ひび割れ・剥離・剥落・変色等)	(a) ない又は少ない	(b) やや多い	(c) かなり多い	
III 仕上の状況	1 IIのひび割れ等の判断については、「ない又は少ない」はよく見なければわからない程度、「やや多い」は少し離れた位置からも見える程度のもものが全体のおよそ10～20%くらい観察される場合、「かなり多い」は少し離れた位置でも容易に見える程度のもものが全体のおよそ20～30%以上観察される場合とす。			
	2 IIIの仕上げの状況の判断についても、IIに準じて行う。			
注意事項	<p>・ 3cm以上のコンクリート中性化が見られた。 研り:壁(最大値8.4cm)、梁1-1、梁2-1 コア:壁1-1、壁2-1、壁PH-1、梁1-1、梁2-1 ・ 天井に仕上材の剥落が見られる(2階)</p>			

表名

保全調査
(構造部材の耐久性の調査)

建物名

水俣市立
旧市立
淇立
水蘇
文峰
図書館
記念館

調査日

R 7 年 9 月 24 日

3.12 保全調査(非構造部材の耐久性の調査)

調査項目	劣化現象の程度	層間変形		該当する箇所	判定結果
		角	量		
① 窓ガラス (硬化ハテ型)	(A) 劣化現象がほとんどない((B)(C)以外)				
	(B) サツシに腐食、シーリング材の硬化が見られる				
	(C) (B)の現象が著しい				
② ガラスブロック張壁、 コンクリートブロック 張壁	(A) 劣化現象がほとんどない((B)(C)以外)				
	(B) 構成部材に破損、ひび割れ、面外変形、傾きが見られる 目地に破損、ひび割れ、エフロレッセンスが見られる				
	(C) (B)の現象が著しい				
③ ALC版(挿入筋工法) PC版	(A) 劣化現象がほとんどない((B)(C)以外)				
	(B) 構成部材に破損、ひび割れ、錆汁の流出が見られる				
	(C) (B)の現象が著しい				
④ タイル貼り、石貼り、 テラゾー貼り、モルタル 塗り	(A) 劣化現象がほとんどない((B)(C)以外)			内外壁・天井	II
	(B) 構成部材に破損、ひび割れ、面外変形、傾きが見られる 目地に破損、ひび割れ、エフロレッセンスが見られる				
	(C) (B)の現象が著しい				
⑤ カーテンウォール (PC・メタル) ALC版(スライド工法)	(A) 劣化現象がほとんどない((B)(C)以外)				
	(B) 構成部材に破損、ひび割れ、錆汁の流出が見られる				
	(C) (B)の現象が著しい				
⑥ 打放しコンクリート (吹付けタイル、リシン 等の仕上げを含む)	(A) 劣化現象がほとんどない((B)(C)以外)			内外壁	I
	(B) 構成部材の破損(鉄筋が露出し錆びている)、浮き(鉄筋付近に ひび割れがあり盛り上がっている)、ひび割れが見られる				
	(C) (B)の現象が著しい				
⑦ 屋外に面する外扉窓 ガラス(弾性シール型)	(A) 劣化現象がほとんどない((B)(C)以外)			外部窓	I
	(B) ドアの取付部に破損が見られる 開閉がスムーズでない				
	(C) (B)の現象が著しい				

(注) 判定結果がⅡ又はⅢの場合は該当箇所を記載すること。

表名

保全調査
(非構造部材の耐久性の調査)

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧水俣文庫)

調査日

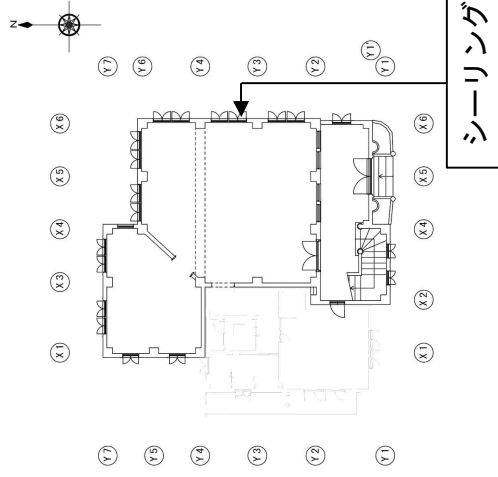
R 7 年 9 月 24 日

3.12 保全調査(非構造部材の落下の可能性と措置)

判定結果	総合判定	防御物の有無	必要とされる措置	調査対象物の名称	写真No及びコメント
〔Ⅰ〕 落下のおそれ無し	劣化現象は見られない。又は劣化現象が多少見られるが地震時の変形が少ないので、落下の危険性はないと思います	—	現状のままです。	・外壁	現状仕上材について安全上問題ない。
				・屋根	現状仕上材について安全上問題ない。
〔Ⅱ〕 落下のおそれあり	劣化現象が見られ、かつ地震時の変形もある程度大きいので、ひび割れ及び若干の剥落などの被害が生じる可能性があると思います。	有	劣化箇所について適切な補修が必要だと思います。	・内壁 ・天井	各階の内壁、天井などで著しいモルタル浮きの発生が見られる(著しい箇所についての図面添付)
		無	早い機会に劣化箇所を補修する必要がある。劣化の進行が予想される場合には、必要に応じて部分又は全体の補修が必要だと思います。		
〔Ⅲ〕 落下のおそれ大	地震時の変形が大きく、劣化現象も見られるので落下及び重要な機能の低下(扉の開閉不能時)が生じる可能性があると思います。	有	早急に、部分又は全体の補修を行うか、解体撤去や又は、交換をする必要があると思います。		
		無	早急に、部分又は全体の補修を行うか、解体撤去や又は、交換をする必要がある。また、それまでの間の応急措置(落下防御物を設けるか、落下予想経路内への進入を制限する)が必要だと思います。		

(注) 落下予想経路内に適切な防御物(庇、下屋、アーケード等)があり、対象物も落下しても屋外の人に直接危険を及ぼさない場合、又は、落下予想経路内に人間が存在する可能性のない場合には「有」とし、その他の場合には「無」とする。

調査位置等



1 階 平 面 図

表名
保全調査
(非構造部材の落下の可能性と措置)

建物名
水俣市立蘇峰記念館
(旧淇水文庫)

調査日
R 7 年 9 月 24 日

3.12 保全調査(非構造部材の落下の可能性と措置)

写真

保全調査
(非構造部材の落下の可能性と措置)

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧淇水文庫)

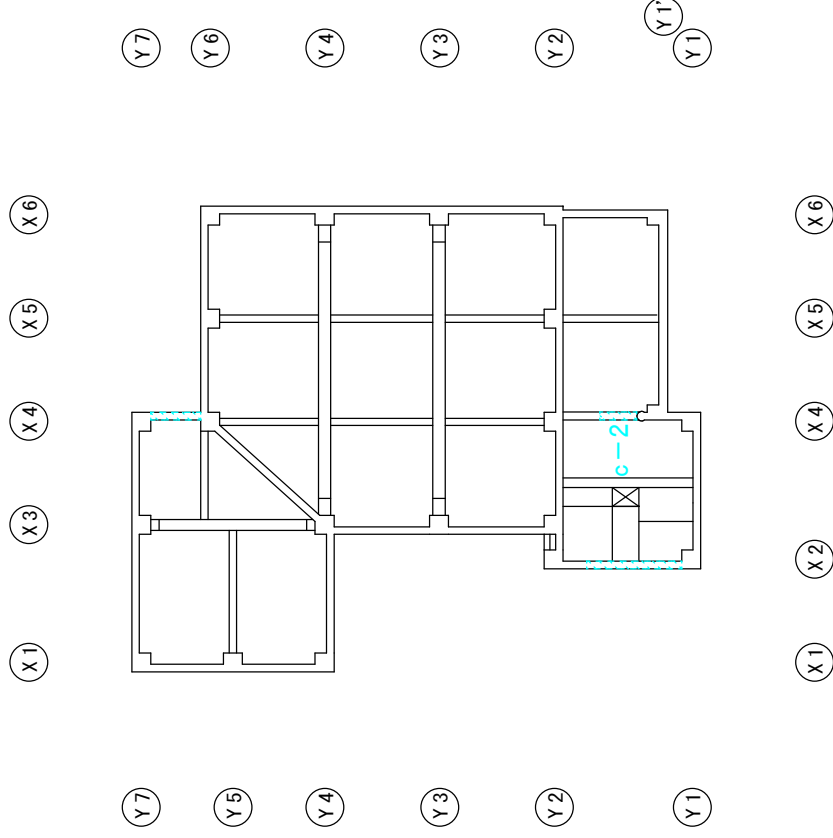
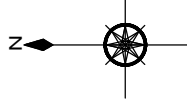
調査日

R 7 年 9 月 24 日



3.12 保全調査（非構造部材の落下の可能性と措置）

図名	保全調査 (非構造部材の落下の可能性と措置)	建物名	水俣市立蘇峰記念館 (旧 淇水文庫)	調査日	R 7 年 9 月 24 日
----	---------------------------	-----	-----------------------	-----	----------------

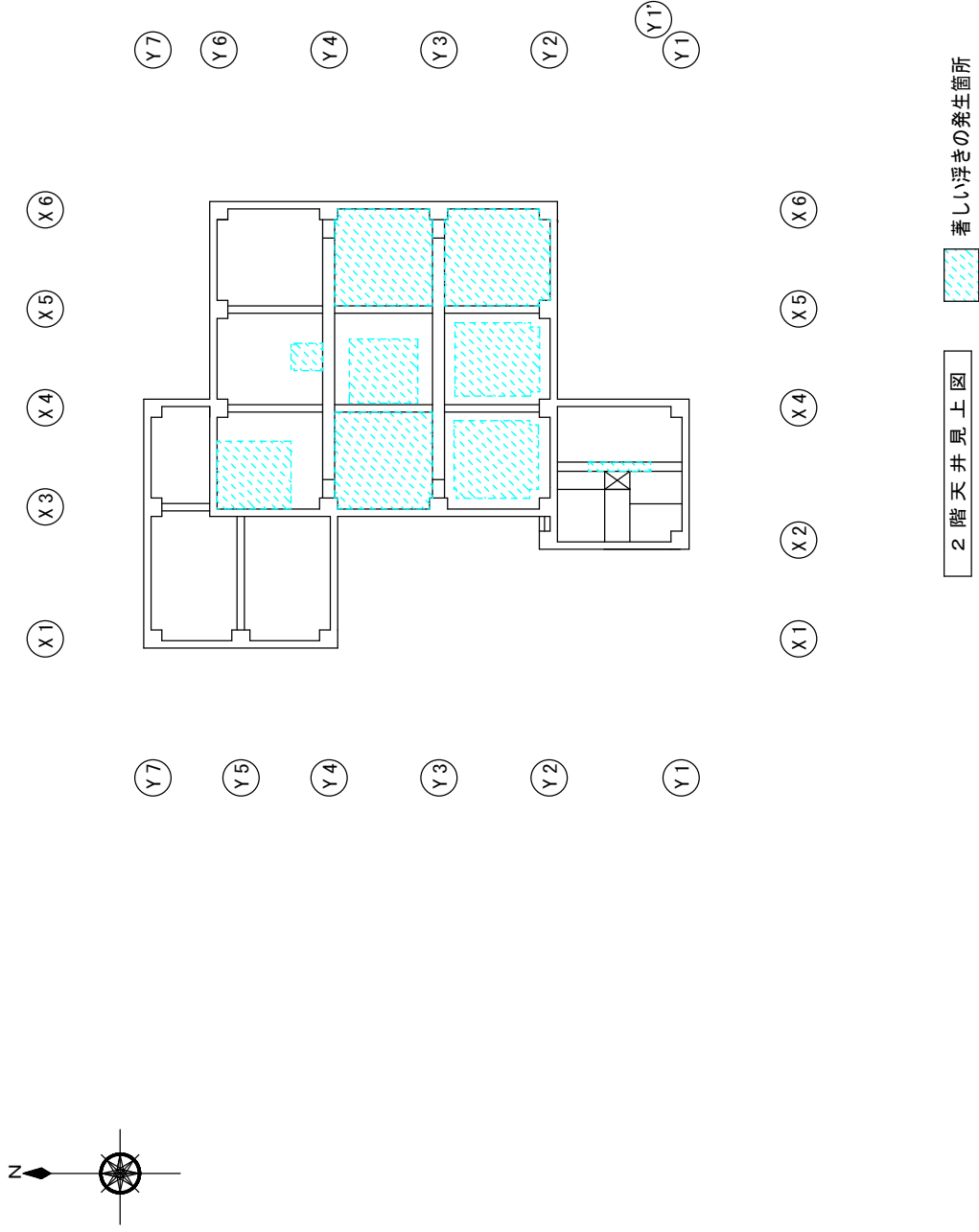


著しい浮きの発生箇所

1 階天井見上図

3.12 保全調査（非構造部材の落下の可能性と措置）

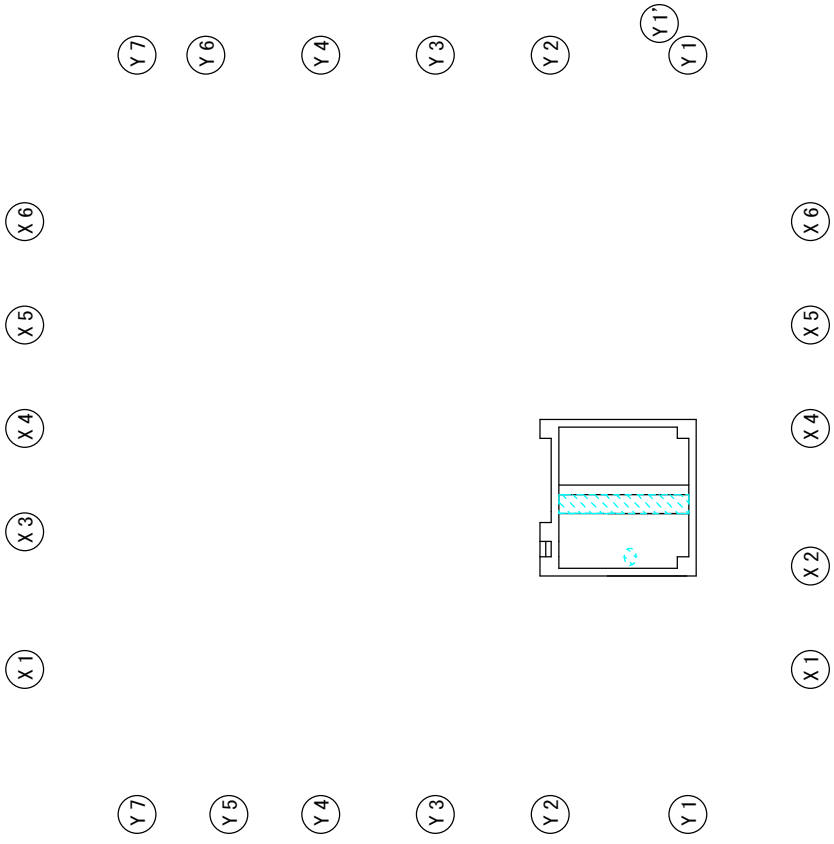
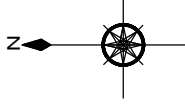
図名	保全調査 (非構造部材の落下の可能性と措置)	建物名	水俣市立蘇峰記念館 (旧淇水文庫)	調査日	R 7 年 9 月 24 日
----	---------------------------	-----	----------------------	-----	----------------



2 階天井見上图

著しい浮きの発生箇所

3.12 保全調査（非構造部材の落下の可能性と措置）



R 階天井上図

著しい浮きの発生箇所

図名	保全調査 (非構造部材の落下の可能性と措置)	建物名	水俣市立蘇峰記念館 (旧 淇水文庫)	調査日	R 7 年 9 月 24 日
----	---------------------------	-----	-----------------------	-----	----------------

3.12 保全調査(付属工作物と建築設備の落下の可能性の調査)

調査対象物	調査箇所と調査の要点	判定結果	調査結果	対象となる付属工作物
高架水槽・広告塔 クーリングタワー下部又は上部がボルトで固定された自動販売機 プランター 空調機の屋外機	(支持部) (取付部) (構造部材) 破断、ひび割れ、浮き、沈み、移動 溶接部の腐食又はひび割れ ボルトのゆるみ・はずれ・腐食 腐食・著しい変形・破断	落下の恐れ無し 落下の恐れ有り 落下の恐れ大	■ 下記以外 <input type="checkbox"/> アンカーボルトにゆるみ、はずれ、腐食等がある <input type="checkbox"/> 構造部材に腐食、破損、著しい変形等がある <input type="checkbox"/> 取付ボルトにゆるみ、はずれ、腐食等がある <input type="checkbox"/> 取付部溶接に割れ、腐食等がある <input type="checkbox"/> 支持部に浮き、移動(すべり)、沈み等がある <input type="checkbox"/> アンカーボルトの支持部にひび割れがある	室外機① 室外機② アンテナ
固定されていない自動販売機 プランター 空調機の屋外機	外壁又は手摺等の落下抑制物から調査対象物までの水平距離X、調査対象物の高さHと底部の奥行長さD、落下抑制効果のある手摺パラペット等の有無	落下の恐れ無し 落下の恐れ有り 落下の恐れ大	<input type="checkbox"/> 下記以外 <input type="checkbox"/> 落下抑制物がなく、外壁からその物体底部までの水平最低距離Xが1m未満の場合 <input type="checkbox"/> 落下抑制物がなく、(D/H) < 1.0かつX < 0.7Hの場合 <input type="checkbox"/> 落下抑制物がなく、X < 50cmの場合 <input type="checkbox"/> 落下抑制物がなく、(D/H) < 0.6かつX < 0.5Hの場合	
屋上煙突 そで看板	(本体) (支持部) (構造部材) (取付部) ひび割れ、破損、腐食、傾き 鋼材の腐食、ボルトのゆるみ、はずれ、溶接部の亀裂、躯体コンクリートの著しいひび割れ又は劣化 破損・腐食・著しい変形 アンカーボルトのゆるみ・はずれ・腐食・取付部の亀裂	落下の恐れ無し 落下の恐れ有り 落下の恐れ大 落下の恐れ無し	<input type="checkbox"/> 下記以外 <input type="checkbox"/> 緊結金物等が腐食している場合 <input type="checkbox"/> ひび割れ、破損(腐食)、傾きがある <input type="checkbox"/> 支持部のボルトのゆるみ、はずれ、腐食等がある <input type="checkbox"/> 下記以外 <input type="checkbox"/> 取付部の腐食・破損、ボルトのゆるみ・はずれ、溶接部の割れがある <input type="checkbox"/> 構成部材に腐食、破損がある	
ウインドウ型クーラー	(枠) (架台) (吊金具等) 木部の腐れ、金属部の腐食 腐食 ボルトのゆるみ・はずれ・腐食	落下の恐れ無し 落下の恐れ有り 落下の恐れ大	<input type="checkbox"/> 下記以外 <input type="checkbox"/> アンカーボルトの支持部にひび割れがある <input type="checkbox"/> 吊金具等・架台の腐食、ボルトのゆるみ・はずれ等がある <input type="checkbox"/> 枠の腐れ又は腐食がある <input type="checkbox"/> 吊金具等・架台の腐食、ボルトのゆるみ・はずれ等が著しい	
(注)落下抑制物:自動販売機等が転倒又は滑動しても破壊しないと考えられる程度の強度を有し、その高さが自動販売機等の高さの1/2以上の手摺、パラペット等				

表名

保全調査
(付属工作物と建築設備の落下の可能性の調査)

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧市立蘇峰図書館)

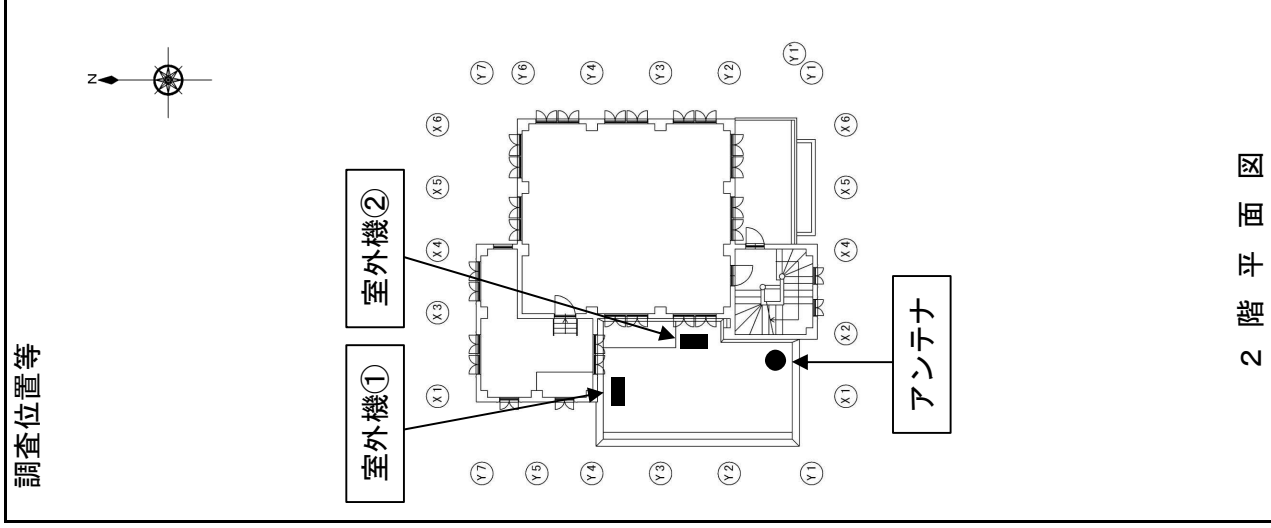
調査日

R 7 年 9 月 24 日

3.12 保全調査(付属工作物と建築設備の落下の可能性と措置)

判定結果	総合判定	防御物の有無	必要とされる措置	調査対象物の名称	写真No及びコメント
〔Ⅰ〕 落下のおそれ無し	劣化現象が見られず、落下の危険性はないと思います。	—	現状のままで特に問題はないと思います。	室外機① 室外機② アンテナ	現状安全上問題ない。 (写真添付)
〔Ⅱ〕 落下のおそれあり	劣化現象が見られ、落下のおそれがないとは言えない。放置しておく、落下のおそれが更に大きくなると思います。	有	劣化箇所について適切な補修が必要だと思います。		
〔Ⅲ〕 落下のおそれ大	劣化現象が顕著であり、地震又は強風時に落下する危険性が高いと思います。	有	早急機会に劣化箇所を補修する必要があります。劣化の進行が予想される場合には、必要に応じて部分又は全体の補修が必要だと思います。		
		無	早急に、部分又は全体の補強を行うか、解体撤去や又は、交換をする必要があります。 早急に、部分又は全体の補強を行うか、解体撤去や又は、交換をする必要があります。また、それまでの間の応急措置(落下防御物を設けるか、落下予想経路内への進入を制限する)が必要だと思います。		

(注) 落下予想経路内に適切な防御物(庇、下屋、アーケード等)があり、対象物がかもし落下しても屋外の人に直接危険を及ぼさない場合、又は、落下予想経路内に人間が存在する可能性のない場合には「有」とし、その他の場合には「無」とする。



付属工作物と建築設備

No.

写真

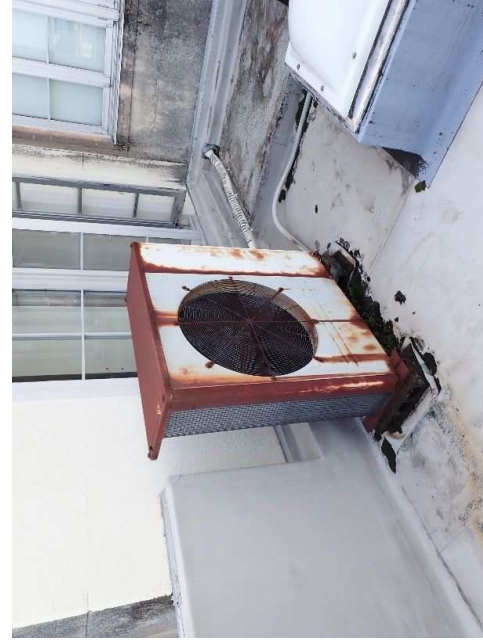
付属工作物と建築設備

建物名

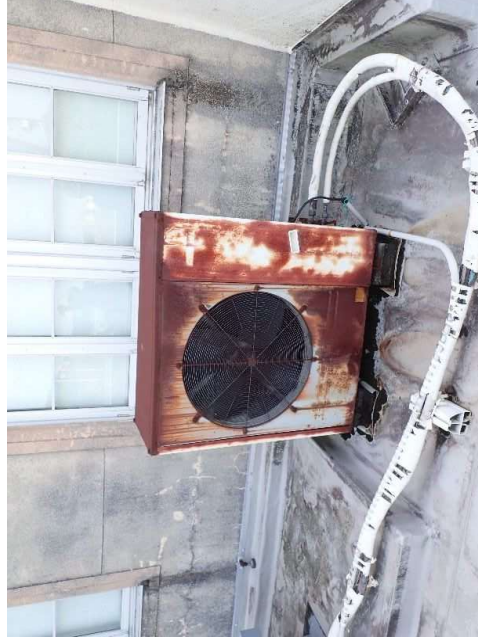
水俣市立蘇峰記念館
(旧 淇水文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



室外機①



室外機②



アンテナ



室外機①の接写



室外機②の接写



アンテナの接写

その他写真

写真

その他写真

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧 淇水文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



ドア枠: 欠損



樋支持金物: 錆



屋上ドレン: 落葉つまり

その他写真

写真

その他写真

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧 淇水文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日





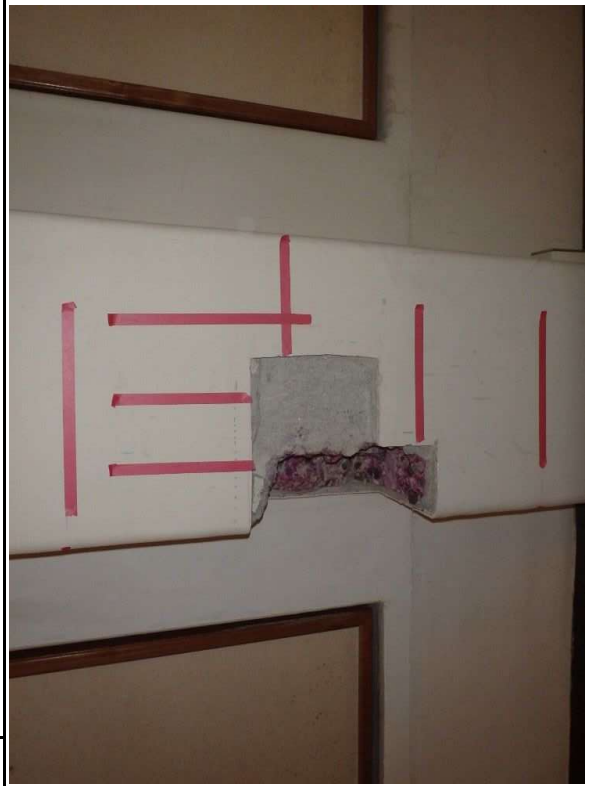
西面外壁：ひび割れ 巾1.0mm程度



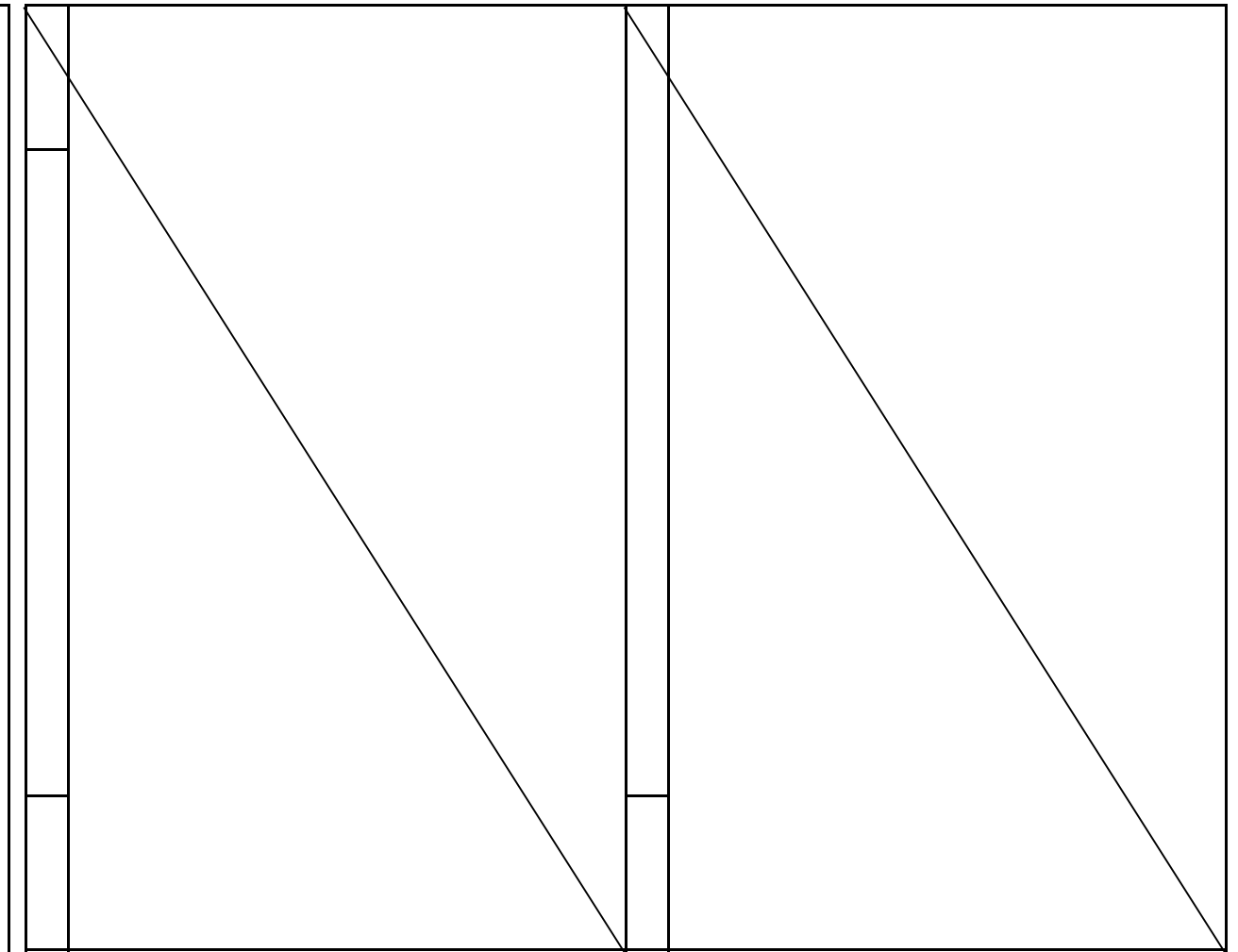

西面外壁：はらみ



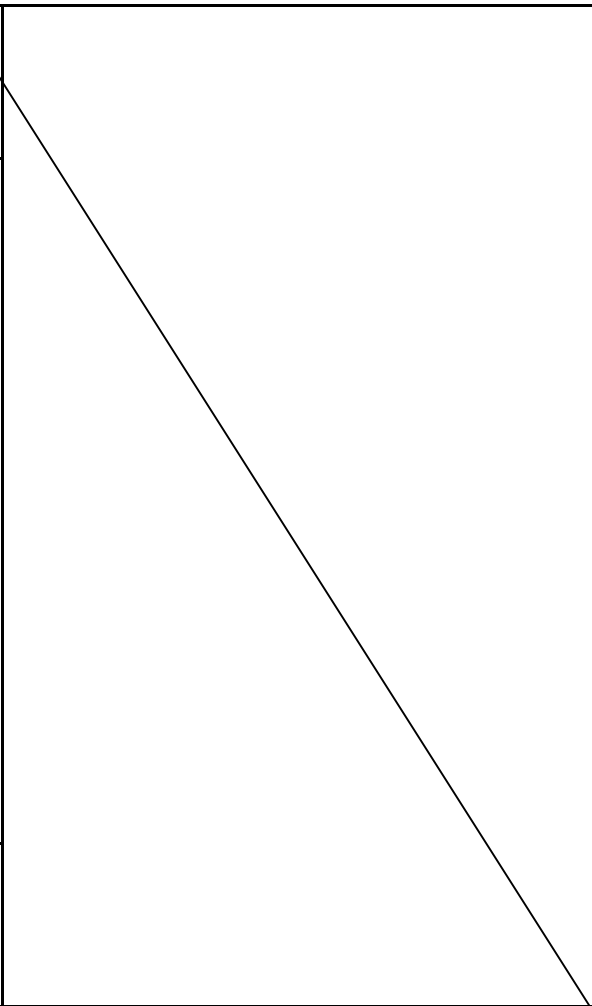
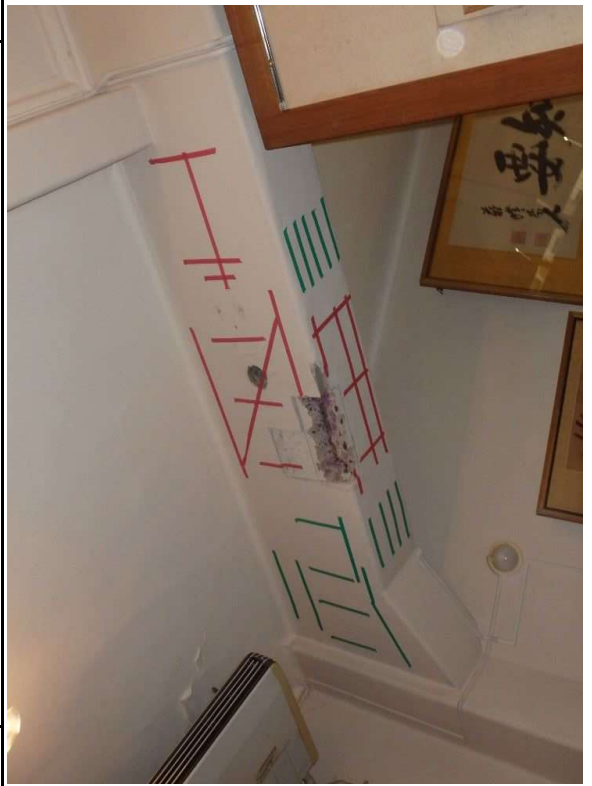
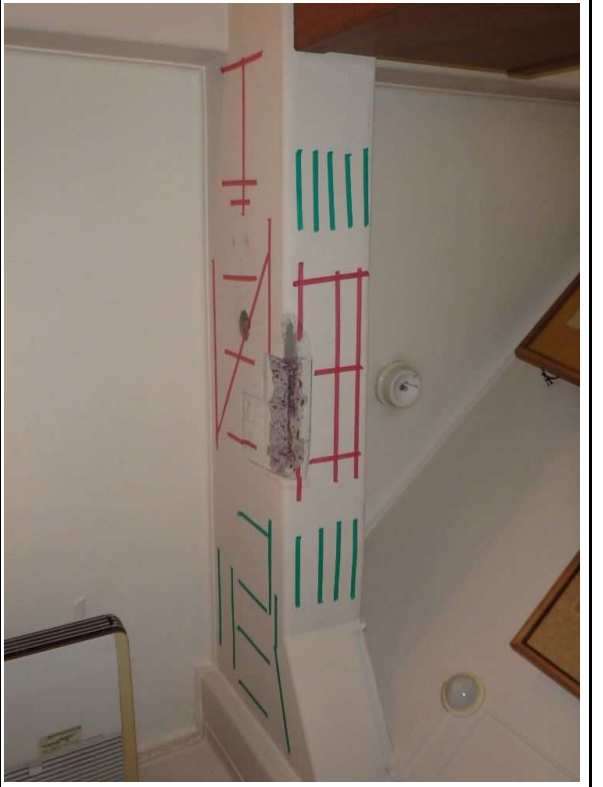
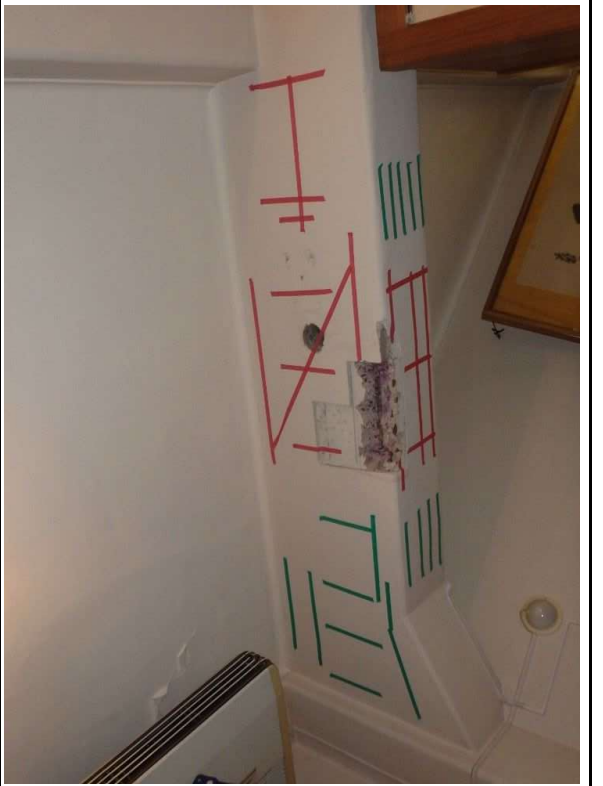
3.13 配筋調査

写真	配筋調査			建物名	水俣市立蘇峰記念館 (旧淇水文庫)	調査日	R 7 年 9 月 24 日
調査位置	X - X5 · Y - Y2	柱		Y方向		X方向	

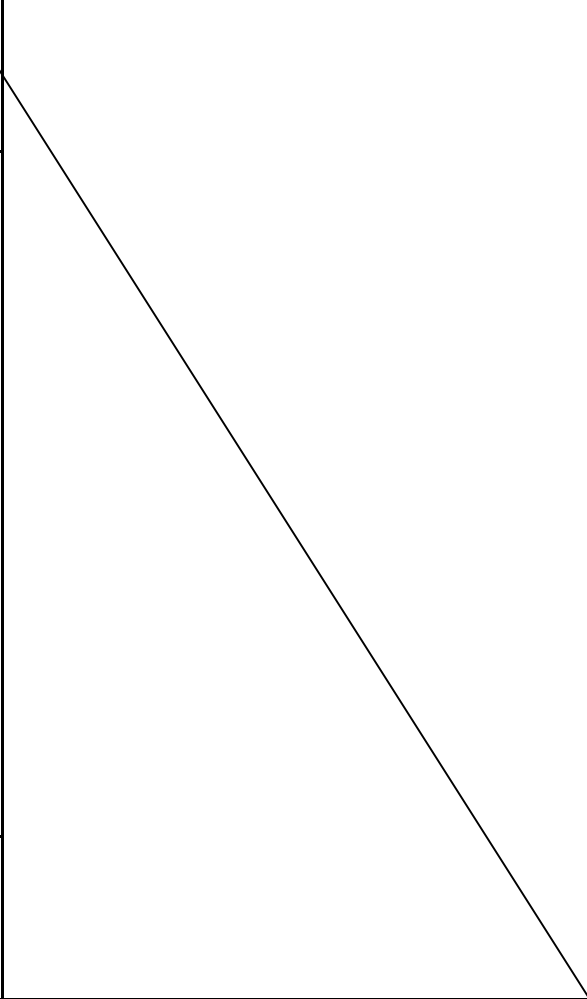


3.13 配筋調査

写真	配筋調査		建物名	水俣市立蘇峰記念館 (旧淇水文庫)		調査日	R 7 年 9 月 24 日	
3.13 配筋調査								
調査位置	X - X3 ・ Y - Y2~Y3 色紙を し へ 1 1 2 4 4 5 6 4 1 4 3 3 6 4 5	壁						
同上接写								

3.13 配筋調査

写真	配筋調査			建物名	水俣市立蘇峰記念館 (旧淇水文庫)	調査日	R 7 年 9 月 24 日			
			調査位置		下端		梁1-1	X - X3~X6・Y - Y4	側面	

3.13 配筋調査

写真	配筋調査			建物名	水俣市立蘇峰記念館 (旧淇水文庫)	調査日	R 7 年 9 月 24 日
			下端				
調査位置	X - X3~X6・Y - Y3	梁2-1	側面				

3.14 復旧写真

写真

復旧写真

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧淇水文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



壁 1-1



梁 1-1



梁 1-1(はつり)

3.14 復旧写真

写真

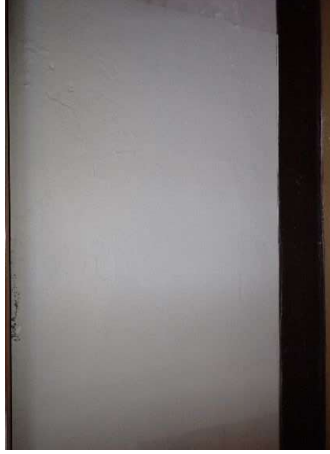
復旧写真

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧 淇水 文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



壁(はつり)



柱(はつり)



梁 2-1(はつり)



壁 2-1



梁 2-1



3.14 復旧写真

写真

復旧写真

建物名

水俣市立蘇峰記念館
(旧淇水文庫)

調査日

R 7 年 9 月 24 日



壁 PH-1



床(平場)



床(天井)